２０２５年度

事 業 報 告 書

社 会 福 祉 法 人

聖 隷 福 祉 事 業 団

2025年度　事業報告書　目次

		【 対応する拠点区分（会計） 】
2025年度事業報告	… 1	
2025年度事業成績報告	… 7	
聖隷三方原病院	… 9	聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター	… 12	聖隷おおぞら療育センター あさひ 児童発達支援センターひかりの子
三方原ベテルホーム	… 14	三方原ベテルホーム
聖隷浜松病院	… 16	聖隷浜松病院
聖隷淡路病院	… 19	聖隷淡路病院
聖隷横浜病院	… 21	聖隷横浜病院
聖隷佐倉市民病院	… 23	聖隷佐倉市民病院
浜松市リハビリテーション病院	… 25	浜松市リハビリテーション病院
聖隷袋井市民病院	… 27	聖隷袋井市民病院
＜保健事業部＞ 聖隷健康診断センター 聖隷健康診断センター東伊場クリニック 聖隷予防検診センター 地域・企業健診センター 聖隷健康サポートセンターShizuoka 聖隷静岡健診クリニック 聖隷富士健康診断センター	… 29	保健事業部 聖隷健康診断センター 聖隷予防検診センター 聖隷健康サポートセンターShizuoka
高齢者公益事業部	… 33	高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園　入園金会計 宝塚エデンの園　入園金会計 松山エデンの園　入園金会計 油壺エデンの園　入園金会計 浦安エデンの園　入園金会計 横浜エデンの園　入園金会計 藤沢エデンの園一番館　入園金会計 藤沢エデンの園二番館　入園金会計
浜名湖エデンの園	… 35	浜名湖エデンの園　施設有料 浜名湖エデンの園　施設診療
宝塚エデンの園	… 37	宝塚エデンの園　施設有料 宝塚エデンの園　施設診療
松山エデンの園	… 39	松山エデンの園　施設有料
油壺エデンの園	… 41	油壺エデンの園　施設有料 油壺エデンの園　施設診療
浦安エデンの園	… 43	浦安エデンの園　施設有料
横浜エデンの園	… 45	横浜エデンの園　施設有料
＜聖隷藤沢ウェルフェアタウン＞ 藤沢エデンの園一番館 藤沢エデンの園二番館 藤沢愛光園 聖隷デイサービスセンター藤沢 聖隷ケアプランセンター藤沢 聖隷訪問看護ステーション藤沢 聖隷ヘルパーステーション藤沢	… 47	藤沢愛光園 藤沢エデンの園一番館　施設有料 藤沢エデンの園二番館　施設有料
奈良ニッセイエデンの園	… 51	－
松戸ニッセイエデンの園	… 57	－
明日見らいふ南大沢	… 59	高齢者公益事業部
在宅・福祉静岡ブロック	61	
＜和合せいれいの里＞ 特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 障害者支援施設みるとす 和合愛光園デイサービスセンター 聖隷チャレンジ工房和合 浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉 聖隷こども発達支援センター和合 相談支援事業所くすのき	… 63	和合せいれいの里（介護） 和合せいれいの里（児童） 和合せいれいの里（障害）
＜聖隷ケアセンター初生＞ 和合愛光園初生サテライト 聖隷デイサービスセンター初生	… 67	聖隷ケアセンター初生
＜聖隷ケアセンター高丘＞ 訪問看護ステーション高丘 地域包括支援センター高丘 聖隷リハビリプラザIN高丘 聖隷ケアプランセンター浜松	… 69	聖隷リハビリプラザIN高丘 高丘地区在宅複合事業（公益）
聖隷コミュニティケアセンター	… 71	聖隷コミュニティケアセンター
＜聖隷ケアセンター三方原＞ 訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原 聖隷デイサービスセンター三方原	… 73	聖隷デイサービスセンター三方原 三方原地区在宅複合事業
＜聖隷ケアセンター浅田＞ 訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田	… 75	浅田地区在宅複合事業
浜松市生活自立相談支援センターつながり	… 77	浜松市生活自立相談支援センターつながり

2025年度　事業報告書　目次

聖隷こども園ひかりの子	… 79	聖隷こども園ひかりの子
聖隷こども園めぐみ	… 81	聖隷こども園めぐみ
聖隷浜松病院ひばり保育園	… 83	聖隷浜松病院ひばり保育園
聖隷のあ保育園	… 85	聖隷のあ保育園
＜いなさ愛光園＞ 特別養護老人ホームいなさ愛光園 いなさ愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターいなさ いなさ愛光園在宅介護支援センター いなさ愛光園ヘルパーステーション ほのぼのケアガーデン	… 87	いなさ愛光園
＜聖隷ケアセンターいなさ＞ 地域包括支援センター細江 聖隷リハビリプラザいなさ	… 90	聖隷リハビリプラザいなさ 引佐地区在宅複合事業
＜聖隷ケアセンター三ケ日＞ 聖隷訪問看護ステーション三ケ日 聖隷ケアプランセンター三ケ日	… 92	聖隷訪問看護ステーション三ケ日
＜浜北愛光園＞ 特別養護老人ホーム浜北愛光園 浜北愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター浜北 地域包括支援センター北浜 訪問看護ステーション貴布祢 聖隷チャレンジ工房浜北	… 94	浜北愛光園
＜聖隷厚生園＞ 聖隷厚生園信生寮 聖隷厚生園讃栄寮 聖隷厚生園まじわりの家 生活訓練事業所ナルド 訪問看護ステーション細江 地域活動支援センターナルド 聖隷ケアプランセンター細江 障害者相談支援事業所ナルド 聖隷ヘルパーセンター浜松北 福祉共同住宅ファーストステップ 聖隷厚生園ナルド工房	… 96	聖隷厚生園信生寮
＜浜松学園＞ 聖隷チャレンジ工房浜松学園 聖隷ワース工房浜松学園 聖隷ステップサポート	… 99	浜松学園
もくせいの里	… 102	もくせいの里
聖隷こども園わかば	… 104	聖隷こども園わかば
聖隷こども園桜ヶ丘	… 106	聖隷こども園桜ヶ丘
＜森町愛光園＞ 特別養護老人ホーム森町愛光園 森町愛光園天宮サテライト 森町愛光園デイサービスセンター 森町愛光園ホームヘルパーステーション 聖隷ケアプランセンター森町 聖隷放課後クラブはなえみ森町	… 108	森町愛光園（介護） 森町愛光園（障害児者）
＜聖隷びゅあセンター磐田＞ 聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田 相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田 磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センターのびのび 磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター 磐田市地域活動支援センター	… 110	聖隷びゅあセンター磐田
こうのとり保育園	… 113	こうのとり保育園
聖隷こども園こうのとり東	… 115	聖隷こども園こうのとり東
聖隷こども園こうのとり豊田	… 117	聖隷こども園こうのとり豊田
＜聖隷こうのとり富丘＞ 聖隷こども園こうのとり富丘 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘	… 119	聖隷こうのとり富丘
在宅・福祉関東ブロック	121	
＜浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター＞ 浦安市特別養護老人ホーム 浦安市ケアハウス 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	… 123	浦安市特別養護老人ホーム（特養） 浦安市特別養護老人ホーム（短期入所） 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市ケアハウス 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター
浦安愛光園 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ浦安	… 127	浦安愛光園
浦安ベテルホーム	… 130	浦安ベテルホーム
聖隷訪問看護ステーション浦安	… 132	聖隷訪問看護ステーション浦安
浦安市高洲地域包括支援センター	… 134	浦安市高洲地域包括支援センター
＜松戸愛光園＞ 特別養護老人ホーム松戸愛光園 松戸愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター松戸 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸	… 136	松戸愛光園

2025年度　事業報告書　目次

＜横須賀愛光園＞ 特別養護老人ホーム横須賀愛光園 横須賀愛光園デイサービスセンター 聖隷ヘルパーステーション横須賀 聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ケアプランセンター横須賀 聖隷看護小規模多機能横須賀 西第二地域包括支援センター	… 138	横須賀愛光園
在宅・福祉関西ブロック	140	
＜宝塚せいれいの里＞ 特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園 宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターすみれ 宝塚市高齢者・障碍者権利擁護支援センター 聖隷チャレンジ工房すみれ	… 142	宝塚すみれ栄光園
ケアハウス宝塚	… 144	ケアハウス宝塚
結いホーム宝塚	… 146	結いホーム宝塚
宝塚栄光園	… 148	宝塚栄光園
＜聖隷ケアセンター宝塚＞ 聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター宝塚 聖隷訪問看護ステーション宝塚 逆瀬川地域包括支援センター	… 150	宝塚第二地区中州在宅複合事業（社福） 宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益）
聖隷逆瀬台デイサービスセンター 聖隷デイサービスセンターあゆむ	… 154	宝塚第二地区逆瀬台在宅複合事業
聖隷デイサービスセンター結い	… 156	聖隷デイサービスセンター結い
聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	… 158	聖隷コミュニティケアセンター宝塚
＜花屋敷せいれいの里＞ 特別養護老人ホーム花屋敷栄光園 花屋敷デイサービスセンター 花屋敷地域包括支援センター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷 聖隷訪問看護ステーション山本 聖隷ケアプランセンター花屋敷	… 159	花屋敷栄光園
ケアハウス花屋敷	… 161	ケアハウス花屋敷
＜北神戸地区在宅複合事業＞ 聖隷訪問看護ステーション北神戸 聖隷ケアプランセンター北神戸	… 163	北神戸地区在宅複合事業（公益）
＜聖隷カーネーションホーム＞ 特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム 聖隷カーネーションホームデイサービスセンター 聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっとこ 聖隷在宅介護支援センター淡路	… 164	聖隷カーネーションホーム
＜淡路栄光園＞ 特別養護老人ホーム淡路栄光園 デイサービスセンター淡路	… 166	淡路栄光園
＜聖隷ケアセンター津名＞ 聖隷訪問看護ステーション淡路 聖隷ケアプランセンター淡路 聖隷ヘルパーステーション淡路 聖隷ライフサポート津名	… 168	淡路地区在宅複合事業（社福） 淡路地区在宅複合事業（公益）
野上あゆみ保育園	… 170	野上あゆみ保育園
野上児童館	… 172	
逆瀬川あゆみ保育園	… 174	逆瀬川あゆみ保育園
御殿山あゆみ保育園	… 176	御殿山あゆみ保育園
御殿山児童館	… 178	
聖隷こども園夢舞台	… 180	聖隷こども園夢舞台
在宅・福祉奄美ブロック	182	
＜奄美佳南園＞ 特別養護老人ホーム奄美佳南園 奄美佳南園デイサービスセンター 奄美佳南園在宅介護支援センター 奄美佳南園ホームヘルプ事業所 聖隷チャレンジ工房カナン	… 184	奄美佳南園
春日保育園	… 186	春日保育園
のぞみ園	… 188	のぞみ園
聖隷かがやき	… 190	聖隷かがやき
法人本部	… 192	法人本部
2025年度施設整備事業報告	… 197	
法人の概要	… 200	
実施する事業の概要	… 201	
役員の状況／理事会、評議員会運営の状況	… 213	
附属明細書	… 214	

2025 年度　事業報告

理事長　青木善治

2025 年度は継続する物価高騰や大幅な人件費上昇だけでなく、聖隷福祉事業団の基幹事業である医療事業が入院患者の減少や受診行動の変化により、報道でも「医療崩壊」が叫ばれるほど大幅な苦戦を強いられた年度であった。しかし、他の事業は健闘、事業団全体で支え合う 1 年であった。

厳しい環境ではあったが、能登半島地震での救助活動の経験を踏まえ、聖隷三方原病院と聖隷浜松病院に、災害派遣医療チーム専用の医療機器や通信設備を積んだ移動用車両（DMAT 車両）を 5 月に導入した。更に 9 月に聖隷浜松病院で新生児専用救急車の更新にクラウドファンディングを実施した結果 1,656 名の方から、6,200 万円を超えるご寄付を頂いた。新たな命とそのご家族をまもるという職員の強い決意と長年にわたる真摯な姿勢の積み重ねを、誇らしく感じると共に、改めて聖隷福祉事業団の「最高の質の追求」が地域の皆様と共に作り上げられてきたことを強く感じる出来事であった。

また、聖隷グループの連携強化も進んだ年である。4 月は聖隷富士病院から健診事業を譲受し、県東部の保健事業の強化と病院患者の増加を図った。学校法人聖隷学園とは 8 月の聖隷クリストファー高校野球部の甲子園出場時において、応援広告やパブリックビューイングをグループ法人で共同実施し、結束力と全国での認知度の向上につながった。また、11 月には神戸聖隷福祉事業団主催のタイ視察研修に 4 名の職員が参加させていただいた。福祉の原点ともいえる考え方や価値観に改めて向き合う機会になった。

福祉事業においては中山間地域のいなさ愛光園で、浜松市のモデル事業として、市内クリニック、関係機関と連携し、施設のサロンやデイサービスに合わせてオンライン診療を 10 月より開始した。併せて、送迎や移動スーパーによる買い物支援も行い生活全体を支える取り組みが始まった。

関西ブロックでは初となる就労支援事業所チャレンジ工房すみれが 4 月に、聖隷巡回ヘルパーつなぐ宝塚(定期巡回・随時対応型訪問介護看護)が 10 月に事業を開始した。

奄美大島では奄美地区障がい者等基幹相談支援センターを地域の社会福祉法人と共同事業として 7 月から受託を始めた。

また、奄美佳南園が「介護職員の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣表彰優良賞」を、松戸愛光園が「同奨励賞」を受賞した。これは法人全体でいち早く、介護ロボットや ICT 機器の導入、業務改善、障害者雇用の促進、人材育成等を積極的に行ってきた評価である。

宝塚エデンの園では 7 年に渡る長期プロジェクトである建替工事の起工式が 3 月に行われた。2033 年の完成を目指し、バリアフリー化や設備の充実を図り、より安心・安全な環境に整えていく。

今後、介護等人材不足が明確化していく中、外国人材の採用・育成・定着を一貫して行うことを目的に聖隷国際人材センターを 4 月より開設した。さらに今後は、聖隷内にとどまらず、地域からの要望にも対応し、地域貢献にもつなげていきたい。

働きやすい職場環境づくりとして、介護と仕事の両立支援を促進するため10月より介護休職制度を拡充し、期間上限を3年に延長した。これからも両立支援を拡充し、やむなく退職する職員が発生しないよう努める。

聖隷DXも継続して推進した。聖隷三方原病院では、「医療の質の向上」と「医療DXの推進」を加速するため、1月に新たな電子カルテを導入した。新システムでは、予約確認、診察待ち状況、電子サインによるペーパーレス化や、後払いシステムの導入により会計の待ち時間の短縮と利便性の向上を実現する。聖隷浜松病院では、患者様に検査や手術などの説明動画をアプリでご視聴いただき、利便性向上と職員の業務効率化を実現している。法人全体では、AI議事録システムの利用促進を図り、12月には、議事録作成時間が46%まで削減し、今後も削減率向上に向け操作説明会や、機能の改善に努める。単なる導入に終わらず、現場で実際に使われ、成果として根付くまでサポートが重要であり、そのためDX人材の育成や意識改革にも継続して取り組んでいく。

2025年度は、中期事業計画「Vision2025」の最終年度であった。この期間内では新型コロナウィルス感染症の流行、世界情勢の変化や、2021年の熱海の土砂災害、その後の能登半島地震など、天変地異に翻弄されたが、困難な状況であっても職員が現場を必死に支え、地域ニーズの変化を的確に捉え、保健・医療・福祉・介護分野のサービスを展開したことに感謝する。

今後、社会環境はさらに大きく変化することが予想されるが、これまで積み重ねてきた取り組みを土台とし、社会課題、事業課題に向き合い、キリスト教精神に基づく「隣人愛」の実践を通じ、地域に必要とされる法人であるために、次の時代に向けた取り組みを進めていく。

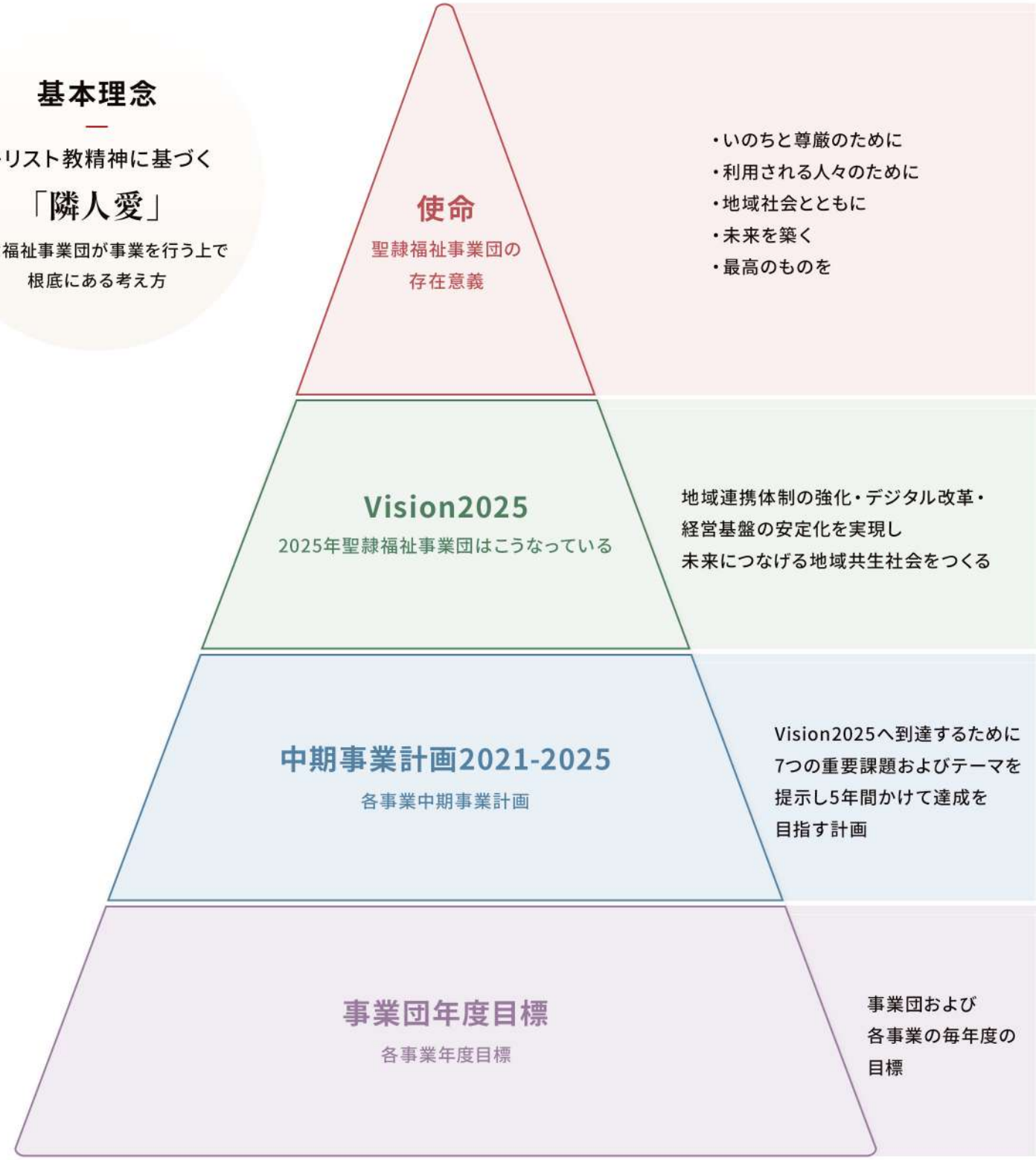
最後に地域の皆様をはじめご支援、ご指導をいただいた方々に厚く御礼を申し上げ、ご報告とさせていただきます。

基本理念

キリスト教精神に基づく

「隣人愛」

聖隷福祉事業団が事業を行う上で
根底にある考え方



職員行動指針

使命をもとに職員が共有し
実践する具体的な行動を示した指針

わたしたちは、ひとりひとりの命と尊厳を守ります
わたしたちは、サービスを求めるすべての人々に、誠実かつ献身的に仕え、その自立を支援します
わたしたちは、「保健・医療・福祉・介護」サービスを通して社会に貢献し、地域の人々との強い絆を育みます
わたしたちは、先駆的・開拓的精神で新たなニーズの発見に努め、常に課題に挑戦します
わたしたちは、ひとりひとりが専門職としての倫理と誇りを持ち、最高の技術を提供します

Vision2025

地域連携体制の強化・デジタル改革・経営基盤の安定化
を実現し、未来につなげる地域共生社会をつくる

A 2025 年、 聖隷福祉事業団はこうなっている

事業

質の高い事業を行う

地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し、また先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦し、最高の質を追求した事業を展開している。

組織

組織力を活かす

地域課題の解決に繋がる事業部間連携や聖隷の質と規模を維持する人材の確保ができている。大規模広域法人に適した購入や物流、情報システムを構築し、大規模災害に対する連携の強化等、より一層の協働した組織となっている。

運営

生産性の高い運営体制を築く

ICT・AI・ロボット等を活用し、少人数であっても質の高いサービスを提供できる効率性の高い業務体制を構築している。外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティが進み、働きがいのある仕事を推進している。

財務

財務体質を強化する

新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経営環境を学びにし、需要減少時でも安定する経営構造を構築している。また、予期せぬ経営環境の急変にも揺るがない骨太の財務体質となっている。

B 重要課題

1 社会福祉法人として最高の質を追求した事業を展開する

2 地域ごとの課題解決に繋がる事業部間の連携を構築する

3 人材の確保と育成を推進する

4 大規模広域法人としての強みを活かした仕組化を推進する

5 聖隷ＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）を推進する

6 ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する

7 現有資源を有効に活用し経営環境の急変にも揺るがない財務体質とする

C テーマ

・地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し挑戦する
・先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦する

・事業部を越えた職員間で情報交換しやすい環境、検討する場を設ける等、地域ごとで事業部間が連携し、利便性の向上や課題解決に繋がる仕組みを構築する

・生産年齢人口が減少する中、需要拡大が見込まれる聖隷の事業を支える人材確保を図る
・聖隷の質を体現・継承できる「聖隷人※」の育成を推進する
※聖隷人（せいれいびと）
基本理念および使命を理解し、職員行動指針を実践している人

・大規模広域法人としてのメリットを活かし、人事・資材・資金・情報システムなどの一層の効率性を追求する
・広域な大規模災害に対する BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）対応と連携を強化する

・ICT、AI、ロボット等を活用して少人数であっても質の高いサービスを提供できる、効率性の高い業務体制を追求する
・事業部を越えた利用者情報の共有ネットワークシステムの整備、データヘルスサービスなど医療・介護・健康分野の情報化を推進する

・健康経営の推進、働き方改革等の制度へ対応するとともに、外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティを推進する

・成長性：サービス活動収益の成長率 前年比 2%以上
・収益性：税引前当期活動増減差額 年 15 億円以上
・効率性：総資産に対し税引前当期活動増減差額率（ROA）年 1%以上
・安定性：純資産比率 45%以上（2025 年度末）

D 中期事業計画 2021-2025 における聖隷福祉事業団と SDGs の関わり

事 事業　組 組織　運 運営　財 財務

事 生活困窮者支援などが当たります。

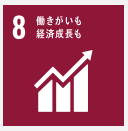
事 災害時の食事提供や健康寿命延伸に向けた栄養指導などが当たります。組 災害時にも安心して食事の提供ができる体制が必要です。BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）策定など準備を進めます。

事 新たなニーズや制度の狭間など支援が届いていない方への支援、より質の高い医療福祉の提供を目指します。

事 健康、介護予防教育や生活困窮の負の連鎖に対する教育支援などが当たります。組 優秀な人材の確保、育成は事業の質を維持するうえで極めて重要です。今後も人材育成に注力します。

組 育児支援など女性が働きやすい職場をつくると共に女性の経営職の増加を目指します。運 職員へより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。

財 エネルギー使用量を削減する取り組みを継続します。



運 職員へのより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。財 地域に必要な事業は行わねばなりません。法人として健全な成長を目指します。

運 医療福祉の領域でのDXをはじめとした情報化やロボットなど自動化を推進し、生産性の向上と新たな価値創造に繋げて強みにしていきます。財 強靭で、より持続可能な施設設備を維持する管理を推進します。また DX やロボットなど先進的な技術の導入を推進します。

運 地域共生社会の実現を先導する組織として、内部でも年齢、性別、障がい、外国人などに関わらず活躍できるダイバーシティを推進します。

事 住み続けられるまちづくりは地域共生社会の理念と同一であり、地域包括ケアシステムなどを用いて社会福祉法人に求められています。

組 環境への影響を配慮された物品の使用や電気ガス等の効率的な使用が求められます。財 将来にわたり社会を支えていける様に、事業の持続性を確立します。

組 台風や大雨の激甚化など温暖化による大規模災害が増加していますので、災害に対する準備が一層必要になります。

事 子ども達により良い環境を提供することも私たちの大切な事業となります。

組 各所との連携体制の構築は最も重要なテーマの一つです。内部の連携強化と共に、外部組織とも連携を強めていきます。

2025 年度　事業成績報告

常務執行役員（財務担当）　井上英樹

（１） 事業を取り巻く環境と事業成績

2025 年度は、収益面では公的報酬改定の狭間の年度であり、費用面では人事院勧告における賃金の引き上げや材料費等の高騰が重なり、経営的には非常に厳しい年度であった。年度末には政府より「医療機関への賃上げ・物価上昇支援事業費補助金」等の交付があり、資金運用面においても投資環境の改善による評価益等を計上し、税引前当期活動増減差額は 10 億円となった。

（２）医療事業

聖隷三方原病院では、高難度手術件数の増加等により入院単価が増加したが、入院患者数の減少により病床稼働率が 71.2%に低下し、税引前当期活動増減差額は▲56 百万円となった。

聖隷浜松病院においては、年度前半の初診患者数減と救急件数減が響き、病床稼働率は88.5%であったが、高気圧酸素療法の適応拡大、新たな心房細動治療法の開始等により入院単価増を図り、税引前当期活動増減差額は 99 百万円となった。

聖隷淡路病院においては、救急応需率が77%に向上し、地域包括ケア病棟等の基準順守により入院単価が上昇した。訪問診療、訪問リハビリ、健診事業の利用者数も伸び、税引前当期活動増減差額は▲299 百万円に改善した。引き続き綿密な病床管理を実践していく必要がある。

聖隷横浜病院においては、回復期リハビリテーション病棟等が高稼働となり、全体の病床稼働率は 90.8%に向上した。税引前当期活動増減差額は▲568 百万円に改善したが、さらなる費用コントロールが必要である。

聖隷佐倉市民病院においては、医師が近隣医療機関を訪問する等紹介件数向上に努めた結果、患者数が増加し病床稼働率は78.5%となった。リフレッシュ入院等地域包括ケア病棟への直接入院ルートの整備や緩和ケア病棟再開に取組み、税引前当期活動増減差額は 200 百万円となった。

指定管理病院である浜松市リハビリテーション病院は、地域連携の HUB（ハブ）機能として急性期病院からの転院受入に注力した結果、病床稼働率は96.4%となり、合わせてメディカルフィットネスや介護保険事業による収益向上を図った。聖隷袋井市民病院では、後方支援病院として急性期病院への定期訪問が功を奏し、病床稼働率は 92.6%となり、「回復期リハビリテーション病棟 1」の施設基準を維持することができた。

（３）保健事業

保健事業においては、契約単価の見直しや聖隷健康診断センター内視鏡室の拡張、大口企業からの巡回健診受注等により増収を図った。また、予約・問診・結果・請求のＷｅｂ化推進により費用を削減し、税引前当期活動増減差額は▲16 百万円となった。今後もさらなる業務効率化が必要である。

（４）在宅・福祉サービス事業

静岡ブロックにおいては、いなさ愛光園にて中山間地域福祉医療体制モデル事業が開始され、森町愛光園等においては大規模修繕が開始された。関東ブロックでは、開設３年目を迎える聖隷看護小規模多機能横須賀の登録者が順調に増加した一方、浦安ベテルホームの稼働率向上と老健超強化型への移行が課題となっている。関西ブロックでは、宝塚市において、就労支援事業および巡回ヘルパー事業を新たに開始し、奄美ブロックでは、聖隷かがやきにおいて放課後デイサービスの稼働率が向上した。一方、奄美佳南園と春日保育園一体運営の通所介護事業の効率運営が今後の課題となっている。在宅・福祉サービス事業全体の経営成績は税引前当期活動増減差額320百万円となった。

（５）高齢者公益事業

エデンの園事業においては、祝日バス見学会や個別見学会・相談会を組み合わせたセミナー等、新たな方策で入居者募集活動を展開した。その結果93件のご契約を頂き、特に浜名湖エデンの園、松山エデンの園、横浜エデンの園においては目標以上の入居実績を残すことができた。契約金額は全体で35.8億円を計上し、税引前当期活動増減差額は59百万円となった。

（６）財務の状況

現預金は、設備投資時の自己資金活用等により、期首より26億円減少し、期末残高は143.3億円となった。設備投資については、事業団全体で聖隷三方原病院電子カルテ、宝塚エデンの園建替計画準備工事等合わせて 71.3 億円の設備投資を執行した。有利子負債は期末残高が 238.3 億円まで減少し、サービス活動収益に対する有利子負債比率は 17.9%（目標 30%以下）まで向上した。純資産比率も49.3%（目標45%以上）となり、経営基盤の安定を図ることができた。

≪2025年度 事業区分別事業活動計算書（第２号第２様式）≫　　（単位：百万円）

勘定科目	社会福祉事業	公益事業	収益事業	合計	内部取引消去	法人合計
サービス活動収益	73,383	64,508	2	137,893	▲453	137,440
サービス活動費用	74,119	63,641	2	137,762	▲504	137,258
税引前当期活動増減差額	862	154	0	1,016		1,016

≪中期事業目標の進捗状況≫

指　標			2025年度
サービス活動収益成長率	【年】	2.0%	3.3%
当期活動増減差額	【年】	15億円以上	10億円
総資産税引前当期活動増減差額率（ＲＯＡ）	【年】	1%以上	0.6%
純資産比率	【2025年度末】	45%以上	49.3%

総合病院　聖隷三方原病院

新型コロナ禍が収束した後の厳しい外部環境の中、当院では全職員の努力により大幅な経営改善を達成した。しかし 2025 年は、急激な物価高騰と想定以上の病床稼働率低下に直面し、厳しい一年となった。その中でクラウド型電子カルテへの更新という大きな転換を実施し、災害対策の強化と医療 DX 推進の基盤を整備した。システム更新では職員の尽力により、円滑な移行を実現することができた。今後はこの新システムの活用を本格化させていく。

2026 年には診療報酬改定、新地域医療構想の進展が見込まれ、医療提供体制は大きな転換期を迎える。当院は急性期医療を基盤に独自の強みを堅持しつつ、変化に対応し持続可能な経営に向けて邁進する一年とする。

（注:外来患者数、外来単価は歯科を除く）

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	625 名	540 名	86.4%	91.8%	外来患者数	950 名	882 名	92.8%	96.2%
入 院 単 価	77,400 円	80,392 円	103.8%	105.5%	外 来 単 価	23,200 円	24,843 円	107.0%	105.7%
職　員　数	1,530 名	1,532 名	100.1%	100.7%	病床利用率	82.4%	71.2%	86.4%	91.8%

【理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

聖隷発祥の地から日本一信頼される病院を創る

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

１．　利用者・職員から信頼され選ばれ続ける病院

（ア）利用者・職員満足度の向上

	①新入院患者数	1,300人以上/月	（実績:1,224人）
	②病床稼働率(おおぞら除く)	82.5%以上	（実績:71.2%）
	（おおぞら・精神・結核除く)	91.0%以上	（実績:79.6%）
	③患者満足度調査「総合評価」	80%以上	（実績:入院90%）
			（実績:外来84%）
	④職員満足度調査		
	「仕事のやりがい」	80%以上	（実績:71.5%）
	「精神的不安」	20%以下	（実績:39.6%）
（イ）利用者利便性の向上	①各職場での業務改善	4件/年	（実績:9件）
（ウ）断らない医療の推進	①北遠地区救急車応需率	90%以上	（実績:89.9%）
	②救急外来経由新入院数	400人以上/月	（実績:383人）

	③お断り件数　理由不明	40件以下/月	（実績:17.2人）
	④三方原ベテルからの受診依頼応需率 100%		（実績:100%）
	⑤病院からベテルへの紹介入所者数75人以上/年		（実績:65人）
	⑥おおぞらから病院受診1時間以内比率 100%		（実績:84%）
（エ）ブランディング活動の強化			
	①ﾒﾃﾞｨｱ掲載数	2回以上/月	（実績:1.2回）
	②HP閲覧数	50,000回以上/月	（実績:40,951回）
	③市民公開講座開催数	4回以上/年	（実績:3回）
（オ）地域連携の推進	①当日紹介受入れ断り件数	50件以下/月	（実績:38.9件）
	②紹介初診件数	1,150件以上/月	（実績:1,135件）
	③後方施設への転院件数	125件以上/月	（実績:107件）
	④訪問診療の調整件数	5件以上/月	（実績:6.3件）

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

２．　地域から求められる専門性の高い医療の提供

（ア）三方原地区再開発計画の検討			
	①A号館建替PJ更新スケジュール遵守		
		進捗管理の徹底	（実績:定例会開催）
（イ）医療DXの推進	①電子カルテの更新スケジュール遵守		
		進捗率100%	（実績:100%）
	②マイナ保険証利用率	30%以上	（実績:66.0%）
（ウ）病床の効率的運用	①C3病棟の1日算定患者数	23人以上/日	（実績:19.7人/日）
	②院内ICU稼働率	70％以上	（実績:64.9%）
	1日算定患者数	6人/日以上	（実績:4.7人/日）
	③精神科合併症患者1日入院患者数 12人以上		（実績:28.1人）
（エ）専門性の高い医療機能の充実			
	①手術件数	640件以上/月	（実績:563件）
	②高難度手術件数	7.5件以上/月	（実績:15.3件）
	③内視鏡治療件数	50件以上/月	（実績:37.3件）
	④がん遺伝子パネル検査件数	3.0件以上/月	（実績:2.0件）

３．安全で質の高い医療の提供

（ア）医療の安全と質の向上			
	①患者誤認件数	80件以下/年	（実績:106件）
	②患者あたり1日手指衛生回数	20回以上/人	（実績:16.5回）
	③RRS活動件数	20件以上/年	（実績:37回）
（イ）災害対応の強化	①BCP活用した防災訓練参加人数	3,000人以上/年	（実績:4,553人）
	②災害対応チームの充足	編成チーム1増	（実績:育成中）
	③災害時通信環境の整備	1台購入	（実績:検討中）

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

４．働きがいのある職場環境づくり

（ア）教育体制の充実	①「教育への支援」4段階評価	80％以上	（実績:検討中）
	②専門医基幹プログラム数	10領域以上	（実績:9領域）
	③初期研修医　JCEP認定	認定更新	（実績:更新完了）
	④教育関連満足度　評価点	4.5以上	（実績:4.1）
（イ）職員の働く環境整備	①超過勤務時間	13時間以下	（実績:9.4時間）
	②有休消化率	12日以上	（実績:15.8日）
	③ハラスメント防止活動支援	評価65％以上	（実績:61.3%）
	④貢献に対する適正な評価	評価基準の設定	（実績:貢献表彰）

５．働き方改革の推進

（ア）必要な医療スタッフの確保			
	①医師・専攻医採用数	5名以上･3名以上	（実績:0名・6名）
	②看護師採用数	70名以上	（実績:66名）
	③看護師離職率	10％以下	（実績:8.3%）
	④その他職種の採用	必要数充足	（実績:充足）
（イ）タスクシフトの推進	①手術補助件数	200件以上	（実績:106件）
	②各コメディカル・事務達成率	100％以上	（実績:評価実施）
	③眼科手術件数/医師一人あたり	40件以上/月	（実績:37.4件）

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

６．安定した経営基盤の確保

（ア）増収と費用削減	①稼働低下月(4・5・9月)の稼働率	80％以上	（実績:71.2%）
	②DPCⅡ期退院比率	41％以上	（実績:42.4%）
	③加算算定による増収効果額	200百万円以上	（実績:149百万円）
	④増収・費用削減効果額	100百万円以上	（実績:120百万円）
（イ）予算の達成	①入院単価	77,400円以上	（実績:80,392円）
	②外来単価	23,200円以上	（実績:24,843円）
	③税引前当期活動増減差額	200百万円以上	（実績:▲279百万円）

《医療保護施設・無料低額事業・入院助産》

生活困窮者、無保険者、外国人労働者等に対する医療費・室料の減免を行った。

引き続き福祉施設などへの医師・薬剤師・理学療法士などの派遣協力を行った。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

「医療型障害児入所施設/療養介護(重症心身障害児施設)・短期入所　ショートステイ」

2025 年度の利用実績は、4 月時点の入所者は 124 人であったが、年度内の入所者 15 人(期間限定 14 人含む)、退所者15 人(期間限定 13 人・ご逝去2 人)で、2026 年 3 月末では 124 人となった。

重心医療及び小児リハビリ医療に専門性を持つ医療者の育成、チームとしての多職種連携の強化、生活支援員の研修などを通じて利用者生活支援の質の向上を図った。また、在宅支援について、特にショートステイ、レスパイト入院の要望に応えられるような人的配置、病院全体としての連携体制の強化等、おおぞら療育センターの多様な人材を生かし、質の高い医療、生活を提供するように努めた。

障害児医療の医師連携では、施設内に設置した医局に小児科医師が定時常駐することで療育神経科との医療連携が滞りなく実施できた。

多職種・多職場の対話による連携強化では、共同カンファレンスや、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）勉強会を継続実施して知識や情報共有ができた。

総合病院の実施する障害福祉サービス施設として、新興感染症のまん延防止対策に注力しながらも、断続的に面会等の制限緩和に努めた。

中長期的な施設運営計画の検討では、施設入所ニーズが増えており、これまで注力してきたショートステイ／レスパイト入院とのバランスの取り方が問題となってきた。現有マンパワーで持続可能なサービス提供範囲や新たな人材確保、施設・設備の老朽化対策など様々な検討課題が増えた。

ICT 活用の更なる推進では、2026 年 1 月に新電子カルテを導入し、病院と同じシステムを使用して入所とレスパイトに加えて、短期入所の記録も電子カルテで記述することになった。今後もシステムの更なる活用を通じて業務効率化を進めたい。併せて患者誤認防止対策である顔認証システムの導入に向けた検討も継続している。

地域から求められる施設機能の整備では、ショートステイ、レスパイト入院のサービス利用前の家庭訪問により状態変化等様々な確認ができ、利用者と施設の信頼構築に一定の成果を感じている。また、退所時支援として共同カンファレンスや退院支援カンファレンスのオンライン開催を定期的に行い、かかりつけ医療機関や事業団内他施設との連携強化や情報共有が図られている。更に、地域の在宅利用者の家庭の事情により一時的な入所が必要と判断したケースで実施している期間限定入所の受け入れは 2025 年度 15 人であり、利用者が安心して地域生活を継続できる施設として役割を果たすことができた。

あさひ(生活介護)

2025 年度は、4 月時点の利用者は 44 人で、年度内の利用開始者 5 人、利用終了者 2 人で、2026 年 3 月末では 47 人となった。利用実績は、1 日平均利用者数 27.9 人(定員 35 人)となった。重度の医療的ケアの必要な方への対応と、小グループ単位で日中活動に重きを置いたサービスを提供することができた。新興感染症対策を継続しながら、演奏ボランティアの受入等により、地域との交流を行った。

職員教育の充実では、職種別のラダーの継続した実施により、取り組むべき課題を明らかにして職員の技術向上を図った。

ICT 活用の更なる推進では、電子記録システムを活用しての個別支援計画作成やタブレット端末の記録、予定オーダー登録の活用により、業務の効率化が図られ、情報共有がしやすくなるなど、利用者のケアに有効に活用できた。

児童発達支援センターひかりの子

〈児童発達支援･放課後等デイサービス･保育所等訪問支援･障害児相談支援･特定相談支援〉

児童発達支援は、障害や発達に沿った遊びや保育を重視して実践した。2025 年度は、4 月時点の利用者は 6 人で、年度内の利用開始者 2 人、利用終了者 1 人で、2026 年 3 月末では 7 人となった。利用実績は、1 日平均利用者数 3.7 人(定員 15 人)となった。新興感染症対策を継続しながら、保護者が参画できる行事や企画を実施して、施設の見える化も図った。

2027 年度より児童発達支援センターには地域の中核的役割を担う事が義務化される。行政に確認を取りながら、施設の機能と求められる役割を再確認し、準備を進めたい。

放課後等デイサービスは、特別支援学校に通う医療的ケアのある重症心身障害児を主な対象として事業を継続した。2025 年度は、4 月時点の利用者は 20 人で、年度内の利用開始者 4 人、利用終了者 4 人で、2026 年 3 月末では 20 人となった。利用実績は、1 日平均利用者数 4.3 人(定員 5 人)となった。新興感染症対策を継続しながら、演奏ボランティアの受入等により、地域との交流を行った。

相談支援事業所おおぞらは、児童を対象とした障害児相談支援と主に成人を対象とした特定相談支援を行っている。2025 年度は、新規契約者 1 人、契約終了者 5 人で、最終的な登録者数は 175 人となった。

ICT 活用の更なる推進では、電子記録システムを活用しての個別支援計画作成やタブレット端末の記録、予定オーダー登録の活用により、業務の効率化が図られ、情報共有がしやすくなるなど、利用者のケアに有効に活用できた。

	入　　所		短期入所		あさひ		ひかりの子	
	予　算	実　績	予　算	実　績	予　算	実　績	予　算	実　績
入院患者･利用者数	128 人	128 人	10 人	8 人	－	－	－	－
入院単価(医療)	32,400 円	33,301 円	－	－	－	－	－	－
入院単価(福祉)	10,200 円	10,236 円	33,600 円	33,706 円	－	－	－	－
外来患者･利用者数	25 人	21 人	－	－	35 人	32 人	10 人	9 人
外来単価(医療)	4,500 円	4,383 円	－	－	13,200 円	13,345 円	16,850 円	17,643 円

(注:外来患者数、外来単価は歯科を除く)

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2025年度は、4月より通所リハビリテーションのサービス向上を目的に、当該事業がリハビリテーション課の管轄となるように組織変更を行った。また、地域共生型社会の実現に向けて障害福祉サービス自立訓練（機能訓練）の指定を受け、当該利用者の受け入れを開始した。9月には、6年ぶりとなる浜松市の運営指導を受けたが指導事項、助言事項ともに『なし』であった。

BSC（バランス・スコアカード）では、利用者価値の視点として、コロナ禍で縮小していたクラブ活動(にこにこクラブ)を再開するとともに2024年度から始めた利用者満足度調査を継続した。価値提供行動の視点では、地域包括ケアシステムを更に深化・推進させるため、地域から要望があった体験利用を通所リハビリテーションで開始し、聖隷三方原病院を中心に聖隷グループや地域関係機関と連携して受け入れ体制の強化をはかった。成長と学習の視点では、ICT（介護記録ソフト、送迎支援システム）の積極的活用やインカムを導入し、持ち上げないケアの推進するために移乗支援機器の増設を行った。財務の視点では、在宅復帰率や回転率など超強化型老健の基準を維持しながら稼働を管理することで年度予算を達成することができた。

「利用者価値」の視点　　（　　）内は実績

1．地域社会に貢献できる事業の実施

（ア）施設利用者の生活の充実　①入所、短期入所、通所リハビリテーション利用者・家族の平均満足度70%以上　(83.0%)

②にこにこクラブ参加者数4名/日　(8.2名/日)

（イ） 地域における公益的な取り組みの実施　①障害福祉サービス受入件数4件/月(2件/月)

「価値提供行動」の視点

2．地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進

（ア）地域関係機関からの受け入れ体制強化　①緊急入所(短期入所)応需率 80%以上（63.6%）

②『空床情報』閲覧回数 50 回/月以上（50.8 回）

3．安全・安心・快適で質の高いケアの提供

（ア）在宅復帰・在宅生活継続を常に意識したチームケアの提供　①近隣事業所等との交流件数4回/年　(12回/年)

②通所リハビリテーション登録者数 40 名/日（37.6 名）

（イ）聖隷グループとの協働によるシームレスなケアの提供　①聖隷三方原病院入所受け入れ件数 75件/年　(65件)

②聖隷他部門との相互利用件数2件/年　(9件/年)

③事業団ケアマネージャー相談件数 130件　(113件)

4．安定的に事業継続ができる体制の構築

（ア）感染・災害対策の強化　①感染対策研修への職場参加率80%以上　(100%)

②直近3年間で防災訓練職員参加率 100%　(100%)

「成長と学習」の視点

5．医療と介護の視点を持った人材の育成

（ア）老人保健施設の専門性を強化できる職員教育の実施　①老健を理解するための取組み各職場1件　(実施済)

②疾患別再発予防勉強会参加者率80%以上　(65.0%)

（イ）理念、経営方針、経営参画意識の浸透　①事業計画説明会参加率 80%以上　(94.8%)
②理念における講演会参加率 80%以上　(98.9%)

6．働き続けられる職場環境づくり

（ア）ＩＣＴの活用推進　①記録システム活用による職員満足度 80%超（未実施）
②送迎支援システムによる負担軽減率 70%超（70.0%）

（イ）持ち上げないケアの推進　①福祉機器使用率 90%以上　(76.3%)
②持ち上げないケア勉強会参加率 80%以上　(71.6%)
③福祉機器使用希望者率 80%以上　(40%)

（ウ）働き手不足への対応　①業務改善機器の検討・導入事例 4 件/年　(4 件/年)
②人員予算達成率 90%以上　(97.5%)
もしくは介護助手採用数 3 名　(2 名)

（エ）働きやすい職場づくり　①職員交流イベント参加者数 30 人　(31 名)
②超過勤務時間前年比▲20%　(▲5.9%)
③職員満足度『働きやすさ』5 段階評価 3.5 以上（3.97）

「財務の視点」

7．利用者の期待に応えられる経営管理

（ア）予算稼働率の確保　①稼働率：入所 86%以上（85.2%）・通所 56～60%（58.0%）

（イ）適正回転率の維持　①入所回転率：12～17%　(12.4%)

（ウ）年度予算の達成　①税引前当期純利益：20,000 千円　(達成)
②人件費率：66.8%以下　(64.7%)

入所(短期含)利用状況（定員 150 人/日）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 日平均(人)	125.5	120.8	119.0	128.4	137.8	135.5	127.6	123.6	125.9	128.3	132.1	128.5	127.8
稼働率(%)	83.7	80.5	79.3	85.6	91.9	90.3	85.1	82.4	83.9	85.5	88.1	85.7	85.2
平均要介護度	3.1	3.1	3.1	3.0	2.9	2.9	3.0	3.0	3.1	3.1	3.1	3.0	3.1

通所リハビリテーション利用状況（定員 50 人/日）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 日平均(人)	25.8	27.9	30.3	30.4	28.3	29.2	28.7	29.4	30.5	30.0	30.2	28.6	29.0
稼働率(%)	51.6	55.8	60.6	60.8	56.6	58.4	57.4	58.8	61	60	60.4	57.2	58.0
平均要介護度	2.2	2.3	2.3	2.4	2.3	2.3	2.2	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4	2.3

訪問リハビリテーション利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延人数(人)	2	4	5	3	1	2	6	5	2	8	8	12	58
平均要介護度	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3.8	3.8	3.6	2.8

総合病院　聖隷浜松病院

2025 年度は「Transition ～新時代へ～」のテーマのもと、確かな成果と同時に、次なる取り組みへの課題を明らかにした一年となった。

ムリ・ムダ・ムラの視点による業務改善は、病院全体で積極的に取り組んだ結果、着実に進展し、多くの部署で業務効率化が実現した。DX 推進においては、生成 AI 等の新規検討・導入が進み、新時代に向けた取り組みも重ねてきた。さらに、やりがいに関する職員満足度も目標を達成し、職員の成長意欲の高まりが確認できた。

一方で、逆紹介患者数は増加したが紹介初診患者数は前年より減少し、目標達成には至らなかった。今後はより一層、地域医療機関との連携を深めていく必要がある。また重症病床満床による救急車受入制限時間が増加し、それに伴い救急搬送件数が減少しており、地域住民が必要とする救急医療の受け入れに支障が生じていることは、重要な課題となっている。

医師一人あたりの年間収益は目標を達成しているものの、薬品や診療材料などの費用がそれを上回るペースで増加しており、物価高騰という外部要因の影響を強く受けた 1 年であった。限りある医療リソースの有効活用と費用管理の強化が不可欠である。

2026 年度は、中期的な方針のもと、これらの課題に対し単年度で具体的な成果を生み出すことで、「選ばれ続ける病院」の実現と経営の安定化を同時に達成することを目指す。

【病院使命】

人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します

【病院理念】

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ

【運営方針 2025】

私達は常に信頼される病院であり続けます

■望まれる良質な医療を提供します　■地域とのつながりを大切にします

■良い医療人を育てます　■働きやすい環境を作ります　■健全な経営を継続します

■災害・感染対策を強化します　　■環境に対する責任を果たします

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

１．利用者満足の向上

（ア）選ばれ続ける病院

①紹介初診患者数　　2,000 件/月以上　　（実績：1,918 件）

②逆紹介患者数　診療情報提供書件数（外来）　1,500 件/月以上　　（実績：1,510 件）

（イ）あたたかみのある組織

①接 GOOD さん推薦件数　5 件/月以上　　（実績：4 件）

②業務改善提案件数　2 件/月以上　　（実績：2 件）

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

２．高度・急性期医療の提供

（ア）地域ニーズに応える医療提供

①新規がん患者数　145 件/月以上　（実績:144 件）

②救急搬送　重症・中等症割合　54％以上　（実績：54％）

③緊急入院患者の DPCⅡ期以内比率　55%以上　（実績：54%）

（イ）医療リソースの有効活用

①病床稼動率　92.3%以上　（実績:88.5%）

②17 時～19 時の中央手術室の稼動率　37%以下　（実績：38%）

３．新時代の医療への挑戦

（ア）DX の推進

①来院前電子問診の導入科数（問診票数）　年度末時点　40 科以上　（実績:36 科）

②生成 AI 等の新規検討・導入件数　年度末時点　6 件以上　（実績：9 件）

（イ）ムリ・ムダ・ムラの視点での業務改善

①業務改善・削減に取り組んだテーマの目標達成率　全体　30%以上　（実績:72%）

４．医療の質と安全の保証

（ア）安全で質の高いチーム医療の推進

①ヒヤリ・ハット報告率　全体の IA 報告のうちレベル 0 報告の割合 18%以上　（実績:11%）

②メディケーションエラー発生率

薬剤IA報告のうちレベル3a以上の割合　2.5%以下　（実績2.7%）

③転倒・転落発生率（入外含む）　事象レベル 1 以上　1.25‰以下　（実績:1.16‰）

④職員満足度調査

「コミュニケーションに関する指標」肯定回答率 70%以上　（実績：63%）

⑤手指衛生実施率　医師 60%以上・看護 86%以上・事務・医療技術 85%以上

（実績：医師 59.5%、看護 85.3%、事務・医療技術 91.4%）

⑥ANPIC　24 時間返信率　80%以上　（実績：74.3%）

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

５．リスペクトし合える組織

（ア）多様な価値観に応える職場環境づくり

①職員満足度調査

「リスペクトに関する指標」肯定回答率　70%以上　（実績：59%）

②職員満足度調査

「やりがいに関する指標」肯定回答率 70%以上　（実績：70%）

（イ）働きがい改革

①超勤時間（医師）80 時間超え（日当直含まず）　7 名/月以下　（実績：9.4 名）

②超勤時間（看護・事務・医療技術）30 時間超え　40 名/月以下　（実績：24 名）

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

６．安定した財務

（ア）持続可能な病院経営※

①収益（サービス活動収益）　37,272 百万円以上　（実績：達成）

②医師一人あたりの年間収益

（サービス活動収益/常勤医師数）　125 百万円/人以上　（実績:125.3 百万円）

③材料費率（医事収益比率）　30.2%以下　（実績：31.7%）

※詳細数値は事業団本部決算書参照

【数値指標】

項　　目	予　算	実　績	対 予 算	対 前 年
入 院　患者数	690 名	662 名	95.9%	98.5%
入 院　単　価	94,900 円	98,052 円	103.3%	104.4%
外 来　患者数	1,624 名	1,599 名	98.5%	101.1%
外 来　単　価	24,300 円	25,666 円	105.6%	105.6%
病 床　稼働率	92.3%	88.5%	95.9%	98.7%
職　員　数	2,200 名	2,203 名	100.1%	100.3%

（注：病床稼働率は歯科を含む）

【地域における公益的な取組】

患者に対する支援活動では、治療と仕事の両立支援として、がんや脳卒中に罹患した長期療養者に対しハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに相談会を定期開催した。また、がんに罹患した従業員の対応に困難を抱える事業主に、浜松商工会議所と連携し当院の「がん相談支援センター」を相談窓口とした取り組みを継続した。

【助産施設　聖隷浜松病院併設助産所】

2025 年度は社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方 1 名が利用した。

聖隷淡路病院

2025 年度は院長、事務長が新体制に引き継がれ、経営再建に向け新たにスタートした。これまで築き上げた地域からの期待と信頼を土台に、さらなる地域ニーズへの対応と、時代にあったサービス提供ができるよう、「変わらなきゃ」そして「やっちゃえ」をテーマに、経営改善と「地域住民から最も信頼される医療機関へ」を目指し取り組みを始めた。新たな地域医療構想に準じた当院に求められる病院機能は、地域急性期機能と在宅医療連携機能であり、高齢者を中心とした救急応需と地域開業医や施設からの入院要請、訪問診療や往診など地域のニーズに双方向で応えられるよう体制整備を行った。救急・総合診療科を中心に診療範囲を広くとることで医療収益を確保し、経営基盤の構築を目指した年度であった。

１．地域医療の中核を担う病院へ

救急搬送の受け入れについては、受け入れ可能な疾患範囲を明確にし、まずは受け入れて重症度に応じてトリアージし、転送を含めて対応する体制を目指した。救急応需率は 77％（2024 年度：75％）と上昇し、救急からの入院移行率も目標である 50％を達成した。しかし、救急要請数が 649 件/年と 2024 年度比で 7％低下していた。人口減少に加え市内医療機関が救急受け入れを進めたことで減少したと予想される。半面、時間外の救急受診者は 2024 年度比で 4％増加しており、当院への救急医療への期待が示されている。地域との医療ネットワークの構築として、地域開業医を招いての地域連携懇話会を例年通り開催し、13 医院の開業医が出席された。当院の診療機能の紹介や開業医からの要望など双方向の交流を図り、地域での当院の診療機能の在り方を見直す機会につながった。

２．高齢化社会に対応した包括的な医療の提供

在宅療養支援病院として訪問診療を含む在宅医療を積極的に推進するため、訪問診療と訪問リハビリテーション体制の強化に取り組んだ。訪問診療は 9 月に「機能強化型在宅療養支援病院」の認可を受け、医師体制を増員し看取りや救急受入れなど幅広く対応できるよう体制を構築した。その結果、実績 429 件/年（2024 年度：214 件）と大幅に増加した。訪問リハビリテーションについては実績 418 件/年（2024 年度：332 件）と増加した。訪問看護ステーション淡路への訪問リハビリテーション依頼を当院でも引き受けられる連携体制を作ったことで実績増加につながった。地域包括ケア病棟および地域包括医療病棟については、年間を通じて平均在院日数や在宅復帰率の基準をクリアし安定した病棟運営を果たすことができた。しかし厳しい基準を満たすための病床管理により、平均病床利用率が 75.8％（2024 年度：81.1％）と予算未達であったことから、集患に加え、より綿密な病床管理を引き続き実践していく必要がある。

３．職員が誇りをもてる職場づくり

初期研修医に対する地域医療研修は 2025 年度も毎月 2～3 名、計 29 名の研修医を受け入れた。後期研修医（専攻医）も明石医療センター、神戸掖済会病院より 1 名ずつ計 2 名を受け入れ、地域医療研修施設としての役割を果たすことができた。感染管理認定看護師 1 名、特定行為研修修

了者 2 名の育成支援ができ、質の高い安全な医療の提供と、医師業務のタスクシフトを実現する体制を整備した。地域包括ケア病棟におけるリハビリテーションの関わりを見直し、個別療法から生活リハビリテーションを重視した体制に変更した。ケアを治療的に関わることで入院患者が生活動作に挑戦する姿勢を重視するとともに、病棟スタッフが行うケアをタスクシフトする協働体制に移行した。その分、リハビリテーションスタッフを医療度の高い地域包括医療病棟に配置することで、手厚いリハビリテーションの提供を実現した。結果、各病棟の基準達成に寄与でき、安定した病床管理につながった。

４．持続可能な経営基盤の確立

病床稼働の安定的運用と外来患者数増が予算達成には必須であったが、平均入院患者数では大きく予算から乖離していた。(実績：115.2 人　予算：131 人)。地域包括医療病棟が稼働したことで診療単価は予算を上回ったが、患者数を予算達成するに至らなかった。基準を維持するために入退院の調整が影響し、「患者にとって適切なタイミングでの入退院調整が行えていたか」の振り返りを行っていく必要がある。外来については、上半期に常勤医師の退職があり一時的に減少したが、下半期は予算 116 名を上回る月も見受けられた、引き続き集患に向けた取り組みを継続していく。費用については、人件費、診療材料のコスト削減に注力した。人件費については退職異動補充を制限し、常勤換算で 14.6 名の人員削減を実施し、対予算で-37,661 千円削減した。また診療材料の切り替えや見直しにより対予算-15,517 千円の削減につながった。

健診事業については、2025 年度予算を達成し、2024 年度比で 103.0%の利用があった。2026 年度以降は宝塚地区聖隷施設職員の一般健診を受注する計画を立てる予定である。

５．地域における公益的な取り組み

無料または低額診療事業を行う施設として、行政や医療機関・施設の相談員など関係機関への周知を行い、「生計困難者」だけでなく「生活困窮者」が必要な医療を受けられるよう医療費減免を行った。無料低額診療事業は 2025 年度も国が定める減免基準 10%以上を超える実績（13.4%）となった。

10 月に糖尿病教室開催、11 月にせいれい健康フェスタを開催し、地域住民への健康啓発活動を実施した。せいれい健康フェスタには 200 名を超える来場者があり、当院について知っていただく機会を提供できた。

【数値指標】

項　　目	予　算	実　績	対 予 算	対 前 年
外 来　患者数	116 名	111 名	95%	111%
外 来　単　価	11,900 円	12,030 円	101%	106%
入 院　患者数	131 名	115 名	88%	92%
入 院　単　価	34,100 円	35,006 円	102%	105%
病 床　稼働率	86%	76%	88%	93%
職　員　数	208 名	210 名	101%	101%

聖隷横浜病院

2025 年度は、中期事業計画（2021-2025）の最終年度にあたり、「地域医療への貢献」を基本方針に据えた。救急医療や透析ケアの強化、医療安全・感染管理の徹底を重点施策として推進し、地域医療ニーズへの柔軟な対応に努めた。経営管理においては、新たな経営戦略ツールであるバランス・スコアカード（BSC）を導入した。診療部、看護部、医療技術部、事務部が部門の枠を超えて戦略会議を重ね、共通目標に向かう一体的な体制を構築した。この取り組みにより紹介患者、救急搬送受入を強化し、生産性向上に向けた勤務シフトの改善など組織運営の最適化を図った結果、2026 年 1 月には開院以来最高となる入院患者数を記録する成果を収めた。一方で、人件費の高騰や物価高が経営上の大きな課題として顕在化した。年間を通じて費用コントロールに苦慮した年度でもあった。

1. 安全で良質な医療の提供

安全で良質な医療の提供を最優先事項に掲げ、組織全体で多角的な取り組みを推進した。医療安全および感染管理の基盤整備として、全職員を対象とした研修や手指衛生キャンペーンを実施し、管理体制を強化した。セーフティーマネジャー会議を通じてインシデント事例の共有と再発防止策の徹底を図る一方、患者の容態変化に即座に介入できるよう、多職種チームによる迅速対応体制（RRS）を再始動させ、院内の安全性向上を実現した。

地域医療の要として救急診療の充実にも注力した。救急車受入れプロジェクトの推進や脳神経外科ホットラインの周知徹底により、地域医療機関との強固な連携体制を構築している。併せて、外来受付時間を 16 時まで延長することで患者の利便性を高めた。さらに、院内診療の枠を超えた活動として、骨粗鬆症リエゾンサービスチーム（OLS）が小学校での講演会を実施した。若年層への予防啓発という新たな形での地域貢献に着手したことは、大きな意義を持つ。これらの活動を通じ、高度な急性期医療の提供と、地域に根ざした安心感の醸成の両立を図っている。

2. 多様な人材確保と育成

人材の質的向上と連携強化については、事業団内の関東地区施設（横浜・油壺エデンの園等）との間で積極的な人事交流や看護師の応援勤務を実施した。これにより、施設におけるケアの実情を深く理解するのみならず、職員の視野拡大や多職種連携の重要性を再認識する貴重な機会となった。一方で、看護師の確保には一定の進展が見られたものの、脳神経外科医、救急医、病理医といった一部診療科における医師の確保は依然として大きな課題として残っている。今後は、安定した組織運営と質の高い医療を継続するため、これらの専門職招聘に向けた体制整備が急務である。

3. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践

病院経営の健全化と質の維持に向け、生産性の向上と業務効率化を強力に推進した。具体的には、既存業務の抜本的な見直しや手術室の運用体制改善を実施し、年間手術件数 2,000 件という目標達成に向けた診療体制の強化を図った。また、情報発信の面では、従来の媒体に加え公式 LINE お

よび Instagram の運用を新たに開始した。これにより、地域住民への迅速な情報提供と当院の特色発信を多角化し、認知度と信頼の向上に努めた。

4. 最適な環境づくりの推進

患者の利便性向上に向けた大きな進展として、相鉄バス株式会社との連携により、敷地内への路線バス（浜 4 系統）の乗り入れを実現した。これにより、通院アクセスの劇的な改善を図り、高齢者や歩行困難な患者にとっても、より優しい療養環境を整備した。また、医療の質の向上と業務効率化の両立を目指す一環として、ウェアラブル排尿予測デバイス「DFree」を導入し、リアルタイムな排泄状況の把握に基づいた適切なケアを実践するなど、データに基づいた質の高い看護を実現した。これらのハード・ソフト両面での改革に加え、働き方改革の推進にも注力した。特定行為看護師の育成を戦略的に進めることで、チーム医療の機能を強化するとともに、医師からのタスクシフトを促進した。こうした取り組みは、診療体制の充実のみならず、超過勤務の削減といった職員の労働環境改善においても着実な成果を上げている。

5. 地域包括ケアシステムの構築と推進

ケアミックス病院としての機能を最大限に発揮し、各病棟において極めて高い稼働水準を維持した。具体的には、地域包括ケア病棟（92.0%）、回復期リハビリテーション病棟（97.1%）、一般病棟（89.1%）と、各機能病床の効率的な運用を達成した。この安定した病床運営を支える基盤として、地域医療機関との連携も一段と深化している。紹介患者数は月平均 983 件に達しており、地域における中核医療機関としての役割を名実ともに堅持した。さらに、自院の診療にとどまらず、聖隷福祉事業団内の各施設との横断的な連携を強力に推進した。横浜エデンの園へのオンライン診療の提供や、油壺エデンの園への医師・看護師の派遣に加え、管理栄養士による施設への食事管理支援など、多職種による専門性を活かした業務支援を展開した。これらの取り組みを通じ、病院と福祉施設が一体となった包括的なケアシステムの構築に大きく寄与した。

＜地域における公益的な取り組み＞

低所得者に対し広く事業を実施し、国が定める基準 11.3%であった。

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
外来患者数	613 名	568.3 名	92.7 %	98.7 %
外来単価	18,900 円	19,907 円	105.3 %	107.7 %
入院患者数	330 名	333.2 名	101.0 %	101.7 %
入院単価	57,700 円	57,698 円	100.0 %	103.9 %
病床稼働率	89.9%	90.8 %	101.0 %	101.7 %
職員数	706.3 名	726.7 名	102.9 %	104.0 %

聖隷佐倉市民病院

2025 年度は、物価高騰による様々な費用の増加が進み、さらに人員不足による稼働病床の縮小など、病院経営にとって厳しい一年であった。反面、持続可能な経営基盤の再構築という課題が明確になり、より強固な組織を作るための契機と位置づけた。管理会議発信の重点取組事項を共有し、職員一丸となって患者の受入や費用削減に取り組んだ。また、新たな打ち手として人員不足の中、看護部の全面協力の下、5 年振りに緩和ケア病棟を再開した。再開後は医師の協力もあり安定した運営ができている。職員の奮闘により経営は改善し、結果として V 字回復することができた。2026 年 1 月には病院長が交代、新体制がスタートした。

１．地域医療へのさらなる貢献

救急患者の受入を迅速に行えるよう日中ファーストコール医師体制を設け、受入体制を再構築したが救急車要請件数の減少に伴い、年間 2,137 台の受入実績となった。また、全科の医師が近隣医療機関へ訪問し、顔の見える関係構築を行ったことで紹介件数は 11,092 件となり、2024 年度比 517 件増加することができた。がん医療の取り組みとしては、緩和ケア病棟の再開と放射線治療装置の更新を行った。公的機関への広報活動によりレスパイト入院、リハビリテーション科によるリフレッシュ入院など、安定した地域包括ケア病棟への直接入院の流れが整備できた。

２．安心して受診できる医療の提供

全ての職場から IA レポートが提出され、医療安全に対する職員意識の向上を図った。防犯対策としては 1 階フロアにて防犯グッズを用いた防犯訓練の実施、佐倉警察署の協力を得て不審者対応訓練を実施した。また、広域災害を想定して佐倉市と連携した地震総合防災訓練を行った。課題は山積しているが公的機関と共有することで自院のみでなく、地域の災害対策を真剣に検討できる機会となった。

３．利用者に選ばれる病院づくり

広報委員会の積極的な活動により病院インスタグラムのフォロワー数増加と病院ホームページを更新することができた。また、地域住民参加型イベントとしては、6年振りにアイアイフェアを開催し、多くの方に参加をいただいた。利用者の利便性の向上では、昼夜を問わず利用者から来院希望日時を web で申し込みができるシステムを導入した。利用者からの投書についても改善活動に活用することができた。

４．人材確保・定着と働きやすい環境づくり

2024 年度より活動している多職種による採用チームが大規模就職説明会への積極的な参加やインスタグラムの活用による求職者向けの情報発信などに取り組み、2026 年 4 月には新卒看護師 33 名の入職に繋がった。業務負担軽減においては、会議の開始時間や開催頻度の見直し、DX による業務の効率化への取り組みに着手した。

５．経営と運営の両立による健全経営

職員へ経営情報とその取り組みを発信することで経営参画意識の醸成を図った。また、職場毎に費用削減策を検討し、病院共通の内容については全病院的に費用削減に取り組むことで費用コントロールを実現することができた。

６．地域における公益的な取組

佐倉市と連携した健康増進イベントや腎臓病・糖尿病教室の開催により、病気予防、健康寿命延伸に繋がるための情報発信を行った。また、高校生を対象に「がんに関わる教育講演」を実施した。

【数値指標】〈病院〉

項　目	予　算	実　績	対予算	対前年	項　目	予　算	実　績	対予算	対前年
外来患者数	803 名	796 名	99.1%	102.4%	入院患者数	320 名	309 名	96.5%	101.9%
外来単価	15,690 円	15,481 円	98.6%	101.9%	入院単価	59,000 円	58,317 円	98.8%	99.7%
職員数	775 名	747 名	96.3%	98.5%	病床稼動率	80.2%	78.5%	97.8%	101.9%

〈健診センター〉

項　目	予　算	実　績	対予算	対前年	項　目	予　算	実　績	対予算	対前年
受診者数	198 名	188 名	94.9%	99.4%	単　　価	18,690 円	18,870 円	100.9%	102.5%

〈せいれい訪問看護ステーション佐倉〉

介護保険	予　算	実　績	対予算	対前年	医療保険	予　算	実　績	対予算	対前年
利用回数	464 件	403 件	86.8%	89.3%	利用回数	210 件	134 件	63.8%	108.9%
単　　価	8,000 円	7,819 円	97.7%	102.4%	単　　価	11,650 円	10,970 円	94.1%	102.6%

〈せいれいケアプランセンター佐倉〉

項　目	予　算	実　績	対予算	対前年	項　目	予　算	実　績	対予算	対前年
利用回数	124 件	107 件	86.2%	82.9%	単　　価	13,275 円	11,172 円	84.1%	91.9%

聖隷佐倉市民病院　健診センター

2025 年度、健診センターは開設 20 年を迎え、日頃の感謝を伝えるため、20 周年記念イベントを開催した。また、健診から病院へのスムーズな受診を可能とする体制の整備や新オプションも導入するなど、受診者のニーズに合わせたドックの提供を行った。

せいれい訪問看護ステーション佐倉　/　せいれいケアプランセンター佐倉

2025 年度はｅラーニングや外部研修を取り入れた段階的な教育体制を構築し、職員のスキルアップに努めた。子育てや介護を必要とする職員が勤務調整をしやすいような体制の整備を行い、職員一人ひとりの状況に応じた多様な働き方を進めた。

＜無料又は低額診療事業＞

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、減免実施率は21.0%であった。

浜松市リハビリテーション病院

2025 年度は指定管理受託から 18 年が経過した。当院は「地域連携の HUB（ハブ）」として、急性期病院からの円滑な転院受入れと、質の高い回復期リハビリテーションの提供による早期の在宅復帰に注力してきた。さらに、2040 年を見据えた新しい地域医療構想における「治し支える医療」を念頭に、多疾患併存患者への対応強化を図るなど、当院の専門性に基づいた総合的・効率的なリハビリテーション医療の構築に向けて新たな一歩を踏み出す一年となった。

2024 年度の人材確保の取組みにより職員数が安定したことを受け、2025 年度は前年度からの事業テーマである「発想」を継続して、全職員が能動的に医療の質向上と病院経営の安定に取組んだ。医療の質向上については各職場の取組とともに、2026 年度に予定している病院機能評価の受審準備の機会も活用した。職場巡視などを計画的に重ねる中で、記録の充実、安全衛生や保管管理の改善、各種規定の整備など、具体的な改善が多数実施された。経営面においては物価高騰という厳しい外部環境に直面しながらも、診療部、看護部、リハビリテーション部、医療技術部、事務部の全職種が協働し、さらに地域連携・患者サポートセンターの機能発揮などにより、平均 217 床（稼働率 96.4%）という高い稼働を達成した。また、検討を継続していた次期電子カルテシステムの選定を完了し、未来への準備を整えることができた。

１．患者と職員に選ばれ続ける病院をつくる

安心して働ける職場が最高のケアを生むと考え、働きやすい職場環境の整備に努めた。現場ニーズと将来の人員不足への危機感を院内で共有し、多様な雇用の一環として、ミャンマーからの留学生 5 名を看護補助として受け入れた。また、ケアの質向上と職員の腰痛予防に寄与するノーリフティングケアの普及に努めた。さらなる職員教育の充実や心理的安全性の高い職場づくりを推進した結果、日本医療機能評価機構職員満足度調査では総合評価「この病院を職場として薦めようと思う」の回答は前年度 3.28 から 3.37 ポイントに上昇した。

２．地域連携の HUB（ハブ：拠点）としての役割を果たす

高い稼働率を維持しつつ、急性期病院からの受入れ待機日数は 2024 年度 12.8 日から 2025 年度は 12.6 日へ短縮した。近隣の急性期病院とは定期的な連携協議を実施し、顔の見える関係構築のもと、スムーズな転院につなげている。また、看護部では入退院支援や療養生活支援の質を高めるため、入退院支援業務シャドーイング研修や訪問看護ステーションへの出向研修を行った。さらに、退院後の通所・訪問・外来リハビリテーションに加え、算定期限後を見据えた自費のメディカルフィットネスへの連携体制を整備した。これにより、維持期までをカバーする切れ目のない在宅復帰支援の提供が可能となった。

３．質の高いリハビリテーション医療の実践と進化

えんげ、スポーツ医学、高次脳機能の 3 センター体制を維持し、専門性の高い機能強化を推進した。特に当院の自動車運転外来の取組が NHK の全国放送で紹介され、大いに注目された。また、脳波を計測しながら上肢のリハビリテーションを行う BMI（ブレイン・マシン・インターフ

ェイス）の当医療圏への初導入や、下肢リハビリテーション支援ロボットの最新機種への更新など、最新鋭機器を導入し、より効果的なリハビリテーションを提供する環境を整備した。さらに、転倒転落リスクへの備えとして、高性能緩衝マットを床全面に完備した個室を各病棟に 1 室ずつ整備した。看護部とリハビリテーション部との協働については、安全や感染などの目標を共通して推進する体制やカンファレンス等での活発な意見交換が定着し、当院の強みとして一層洗練され、より安心安全な療養環境と生活に即したリハビリテーションの提供につながっている。

４．持続可能な経営基盤の確立

各職種の主体的な尽力により、高稼働を恒常的に維持できる体制を構築することができ、経営基盤の安定化に大いに寄与した。リハビリテーション部門による診療報酬基準に基づいた適正かつ最大量のサービス提供への取組、歯科の充実、MRI の外部受注の増加、介護保険事業、メディカルフィットネスなども収益性の向上に寄与した。また、医療機関に対するサイバー攻撃の増加を受け、サイバーセキュリティ向上の一環として、全病棟において電子カルテのトラブルを想定した紙カルテ運用の訓練を実施した。

５．地域における公益的な取組

「市民いきいきトレーナー養成事業」において新規に 40 名を育成した。また、保健事業部と共同で「はままつ健幸たいそう」の普及活動を推進した。さらに、市内の小中学校へ怪我の予防等を目的に運動器健診やスクールトレーナーの派遣を実施した。地域防災の取組として、和合町および泉町自治会の防災訓練に参加し、地域避難所との連携体制を確認した。

【数値指標】2025

項　　目	予　算	実　績	対 予 算	対 前 年
外 来　患者数	148.0 名	160.8 名	108.6%	106.1%
外 来　単　価	11,100 円	11,231 円	101.2%	104.1%
入 院　患者数	217.0 名	217.2 名	100.1%	100.5%
入 院　単　価	41,900 円	40,828 円	97.4%	100.1%
病 床　稼働率	96.4%	96.5%	100.1%	100.5%
職　員　数	431.0 名	420.0 名	97.4%	101.7%

〈介護保険事業〉

項　　目	予　算	実　績	対予算	対前年
通所リハビリ利用回数	901 件	999 件	110.9%	110.3%
単価	4,850 円	5,297 円	109.2%	103.0%
訪問リハビリ利用回数	459 件	452 件	98.5%	100.4%
単価	8,440 円	9,150 円	108.4%	105.0%

聖隷袋井市民病院

2025 年度、当院は袋井市からの指定管理受託 13 年目を迎えた。『共感力と協働 episode2』をキーワードに掲げ、患者や家族に共感的に寄り添い、多職種が密に協働することで、利用者にとって最善の治療・ケアを提供することに努めた。同時に、職員間においても互いを尊重し、心理的安全性の高い強固な組織風土の構築に注力した。これら「患者家族や職員」に対する質改善や組織的な病床稼働の向上を継続した結果、病院機能評価の更新受審においても高い評価を得た。

【事業・運営計画】　　キーワード： 共感力と協働 episode2

１．安全で質の高い医療サービスの提供

（ア） 多職種で取り組む質改善活動の推進

認知症患者への適切な医療およびケアの質向上を目的として、看護・リハビリテーション部門合同の学習会を開催した。アンケートでは参加職員の 75%が「理解できた」と回答した。

（イ） 多職種による安全な医療サービスの提供

医療安全に関しては、IA 分析（インシデント・アクシデント分析）実施や講習会の開催に加え、身体的拘束最小化チームによる定期的な病棟ラウンドを行い、安全な医療提供体制を堅持した。

（ウ） 地域における特色あるリハビリテーション医療の充実

末梢磁気刺激装置「Pathleader」や体組成計「InBody」等の先進機器を積極的に活用し、質の高いリハビリテーション提供に努めた。

２．地域共生社会への貢献

（ア） 退院後生活を見据えた支援体制の強化

退院後の生活の質を維持・継続することを目的として、テレフォンフォローアップを実施した。問題が確認された際には、外来受診の勧奨やケアマネジャーへの迅速な連携を行った。

（イ） 後方支援病院としての機能の強化

急性期病院への定期訪問を継続し、強固な連携体制の構築に努めた。その結果、2024 年度に稼働が低迷した 7 月および 11 月においても、高い稼働率を維持することができた。

３．人材の確保・育成の推進

（ア） 人材の確保と育成

看護職員および看護補助者の採用強化に取り組んだ。看護師採用においては、「ナース体験」や「お仕事リサーチ」への参画に加え、看護師養成校 6 校を訪問し関係性を強化した。その結果、2026 年度より新たに修学舎高校からの実習受け入れが決定し、新たなチャネルを構築した。

（イ） 専門性向上の支援

職員のやりがいの醸成を目的として、資格取得支援および取得後の実践環境の整備を推進した。

４．ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進

（ア） 労働時間の適正化

ワークライフバランスの実現と働きがいの向上を目的としてプロジェクトを発足した。2025 年度は計 3 回のミーティングを実施し、課題解決に向けたアクションプランの立案まで完了した。

（イ） 労働環境の整備

「ノーリフティングケア」の定着に向けた3か年計画を策定した。初年度となる2025年度は、概念の浸透を目的として全4回の院内研修会を開催した。

（ウ） 両立支援制度の普及啓発、活用

仕事と家庭の両立を支援するため、病院独自の「はたらくママパパ応援BOOK」を作成した。

５．経営基盤の安定化

（ア） 病床稼働の安定化

病棟課長と地域連携室が密に連携し、全病床を戦略的に活用したベッドコントロールを展開した。その結果、全病棟において予算を上回る高い稼働率を維持した。＊下記数値参照

（イ） 回復期リハビリテーション病棟1の継続

効率的なベッドコントロールに加え、質の高いリハビリテーションの適時介入により、重症度や実績指数等の施設基準を安定的に充足し、「回復期リハビリテーション病棟1」を継続した。

（ウ） 災害対策の強化

災害医療の7つの基本原則である「CSCATTT」の概念を職員へ周知し、組織的な対応力の向上を図った。その上で、火災および地震を想定した訓練を実施し、有事における初動体制と連携を確認した。

６．地域における公益的な取り組み

袋井市の「介護予防・日常生活支援総合事業」に参画し、摂食嚥下に関する専門職向け研修会を開催した。地域における食支援の質向上に寄与するとともに、行政との連携強化を図った。

【数値実績】

項　　目	予　算	実　績	対 予 算	対 前 年
外 来　患者数	46名	54名	117.3%	105.8%
外 来　単　価	8,319円	7,945円	95.5%	102.5%
入 院　患者数	135名	139名	102.9%	104.5%
入 院　単　価	31,037円	29,905円	96.3%	103.4%
病 床　稼働率	90.0%	92.6%	102.9%	104.5%
職　員　数	214名	200名	93.4%	102.0%

〈訪問リハビリテーション〉

項　　目	予　算	実　績	対予算	対前年
利用回数（月平均）	1,068件	1,078件	100.9%	107.9%
単価	3,395円	3,346円	98.5%	100.9%

保健事業部

聖隷健康診断センター　　聖隷健康診断センター東伊場クリニック
聖隷予防検診センター　　地域・企業健診センター
聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*　　聖隷静岡健診クリニック
聖隷富士健康診断センター

2025 年度は、2024 年度に引き続き地域や契約団体の多様なニーズに応える事業展開を進めた年度であった。運営面では聖隷健康診断センターにおける内視鏡室 7 ライン化を完了、高稼働を維持するとともに、スピードドックの拡充など受診機会の拡大と利便性向上を図った。

先進的予防医療への取組みとしては、新たに歯周病リスク検査を導入し、健康寿命延伸に向けた新たな価値提供を開始するとともに、島田市健康長寿研究（しまけん！）の受託、脳健康度 AI 解析「エムビジョン」や「プレコンセプションケア健診 Basic」の開始に向けた準備を進めるなど、地域の健康課題の解決に向けた対応にも取り組んだ。

地域連携においては、聖隷浜松病院・聖隷三方原病院との連携を強化し、精密検査予約や受診勧奨の仕組み化を推進したほか、浜松市リハビリテーション病院と連携した「はままつ健幸たいそう」が各種アワードを受賞するなど、地域課題の解決に資する活動が対外的にも評価された。

経営基盤強化に向けては、聖隷富士健康診断センターの稼働開始や、聖隷淡路病院への健診システム「SUMMITSⅡ」導入支援を通じ、広域法人としての強みを活かした事業展開と業務標準化を推進した。また、各種機能評価更新や専門資格取得支援などを通じ、人材育成と組織力向上に継続して取り組んだ。さらにマンモサンデー等の女性向けイベントへの参画を通じ、地域における健康啓発活動を積極的に推進した。これらの取り組みは、聖隷の理念に基づき、職員一人ひとりが利用者に寄り添うサービスを実践してきた賜物であり、事業部を支えてくれた全職員に対し深く感謝申し上げたい。

2026 年度は、人件費や物価の高騰への対応に加え、受診時期の偏在是正や生産性向上への取り組みが、引き続き重要な経営課題となっている。施設内 WEB 問診の完全実施や WEB 請求を含む聖隷 DX をさらに推進するとともに、職員のワークエンゲージメント向上にも取り組み、効率化とサービス向上を両立しながら、地域に選ばれ続ける事業部の実現を目指す。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業計画】

１．保健事業の質の維持向上

利用者のニーズに応えるとともに、精度が高く、アウトカムを出せる保健事業を提供する。

（ア）特定保健指導の各施設直轄化を行ったことにより、実施率および改善率が向上した。

・2024 年度対比　特定保健指導実施数　107%（＋616 件）　改善率（脱落者を除く）36.5%

（イ）聖隷健康診断センター内視鏡室 7 ライン体制により実施件数が増加した。

・2024 年度対比　胃カメラ検査実施数　143.2%（＋4,862 件）

（ウ）各センターにて日本人間ドック・予防医療学会の機能評価認定更新および新規受審（東伊場クリニック）を実施した。

（エ）サービス品質向上と接遇改善を通じ、保健事業における聖隷ブランドの強化に努めた。

（オ）サポートセンター*Shizuoka* にて「プレコンセプションケア健診 Basic」開始に向けた検討を行った。

２．人材育成の推進

研修プログラム等を通して、職員の知識・技術レベルの向上を図ると共にワークエンゲージメントを高める。

（ア）医局教育長制度および各専門部会活動の活性化を図った。

・医務部教育　年 5 回実施　　専門部会　年 8 回実施

（イ）看護・検査・放射線各課において日常的に採血、眼底、エコー検査などについてタスクシフトを行う体制を構築した。

（ウ）医師・保健師等の採用困難職種についてリクルート活動を強化した。

・新規採用　医師　常勤 1 名　非常勤 12 名

・　同　　保健師・看護師　常勤 13 名　パート 7 名

看護職の採用強化に向けて「聖隷クリストファー大学奨学金制度」を新設、3 名の利用につながった。

３．デジタル化の推進

システムの有効活用と WEB 化を通して、業務の見直しに努め、効率化と事故防止を図る。

（ア）契約内容のシンプル化プロジェクトを開始、業務負荷軽減を図った。

（イ）WEB 予約システム（SUMMITSⅡ版）を導入、利便性向上と受電数軽減を推進した。

（ウ）施設内 WEB 問診システムの 2026 年度完全導入に向けて、トライアル実施を推進した。

（エ）請求書・結果報告書電子化を開始し、2024 年度対比で約 300 万円の印刷費・郵送費削減を実現した。

（オ）巡回健診時の利便性向上および追加検査の販促に向けて、クレジットカード決済を開始した。

４．健康経営の実現

労働法規を遵守すると共に、職場での心理的安全性を確保し、職員一人一人が心身共に健康でいきいきと働ける職場環境を構築する。

（ア）作業環境改善および超過勤務低減に向けた取組みを実施、超勤時間が減少した。

・合計超勤時間 2024 年度対比　▲1,519 時間

・所定労働時間 45 時間超延べ回数　2024 年度対比　▲19 回

（イ）ラインケア研修およびストレスチェック後のアクションプランの実行などにより、ワークエンゲージメントの向上および心理的安全性の向上に努めた。

（ウ）全職員を対象とした職員親睦会（年越しそばを食べる会など）などの開催を行った。

５．経営数値の改善と将来構想の検討

事業団および事業部の将来構想を念頭に置き、事業継続に必要なサービス活動収益と増減差額を確保し、予算を達成する。

【収益改善】

（ア）東伊場クリニックにて午後ドックの拡大やニーズに合わせた外来枠の増枠を行った。

（イ）契約価格の交渉や追加検査の販促などを推進、単価改善に努めた。

・2024 年度対比　一人当たり単価　ドック＋710 円、一般健診（施設内）＋137 円、（施設外）＋806 円

（ウ）受診当日の窓口において次年度予約取得の案内・声掛けを積極的に推進した。

・次年度予約数　2024 年度対比　161.8%（＋3,712 件）

【費用削減】

（ア）モノクロ印刷の推進などを行い、月約 30 万円の印刷費削減を行った。

（イ）巡回健診日程圧縮や後日便検査見直し等による効率化を図った。

【将来構想】

（ア）一般財団法人恵愛会健診事業の事業を保健事業部にて継承し、新たに聖隷富士健康診断センターを開設した。

（イ）静岡駅南口再開発に伴う静岡地区事業について引き続き検討を行った。

＜地域における公益的な取り組み＞

・女性の健康啓発活動を実施し、乳がん・子宮がん検診の重要性や早期発見の必要性などについて情報発信を行った。

浜松地区：浜松商工会議所主催「いきいき健康フェスタ」など

静岡地区：「サンデーレディス健診」「女性の活躍推進応援セミナー」など

・浜松ウエルネス推進協議会参画団体として「はままつ健幸たいそう」開発や小学生向けの健康啓発イベントなどを実施、「はままつウエルネスアワード」および主婦の友社主催「すごい！健康長寿力アワード」などを受賞した。

【数値実績】

■聖隷健康診断センター、聖隷健康診断センター東伊場クリニック

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
33,510 名	254 名	49,888 名	7,626 名	24,433 名
特殊健診	精密外来	合計		
2,955 名	17,577 名	136,243 名		

■聖隷予防検診センター、地域・企業健診センター

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
20,050 名	0 名	298,161 名	6,570 名	47,260 名
特殊健診	精密外来	合計		
48,850 名	12,450 名	433,341 名		

■聖隷聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*、静岡健診クリニック

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
18,203 名	0 名	88,462 名	4,560 名	18,873 名
特殊健診	精密外来	合計		
7,650 名	10,323 名	148,071 名		

■聖隷富士健康診断センター

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
694 名	0 名	4,915 名	552 名	486 名
特殊健診	精密外来	合計		
0 名	0 名	6,647 名		

■保健事業部合計

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
72,457 名	254 名	441,426 名	19,308 名	91,052 名
特殊健診	精密外来	合計		
59,455 名	40,350 名	724,302 名		

高齢者公益事業部

宝塚エデンの園の建替え工事は2026年2月に起工式を執り行い、3月からE棟の解体が始まった。5棟のうち4棟を建替える工事は2033年に完成の予定である。地域住民、入居者、関係者、職員にご理解ご協力をいただきながら、計画的に進めたい。

2025年度は物価高騰、人件費増に対応するため、直営施設（横浜エデンの園を除く）の入居一時金、1施設の管理費、3施設の食費を改定した。自然災害に関するBCP（業務継続計画）の実効性を高めるため、外部の専門家を招き、各施設でシミュレーション訓練を継続している。被災時の熱中症対策の整備が今後の課題である。

入居率95%（宝塚エデンの園を除く）を達成基準とする入居者募集は、広告出稿、さまざまな規模のセミナー、個別見学会・相談会等を組み合わせた活動を継続した。各施設の成功事例を共有して募集活動に取り入れたり、契約件数の獲得に苦戦した油壺エデンの園で新たに祝日のバス見学会を開催するなどの取組みをしたが、契約件数、金額ともに未達となった。

人材の採用・育成・定着では、役職者に対する伴走支援として、専門家によるビジネスコーチングを開始した。また、日々のケアを振り返り、可視化・共有化するため、高齢者ケア実践報告会、ケアを語る会を開催した。

サービスの質・安全・効率の向上では、入居契約の電子契約化を推進した。浜名湖エデンの園、松山エデンの園、横浜エデンの園で外部の専門家による接遇研修を行った。

業務基幹システムのETS2020はETS2025にバージョンアップし、2026年3月から本稼働した。

１．聖隷理念の継承とエデン価値の進化

聖隷の理念、事業部の運営方針の浸透と実践につなげるため、事業部長が各施設の役職者と対話形式による意見交換会を継続実施した。

聖隷及びエデンの園の歩み、存在意義、あるべき姿を共有するため、役職候補者に対する集合研修を実施した。

２．経営の安定と永続性の確保

2025年4月から横浜エデンの園を除く直営施設の入居一時金の改定､浦安エデンの園の管理費、浜名湖エデンの園及び油壺エデンの園の食費、8 月から松戸ニッセイエデンの園の食費をそれぞれ改定した（浦安エデンの園の管理費は2025年4月、2026年4月の2段階で改定)。引き続き収支均衡策を立案・実践する。

入居契約は、契約件数93件、契約金額35億8千万円、入居率89.2%（宝塚エデンの園を除き93.2%）となった。

外部の専門家を招聘し、10施設でBCPのシミュレーション訓練を実施した（3施設は2024年度に実施済み)。2026年度も引き続き全施設で自走にて同様の訓練を実施する。

３．人材の採用・育成・定着の強化

スポットワーク（短時間・単発の就労を内容とする雇用契約により働くこと）を職員採用の有

力な手段として捉え、1 施設で実証実験した。入職後 1 年以内の離職率が高いことに着目し、離職防止策として入職後 3 か月間は月 1 回以上、職場長が面談する運用を全施設で行った。最低賃金の上昇によりパート職員の働き方が多様化するなか、「年収の壁」対策を通じた職員確保に取組み、一定の成果を得ることができた。

法人本部健康推進室の支援により、施設長に対してインシビリティマネジメント研修を実施した（インシビリティは明確な悪意や攻撃性は低いものの、礼節や思いやりに欠けた無礼な言動のこと)。

４．サービスの質・安全・効率の向上

特定施設入居者生活介護の相互監査を 5 施設で実施し、監査対応を通じた役職員の育成につなげた。2026 年度は法人本部法務室と協働で実施する予定である。

入居契約時に多くの書類を記入することは、高齢者にとって大きな負担であるため、入居契約の電子契約化を推進し、負担軽減を図ることができた。

食事サービスの向上策として、喫食率を高めるための新たな具体策を各施設で 3 つ以上取り組んだ。食材費が高騰するなか、食事の質を維持しつつ、食材や仕入業者の見直しを行った。

５．新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

宝塚エデンの園の建替え工事では、E 棟の解体に入った。2026 年度後半には新 E 棟の建設が始まる予定である。

業務基幹システムである ETS の開発が完了し、ETS2020 から ETS2025 に更新した。これまで管理費等の請求書と領収書は別帳票だったが、請求書兼領収書として帳票を一本化し、利便性の向上と業務の効率化を図った。また、食事申込みは紙面とタブレットを併用していたが、原則タブレットによる申込みに移行する。システムの有効活用に継続的に取り組むことが今後の課題である。

６．地域における公益的な取り組み

SDG s としての活動を念頭に置き、介護フェスタ、認知症講演会、地域の清掃活動、共同防災訓練等を継続している。

宝塚エデンの園では解体予定の E 棟を宝塚市消防本部・西消防署に提供し、より火災現場に近い環境での訓練が実施され、地域消防隊員の技術向上に寄与することができた。

【数値実績】

（直営施設）		浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1	藤沢 2	計
目標件数		18 件	5 件	10 件	28 件	18 件	20 件	11 件	0 件	110 件
募集実績		23 件	3 件	10 件	13 件	12 件	21 件	11 件	0 件	93 件
入居率	期首	96.3%	78.7%	95.2%	94.3%	93.8%	80.0%	97.6%	88.0%	91.3%
	期末	95.3%	74.0%	94.5%	89.2%	96.0%	82.0%	98.1%	80.0%	89.2%

介護付有料老人ホーム　浜名湖エデンの園

2025 年度より入居一時金の値上げを実施したが、浜名湖エデンの園では入居契約への大きな影響は見られず、入居率 95%を維持することができた。これは、トータルヘルスケアの推進をはじめ、事業計画に基づく取り組みを継続的に実践してきた成果と考えられる。また、見学時に入居者が積極的に声をかけてくれることが、園での生活の魅力を自然に伝える大きな力となり、入居検討者の安心感や信頼につながっている。日頃より惜しみない協力をしてくれる入居者に深く感謝する。今後も入居者とともに、より魅力ある園づくりを進め、安定した入居状況の維持と組織の活性化を図っていく。

2024 年から始まった 4 号館 1 階の改修工事も完成し、プライバシーの確保やデイフロアの環境改善を実現した。これにより、一時介護室での療養環境を大きく向上させることができた。

サービス面では、排泄予測機器（DFree）の導入検討、見守りシステムの活用、ノーリフティングケアの継続、標準化に向けた動画マニュアルの導入など、入居者の生活の質（QOL）向上とケアの質の安定化に向けた取り組みを進めた。

経営面では、業務標準化の推進により効率化とリスク低減を図るとともに、全課で超過勤務時間の削減を達成し、運営体制の強化につなげた。また物価高騰への対応として 4 月に食事価格の改定を実施したが、想定を上回る物価高騰が続いたため 2026 年 5 月より再度の改定をお願いすることになった。今後も物価高騰が継続すると考えられるが、サービスの質を維持しつつ、業務標準化や適正人員配置など、効率的な運営を進めていく。

公益事業においては、地域清掃ボランティアの継続、地域自治会への会議室無償貸出、市内小学生を対象としたユニバーサルデザイン体験会など、地域との連携を深める取り組みを実施した。

１．個人の意思を尊重したトータルヘルスケアの確立と実践

(ア)ケア部門双方がカンファレンスへ参画できる体制を構築した。

(イ)ACP カンファレンスを定期的に開催できたが、支援に繋げにくいケースも見られた。

(ウ)動画マニュアルを活用、業務を早く簡単に理解できる環境整備を開始した。

２．次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる魅力的な職場づくり

(ア)朝礼や各種研修を通じて法人理念、施設理念の伝達と継承に努めた。

(イ)見守りシステムの本格稼働、ノーリフティングケアの推進、DFree の検討、生成 AI による議事録活用を開始した。

(ウ)勤務形態の専任化に取り組むとともに、ケア部門の事務作業を集約した。

(エ)スキルマップの活用による自己啓発の促進と、講師招聘による接遇力の向上に取り組んだ。

３．安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保

(ア)事業計画の詳細説明を行い、連鎖した目標管理による実践を進めた。

(イ)担当業務の取組みが経営に寄与する考えの浸透を図り、クールビス等の対応も実施した。また、入居率は目標 96%には届かなかったものの、95.3%を達成し、高齢者公益事業部の目標値は確保できた。

(ウ)夜勤業務の連携強化や円滑な住替えが行えるようケア部門間の連携を強化した。

４．安全管理の徹底を図ったサービスの提供

(ア)実践的な防災訓練、BCP 訓練の実施に努め、停電時の機械浴対応訓練も行った。

(イ)防災委員会を中心に、緊急対応力を高める机上訓練を実践した。

(ウ)全職員を対象にコンプライアンス研修を行い、意識向上を図った。

(エ)LED 投光器、ポータブル電源、携帯トイレ等を新たに整備し、防災体制を強化した。

５．入居者と共に成長し続ける浜名湖エデンの園づくり

（ア）出汁や塩分調整による健康に配慮した食事提供を開始した。

（イ）近隣ホテルとの連携により食事会や釣り企画など新たなイベントを開催した。

（ウ）地域清掃、フードバンク参画、聖隷クリストファー高等学校への支援金提供など、入居者の協力のもと地域貢献活動を実施した。

（エ）4 号館一時介護室エリアの改修により、安心して療養できる環境を整備した。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	409 戸（84 戸）	177 名	316 名	493 名

表 2：地域別契約状況

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
人数	1 名	2 名	53 名	419 名	14 名	1 名	0 名	3 名	493 名
構成比	0.2%	0.4%	10.8%	85.0%	2.8%	0.2%	0%	0.6%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	41 名	62 名	94 名	95 名	97 名	59 名	36 名	8 名	1 名	493 名
構成比	8.3%	12.6%	19.1%	19.3%	19.7%	12.0%	7.3%	1.6%	0.2%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
81.8 歳	79.6 歳	83.1 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男性	17 名	14 名	(13 名)
女性	14 名	21 名	(19 名)
計	31 名	35 名	(32 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	123 名	19 名	12 名	28 名	28 名	16 名	8 名	12 名
期末人数	113 名	17 名	11 名	30 名	14 名	17 名	12 名	12 名
月平均人数	112.5 名	16.5 名	8.7 名	29.8 名	18.6 名	15.8 名	10.9 名	12.2 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	134.1 名

ウェル・エイジング・コミュニティ　宝塚エデンの園

2025 年度は、建替え工事着工前の受水槽などを更新した準備工事の完了と共に、E 棟入居者 43 名の仮住まい先への引越しが完了した。そして、2026 年 3 月には、建替え計画「ステップ１」の E 棟解体工事に着工することができた。準備工事では、入居者への情報発信方法として園内放送と共に SNS を活用し工事内容の説明を行い負担軽減に取り組み工事は安全に完了した。また、仮住まいへの引越しでは、入居者の想いをしっかり受け止め、負担が最小限になるよう、職員と業者が事前準備から情報共有し、大きなトラブルや事故もなく引越しをすることができた。解体される E 棟の有効活用として宝塚市消防局と連携した防災訓練を行った。2026 年建替え計画では、約 1 年を掛け本格的な解体工事が進んでいくこととなる。工事の安全と入居者の不安・心配事の軽減に引き続き取り組んでいく。入居者サービスにおいては、「全員コンシェルジュ」の意識のもと、入居者により園の状況を知ってもらえるよう、写真、図、表現など見やすく分かりやすい園内放送を心掛けた。催しでも、夏祭りではテーマを意識したプログラム内容で入居者に楽しんでもらった。職員の働きがいにおいては、事務所リニューアルの効果で部署間での情報共有・協働が進んだ。経営面では、物価や人件費などの高騰が、依然として施設運営に大きな影響を与えている。2026 年 6 月から管理費改定を 26 年ぶりに行うこととなった。今後も、経営資源の活用状況を日々点検し入居者の協力を得ながら職員が一丸となり厳しい経営環境を乗り越えていく。

１．入居者満足度の向上

（ア）「全員コンシェルジュ」の浸透を図る取組みを実施した。

（イ）見守りシステム等による生活データ活用しサービスの提供を開始した。

（ウ）「食べたくなる」「健康になる」「ワクワクする」食事の提供を目指し、特別食や健康食メニュー・出来立て提供（実演調理）を毎月実施した。

（エ）入居者家族との連絡ソフト（HitomeQ コネクト）を活用し情報発信を強化した。

（オ）建替え計画に伴う不安事等軽減の取組として準備工事の見える化（エデン放送）を実施した。

２．職員満足度の向上

（ア）成長実感を高めるための越境学習（課を超えての研修）を開始した。

（イ）事務所レイアウト変更による、職場・職員間の連携強化につながった。

（ウ）プリセプターシップ（新人教育制度）の再構築、インターンシップ（就業体験）導入に伴い園全体の人材定着・確保への取組みを行った。

（エ）職員の再受診勧奨に関してはスケジュール管理を行い、健康経営に取組んだ。

（オ）AI（人工知能）、ICT（情報通信技術）の活用による業務効率化の取組として AI 議事録、動画マニュアル作成ソフト（tebiki）を導入した。

３．安定した経営基盤の確立

（ア）各部署で積極的に権限移譲を行い、職員の経験値向上に取り組んだ。

（イ）宝塚地区の事業所へ理学療法士を派遣する事により診療運営に寄与できた。

（ウ）建替え完成までのトータルプロモーション（広告・イベント等）の検討を開始した。

４．安全・安心な暮らしの提供

（ア）BCP に基づき実践的な防災訓練や職員の安否確認訓練を定期的に実施した。

（イ）行方不明者捜索の対応力を高めるため園外捜索訓練を実施した。

（ウ）防災訓練時に入居者への防災情報の提供や売店での防災備品の販売を行った。

（エ）虐待、身体拘束等研修の全職員への確実な実施とリスク、苦情の職員間での共有及び対策立案の迅速化を図った。

５．SDGs としての活動を念頭においた、地域における公益的な取組

（ア）文化教養講座やコンサート、婦人科検診、介護予防講座、夏祭りを開催した。

（イ）E 棟解体イベントとして宝塚市の消防局と連携し実践に即した訓練を行った。

（ウ）図書室のリニューアルに伴い入居者所有本の寄贈を募った。

【数値実績】

表 1：契約状況　（2025 年度期末）

	戸数（複数入居）	男性	女性	一般居室	介護居室	計
人数	302 戸（41 戸）	77 名	266 名	256 戸/296 名	46 戸/47 名	343 名

表 2：地域別契約状況

	近畿	関東	中部	中国	四国	北海道	九州	東北	計
人数	298 名	20 名	14 名	5 名	5 名	1 名	0 名	0 名	343 名
構成比	86.9%	5.8%	4.0%	1.5%	1.5%	0.3%	0%	0%	100.0%

表 3：年齢構成　（単位：名・%）

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	37 名	77 名	83 名	56 名	48 名	27 名	10 名	5 名	0 名	343 名
構成比	10.8%	22.4%	24.2%	16.3%	14%	7.9%	2.9%	1.5%	0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
84.8 歳	82.5 歳	85.5 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男性	2 名	9 名	（8 名）
女性	2 名	15 名	（14 名）
計	4 名	24 名	（22 名）

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	101.8 名	14.8 名	6.0 名	26.7 名	23.0 名	19.9 名	11.4 名	0.0 名
期末人数	110.0 名	14.0 名	8.0 名	25.9 名	22.4 名	21.4 名	14.3 名	4.0 名
月平均人数	108.0 名	14.7 名	7.3 名	29.1 名	21.7 名	20.5 名	11.9 名	2.8 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	134.8 名

介護付有料老人ホーム　松山エデンの園

2025 年度、松山エデンの園は、開園 45 周年を迎え開園記念行事を行った。募集活動の継続により、目標契約戸数は達成できたが、退去者が多く稼働率は目標に対し未達成となった。また2件の契約時期が年度末となり管理費収入が少なかったこと、人件費の増加により施設会計の収支についても予算未達となった。設備環境面では入居者が快適な生活が送れるよう、3号館と食堂の空調設備の更新や一部外壁補修塗装を行った。サービス面では外部講師による接遇研修を全職員対象に行い接遇面でのサービス向上を行った。またノーリフティングケアの普及を行った。人材の育成では、職員面談を充実させ、離職防止に努めた。また、安心安全な施設環境作りでは入居者も参加した防災訓練の振り返り内容を活かし、松山エデンの園版の防災のしおりの更新と BCP訓練を行いBCP マニュアルの見直しに繋げることができた。

2026　年度は物価高騰や人件費の増加も見込まれるため、入居率の向上を目指し、施設会計の安定をめざす。サービス面では、継続的な接遇力の向上と、服薬支援システムの導入によるリスクの軽減を図り、また職員の定着とノーリフティングケア、標準化を活かして人材育成を推進していく。

１．入居募集と経営の安定化

（ア）新規契約 10 戸 13 名は、目標達成したが、入居率 94.5%であり目標未達成となった。

（イ）入居率目標未達による管理費収入減と人件費の増加により、施設会計の収支は予算未達となった。

２．人材の採用・育成・定着の強化

（ア）新入職パート職員の面談を定期的に行い、離職者は 0 名であった。

（イ）施設間交換研修行い、他施設の状況を見学し自施設に生かすことは何かと考え、職員のモチベーション向上へつなげることができた。

（ウ）「ケアを語る会」を認知症ケアに焦点を当て、3 回/年行うことができた。

（エ）役職者全員が、カウンセリングを受けメンタル不全や離職防止に繋げた。

３．よりよいサービスの提供

（ア）ケアサービス課で動画マニュアルを 27 項目作成できた。

（イ）全課にて外部コンサルタントを利用した接遇研修をうけ、継続的に接遇チェックができるように表を作成し、定期的にチェックする仕組みを作った。

（ウ）ノーリフティングケアの研修やリフト購入を行い、動画マニュアルを作成し普及させた。

（エ）認知症予防、閉じこもり予防に向けたデイサービスの場を設けることができた。

（オ）役職者が臨床倫理研修を受け、事例検討に活用できた。

４．安心安全な施設環境作り

（ア）年間計画に沿った防災訓練と BCP 訓練を行い、振り返り内容を入居者向け「防災のしお

り」やBCPマニュアルに活かし改定することができた。

５．地域における公益的な取組

（ア）山田地区、聖愛会と一緒に合同防災訓練を行う事ができた。

（イ）ペットボトルキャップの回収と「古着で障がい者のサポート」として入居者からの提供してもらった古着を提供することができた。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	139戸（20戸）	47名	111名	158名

表２：地域別契約状況

	四国	近畿	関東	東海	九州	中国	計
人数	128名	8名	8名	10名	1名	3名	158名
構成比	81.0%	5.1%	5.1%	6.3%	0.6%	1.9%	100.0%

表３：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	16名	33名	33名	29名	21名	15名	10名	1名	0名	159名
構成比	10.1%	20.9%	20.9%	18.4%	13.3%	9.5%	6.3%	0.6%	0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
83.91歳	82.74歳	84.40歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	3名	6名	（6名）
女	10名	8名	（6名）
計	13名	14名	（12名）

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	66名	19名	5名	16名	5名	10名	5名	6名
期末人数	63名	13名	8名	16名	4名	10名	9名	3名
月平均人数	64.8名	14.8名	6.8名	17.7名	3.3名	10.2名	7.1名	4.9名

表７：職員数

職員数（常勤換算）	56.61名

介護付有料老人ホーム　油壺エデンの園

2025 年度は施設理念に沿った入居者サービスの充実に職員一人一人が主体的に取り組んだ。一方で、経営面では大きな課題が残り、持続可能を改めて考え直す一年であった。サービスの質向上と経営基盤の安定という 2 つのテーマの両立が今後更に重要になることを痛感させられた。

運営面では、サービスの標準化（エデンサービスの質を保つこと）を最優先に取り組んだ一年であった。特に、日々の業務フローを見直す業務改善や、スタッフ間で知識や手順を共有しやすくするための動画マニュアルの導入を進めたことで、入居者サービスの質向上に努めてきた。これらの取り組みにより、標準化を経て業務の平準化や職員の対応力が進み、より安心していただける環境づくりを目指した。食事サービスは、メニューのマンネリ化を防ぐために新しい献立や季節感を取り入れた工夫を重ね、美味しい食事の提供に尽力したが、喫食率の低下という課題が大きく影響し成果を十分に発揮できなかったことは反省すべき点である。今後は、入居者の嗜好や健康状態により寄り添ったメニューや食事を楽しむ環境づくりが必要であると考えている。また、附属診療所長の再交代により、入居者に心配をおかけする結果を重く受け止めている。医療体制の安定は重要であり、円滑な引き継ぎ体制など不安を最小限に抑えられるよう努めていく。

2026 年度は、開園 40 周年という大きな節目の年を迎える。これまで支えてくださった方への感謝を胸に、次の 10 年、その先の未来へと確かな歩みを進めていく一年にしたい。

1　安心、安全を基盤としたサービスの質向上

（ア）住み替え時、情報連携等により、個々に合った生活環境が継続できるように取り組んだ。

（イ）定期的な歩行機能測定により、評価に応じた個別の運動メニューを提供した。

（ウ）見守りシステムの活用により、睡眠の質や転倒予防を含む生活全般の質向上につなげた。

（エ）図書ボランティアを募り、図書室の運用見直しと活性化に向けた取り組みとなった。

（オ）各種イベント食の充実に取り組んだが、アピール面では課題が残った。

（カ）運行時間の見直しにより、安全面、及び園バス運行を安定させた。

（キ）発生時の適切な初期対応により、感染拡大には至らなかった。

（ク）40 周年プロジェクトを立ち上げ起動させた。

2　人材の確保と定着

（ア）業務改善に取り組み、有給取得率が増加し、超過勤務期間を減少できた。

（イ）各課が職員間のコミュニケーションを意識し連携を図った。

（ウ）動画マニュアルソフト導入により、業務の平準化、及び効率化につなげた。

（エ）資格取得支援により、3 名が介護福祉士資格を合格した。

（オ）採用ホームページを毎月アップさせた。

3　安定した施設運営・経営

（ア）新入居 13 件 15 名、退去 35 件 42 名、入居率 89.2%で予算未達であった。

（イ）4 月から食費を改定したが、喫食率の低下により収益を伸ばすことができなかった。

（ウ）8 号館屋上防水改修、貯湯槽更新、火災受信盤更新工事等の計画修繕を安全に実施した。

（エ）介護サービスへの適切な移行を実施したが、介護報酬収益は未達であった。

（オ）消耗品、通信機器の契約見直し等で経費削減を行った。

（カ）入院・外来ともに収益は予算未達であり、診療所のあり方は今後の課題である。

4 SDGs（持続可能な開発目標）を意識した環境・省エネへの取組み強化と地域における公益的な取り組み

（ア）適正な量の見直しにより、食材の廃棄量が減少した。

（イ）市内学生の学びの場の提供、介護フェスタで市内就労支援事業所の参加を促した。

（ウ）三浦市主催の健康講座に参加した。

5 災害時の対策、防災教育の徹底

（ア）自然災害発生時の BCP（事業継続計画）机上訓練実施とマニュアルの見直しを行った。

（イ）防災訓練の実施と三浦市担当者による災害対策に関する説明会を開催した。

（ウ）三浦市との地域防災協定を継続しているが、見直しまでに至らなかった。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	378 戸（79 戸）	164 名	293 名	457 名

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	信越	四国	北海道	中国	東北	外国	計
人数	410 名	13 名	18 名	1 名	8 名	0 名	1 名	2 名	3 名	1 名	457 名
構成比	89.7%	2.9%	3.9%	0.2%	1.8%	0.0%	0.2%	0.4%	0.7%	0.2%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	35 名	78 名	97 名	76 名	84 名	50 名	33 名	3 名	1 名	457 名
構成比	7.7%	17.1%	21.2%	16.6%	18.4%	10.9%	7.2%	0.7%	0.2%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
82.8 歳	81.1 歳	83.7 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	9 名	14 名	（12 名）
女	6 名	28 名	（24 名）
計	15 名	42 名	（36 名）

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	127 名	23 名	20 名	34 名	13 名	16 名	16 名	5 名
期末人数	137 名	23 名	21 名	32 名	18 名	22 名	15 名	6 名
月平均人数	132.1 名	24.1 名	20.1 名	30.3 名	16.1 名	18.0 名	16.6 名	6.9 名

表７：職員数

職員数（常勤換算）	138.4 名

介護付有料老人ホーム　浦安エデンの園

2025 年度は、イベントの全面再開と新たな介護予防プログラムとして、これまでの集団体操の見直しに加え、リハビリ専門職による体操を定着することができた。自立の方から介護認定者まで幅広く参加できる内容となっており、年間延べ 1,559 名の入居者が参加された。また、音楽プログラム（情緒・記憶・運動・社会性）「D-Room 音楽会」を単なる楽しみの場ではなく複数の機能を意識したプログラムに発展させ、年間延べ 453 名が参加された。ノーリフティングケア（持ち上げない介護）の推進では、職員の研修に加え職場環境評価の実施、不良姿勢の評価、千葉県のロボット補助金を活用し床走行リフトやスタンディングリフトの導入ができた。その結果、家族会を通して事例発表や体験会も実施することができた。リニューアル後のレストラン活用については、浴衣デイや秋祭り、クリスマス音楽会などイベントの開催、入居者募集活動として「ふらっとサロン」の開催や見学者への開放など、新たなコミュニケーション場として活用することができた。自然災害や感染予防対策については、実践的な訓練を通して　BCP（業務継続計画）を見直し、入居者災害応援隊との合同ミーティングも 2 回実施することができた。経営面では、管理費改定に伴う収益増や適正な予算執行等により収益予算は達成することができた。今後も経費削減を強化し経営改善に努めていく。施設理念である『ご入居者を真ん中においた生活の創造』を念頭に置き、一人ひとりに寄り添ったサービスの提供を目指す。

１．良質なサービスの追求

（ア）①レベルに合わせた体操プログラムの提供ができた。

（イ）①状態に合わせた入浴サービスの提供体制の構築ができた。

②一人ひとりに合わせたポジショニングや福祉用具の提案ができた。

（ウ）①見守りシステムを利用し睡眠状況に合わせた支援の実施とアラートの適正化。

②床走行式リフトやスタンディングリフトでの移乗・移動介助の徹底。

（エ）①入居者参加型の音楽プログラムの実施ができた。

②外部リハビリテーション専門職による集団体操プログラムの追加ができた。

２．働きがいのある職場風土の醸成

（ア）①基礎研修および各課内会議での研修の他、全職員との園長面談を実施した。

（イ）①コンプライアンス研修に加え、臨床倫理、インシビリティ研修の実施ができた。

（ウ）①研修の場を積極的に準備し、資格取得やスキル向上のための支援ができた。

（エ）①平均有給取得日数、12.2 日、平均超過勤務時間、4.4 時間。

（オ）①PepUp 登録を積極的に推奨し、職員向け転倒予防体操の提案をした。

②安全衛生委員会で職場環境アンケートを実施した。

３．安心・安全な施設づくり

（ア）①机上訓練に加え、避難所開設訓練など実践型訓練を実施できた。

②入居者災害応援隊の必要性と協力を依頼し、メンバーを増やすことができた。

（イ）①不審者対応訓練や行方不明訓練、初めての園バス嘔吐訓練を実施できた。

（ウ）①管理者による定期的な加算取得要件確認と適正な書類整備を実施した。

（エ）①外壁打診検査を実施し 2026 年度以降の外壁工事に向け調査ができた。

４．安定した施設経営の実現

（ア）①新規目標契約件数、18 件 22 名に対し 12 件 14 名と未達であったが、入居率は 96.0%を維持できた。

（イ）①管理費改定の実施と入居者の変化をとらえ、介護認定（区分変更）申請の迅速な対応により介護報酬増収につなげることができた。

（ウ）①衛生材料、消耗品の見直しを常に行い、ペーパーレスの取組みを実施した。
②新たに取り入れる物品等は選定委員会を設け決定する仕組みを構築した。

（エ）①2025 年度離職率 2%、障害者やエルダー世代の雇用を推進できた。

５．地域における公益的な取組み

（ア）①近隣大学（看護師・歯科衛生士・薬剤師）からの学生実習を積極的に受け入れた。
②市内老人クラブ連合会主催市民公開講座講師派遣に協力ができた。

（イ）①子ども食堂への災害備蓄食品の寄付やフードドライブへの参加ができた。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	210 戸（38 戸）	86 名	162 名	248 名

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	232 名	7 名	2 名	0 名	0 名	6 名	1 名	248 名
構成比	93.6%	2.8%	0.8%	0.0%	0.0%	2.4%	0.4%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	24 名	30 名	62 名	52 名	53 名	22 名	2 名	3 名	0 名	248 名
構成比	9.6%	12.1%	25.0%	21.0%	21.4%	8.9%	0.8%	1.2%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
83.8 歳	81.7 歳	84.9 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	10 名	7 名	（7 名）
女	14 名	13 名	（13 名）
計	24 名	20 名	（20 名）

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	71 名	15 名	14 名	16 名	7 名	6 名	5 名	8 名
期末人数	71 名	8 名	18 名	21 名	10 名	3 名	7 名	4 名
月平均人数	72.2 名	11.2 名	15.3 名	17.0 名	10.0 名	5.1 名	6.8 名	6.8 名

表７：職員数

職員数（常勤換算）	68.3 名

介護付き有料老人ホーム　横浜エデンの園

2025 年度は、介護リフトをはじめとする新たな介護テクノロジーの導入を推進し、ケアの安全性と質の向上に取り組んだ。また、サービスの標準化・適正化に継続的に取り組み、業務整理を進めたことで、人材確保が困難な状況下においても安定した運営を継続することができた。

人材育成では、専門職としてのやりがいに着目し、各職員が役割に応じた目標を達成できるよう育成に取り組むとともに、次世代リーダーの育成体制を強化した。

入居者募集では、新規契約者数は目標を達成したが、平均入居率は 81%にとどまり、目標未達となった。一方で、年間を通して短期利用特定施設入居者生活介護の利用があり、施設での介護サービスを必要とする地域住民に、横浜エデンの園の価値を効果的に提供できた。

【事業・運営計画】

1．「自分らしく暮らし続けられる」ことを支えるためのケアの推進

（ア） 機器の活用は継続的に行えているが、得られるデータの活用については今後の課題である

（イ） 聖隷横浜病院医師や専門看護師等とも連携し状態に応じたタイムリーな支援ができた

（ウ） 訪問歯科との連携、口腔体操の一部実施により口腔機能や嚥下機能の維持に努めた

（エ） 移動用リフトを導入し、介助時の安全性の向上と職員の身体的負担軽減に繋げた

（オ） 安全だけを優先するのではなく、生活とのバランスを考慮したリスク管理に努めた

2．働きがいを重視した人材の採用・育成体制の構築

（ア） 専門職としてのやりがいに着目し、各職員の役割に応じた目標が達成できるよう育成に取り組んだ。個々の成長段階に応じた支援には課題が残った

（イ） 介護職スポットワーク受け入れのための体制を作り、柔軟に人材確保できる環境を整えた

（ウ） 業務整理、職員の意識向上のための継続的な働きかけにより、有給取得率向上、超過勤務の削減に繋げることができた

（エ） ケアサービス課においてサブリーダーを配置し、次世代リーダーの育成体制を強化した

（オ） 聖隷横浜病院からの研修受け入れを通じて、医療と生活の場における看護の相互の専門性を高めた

3．経営基盤の安定と永続性の確保を図る

（ア） 平均入居率 95%を目標としていたが 81%と未達であった。新規契約数は目標を達成した

（イ） 募集セミナーでの専門職による講義を通して、園の強みをアピールすることができた

（ウ） 感染症・自然災害に関する BCP に基づいた実践的な訓練を行うことができた

（エ） 算定可能な加算を適切に算定し、生産性向上推進体制加算Ⅰの算定にも繋げることができた

4．サービスの創造と業務改善の推進

（ア） 介護テクノロジー活用推進のための人材育成を目的とした研修を活用できた

（イ） 移動用リフト、排泄予測支援機器を導入した。活用の幅を拡大していくことが課題である
（ウ） 再加熱カート導入により、業務標準化・効率化のための運用体制を整備した
（エ） 請求領収書の電子交付ツールの導入、入居契約の電子化を推進できた
（オ） タイムスタディを基に、ケア方法の検討や介護区分とサービス提供量の均衡が取れるよう継続的に検討をおこなった

５．地域における公益的な取り組み
（ア） マニュアルを更新しながら改めて防災協定を見直していく
（イ） 聖隷横浜病院と協同で地域イベントにブースを出展し、地域住民の健康・介護に関する相談窓口を担った。また園主催のセミナーでは病院・施設の役割をアピールできた
（ウ） 横浜市消防音楽隊による演奏会をメインイベントとした記念行事を開催できた

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	41 戸（0 戸）	10 名	31 名	41 名

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	39 名	1 名	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	41 名
構成比	95%	2.4%	0%	0%	0%	0%	2.4%	99.8%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	9 名	11 名	16 名	3 名	2 名	0 名	0 名	0 名	0 名	41 名
構成比	22%	27%	39%	7%	5%	0%	0%	0%	0%	100%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
90.0 歳	89.1 歳	90.3 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	9 名	8 名	(7 名)
女	12 名	12 名	(11 名)
計	21 名	20 名	(18 名)

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	40 名	1 名	4 名	4 名	6 名	9 名	8 名	8 名
期末人数	41 名	1 名	5 名	6 名	7 名	9 名	8 名	5 名
月平均人数	41.4 名	1.5 名	4 名	4.8 名	7.3 名	9.4 名	7.3 名	7.1 名

表７：職員数

職員数（常勤換算）	41.5 名

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

開設 15 年目を迎え、藤沢エデンの園一番館入居者の後期高齢者比率は上昇傾向にあり、聖隷藤沢ウェルフェアタウン版地域包括ケアシステム（住宅型×介護付×在宅サービス）の充実がより一層求められている。2025 年度は、生活サービス課が軸となり、定例会議に捉われないタイムリーな部署間連携を強化。早い段階でのケアマネジャー介入により、在宅支援のスペシャリストが豊富な情報をもとに迅速に連携し、ご入居者の“人生の最期を自分らしく”を叶えるための点と点が線になる体制が整った。

安心・安全の施設づくりでは、各種研修や BCP 訓練等の継続的な取り組みのほか、動画マニュアル作成ツールの導入による、業務の標準化を軸に推進。ご入居者・ご利用者だけでなく、職員にとっても安心できる職場環境の整備に取り組んだ。また、施設内研修の実施方法を見直し、職員育成を強化したことも結果として離職防止への一定の効果があったと考えられる。

１．より良いサービスの追求

一番館では、ケアマネジャーが介護保険申請時から関わるようにタイミングを早めたことで、よりスムーズな介護保険サービスの利用開始へと繋がり、訪問看護・訪問介護の利用件数が介護予防を中心に増加した。また、藤沢愛光園・藤沢エデンの園二番館においては、見守りシステムが本格稼働。データログの活用により、入居者個々の生活に合わせたサービスの提供が可能となり、睡眠の質向上といった定量的な評価も可能となった。

２．安心・安全の施設づくり

動画マニュアル作成ツールの導入により、OJT だけでなくセルフチェックを行える環境が整い、業務の標準化が促進された。また、身体拘束・虐待防止では、グループワーク形式での研修開催により、不適切ケアに対する意識の向上へと繋がった。

災害対策においては、外部講師を招き BCP 訓練を実施。マニュアルの見直しを行ったほか、災害備品（ダンボールベッド等）の追加整備を実施した。

３．安定した施設運営と永続性の確保

入居者数･利用者数の稼働を上げるため､地域の医療機関との関係性強化に取り組んだほか、新メニューを取り入れると共にその情報発信にも注力し、喫食率の向上を図った。

物価高騰対策では、仕入れ業者等の見直しのほか、電力デマンドコントローラーの導入検討を進めた。(2026 年度導入予定)

４．人材確保と職員育成の強化

正職員の離職者数が前年と比較し半減した。見守りシステムや動画マニュアルの導入による負担軽減策が、離職防止へ繋がったと考えられる。

職員育成においては、施設内研修の標準化（実施時間、実施報告様式、アンケート項目等）を図り、効果的な研修実施へと繋げることができた。

５．地域社会における公益的な取り組み

2024 年度に引き続き、フードバンクへの協力、市民まつりへの出店や藤沢市からの受託事業となる家族介護者教室の開催のほか、地域の民生委員の見学受入等を実施した。

【藤沢エデンの園一番館】

2025 年度の新規契約戸数の実績 11 件、年払いプランから終身プランへの切り替えが予算より 2 件増え 6 件となり、契約戸数、契約金額ともに予算達成できた。

また、2025 年度はウェルフェアタウン版地域包括ケアシステムが機能したことで一番館での生活を継続できる環境となり、二番館への住み替え 6 件と例年に比べ住み替えが少なかった。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	204（48 戸）	89 名	167 名	256 名
職員数(常勤換算)				50.5 名

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	中部	九州	中国	東北	四国	計
人数	224 名	8 名	16 名	0 名	3 名	2 名	3 名	256 名
構成比	87.5%	3.1%	6.3%	0.0%	1.2%	0.8%	1.2%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	5 名	41 名	53 名	71 名	53 名	24 名	9 名	0 名	0 名	256 名
構成比	2.0%	16.0%	20.7%	27.7%	20.7%	9.4%	3.5%	0.0%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
82.5 歳	82.8 歳	82.2 歳

表５：入・退去状況　*退去数には二番館への住み替え数を含む

	入居	退去	（死亡退去）
男	7 名	1 名	(1) 名
女	8 名	10 名	(4) 名
計	15 名	11 名	(5) 名

【藤沢エデンの園二番館】

2025 年度は、退去者 10 名に対し、一番館からの住み替え者が 6 名となり、入居率は 80%で推移した。運営面では、見守りシステムや移動用リフトなどの介護サポート機器を効果的に活用することで、入居者の生活の質の向上と職員の業務負担軽減の両立に取り組んだ。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	44 戸（0 戸）	6 名	34 名	40 名
職員数(常勤換算)				40.4 名

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	中部	九州	中国	東北	計
人数	33 名	1 名	6 名	0 名	0 名	0 名	40 名
構成比	82.5%	2.5%	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	11 名	14 名	8 名	5 名	2 名	0 名	0 名	0 名	0 名	44 名
構成比	27.5%	35.0%	20.0%	12.5%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
89.4 歳	88.3 歳	90.5 歳

表５：入・退去状況　*入居数には一番館からの住替数を含む

	入居	退去	(死亡退去)
男	0 名	3 名	(3) 名
女	6 名	7 名	(7) 名
計	6 名	10 名	(10) 名

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	43 名	0 名	1 名	5 名	12 名	15 名	7 名	3 名
期末人数	39 名	0 名	0 名	3 名	17 名	10 名	7 名	2 名
月平均人数	41.1 名	0 名	0 名	3.6 名	14.3 名	12.4 名	8.3 名	2.5 名

【藤沢愛光園】

2025 年度は、地域の病院やケアマネジャーとの連携強化による待機者の確保と入所までのプロセスの見直しによるスムーズな利用開始への体制を整え、短期入所は 90.4%と高稼働であった。一方で特養入所は 37 名の退所があり、稼働率は 94.7%と伸び悩んだ。新たな加算取得体制の整備と食費改定の準備を進めた。

	特養入所		短期入所		合計
	既存	ユニット	既存	ユニット	
利 用 者 定 員	—	100 名	—	20 名	—
利用者延べ数	—	34,556 名	—	6,597 名	—
稼 動 延 日 数	365 日		365 日		—
一日平均利用者数	—	94.7 名	—	18.1 名	—
稼　働　率	—	94.7%	—	90.4%	—
単価（1 人 1 日当り）	15,974 円		15,706 円		—
職員数(常勤換算)	61.4 名		12.6 名		74.0 名

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

2025 年度は、市内事業所増加に伴い、新規利用者、訪問件数は伸び悩んだが、ケアプランデータ連携および他地域連携システムを導入し、地域との連携体制の構築に取り組んだ。また、ウェルフェアタウン版地域包括ケアの中では、在宅医との連携をはじめ医療面での支援を担った。

	月間利用者数	月間訪問数	年間訪問数	単　価	職員数(常勤換算)
実績	118.5 名	651.8 件	7,821 件	8,728 円	8.6 名

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

2025 年度は月平均 2.8 件の新規利用者を受け入れ、月訪問件数は平均 890 件を達成できた。
スケジュールの管理体制を見直したことで、新規利用者の受け入れを継続的に行いながら、スムーズに訪問ができるよう取り組むことができた。

	介護給付			予防・総合事業		自立支援		単　価			職員数(常勤換算)
	月間利用者数	月間訪問数	年間訪問数	月間訪問数	年間訪問数	月間訪問数	年間訪問数	介護給付(回)	予防総合事業(人)	自立支援(回)	
実績	37.9 名	422.8 件	5,073 件	110.3 件	1,323 件	296 件	3,552 件	4,429 円	22,557 円	4,203 円	4.9 名

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

2025 年度は一番館入居者がスムーズにサービスを開始できるよう、介護保険申請検討段階より関わり、詳細な説明を行なえる体制を作った。また、職員１名を採用できたことにより新規利用者を断らずに受け入れられる体制が整ったことで安定した利用者数の確保ができた。

	年間請求件数		単　価		訪問調査		職員数
	介護	予防・総合事業	介護	予防・総合事業	件数	単価	(常勤換算)
実績	1,704 件	412 件	17,330 円	4,203 円	160 件	4,523 円	4.0 名

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

2025 年度は認知症の利用者増に伴い、個々の状態や特性に応じた支援を強化し、集団および個別のレクリエーションについても見直した。また、A-QOA（アコア）を用いた活動の質評価を行うことで、より個々の状態に合わせた支援を実施できる体制を整えた。

	介護給付			予防・総合事業		単　価		職員数(常勤換算)
	一日利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	予防総合事業(人)	
一日	25.5 件	652 件	7,819 件	10 件	119 件	11,686 円	43,623 円	9.9 名
半日	3.8 件	97 件	1,167 件			6,743 円		

ウェル・エイジング・プラザ奈良ニッセイエデンの園

2025 年度は有料老人ホームにおいて 24.5%増の大幅な管理費改定計画を提示した。改定幅については内部でも議論があったが、持続可能な事業経営をふまえた戦略的な施策として必要不可欠な水準であるとの認識である。臨時の連絡会等の開催により、入居者には一定のご理解をいただき 2026 年 4 月から実施する。入居率においては 2024 年度の例年比 2 倍の逝去数につづき例年比 40%増の逝去数となり、入居率は 94%前後を推移している。

管理費の値上げ継続の懸念や入居者間の不安を払拭するための収支計画においては入居率 96%が前提となっているため、引き続き募集効果に寄与する「知覚できる独自性」によるブランディング強化の下地作りに取り組んだ。

特に「フィジオスタジオ ステップ」では診療所と連携した特定高齢者のスクリーニング体制が整備され、自立～看取りまで介護のゆらぎの期間にシームレスなサービス提供が可能になり、「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」の具現化につながっている。

また、介護居室増室工事に際し、見守りカメラやリフト導入に向けた約 8,000 万円の補助金活用を奈良県と調整し交付申請計画を進めている。

診療所では緩和ケアおよび看取りの体制強化のため、他施設見学、研修受講によるホスピスケアの概念共有に着手した。経営面では入居率の低下が病床稼働率にも波及したが、人件費等の圧縮により予算比でプラスの収支を維持できた。

ベテルホームでは事業の在り方と適切な稼働率の見極めの年と位置付けていたが、通所は予算未達であるものの年度末にかけて改善の兆しをみせ、入所は予算を上回る結果となり、現状の稼働と質の水準を維持できた。

在宅部門では特に訪問介護事業において厳しい収支が継続し大幅な赤字となったが、ケアプランセンターを含めた職場長、職員体制を変更し、次年度にむけて具体的な収支改善の目途をたてることができた。訪問看護においては、離職による欠員を稼働率の上昇で補い、最終損益は予算を達成することができた。また、特定行為のサービス提供を開始し、次年度にむけて独自の優位性として発揮されることが期待される。

環境整備においては、特定外来生物による樹木食害が地域全体に広がり、園内においても樹木医による倒木、枯死リスクの精密診断および専用薬剤による予防措置を行った。

委託業者等からは次年度契約にむけて値上げの打診と厳しい交渉が相次ぎ、今後も全方位で値上がりが進むことが予測される。公定価格部分の上昇期待に依存しない、必要な価格改定や過剰サービスなどの運用見直しによる収益改善を併行して進めている。

職員教育においては、自職場の強みを職員自身が認識する機会創出を念頭に、職場間の交換研修の推進を継続した。また園内実践研究発表会におけるフェイル・フォワード（未来ある失敗）表彰では事例の公表により「失敗を受容する風土」の概念定着を奨め、心理的安全性の醸成から変化に強い組織づくりにつなぐ取り組みに努めた。

【事業・運営計画】

１．聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

（ア）パーソン・センタード・ケアの実践

（イ）エデン包括ケアシステム「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」推進

（ウ）積極的介護予防の推進と園内ゼロ次予防体制の整備

（エ）終末期の幸福度を支える緩和ケア、看取り体制の強化

（オ）食べる楽しみの追求と食堂の満足度向上

（カ）SDGs の活動を念頭に置いた取組み

２．安定した経営基盤の確立

（ア）複合施設だからこそできる、入居者・利用者・患者・地域ニーズへの対応

（イ）諸物価・人件費の継続的な高騰をふまえた具体的対策と事業運営の見直し

（ウ）防災・防犯対策および自然災害における BCP（事業継続計画）に基づく実践対応能力の強化

（エ）選ばれる施設であるための計画的な設備更新と環境整備

（オ）コア業務継承をふまえた計画的な人材採用と教育（育成期間・ローテーション）

３．人財の育成・活用・定着の強化

（ア）採用力と定着率向上への取組み（留学生奨学金適用、定着支援評価・企画）

（イ）多様性を受容する職場風土づくりの推進（ジェンダーレス・スポットワーク）

（ウ）職場の魅力・強みを語ることが出来る職員の育成

（エ）交換研修の実施職場 100％と職場への成果還元、専門研修受講、資格の取得支援

（オ）職員の心理的安全性への取り組み

４．サービスの質・安全・効率の向上

（ア）不適切ケアの防止のための基本的接遇（挨拶・敬語）の徹底

（イ）利用者の尊厳を守るための身体拘束、虐待防止への取組みの継続

（ウ）感染症発生時 BCP（事業継続計画）に基づく実践力強化による集団感染防止

（エ）Pm-SHELL 活用によるリスク分析力向上と効果測定による再発事故防止

（オ）個別ケア時間創出につなげる ICT 導入（個別ケア時間＝評価指標）

５．地域における公益的な取組み

（ア）WAC 施設としての地域支援事業への継続的な参画（シェアサイクル・こども 110 番の家）

（イ）地域との災害時の協力体制強化

（ウ）地域貢献・交流と地域の社会課題解決に向けた活動（児童見守り・小 1 の壁・認知症講座）

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

１．聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

（ア）人生会議に対する理解の促進と、パーソン・センタード・ケアの実践

（イ）エデン包括ケアシステム「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」推進

（ウ）潜在的特定高齢者の抽出運用の確立と積極的介護予防の展開による ADL 維持・向上

（エ）終末期の幸福度を支える緩和ケア、看取りの強化

（オ）認知症になっても安心して生活できるエデンづくり

（カ）食事をトータルで楽しむ企画・運営と満足度向上と喫食率 0.5%UP（6 食/日、2 人/各食）

（キ）SDGs を念頭においた取り組み

①人生会議は目標 17 件に対し 17 件(居サ:15 件､介護居室 2 件)実施することができた。　生活習慣や終末期の意向を身元や各部署と共有し、その人らしさに寄り添うケアに努めた。

②自室での逝去・早期退去・介護のゆらぎの見落としを防ぐ「誰一人取り残さない」ための取り組みは､「接点 0」が 16 件と水準を維持することができた。(2023 年 61 件 2024 年 17 件)。

③クリニックとの連携より健康診査でのサルコペニアスクリーニングと､健幸チェックでの体組成計測定を新たに開始し、客観的指標を活用した面談につなげた。

④大食堂では 10 月に 2 期連続となる 11%（294 円/日）の値上げを実施。減塩メニューなど入居者の意向を反映した施策を実施し、値上げ後も喫食率を維持することができた。

⑤居室サービス課・介護居室サービス課による合同ケアマネジャー会議を開始。詳細な入居者状況が共有され､一時利用や住み替えがスムーズになり､トータルサポート体制が充実した。

⑥1 月に第 4 墓苑が完成し、永続的なご納骨の受け入れ体制が整備された

２．安定した経営基盤の確立

（ア）諸物価・人件費の継続的な高騰をふまえた具体的対策と事業運営の見直し

（イ）適切な住み替えによる安心・安全なサービスの提供

（ウ）実質入居率 100%を目指した入居募集活動への各職場間の横断的な取り組みの強化

（エ）防災・防犯対策および自然災害における BCP(事業継続計画)に基づく職員の実践力向上

（オ）“住んでみたい”と思える空間作りと修繕・設備整備

①約 30 年ぶりの管理費改定案（24.5%増）を提示し説明をかさね、2026 年度から実施予定。

②介護居室への住み替え 12 名（昨年度 10 名)、介護保険新規契約 25 名（目標 20 名)。区分変更を適切にすすめ 19 名実施した。(昨年度 0 名)

③非常時の体制、運用確認のため、BCP 机上訓練をシミュレーション形式で実施した。

④園内樹木の倒木リスク測定、特定外来生物による被害対策を検討、実施した。

３．人財の育成・活用・定着の強化

（ア）多様な働き方に対応した採用・定着向上への取り組み

（イ）障がい者・外国人など多様性を受容する職場風土づくり

（ウ）職場の魅力・強みを語ることが出来る職員の育成

（エ）交換研修等の 100%実施と職場への成果還元

（オ）職員の心理的安全性への取り組み

①外国籍職員交流会を開催。交流を深め悩みの共有や不安解消など支援環境の整備に努めた。

②VR 認知症体験会に 2 名が参加し、報告会を開き体験に基づく学びを職場で共有した。

③交換研修について有料部門から各職場へ 6 名実施。職場間の相互理解と職員が自職場の強みを認識する機会創出を推進した。

④園内実践研究発表会におけるフェイル・フォワード（未来ある失敗）表彰は創設 2 年目にあたり、取り組み内容を公表し失敗の受容と心理的安全性の風土醸成に努めた。

４．サービスの質・安全・効率の向上

（ア）不適切ケアの防止のための基本的接遇（挨拶・敬語）の徹底

（イ）身体拘束、虐待防止への取り組み

（ウ）感染症発生時 BCP（事業継続計画）に基づく実践力強化による集団感染防止

（エ）リスク分析能力向上と対策評価の徹底による再発事故防止

（オ）個別ケア時間創出につなげる ICT 導入の推進（個別ケア時間＝評価指標）

①接遇向上の取組みとして e-ラーニング勉強会と LINE ワークスによる自己評価を実施した。

②動画マニュアルサービス tebiki による虐待研修素材を作成し、全職場で研修を実施した。

③介護居室にて BCP（感染症）訓練を実施した。開催後の感染発生時では職員感染者は無く、フロア間の拡大は無く早期終息に至った。

④入居者むけ交通安全講習会を実施。免許取得者に参加勧奨し 51 名の参加があった。

⑤浴室天井走行リフト、移動用リフト、ポジショニングクッションを導入し、ノーリフティングケアを推進した

５．地域における公益的な取り組み

（ア）WAC 施設としての地域支援事業への継続的な参画（シェアサイクル・こども 110 番の家）

（イ）地域との災害時の協力体制強化

（ウ）地域貢献・交流と地域の社会課題解決に向けた活動（児童見守り・小 1 の壁・認知症講座）

①世代間交流として延べ 52 名の園児が来園され、入居者作成によるプレゼントを贈呈した。

②地域の小学校に訪問し昔の遊びで交流を図ることができた。（入居者 6 名、職員 4 名）

③町の後援のもと、日本生命 緑の財団・エデン大食堂夏休み応援企画として、時計作りと昼食の提供（実費）を実施。地域の社会課題解決にも寄与した。（小学生 18 名、入居者 5 名）

■入居者募集活動状況

新規契約戸数は 31 戸で、（2024 年対比+13 戸）その内、11 戸が 2 人入居であった。また、退去が 34 名（一般 18 名、介護居室 16 名）、介護居室への住替えが 11 戸（同+1 戸）あった。その結果、年度末の入居状況は一般居室 350 戸（同+1 戸）、介護居室 38 戸（同-11 戸）となり、入居率は一般居室 96.7%、介護居室 76.0%、全体で 94.2%であった。

■介護保険状況

介護保険認定者は 2026 年 3 月 31 日現在で要支援 1：25 名（含介護居室 0 名）、要支援 2：23 名（同 2 名）、要介護 1：25 名（同 3 名）、要介護 2：19 名（同 6 名）、要介護 3：14 名（同 8 名）、要介護 4：11 名（同 10 名）、要介護 5：11 名（同 9 名）、合計：128 名（同 38 名）となった。

【数値実績】

■表 1:契約状況　(3 月末現在)

	居室数	契約数（内複数入居）	入居率
一般居室	362 戸	350（121）戸	96.7%
介護居室	50 戸	38（　1）戸	76.0%
合　　計	412 戸	388（122）戸	94.2%

(3 月末現在)

男　性	女　性	全　体
174 名	336 名	510 名
34.1%	65.9%	100.0%

■表 2:地域別契約状況　(3 月末現在)

	近畿	関東 甲信	中国	東海	北陸	四国	九州 沖縄	北海道 東北	合計
件　数	342 戸	16 戸	2 戸	19 戸	3 戸	4 戸	2 戸	0 戸	388 戸
構成比	88.1%	4.1%	0.5%	4.9%	0.8%	1.0%	0.5%	0.0%	100.0%

■表 3:年齢構成　(3 月末現在)

	～60	～64	～69	～74	～79	～84	～89	～94	95～	合計
人　数	1 名	2 名	28 名	52 名	116 名	114 名	94 名	66 名	37 名	510 名
構 成比	0.2%	0.4%	5.5%	10.2%	22.7%	22.4%	18.4%	12.9%	7.3%	100.0%

■表 4:平均年齢　(3 月末現在)

男　性	女　性	全　体
81.9 歳	82.5 歳	82.3 歳

■表 5:入退居状況　(3 月末現在)

	入居	退去(内死亡退去)
男性	19 名	11（ 9）名
女性	24 名	23（21）名
合計	43 名	34（30）名

■表 6:介護保険利用者（介護保険請求者数）　(3 月末現在)

	合　計	内訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要 介 護	要 介 護 5
期首人数	116 名	25 名	22 名	14 名	15 名	18 名	14 名	8 名
期末人数	117 名	25 名	20 名	21 名	15 名	13 名	11 名	12 名
月平均人数※	115.8 名	22.4 名	22.1 名	17.9 名	13.3 名	17.1 名	13.3 名	9.7 名

◆高齢者総合福祉センター「ふれあいプラザ」

文化教養講座は哲学講座を 2 回開催。ワークショップ（ポーセラーツ・アーティフィシャルフワラー）を 3 回開催。京都大学 iPS 講座を大ホールで開催した。イベントは著名人を招待し入場料有料化とのバランスを考慮した。外出企画「大阪関西万博 2025」は大好評の内容であった。

◆ニッセイ聖隷クリニック

入院は緩和ケア強化を目的に研修会の積極的な参加、新体制の運用開始に向けて準備を行った。外来は精神科を標榜し、通院精神療法の算定を開始。また、CT の検査数とリハビリ患者数の増加を目標に無料送迎サービスを開始した。健診は入居者の定期健康診査に居室サービス課と連携し、サルコペニアチェックを導入。受診者数増に向けて安価なミニドックコースを導入し、一般では web 予約を開始した。帯状疱疹ワクチンが定期接種となり、大幅な収益増に繋がった。

◆奈良ベテルホーム

2025年度は、地域や利用者ニーズに柔軟に応える体制を強化し、安定した経営の継続に努めた。また、見守りシステムプロジェクトが中心になりシステムの運用精度のさらなる向上に努め、業務負担軽減や骨折事故件数の減少、ケアの質の向上につながることができた。さらに、課題である人材確保・育成・定着については、派遣職員の導入や次世代の人材の育成、やりがいを感じられる職場づくりに注力し、サービスの質・安全性・経営の安定を支える基盤づくりに取り組んだ。

◆ニッセイせいれい在宅介護サービスセンター・ベル西大和店

入院入所による要介護利用者の減少が影響し、月平均50名の計画に対して実績43名、福祉用具貸与も計画43件に対して実績23件と計画を大きく下回る結果となった。収益改善に向け、年度末に在宅・福祉関西ブロック事業所（淡路）と情報連携を行い、サービス提供体制の見直し、および4月に特定事業所加算Ⅰの算定を開始する体制を整備した。また、2026年度に事業所内に開設予定のショールームを活用した収益改善計画の立案を行った。

◆訪問看護ステーション西大和

選ばれる事業所をめざし特定行為の実践を開始し主治医との連携を強化することができた。
今後は手順・リスク管理の標準化を推進し事業所としての継続をめざす。医療ケアのニーズが高まる中、職員が背負う負担は増大しており、精神的・身体的負担を軽減できる取り組みを模索していく必要がある。算定できていない加算の分析、介護保険単位数の分析を継続し訪問単価向上につなげ経営基盤の安定をはかる必要がある。すべてのニーズに応えていくために、職員が安心して働ける環境を維持するためには増員と人財育成が急務である。

◆ニッセイせいれいケアプランセンター西大和

2025年度は周辺地域の地域包括支援センターとの連携に努め、介護予防プランは2024年度月平均75件から90件と増加した。一方、介護プランについては、月平均191件（2024年度182件）を目標に取り組んだが、重介護度の方の入院・入所が例年より増加し、今期実績は180件で予算未達。認定調査に関しては各市町村より計画を上回る依頼があり、2024年度実績107件に対し130件と、目標の108件を上回ることができた。

◆その他公益的な取り組み

（ア）実習生受入(実人数12名、延べ日数130日　）
（イ）ボランティア受入（実人数165名、延べ日数 301日 ）
（ウ）献血（実人数17名）
（エ）小学校への入居者手作りプレゼントの寄贈（手作り巾着 84枚）：エデン
（オ）小学生向け高齢者疑似体験（年1回/73名）：ベテルホーム
（カ）古着回収によるポリオワクチン寄贈（古着 de ワクチン）：ベテルホーム
（キ）使い捨てカイロの回収と利用企業への寄贈（土壌改良剤への転換）：ベテルホーム
（ク）ニッセイ緑の財団、エデンの園大食堂夏休みコラボ企画
　　森林講義・間伐材での時計づくりとカレー（昼食）を提供した。
（ケ）地域むけ相談窓口「ほっと安心高齢者暮らし相談」を開設（開催13回、相談実績2名）
（コ）河合町主催の福祉交流会において世代間交流をテーマに参加した。
　（作品リース作り9名　インボディ（体組成計）体験52名）：地域貢献グループ
（サ）自治体による大和川一斉清掃への参加（職員・家族14名）

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2025年度は、高齢者への凶悪事件が続く中で、入居者から不安を訴えることがあった。そのため防犯セキュリティの強化に取り組み、顔認証システムや職員通用口へのカードキー認証システム導入し防犯セキュリティ強化を図ることができた。

また、人件費や物価高騰に対して8月に食費の値上げを行うとともに、掃除ロボットの試験導入など経費削減の取り組みを行い、安定した事業経営を行うことができた。

サービスの質の向上と人材育成として、サービスカウンターでの生活サービス課、一般居室サービス課、食事サービス課の3課による相談受付体制を構築し、ワンストップ相談窓口として、入居者の多様な相談を受けることができるようになった。

【2025 年度事業の振り返り】

１．有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

（ア）顧客の視点「入居者も職員も尊重され、ここを選んでよかったと思える」

コンサートを地域住民の受け入れロビーで行うことができ、コロナ禍で途絶えていた入居者と地域との交流の機会を再開することができた。

施設内での危険個所の点検を実施し改善することで、入所者の安全な生活環境と職員の安全な労働環境を整備することができた。

（イ）業務プロセスの視点「業務の可視化と情報発信を行う」

外部からの侵入に対してセキュリティシステムの導入と警察官を講師に招き不審者対策訓練を実施することで、施設の防犯セキュリティ体制が向上した。

生活サービスカウンターにおいて 3 課（活サービス課、一般居室サービス課、食事サービス課）協働を開始することで、ワンストップ相談窓口としての運用を開始することができた。

（ウ）学習と成長の視点「計画的な人材確保とプロセスで質を担保する仕組みの導入」

各職場での 5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）と EQC の取り組みを継続しサービスの質の向上に繋げられた。

（エ）財務の視点「持続可能な経営に向けて」

別館外壁工事、光配線敷設工事により老朽化した設備を更新すると共に施設価値向上をはかり、近隣事業所との競争力強化に取り組んだ。

（オ）地域における公益的な取組

社会福祉協議会へのフードバンク、地域清掃活動を継続できた。

２．松戸ニッセイ聖隷クリニック

2025 年度も感染症対策の徹底を図り、千葉西総合病院との連携により感染症対策マニュアルを見直すとともに、研修・訓練や感染症 BCP 訓練を実施し、職員の対応力向上に努めた。外来では上半期に一般外来・リハビリ外来に加え入院者数も伸び悩み課題となったが、下半期には松戸愛光園からの外来受診受け入れ、皮膚科液体窒素治療の開始、帯状疱疹・肺炎球菌ワクチン案内強化などを進め、外来件数とワクチン接種実施数が増加した。入院者数も下半期に増加し、収益改善に寄与した。リハビリ部門では職員体制と事務作業を見直し、効率化により件数増加と収益向上を実現した。松戸市との連携による人工呼吸器患者の災害時受

け入れ計画の整備など、地域医療への貢献も進めた。

３．高齢者総合福祉センター

2025 年度は、地域在住の演奏家や児童合唱団のコンサートを開催したり、地域在住アーティストのワークショップを開催するなど、入居者だけでなく地域住民の生きがいづくりに貢献することができた。また、児童合唱団やこども工作教室など、入居者とこどもが触れ合う世代間交流の場を提供した。

４．ニッセイエデンヘルパーステーション（訪問介護）

2025年度は地域の居宅介護支援事業などに訪問し、連携を深め、積極的に利用者の受入れを行った。その結果、利用者数増加につなげることができた。特に介護保険利用者件数は徐々に増加している。障害福祉サービス事業では訪問回数は増加しているが、契約人数は介護保険への切り替え者もあり減少となった。

また、職員の有料老人ホームへの業務支援は介護居室サービス課、一般居室サービス課と連携し、利用回数が増加している。

他施設連携では、松戸愛光園との在宅部門会議への参加により、情報交換が活発になった。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	345 戸（87 戸）	139 名	293 名	432 名

表２：地域別契約状況

	関東	東海	東北	近畿	信越	北陸	中国	四国	九州	合計
人数	410 名	8 名	1 名	5 名	2 名	2 名	2 名	1 名	1 名	432 名
構成比	95.0%	1.8%	0.2%	1.1%	0.5%	0.5%	0.5%	0.2%	0.2%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	62 名	65 名	82 名	66 名	89 名	39 名	24 名	5 名	0 名	432 名
構成比	14.3%	15.0%	19.0%	15.3%	20.6%	9.0%	5.6%	1.2%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
83.7 歳	81.5 歳	84.8 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	12 名	7 名	（7 名）
女	16 名	14 名	（14 名）
計	28 名	21 名	（21 名）

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	106 名	20 名	14 名	25 名	15 名	12 名	14 名	6 名
期末人数	95 名	22 名	7 名	24 名	16 名	12 名	12 名	2 名
月平均人数	106.6 名	23.4 名	11.4 名	24.1 名	15.8 名	13.5 名	13.1 名	5.3 名

ケア付き高齢者住宅　明日見らいふ南大沢

2025 年度、明日見らいふ南大沢(東京都住宅供給公社からの運営受託事業)は開設して 29 年が経過し、267 世帯、入居者 288 名、平均年齢が 88.1 歳で終えることとなった。2025 年度は特に高齢者の権利擁護に対する職員の意識向上のための研修を実施し、入居者が安心・安全に過ごせる環境づくりに注力した。また、入居者募集については、新規入居契約 25 件 28 名の目標を掲げ、集客力の高い“ふらっと見学会”の継続や入居検討者に施設へ足を運んでいただける機会の増加を目指し、講演会や茶話会等の企画拡充を図り来園者数を伸ばすことができた。結果は、新規入居契約数 20 件 23 名と予算未達となったが、前向きな検討者は増加しており、2026 年度も引き続き高齢者公益事業部、東京都住宅供給公社と連携した募集活動を展開し、入居率改善に尽力していく。2025 年度事業の結果・成果について、以下のとおり報告する。

【　事業・運営計画　】

１．入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供

（ア）誰もがいきいき暮らせるためのプログラムづくり

（イ）生活利便サービスの更なる向上

（ウ）入居前からシームレスな情報活用の仕組みづくり

（エ）時代に合った福祉用具・ICT 機器導入と運用の確立

・床走行式リフトや泡シャワー等を増設し、ケアの質向上と働く職員の負担軽減に努めた

（オ）食事サービス向上の推進

・食事サービスの委託業者変更後、食事に関する苦情が増加していたため、食事業者・東京都住宅供給公社と打合せを重ね食事の改善に注力した

２．人材の育成

（ア）理念・ビジョンを継承する次世代の採用・育成と専門性の追求

（イ）入居者個々に合わせた接遇の実践

・更新した接遇マニュアルを全職員へ周知し接遇力の向上に努めた

（ウ）権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

・権利擁護する意識・知識向上を目的に臨床倫理研修等を開催し、ケアの質向上に努めた

（エ）長く働くことができる環境の整備

３．地域との交流・協力関係づくりと公益的な取り組み

（ア）行事等を通じて地域に開かれた施設づくりの実践

（イ）地域貢献活動への積極的な参画

（ウ）入居者と共同・協働による SDGs の実践

４．防災・防犯対策の確立

（ア）防災時における近隣企業との協力体制の構築

（イ）行方不明・離園防止・不審者対応の更なる強化

・警察官による不審者対応の研修を開催。また、捜索訓練を実施し対策の確認を行った。

（ウ）自然災害・感染に関する BCP（事業継続計画）に基づいた訓練の実施

５．入居者募集

（ア）入居検討時から全職員参加型の募集活動の実践

・施設見学の際に介護棟の見学を組み込む事や、職員がセミナーの講師となり施設全体で入居者募集に関わることが出来た。

（イ）入居検討者目線で企画するセミナー・イベントの継続開催

・検討者の要望が高い企画や入居者との茶話会等のイベントを増やし集客数増加に努めた。

（ウ） 東京都住宅供給公社・高齢者公益事業部・各直営施設と連携し効果的な広報活動の実践

○公益的事業について

・フードロス対策として、地域の NPO 法人へ備蓄食料の寄付を継続した。

・防災イベントや夏祭り準備への協力や入居者とともに地域清掃に参加する等、地域貢献につながる活動を継続した。また、秋祭り等のイベントや講演会の地域開放も実施した。

■2026 年 3 月 31 日時点

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男　性	女　性	計
人　数	267 戸（21 戸）	73 名	215 名	288 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	北海道	東北	甲信越	北陸	中国	九州	計
人　数	272 名	4 名	5 名	1 名	2 名	1 名	1 名	1 名	1 名	288 名
構成比	94.4%	1.4%	1.7%	0.3%	0.7%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	100%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人　数	48 名	87 名	77 名	46 名	21 名	8 名	1 名	0 名	0 名	294 名
構成比	16.7%	30.2%	26.7%	16.0%	7.3%	2.8%	0.3%	0%	0%	100%

表 4：平均年齢

全　体	男　性	女　性
88.1 歳	87.6 歳	88.3 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男　性	10 名	8 名	（8 名）
女　性	20 名	28 名	（26 名）
計	30 名	36 名	（34 名）

表 6：介護保険利用者（介護保険請求）

	合 計	内　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	124 名	19 名	14 名	28 名	25 名	13 名	14 名	4 名
期末人数	110 名	12 名	14 名	28 名	25 名	13 名	14 名	4 名
月平均人数	122.9 名	17.6 名	17.6 名	30.9 名	18.6 名	15.0 名	15.8 名	7.5 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	102.0 名

在宅・福祉静岡ブロック

2025 年度は、2024 年度における各種報酬のマイナス改定や制度改正、あわせて過去に類のない物価高騰等、収益と費用のバランスに翻弄される１年間であった。その中、我々は日々刻々と変化を続ける「地域」を正確に把握し、今まさに発生している課題のみならず未来を見据えたニーズの変容を想定し、それぞれのニーズに合致するサービスが提供できるよう効果的な事業のベストサイジングについて検証を進めた。さらに、社会福祉法人としてのソーシャルワーク実践を改めて我々の原点と捉え、サービス提供が困難な地域や分野への介入についても検討を進め、他法人・他機関と連携や共同をしながら最適解を導き出す第一歩を踏み出した。一方、リスクマネジメントやコンプライアンスに対する組織対応力の脆弱さが顕在化した。この事実と真摯に向き合うことで、改めて『誰のために事業を行っているのか』の根拠を職員個々が自覚し、専門職としての責任と矜持をもって利用者と向き合う覚悟を問い掛けられた 1 年間であった。その問いに応えるべく、今までの当たり前に潜むリスクを放置せずに、今の当たり前に合致するマネジメントにアップデートを図っていく。その上で使命の『いのちと尊厳のために』を再確認した上で、自らが対応すべき「地域」において未来を見据えた地域課題をつぶさに検証し、個々のニーズに合致するサービスを適時適切に提供する。さらに、社会福祉法人としてサービス提供困難地域や分野等への積極的な介入も推し進める。そのためには、質の高いサービスを提供し続ける専門職はもとより、事業を支えるマネジャーの育成もスピードを増し、変容する地域課題に対応し得る人材の育成に注力していく。そして、これらの対策を計画的に実践することで、変化を続けていく地域課題にフレキシブルに対応できる組織としての体力を醸成するとともに、地域実情に応じ介護・福祉と医療との事業を超えた連携をはじめ、法人内外の連携にも積極的に取り組むことにより、地域におけるより強固なセーフティネットを構築していくことを 2026 年度の主眼に置くこととする。

１.静岡ブロック管理・運営体制のアップデート

（ア）地域ごとの事業展開に合致した 4 エリアへ保育事業も各エリアに内包する形で再編した

（イ）エリア軸・職種軸・事業軸・世代軸の 4 軸での管理・運営体制を構築した

（ウ）予算未執行事業はプロジェクト化を図り、解決策を事業軸で検討し運用を開始した

（エ）運営管理室課長の役割を明確化し、窓口・支援機能の強化を図った

（オ）請求プロジェクトを立ち上げ、現状調査を実施。施設入所分野からの集約を開始した

２.地域課題の抽出と実現可能な計画立案・実践

（ア）予算未執行事業はプロジェクト化を図り、解決策を事業軸で検討し運用を開始した。特に通所介護・訪問介護・訪問看護・就労支援・地域密着型等の事業は、地域実情や事業継続性を予測し、事業の統合や分割等の再編成の検討も開始した

（イ）いなさ愛光園が中心となり、中山間地域における福祉・医療提供体制を、浜松市・坂の上ファミリークリニック・聖隷三方原病院と連携の上、モデル事業を開始した

（ウ）森町愛光園・いなさ愛光園は改修計画に則って大規模修繕を開始した。併せて、もくせい

の里の大規模修繕等についても現存施設の利活用を含めて検討を開始した
（エ）いなさ愛光園は完全調理品を活用した直営化の決断に至った。他施設については、いなさ愛光園の動向を確認しながら引き続き検討を重ねていく
（オ）こども連絡会にて、保育と療育の垣根を越えた検討を重ね、具体的に職員の視野を拡大させる取り組みを実践した
（カ）医療・保健等の他領域を踏まえた相談機能の強化を図るべく聖隷福祉総合相談センター和合の機能評価を実施した
（キ）浜松市、浜松市社会福祉協議会他機関と市内 9 つの社会福祉法人とともに浜松市における権利擁護体制構築に関わる会議を立ち上げ、検討を開始した
（ク）地域課題と実情に応じ連携する機関や手段は随時検討した

3.専門職のキャリアプランの構築と働きやすさ・やりがいの追求
（ア）各施設・事業所にて運用評価を適時実施したが、還元率の明確化には至らなかった
（イ）次世代マネジャーの意図的な登用は保育事業等で実施できた。次年度は、複数年に渡る計画的な登用が行えるよう中長期的計画を立案する
（ウ）相談援助職が中心となり、将来のキャリアイメージを築く介護職向けの研修会を開催した
（エ）世代プロジェクトを立ち上げ、次世代のマネジャー候補向けの奄美ブロック視察研修を開催した。また、神戸聖隷福祉事業団のタイ研修にも次世代のマネジャー候補者が参加した
（オ）相談役や顧問の支援を受け、現任マネジャー向けのマネジャー研修を企画・開催した
（カ）人事企画部と共同の上、山梨県立大学との関係づくりを図った。併せて、特定技能 1 号外国人を計画的に雇用した

4.多様な人材の有効活用とサービスの質向上
（ア）世代プロジェクトにて検討したが、2025 年度は計画立案に留まった
（イ）突発的な欠員等に対して「介護力機能向上部隊」が適時活動した。引き続き、継続的かつ事業所横断的に展開できるような仕組みを検討する
（ウ）事業評価は実施していたが、重大なリスクやコンプライアンス違反が発覚した。これらの分析を徹底した上で、未然に防ぐ力を強化するプログラムを検討し 2026 年度の本格運用に繋げていく

5.運営の安定化
（ア）各施設・事業所にて適切な算定に努めた
（イ）大規模修繕等予測できる投資計画を策定した
（ウ）人件費や物価高騰等による経営への影響度を適時検証、対応を図った

和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園　　和合愛光園和合サテライト
障害者支援施設みるとす　　和合愛光園デイサービスセンター
聖隷チャレンジ工房和合　　浜松市中障がい者相談支援センター　　聖隷ヘルパーセンター
聖隷ケアプランセンター和　　地域包括支援センター和合　　訪問看護ステーション住吉
聖隷こども発達支援センター和合　　相談支援事業所くすのき

和合せいれいの里は、職員がやりがいを持ち働き続けられること、利用者へ質の高いサービスを提供できることを目標に AI や ICT、ロボット等の導入を進め業務効率化を図ってきた。一方、効率化によりできた時間を利用者に還元することや介護等支援内容の質の維持に課題が見られている。これは、介護テクノロジー活用による業務効率化と職員個々の成熟度に応じた育成体制の足並みが揃っていないことや、ご利用者のこれまでの生活に基づく介護支援等の理解に個人差があることが原因と考えられ、強い危機感を感じている。介護等支援の根幹である利用者の尊厳を守り利用者の人生に伴走させていただいていることを再認識する必要がある。利用者のこれまでの生活や思いが真に尊重され、安心した生活が営める介護等の支援を再度確認し、職場体制・人材育成の再構築を最優先として取り組んでいく。あわせて、昨年度より取り組んでいる「地域」の再検証と再認識は継続し、社会福祉法人である和合せいれいの里として、過去と現在、未来を見据えながら地域に必要なサービスの創造・再構築・ベストサイジングに取り組んでいく。

１．ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築

（ア）通所介護事業について、介護度が中重度の方や医療的なケアが必要な方のニーズに応えるべく事業規模変更及び運営の見直しを実施した。また、リハビリテーション課を創設し広く活躍できるセラピストの育成及び緊急時における応援体制構築を検討開始した。

（イ）聖隷総合相談センター和合について、関係事業所間で協議し開設からの取り組みの評価を実施し今後の課題を明確にした。

（ウ）聖隷浜松病院他と利用者を中心とした具体的な連携や聖隷三方原病院と協力医療機関に関する協定書を締結した。

２．「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

（ア）サービス担当者会議、地域ケア会議等を通して、利用者・家族・地域の方々のニーズの把握に努め、都度、ニーズに合致するように各種事業の軌道修正を図った。

（イ）ICT 機器の活用を通して、介護者が原因となる事故や重篤な事故の発生は抑制できた。ヒヤリハットの報告件数も増加し事故に対する意識の向上が見られている。また、昨年度に立案した ICT 機器が使用困難となった場合の対応策について訓練を実施した。

（ウ）支援困難な方等の緊急宿泊希望は、空床を活用しながら積極的に受け入れを行った。また、医療ニーズの高い方等の受け入れについても関連職種と協議を重ね、意欲的に受け入れた。結果、年度を通して高稼働率を維持できた。

（エ）ACP の視点を取り入れた面談を実施し、利用者の「やりたい」こと（趣味活動・外出等）を実現できた。

３．新たな働き方・やりがい・役割の創造

（ア）資格取得や研修に関する情報は都度発信し、資格取得の支援を行った結果、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員の合格者を一定数輩出できた。

（イ）施設職員が在宅事業を把握するための職場説明会や体験会を企画・実施し、専門職としての多様な働き方を学び理解する取り組みを継続した。また、ブランディングの取り組みとして、介護職ユニフォームの入所フロアー全体への展開及び看護職、セラピストのユニフォーム導入も実施した。

（ウ）次世代を担う職員の人材育成等への積極的な参画や人員配置の見直しを実施した。

（エ）ラダーと連動した職員育成ツールを見直し、ツールを利用した職員育成の浸透を図った。

（オ）ICT 機器・介護ロボットの活用によって業務省力は引き続き推進できた。併せて、誕生した時間を、利用者の「やりたい」こと（趣味活動・外出等）の実現に還元できた。

４．運営安定化の推進

（ア）生活支援ハウスやまぶきについて、夫婦で利用可能な部屋の整備などニーズに合わせた短期入所生活介護へ用途変更を実施した。

（イ）老朽化設備等の計画的な更新、業務省力につながる新たな機器の導入等が計画的に行えた。

（ウ）積極的に新たな加算算定や取りこぼしがないように実践を続け、高単価の維持に努めた。

（エ）給食委託業者と業務省力・費用削減等の協議を継続し、委託費の急激な上昇を抑制できた。

５．地域における公益的な取り組み

（ア）次世代を担う職員を中心とした地域連携推進会議を創設し、地域活動への参加や施設で地域自治会の敬老会を共同開催するなど福祉施設の役割理解が促進された。

（イ）介護に対する情報発信を地域の団体等に実践した。また、地域防災の観点から防災時の備えについてパンフレットを作成し地域の利用者や自治会への配布を実施した。

（ウ）学習支援事業への施設開放及び聖隷キッチン和合の弁当配食を実施し、生活困窮支援を継続した。

（エ）河川里親制度に登録し、隣接河川の環境美化活動を継続した。

【数値指標】

■高齢者入所・通所事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園デイサービスセンター			
	特養入所		短期		通所介護			
	従来型	ユニット型	従来型（障害含）	ユニット型	一般型介護	予防	共生型機能訓練生活介護	認知症対応型
利用者定員	62名	40名	20名 7月～27名	29名	75名			12名
利用延数	23,242名	14,400名	7,466名	10,379名	10,949名	3,446名	701名	1,663名
一日平均利用者数	63.7名	39.5名	20.5名	28.4名	35.4名	11.2名	2.3名	5.4名
稼動率	102.7%	98.6%	74.5%	98.1%	65.1%			44.8%
稼動延日数	365日	365日	365日	365日	309日			309日
単価（一人一日）	13,281円	15,699円	13,105円	16,071円	8,948円	5,793円	9,176円	13,641円
正職常勤換算数	43.7名	24.0名	9.2名	16.0名	13.0名			2.3名
パート常勤換算数	12.6名	7.2名	2.1名	6.3名	15.1名			4.9名

■障害者入所・通所・相談事業　　■静岡ブロック

	障害者支援施設　みるとす			相談支援くすのき	浜松市中障がい者相談支援センター	静岡ブロック運営管理室	基幹型相談支援事業
	施設入所生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所	特定児童	浜松市受託		浜松市受託
利用者定員	20名	20名	2名	－	－	－	－
利用者延数	7,084名	5,829名	1,260名	1,773名	－	－	－
一日平均利用者数	19.4名	19.0名	3.5名	－	－	－	－
稼動率	97.4%	95.1%	172.6%	－	－	－	－
稼動延日数	365日	307日	365日	－	－	－	－
単価（一人一日）	19,568円	15,439円	9,625円	－	－	－	－
正職常勤換算数	15.5名	8.4名	－	5.0名	7.9名	6.3名	1.0名
パート常勤換算数	4.8名	7.0名	－	－	－	1.0名	－

■就労支援・障害児通所支援事業

	聖隷チャレンジ工房和合				聖隷こども発達支援センター和合		
					かるみあ	はなえみ	かるみあ
	就労移行	就労継続B	就労継続A	就労定着	児童発達支援	放課後等ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ	保育所等訪問支援
利用定員	10名	15名	10名	―	30名	20名	―
利用者述べ人数	1,604名	3,505名	1,964名	156名	7,491名	4,764名	255名
一日平均利用者数	5.9名	13.0名	7.8名	―	30.8名	19.7名	―
稼働率	59.2%	86.5%	77.9%	―	102.7%	98.4%	―
稼働日数(延べ)	271日	270日	252日	―	243日	242日	―
単価(一人一日当り)	12,584円	10,192円	8,260円	―	20,463円	9,024円	―
正職常勤換算数	10.7名				24.3名		
パート常勤換算数	12.8名（うち、A型利用者6.2名）				9.0名		

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション住吉	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	常勤換算職員数
	328名	1,686件	20,235件	10,577円	30.3名

聖隷ヘルパーセンター	介護給付			予防給付		単価		常勤換算職員数
	平均利用者数	訪問件数		利用者		介護(時間)	予防(月)	
		月間	年間	月間	年間			
	44名	493件	5,919件	16件	190件	4,472円	19,768円	10.2名

聖隷ケアプランセンター和	年間請求件数			平均単価			常勤換算職員数
	介護	予防	予防A	介護	予防	総合A	
	2,415件	249件	66件	18,452円	5,019円	4,244円	7.0名

地域包括支援センター和合	浜松市受託収入	予防プラン請求件数	うち再委託件数	ﾌ予防ﾌ単価	常勤換算職員数
	37,411千円	4,028件	3,592件	4,512円	8.1名

日常生活支援総合事業の予防プラン				
種別	ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ請求件数	うち再委託件数	ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ単価	
ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄA	1,835件	1,595件	4,512円	
ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄB	57件	0件	3,277円	
ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄC	0件	0件	2,195円	

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生

2025 年度は、ケアセンター初生の各事業において、住み慣れた地域で利用者がいきいきと生活が送れるよう連続性のあるサービス提供を行うことができた。デイサービスにおいて、持ち帰り食の実施、寝台浴槽の設置・運用、法人内デイサービスとの合同送迎の推進を行った。特別養護老人ホームにおいても、ショートステイの稼働安定、施設入所を見据えたデイサービス・ショートステイの利用等、連続性を踏まえたサービス提供ができた。地域課題・ニーズに対しては、地域との話し合いの継続、検討を実施し、今後に繋げていく 1 年となった。

【施設理念】
わたしたちは、住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続ける

【事業・運営計画】
1．利用者、地域のニーズに沿ったサービスの見直しによる質の向上
（ア） デイサービス、ショートステイにおいて持ち帰り食を実施し、在宅生活を継続するための支援ができた
（イ） デイサービスの強みとして、身体的な支援が多く必要な方を中心に受け入れし、在宅生活を支えることができた。また、法人内デイサービスとの職員交換研修を実施、顔の見える関係性の構築、お互いの事業について理解を進めることができた
（ウ） ACP の考え方を学び、利用者の計画を立案、サービス提供ができ利用者個別の関わりが持てた
（エ） ショートステイ事業を通して、センター内で情報共有ができ、職員間で連携することができた
（オ） 地域住民や地域包括支援センターとの話し合いの場を持つことができ、地域課題・ニーズに対して意見交換ができた

2．働きがいのある職場環境と人材育成の推進
（ア） 法人内事業所 3 ヵ所にて合同送迎システムを導入することにより、限られた人材の活用ができた
（イ） リーダーを中心に現在の ICT 機器等の活用状況の確認、課題を明確化することができた
（ウ） 全職員と目標参画面接を実施することができ、組織として同じ目標に向かって業務に取り組むことができた
（エ） 全職員との面談を実施、思いの共有を行い心理的安全性の高い職場づくりを行うことができた。腰痛等の対象者に対しても始業前の体操実施等、予防に向けた取り組みを実施できた

3．感染症対応、災害時など、いかなる状況においても事業継続ができる体制を構築する
（ア） 職員個々が役割を遂行できるように、年間を通して計画的に訓練や勉強会を実施できた

（イ） センターにおけるBCPの定期的な見直し、地域の防災訓練への参加を通して地域との相互支援体制の検討ができた

4．安定した運営の推進

（ア） 特別養護老人ホームにおいて生産性向上推進体制加算を算定することができた

（イ） センター内の取り組みについてSNSを活用した広報活動を実施できた

（ウ） 業務効率化を推進するために業務委託契約先との意見交換を実施し、適正な評価に繋げることができた

5．地域における公益的な取組

（ア） 災害に関するBCPを定期的に見直し、実情に合わせた研修、訓練を実施できた

（イ） 地域包括支援センターと協力し、商業施設内において認知症に対する取り組みを実施できた

（ウ） 各専門職の実習、小・中学校からの福祉体験、特別支援学校の実習受け入れを行い、施設機能を提供できた

【数値実績】

	和合愛光園 初生サテライト	和合愛光園 初生サテライト ショートステイ	聖隷デイサービスセンター初生	
			介護給付	総合事業
利用者定員	29名	1名	50名	(50名)
利用延数	10,199名	330名	8,820名	784名
一日平均利用者数	27.9名	0.9名	28.5名	2.2名
稼動率（%）	96.3%	90.4%	61.5%	
稼動延日数	365日	365日	309日	
平均介護度	3.59	1.83	1.83	－
単価	15,802円/日	12,465円/日	10,384円/日	6,614円/日
職員数（正職）	13.3名		4.9名	
職員数（パート）	9.0名		11.4名	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
聖隷リハビリプラザＩＮ高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷ケアプランセンター浜松

2025 年度は、地域住民のフレイル予防を目的とした施設開放・相談会、「ケアセンター高丘祭り」の継続に加え、インスタグラム開設など地域の方へ施設の機能を知っていただく機会を大切にした。また ICT を活用し業務の効率化を図るための方策を検討した。今後も活動を通じて地域の方にも働く職員にとっても魅力のある施設を目指していきたい。

１．利用者特性をつかみ、地域の中で、質の高いサービスを展開できる
（ア）訪問看護ステーション高丘は毎月事例検討を実施、職種を問わずに相談、支援ができる関係を構築し、職場全体で利用者個々のニーズに対応できるように取り組んだ。
（イ）聖隷リハビリプラザＩＮ高丘は足温器や新たな運動機器を導入し、環境の整備を行った。またリハケアを活用したサービスの質向上、業務改善を行った。
（ウ）地域包括支援センター高丘は外国にルーツのある方への支援に対し、行政等の機関の他、他包括 2 ヶ所と協力しパンフレットに一部ポルトガル語翻訳など体制を整えた。
（エ）聖隷ケアプランセンター浜松は、「適切なケアマネジメント手法」等を用い、事例検討を実施し、利用者支援に活用した。看取りのケースを増やす事で、医療介護連携加算を取得することができた。
（オ）浜松医大、浜松医療センターへのカンファレンス等に参加し連携強化した。

２．ケアセンター高丘内の連携を強化することでセンター全体として利用者・地域の方々を多角的に支援する
（ア）訪問看護ステーション高丘と聖隷リハビリプラザ IN 高丘のカンファレンスで毎月情報共有することができ、共通利用者の支援について共に考えることができた。
（イ）新入職員中心に交互の職場実習を行い、各事業についての理解を深めた。
（ウ）各係活動の中で地域との行事企画やサロン訪問等を実施した。

３．職員 1 人ひとりがやりがいを持ち、働きやすい職場風土を醸成する
（ア）会議の AI 議事録の活用等で業務の効率化を図った。
（イ）他事業所とのデイサービスの合同送迎を実施し、人材の有効活用ができた。
（ウ）認知症家族の会や高齢者サロンでセンターの専門職が「フレイル予防」「認知症」等の講話を行った。

４．地域における公益的な取り組み

（ア）地域の方のフレイル予防のための施設開放「エクサポクラブ」を２回、「ケアセンター高丘祭り」など地域の方が立ち寄れるような行事を実施した。

（イ）自治会の防災訓練や北部協働センター祭りなど地域の行事に参加、協力した。

（ウ）ロコモーショントレーニングサロン活動を月１回開催し、運動以外にセンターの専門職が講話を行った。

（エ）聖隷クリストファー大学各専門学科の実習・看護学生実習、開成中学校の職場体験等積極的に受け入れした。

【数値実績】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	職員数（常勤換算）
170 人	869 件	10,431 件	9,684 円	12.91 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザＩＮ高丘）

介護給付			予防給付		障がい給付		職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数	
24.2 名	618.5 名	7,422 名	93.1 名	1,117 名	20.2 名	242 名	15.0 名
単価(円)	6,232 円		27,740 円		8,790 円		

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防ﾌﾟﾗﾝ単価	職員数（常勤換算）
42,600 千円	4,029 件	3,302 件	6,562 円	

日常生活支援総合事業の予防プラン				
種別	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	8.5 名
ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄA	2,263 件	1,552 件	4,874 円	
ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄB	276 件	0 件	3,277 円	
ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄC	0 件	0 件	2,195 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
2,036 件	447 件	19,677 円	4,328 円	9 件	4,766 円	5.8 名

聖隷コミュニティケアセンター

2025 年度は、我々に求められているニーズを再確認する為、開設以来初となる利用者アンケートを実施し、関連事業所に対しては定期訪問や会議へ積極的に参加した。これらのニーズを集約したことで見えた課題等を元に、運営改善や職員教育を徹底し、体制の再構築を図った。

また、目的を持ったジョブローテーションの実施や外部研修への参加によって、職員一人ひとりの知識と意識を向上させた。

１．ニーズを多角的に捉えたサービスの質の向上

（ア）開設以来初となる利用者アンケートの実施・集計・分析を行い、利用者ニーズを抽出し課題の把握と改善を図った

（イ）関連部門会議への参加により、事業所ニーズを把握し、新たにベッド・車椅子の自費プラン見直しと新規導入を行った

（ウ）法人外居宅サービス事業所への訪問をルーティン化し、より親密な関係構築に努めた

（エ）WEB 販売サイト「Lea（レア）」の運用を確立した。利用者からの意見を元に販売対象・地域の拡大を検討した為、2026 年度に導入することとした

（オ）店舗利用者の統計を行い、各店舗のニーズを把握したうえで今後の方針を検討した

２． 就労支援事業所とのコラボレーションを実施

（ア）外部業者とのパイプ役を担い、作業拡大の場を設けた

（イ）WEB 販売サイトの利用者数が増加せず、就労への移行が行えなかった為、今後も継続して検討を行うこととした

３．職員の意識向上と新たな働き方の創出

（ア）次世代育成を目的として、「貸与：販売」「販売：経理」のジョブローテーションを行い、事業所内の循環性を高め、職員の知識と意識の向上を図った

（イ）一般職員は営業・接遇・福祉用具取り扱いの研修、役職者は経営・職場管理の外部研修へ参加した。また、社会福祉士・住環境コーディネーター2 級・福祉用具専門相談員の資格を取得した

（ウ）訪問におけるレイバースケジュールの見直しと再構築を行い、業務を効率化した

４．運営安定化の推進

（ア）レンタル・住宅改修・販売の実績を会議内で共有し、現状把握と目標達成に努めた

（イ）事務の業務を整理し、ローテーションすることで隙間の無い支援体制を構築した。合わせて職員配置も見直し、人員の適正化を図った

（ウ）取引業者の契約状況を再評価し、支出の適正化を図った

５．地域における公益的な取り組み

（ア）法人内事業所や行政が行う地域活動・勉強会等、延べ 14 回の企画に参加した

（イ）福祉用具・防災用品等、無償貸与する仕組みを構築し、支援要請後に即時対応が可能となるよう準備した

【2026 年度：数値指標】

	レンタル		住宅改修		職員数
	件数	単価	件数	単価	（常勤換算数）
ｺﾐｭﾆﾃｨｹｱｾﾝﾀｰ	15,079 件	13,535 円	125 件	112,426 円	28.6 人

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

2025 年度は、地域で暮らす方々のウェルビーイングの実現を支援することを目標に、利用者一人ひとりの意向や価値観に基づき、近隣の病院との連携や法人内の事業所間での連携を進めてきた。その一方運営上では、通所介護事業は、リハ特化型・短時間型のデイサービスとして初生デイサービスと機能分化をした結果、利用者数や報酬単価の減少が見られ、訪問看護事業は、他法人による同事業の増加が続き、新規利用者数が低下した。
また、居宅介護支援事業では重大なコンプライアンス違反が発覚し、その影響により人員体制の変更や新規受け入れ体制の停滞などが起こり、ケアセンター全体の運営にも影響が及んだ。

【事業・運営計画】

1．近隣の病院や施設との連携

（ア） 聖隷デイサービスセンター初生との連携

① デイサービス職員がそれぞれの機能や取り組みを知るために職員交換研修を実施し、利用者支援や業務協力に生かすことができた。
また合同事例検討会を月一回定期的に開催し、それぞれの事業や専門職の視点を学び、利用者支援に生かすことができた。

② ケアセンター内においては、ACP を推進する係を設け、早期からの意思決定支援の意識を高める取り組みと連携方法について話し合いを始めた。

（イ）近隣の病院との連携

浜松医科大学看護部、聖隷三方原病院看護部、聖隷おおぞら療育センターとの連携を継続し、在宅での視点で本人の意思決定や在宅調整に介入してきた。また、聖隷三方原病院と「退院支援在宅調整ポイント」の作成に協力し、運用できる仕組み作りを行った。

（ウ）地域包括支援センターとの連携

地域の研修会・交流会へ参画し、地域の関係機関と関係作りや情報交換ができた。
地域包括支援センター三方原との連携を密にして、共に虐待ケースや多問題ケースの対応をすることができた。

2．健康の保持増進・回復、疾病悪化の予防、苦痛の緩和を実践し、質の高いサービスを提供する

（ア） 利用者個々の心身機能を把握し動作評価システムを活用したことで、具体的な数値を用いて利用者へ評価を還元することができた。

（イ） 法人内外の研修に参加、ナーシングスキルの動画視聴の推進、記録基準に沿った根拠ある記録を行い、ケアの質の向上に努めた。

３．スタッフの働きやすさを追求した業務改革、キャリア形成を踏まえた人材育成を促進する

（ア） ケアセンター内の連携を意識したデイサービスと訪問看護の応援体制の足掛かりを作ることができた。

（イ） 次世代を担う管理者やリーダーを育成し、新しい管理者が２名、特定行為看護師が２名誕生した。

４．地域における公益的な取り組み

（ア）三方原圏域における生活支援体制つくり協議体に参加した。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	職員数 （常勤換算）
133 人	684 件	8,207 件	10,725 円	13.3 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
1,818 件	558 件	12,770 円	4,573 円	3 件	4,253 円	5.2 名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		職員数 （常勤換算）
平　均 利用者数	月　間 利用者数	年　間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 （日）	予防 （月）	
34.4 人	76.1 人	913 人	68.3 人	820 人	6,597 円	27,254 円	15.9 人

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用者数	年利用者数	単価	職員数 （常勤換算）
1.4 人	5.5 人	66 人	8,743 円	15.9 人

聖隷ケアセンター浅田

訪問看護ステーション浅田

聖隷ケアプランセンター浅田

2025 年度、聖隷ケアセンター浅田では住み慣れた地域で暮らし続けたいという利用者様の希望を叶えるため活動してきた。難病やターミナル期の方等、様々な生活背景がある中で、本人らしく暮らすためにはどのようにすれば良いか、聖隷ケアセンター浅田として日々模索している。その中で、地域の資源やサービス事業所、病院、訪問診療等と連携しながら活動している。

【訪問看護ステーション浅田】

１．地域とのつながり・連携を強化する

（ア） 病院の定期カンファレンスに参加することで病院と地域との情報共有ができた。

（イ） 児童発達支援センターへの通院に同行し、職場内で発達段階に合わせた介入方法の検討や勉強会を実施したことで、小児の連携やケアの向上につながった。

（ウ） スタッフ紹介のパンフレットや「あさだ通信」を作成し、関係機関や利用者に配布することで事業所をアピールすることができた。

２．聖隷ケアプランセンター浅田と協働して質の高い看護を提供する

（ア） 共通利用者のカンファレンスを月１回定期的に開催することで、タイムリーな情報共有ができた。

（イ） 利用者の訪問診療に一緒に同行することで、治療方針を把握し、利用者の意思決定を支援することができた。

３．スタッフが安心して働くことができる環境を整える

（ア） ケア内容や手順書の見直しを行うことで無理のないケアの統一ができた。

（イ） 年１回の職場内の防災・防犯訓練の実施を通して、トリアージ表の更新や有事の際の連絡方法を確認できた。

４．地域における公益的な取り組み

（ア） 地域包括支援センターと協力して地域の高齢者に対し、健康講和を開催した。

（イ） 地域の防災訓練に参加し、地域住民と交流を図ることができた。

【数値指標】

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価	職員数 （常勤換算）
164名	878件	10,534件	医療 12,001円 介護 8,923円	15.3名

【聖隷ケアプランセンター浅田】

1．担当地区の方達が障害や病気を持っていても安心して暮らせる地域作りへの参加

（ア）訪問看護や訪問診療に同行し、情報共有に努め、ご本人や家族の思いを確認した上で、サービス提供にあたった。必要時には地域包括支援センターとも協働し、困難ケース等に対応した。

2．訪問看護ステーション浅田との複合事業所として事業所力を更に高める

（ア）訪問看護と居宅介護支援一体での依頼は断らないように努めた。

（イ）共通利用者のカンファレンスを月１回定期的に開催し、タイムリーな情報共有が出来た。

（ウ）訪問看護と共に地域のサロンへ出かけ、訪問看護やケアマネジャーの役割を伝え、認知症予防や健康増進のための話を行うことが出来た。

3．研修会への参加でスキルアップを図る

（ア）研修会へ積極的に参加し、研修会で学んだことを各々が日々の業務へ活かすことができた。また、職場内で研修報告を行いスタッフ全員で共有することが出来た。

4．ワークライフバランスの充実、業務の効率化を図る

（ア）経過記録はタブレットの音声入力を利用し、時間短縮を図った。

（イ）直行直帰も活用し、超過勤務の削減に職員全員で取り組んだ。

5．防災や感染症への取り組みを実践する

（ア）職場内の防災・防犯訓練を年１回実施した。

（イ）訪問看護ステーションと協働し、災害発生時の動き方を確認することが出来た。

（ウ）地域の防災訓練に参加し、地域住民との交流を図ることが出来た。

【数値指標】

年間請求件数		平均単価		訪問調査	訪問調査	職員数
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	（常勤換算）
1,734件	553件	16,642 円	4,793 円	8 件	4,532 円	4.6 名

浜松市生活自立相談支援センターつながり

2025 年度は、高まる居住支援ニーズに応えるため対象住居を 5 室から 9 室へ拡充した。また、聖隷三方原病院との連携により、年間 17 名の受け入れを行った。

相談件数は年間 994 件に達している。コロナ禍以降、一時的に減少したものの再び増加に転じ、現在は解消の兆しが見えない高止まりの状態が続いている 。

相談者の中心は依然 50 歳代前後だが、単なる減収に留まらず、住居喪失、心身の不調、多重債務といった課題が連鎖・複合化しているのが特徴である。生活歴や疾患、障がい（疑い含む）が複雑に絡み合うケースに対し、他機関と連携した支援チームによる包括的な対応を継続した。

一方で、20-30 歳代の若者世代からの相談が増加傾向にある。対象者の多くは、生育過程におけるロールモデルの不在や、就労意義・感情耐性が未醸成なまま社会に出たことにより、短期離職から困窮へ陥る悪循環に直面している。実情に即した支援体制を構築するとともに、将来的な困窮や貧困の連鎖を未然に防ぐため、今後はつながり教室における予防的支援のあり方を検討していく。

【事業計画】

1．地域における公益的な取り組み

（ア）和合、引佐、雄踏、本部、市野の 5 教室で実施した。子どもへの支援を入り口として世帯に関わり、他機関とも連携することで世帯全体への支援体制構築につなげた。

（イ）本部、和合の 2 教室において年間 943 食の食事支援を行った。

（ウ）外国ルーツの子供たちが抱える課題を整理し、日本語習得だけでなく日本で生活が継続できる力が身につくよう、世帯への働きかけ方を含め検討した。

（エ）聖隷三方原病院と連携し、居住支援事業利用者が無料低額診療事業を利用できる体制を構築した。

2．就労支援及び就労準備支援の実施

（ア）就労相談件数 102 件のうち就職実績は 59 名、就労定着率は 77%となった。

（イ）対象者となる相談者はいたものの、適切な支援機関への送致や合意形成の難しさから新規利用者 2 名、継続利用者 1 名の支援に留まった。

（ウ）相談者のニーズに合わせ、新たに 3 社と協力企業の関係を結んだ。
協力企業を活用し、職場見学・体験を実施。年間 4 名が就職につながった。

3．子どもの居場所支援及びキャリア形成支援の実施

（ア）事業利用を終了した高校生等を対象として、定期的なイベント案内や季節の挨拶などを配信することで関係性を維持し、課題を早期に発見できるようにした。

（イ）教室に通えない生徒や家庭に課題のある世帯に対し、年間 33 件の訪問支援を実施した。

4．居住支援事業の拡充

（ア）9 室での運用を開始し、平均稼働率は 40.5%となった。単身用最大稼働率 71.4%に対し、世帯用稼働率 0%という結果から、事業利用の対象者像が単身者であることが明らかに

なった。

（イ）新たに住まいに関わる相談を抽出、分析を行い、緊急連絡先や身寄りの不在が課題として明らかになった。福祉総務課、住宅課に課題を示し、居住支援協議会設立に向けた問題提起を行った。

5．職員が働きやすく、育まれる環境づくり

（ア）自立相談支援事業、居住支援事業について、業務マニュアルを作成した。

（イ）実習については希望者がおらず今年度の受け入れはなかった。

（ウ）中堅職員を中心とした2チーム体制を構築した。
職員間の相談や意見交換が活発になり、チーム体制で支援に臨むことができた。

（エ）2名の職員が他事業所で研修を実施した。事業理解の深まりとともに新たな視点で支援を実践することができるようになった。

【数値指標】

	生活困窮者自立支援事業	居住支援事業	キャリア形成支援事業	生活支援居場所事業	ホームレス巡回支援事業	学習サポート事業
利用者定員	－	11名	－	60名	－	－
利用者延べ人数	7,717名	1,333名	536名	1,235名	52名	257名
一日平均利用者数	31.9名	3.7名	1.8名	8.2名	1.9名	1.7名
稼働率	－	40.5%	－	－	－	－
稼働日数（延べ）	242日	1,333日	297日	150日	27日	147日
単価（一人一日当たり）	－	－	－	－	－	－
職員数（常勤換算）	17.6名					0.6名

聖隷こども園ひかりの子

2025 年度は、園児一人ひとりの育ちを保障し、適切な関わりを追求していくためにクラス編成の見直しを実施し、年齢別のクラスで過ごした。発達段階の押さえをしていきながら、異年齢の関わりについても、職員間で話し合いを繰り返し、保育を進めてきた。様々な職員の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることでお互いの学びにつながった。

地域に根差した園を目指し、小学校と年長児の交流を持ち、一緒に体を動かして遊んだり、授業を参観させていただき、小学校への期待を高めることができた。老人会との交流の機会がなかったため 2026 年度には実現できるように動いていきたい。

【入所状況】
年間平均入所率は 87.3%。
途中退園や認定変更、急な在園児下の子の入所取り消し等が目立った。

【重点目標及び重点施策への取り組み】
１．教育・保育の質の向上
（ア）子どもの姿、心の動きを多角的に捉える視点を学ぶため、園内での保育士交換や、フォトラーニング、コドモンカレッジ等で経験年数にとらわれない園内勉強会を継続した。
（イ）子どもの非認知能力を培うため、異年齢保育や少人数保育等必要に応じて保育の形態を工夫し、日々の生活や遊びの中で他者との交流が図れる環境（空間・時間・物等）を整えるために話し合いを重ねた。
（ウ）「子ども主体の保育」を実現するために、一人ひとりの成長発達に合わせた保育実践について考える時間を持った。
（エ）歳児ごとのクラス編成への見直しを行い、その歳児の発達を丁寧に捉え、一人ひとりに合わせた関わりを意識した。
（オ）各種自己評価チェックリストの評価を基に、子どもの最善の利益を最優先に考え、職員が互いに質を高め合うことができるよう、職員会等で振り返りを行い、他職員の意見を聞く時間を持った。
２．教育・保育の専門性の向上及び働きやすい職場環境の整備
（ア）保育職ラダーや自己評価を通じて、それぞれの段階で求められる資質を明らかにし、キャリアステージに応じた内外の研修に参加した。
（イ）職階・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、定期的な園内リーダー会が開催できたことで、組織的に役割を担える取り組みが実施できた。
（ウ）保育支援システム（コドモン）内の研修機能を活用し職員の学びを深めることができた。
３．地域・他機関との連携
（ア）小学校への訪問や近隣園や近隣施設との交流の機会を持つことで、お互いの職員同士が情報を共有し、連携を図ることができた。
（イ）行政・民生児童委員・発達医療センター等の職員との情報交換・共有を図った。
（ウ）地域の美化活動・子育て会議等の地域の交流会に参加し、園の教育・保育内容について知ってもらう機会を持つことができた。
４．安全・危機管理に対する取り組み
（ア）「ヒヤリハット」の報告が少なかったため、2026 年度は「ヒヤリハット」に気づく視点を養うことのできる取り組みを考えていく。
（イ）職員会議等で感染症に関する正しい知識や情報を共育した。また有事に対応できるように、窒息事故のシミュレーションを行った。

（ウ）防災委員会を中心に災害・不審者対策の見直しを行った。

５．地域における公益的な取り組み

（ア）親子ひろばや園庭開放等、地域の子育て家庭が集い、交流できる場所を提供した。

（イ）積極的にボランティアや実習生の受け入れを行った。また近隣園との共催で養成校の学生のバスツアーを開催した。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0 歳児	8	9	15	15	17	19	21	22	22	24	24	25	221	18.4
1 歳児	35	35	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	430	15.8
2 歳児	36	36	36	36	35	35	36	36	37	37	37	37	434	36.1
3 歳児	42	42	42	42	42	41	41	41	40	40	39	39	491	40.9
4 歳児	38	38	38	38	38	38	38	37	37	37	37	37	451	37.5
5 歳児	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480	40
計	199	200	207	207	208	209	212	212	212	214	213	214	2507	208.9

② 保育日数及び延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3,68	3,49	3,82	3,90	3,26	3,81	4,25	3,12	3,85	3,67	2,11	3,79	42,80	3566.8
保育日数(日)	25	25	26	26	25	24	26	23	24	23	22	25	294	24.5
一日平均(名)	147.5	139.6	147.1	150	145	158.8	163.7	135.7	150.6	159.7	96	151.8	145.5	145.5
一時預かり(名)	0	15	11	9	10	16	14	2	14	6	5	8	110	9.1
延長保育(名)	280	179	202	319	352	205	238	166	249	194	168	288	2,840	236.7
学童保育(名)	252	244	246	330	373	220	210	194	235	219	184	238	2,94	245.4
親子ひろば(名)	16	19	25	31	22	29	39	32	28	31	30	29	331	27.5

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長（正）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	21	23	23	23	23	24	24	24	25	25	25	25
保育教諭(パ)	19	21	21	21	21	21	21	21	20	20	20	20
調理師(正・パ)	1・6	1・6	1・6	1・6	1・5	1・5	1・5	1・5	1・6	1・6	1・6	1・6
看護師（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助・ｱﾙﾊﾞｲﾄ	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1
計	54	58	58	58	57	58	58	58	59	59	59	59

聖隷こども園めぐみ

子どもを取り巻く社会は多くの課題を抱えており、子どもに関わる子ども園への期待も高まっている。そのような中で子どもの安心安全を確保し、育ちを支えるこども園として、子どもの最善の利益を第一に考え、保育の質の向上に重点的に取り組んだ。園内研修に力を入れると共に、「こども」という領域で障碍の有無にかかわらず育ちを支援することが出来るよう立ち上げられた「こども連絡会」での取り組みを中心に聖隷の施設同士が連携し、互いの専門性を高めるため職員の学びの場が継続されたことは大きかった。また和合せいれいの里内での多職種での合同研修会開催も、職員にとって学びの機会となった。今後も職員が意欲的に学びを深められるような機会の提供や、諸機関との連携を深めながら保育の質向上につなげていきたい。

また、確実に進む少子化の影響が大きい中、地域のニーズに応え必要とされる園児の受け入れを積極的に行った。特に発達に課題のあるお子さんの受け入れへのニーズは年々増えており、地域資源の活用が不可欠である。隣接する聖隷こども発達支援センター和合との連携をはじめ地域の療育施設との並行通園等の連携も積極的に行ってきた。

また、職員がモチベーションを高く持って働くことが出来るよう仕事と家庭の両立支援等のサポート体制を活用すると共に、保育支援システム（コドモン）を活用し業務省力、職員個人の保育力のスキルアップに繋げられるようさらに取り組みを進めたい。

【入所状況】

4月新入園33名、年度途中の入園13名　途中退園4名　年間入所率は93.9%。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1．保育の質の向上

（ア）幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して保育を展開していくと同時に、保育学会では職員が学びを深めたい「子どもとの関わり方」について実践報告を重ね発表に繋げた。

（イ）保育支援システム（コドモン）を活用した保育ドキュメンテーション等を通して保育の可視化を行い、子どもの育ちを保護者へ発信した。また職員間でディスカッションする時間を継続的に作った。

（ウ）キャリアアップ研修を中心に様々な研修への参加を通して保育力の向上を目指した。

2．併設の聖隷こども発達支援センター和合との連携をすすめる

（ア）職員間の連携体制作りとして各施設の代表者間での話し合いの場を継続し、両施設の園児が互いの園庭で遊んだり、リズム遊びを行うなど日常的な交流が実施できた。

（イ）発達に課題のある子ども（特に並行通園児）について定期的に情報交換を行った。

（ウ）和合せいれいの里内で子どもに関わる施設の職員合同で研修会を開催した。

3．安全・危機管理に対する取り組み

（ア）危機管理委員会を中心に事故予防とリスク発生時の対応の周知を図り、職員一人ひとりが安全・危機管理に対する意識を高められるよう模擬研修等に取り組んだ。

4．地域における公益的な取り組み

（ア）地域の子育て家庭を支援するため、親子ひろばや園庭開放の実施によって安心して過ごす場と子育てに関する相談ができる環境を提供した。病後児保育についても継続運営した。

（イ）中高生の職場体験の受け入れを行い、次世代を担う人材の育成の取り組みに貢献した。

５．保育支援システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

（ア）保育支援システム（コドモン）の活用により、一定の業務の省力化につながった。

（イ）主任・副主任会を中心に職場内の問題解決・働きやすい職場づくりに向けた取り組みを継続し、離職防止にもつながった。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数(名)　　入所率　93.9%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0　歳　児	11	11	13	13	13	15	14	15	16	16	16	17	170	14.1
1　歳　児	30	31	33	33	35	35	35	35	35	35	35	35	407	33.9
2　歳　児	35	35	35	34	35	34	34	34	34	34	34	34	412	34.3
3　歳　児	39	39	39	39	39	40	40	40	40	40	39	39	473	39.4
4　歳　児	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	504	42.0
5　歳　児	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	468	39.0
計	196	197	201	200	203	205	204	205	206	206	205	206	2,434	202.8

② 保育日数及び延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3,592	3,481	3,881	4,001	3,203	3,702	4,139	3,268	3,782	3,426	3,162	3,863	43,500	3,625
保育日数(日)	25	24	25	26	25	24	26	23	24	23	22	25	292	24.3
1日平均(名)	143.6	145.0	155.2	153.8	128.1	154.3	159.1	142.0	157.5	148.9	143.7	154.5	1785.7	148.8
一時預かり(名)	2	14	10	18	3	0	5	2	3	5	6	4	72	6.0
病後児保育(名)	1	5	4	4	1	2	2	0	2	1	3	1	26	2.16
親子ひろば(名)	6	4	4	5	1	3	0	2	0	2	2	2	31	2.58
延長保育(名)	94	65	78	65	74	112	108	71	99	62	92	72	986	82.1

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施　設　長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士（正）	31	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
保育士（パ）	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10
保育補助	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
看護師（パ）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
事務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用　務	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	49	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	47

聖隷浜松病院ひばり保育園

2025 年度も聖隷浜松病院の事業所内保育所として、需要に応えられるよう努めてきた。入所率は 2024 年度に対して高くなり、特に 0 歳児は予算を上回る入所となった。一方で他の年齢の入所に於いては、予定との差異が目立つ結果となった。今後も引き続き、事業所との連携を強化し、入園計画を立てていくことが求められる。

約 6 年前から取り組む構成論に基づいた保育実践は、職員の入れ替わりも多く、継承することに難しさも伴うが、職員自身が言語化し、園の保育・教育の指標となる指針を作成したことで、それを基本として発達の連続性を保障できることにつながった。今後も定期的に指針に立ち返り、実践を継続していく。また、職員同士が主体的に学び合う仕組みができ、それが保育の質を高めることや専門性の向上にも結びついている。

学校や公共施設等、地域資源との繋がりが広がった成果を活かし、今後はさらに地域との関わりを深めていくことが課題だと考える。

１．入所状況

年間平均入所率は 73.9%。4 月は新入園児 15 名を迎え 141 名でスタートし、3 月末には 159 名の在籍となり、4 月から 18 名の増となった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）質の高い保育の実践

①ピアジェの構成論を取り入れた子ども主体の生活と遊びを中心とした自園の保育・教育を言語化し、指針を作成した。それを基に行った 2025 年度の評価と 2026 年度に向けての計画は、発達の連続性を意識した保育の提供につながった。

②保育支援システム（コドモン）の機能を活用し、保育の可視化を継続したことで、保護者の保育理解が深まり、子どもの育ちを共有できることが保護者支援にもなった。

（イ）専門性の向上を図る

①研修計画に沿って研修への参加を促進。外部講師を招いて勉強会も実施した。

②リーダー層の職員が中心となり、職員一人ひとりが主体的に学び合うことができる園内の仕組みが構築された。

（ウ）職員の働きやすい環境づくり

①保育支援システム（コドモン）の機能のシフト管理を活用したことが、体制の可視化や業務の省力化につながった他、職員間の連携も強化された。

②業務改善のために各クラスにて業務改善担当者を任命し、課題に対しての毎月の振り返りを継続した。

③職員の休息のための環境を整えたことで、コミュニケーションの活性化や、休息時間の充実につながった。

３．地域における公益的な取り組み

（ア）学生のボランティアや実習の受け入れを積極的に行い、次世代育成に貢献できた。

（イ）近隣学校（小・中・高・大学）との連携の機会が様々な形で得られた。また、保育・教育活動において、地域資源（図書館・公共バス）の活用ができ、地域との関わりが広がった。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	10	11	11	12	14	16	19	21	22	24	27	29	216	18
1歳児	31	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	383	31.9
2歳児	31	31	31	30	30	30	30	30	30	31	32	32	368	30.7
3歳児	20	20	19	19	19	19	19	19	19	19	19	18	229	19.1
4歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	20
5歳児	29	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	337	28.1
計	141	142	141	141	143	145	148	150	151	154	158	159	1773	147.8

② 保育日数および延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2,626	2,572	2,765	2,836	2,343	2,748	3,030	2,340	2,890	2,539	2,443	3,061	32,193	2682.8
保育日数(日)	25	24	25	26	25	24	26	23	24	23	22	25	292	24.3
一日平均(名)	105	107	111	109	94	115	117	102	120	110	111	122	1,323	110.3
延長保育(名)	95	87	83	78	63	85	73	76	86	70	70	76	942	78.5

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	26	26
保育士(パ)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
事務員/用務員	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/0
計	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	39	38

聖隷のあ保育園

開設 7 年目を迎えた 2025 年 4 月は、予定外の転勤家庭や途中転園する園児が少なく、定員を上回る順調なスタートとなった。しかし近年の少子化の影響と育児休業取得家庭増による 0 歳からの園児の入園希望数の減少状況は否めず、歳児毎の定員数にばらつきがある。年度前半は「余裕活用型一時預かり事業」を有効活用し、この事業と共に地域子育て家庭の支援（問い合わせや相談）を通して新入園に繋げることができた。更に、自園の強みである特定妊婦や要支援児童の受け入れと入園希望者のニーズに合わせた募集により、1 年を通して歳児毎の定員数の平均的な確保ができた。2026 年度も特定妊婦や要支援児童の受け入れと入園希望者のニーズに合わせた募集を行い、安定した経営に繋げていく。特定の家庭だけでなく保護者支援に重点を置き、子育て家庭の健やかな成長の柱となっていきたい。また、引き続き「余裕活用型一時預かり事業」を活用し地域の子育て支援に貢献していく。連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」と、土曜日共同保育が円滑に行われ、3 歳以降の受入れ状況について密な連携を図ることができた。地理的に離れた場所ではあるが 2025 年度の 3 歳児以降の転園児は 3 名となり、保護者の意向に応じた支援を行うことができた。今後も保育の質の向上を目指し、子ども理解を深め、子どもの成長発達に合わせた援助の在り方を探り、小規模園の利点を活かした保育を提供していく。

【入所状況】

4 月は 16 名でスタートし、9 月に定員達成となった。年間入所率は 111.4%であった。

【年度事業目標・年度重点施策】

1．保育の質の向上を目指し、質の高い保育と保護者支援を行う。

（ア）キリスト教保育を基盤に小規模園の強みを活かし、子どもにとって最善の利益を考え、「一人ひとりを大切にする教育・保育」の実践に努めた。

（イ）園内勉強会で自園の研究を深める、外部研修で新たな知識を取り入れて、園として、また職員個々のスキルアップを目指すことが出来た。

（ウ）養護と教育が一体となった保育を行うために、子どもを観る視点を養い子ども理解に努め、保育者は「こども観」を基に話し合い、子ども一人ひとりの成長発達を援助出来た。

（エ）少人数の乳児保育園の強みを活かした保育（個々に合わせた丁寧な関わり、保護者支援）を考え展開し、保育環境と保育内容を子どもの成長発達に併せて、見直しを行った。

2．働きやすい職場環境づくり、業務省力化を目指す。

（ア）レイバー表・ホワイトボードを用いて職員の動きを可視化することで、職員がお互いの業務を意識し声をかけ合い、業務省力化を図ることが出来た。

（イ）職員間のコミュニケーションを密にし、報告、連絡、相談等を含むコミュニケーション力を高める園内研修を取り入れ、スキルアップと共に働きやすさや業務省力化を図った。

（ウ）職員が働きやすい環境（勤務体制、休憩、仕事量等）を整え、心身の健康維持に努めた。

（エ）連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」との共同保育等で大規模園の保育を経験し、保育士としてどこの園でも活躍できるような人材に成長できるよう支援を行った。

３．地域における公益的な取り組み

（ア）市からの要請を受けて地域の子育て家庭の相談に応じながら、要支援児童や特定妊婦の受け入れを実施。

（イ）「余裕活用型一時預かり事業」を活用し子育て支援を行うと共に、新入園児確保に努めた。

（ウ）隔月の老人会（常和会）、近隣学校、他施設との交流を通して地域とのつながりを深めた。

（エ）洪水等の防災区域であることを発信し万一の際に備える。防災訓練を通して地域との連携を深めると共に保護者の防災意識を高めた。

【数値実績】

（ア）歳児別入所保育児童数（名）　　入所率　111.4%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	3	3	3	3	3	3	4	5	5	6	6	6	50	4.2
1歳児	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	93	7.8
2歳児	10	10	10	10	10	10	9	9	9	8	8	8	111	9.3
計	20	20	20	21	21	21	21	22	22	22	22	22	254	21.3

（イ）保育日数および延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	369	356	339	406	307	358	417	304	381	374	326	354	4,291	357.6
保育日数(日)	25	24	25	26	25	24	26	23	23	27	24	24	296	24.7
一日平均(名)	15	15	14	16	12	15	16	13	17	14	14	15	176	14.7
延長保育(名)	7	5	6	5	4	6	7	6	5	6	5	6	68	5.7

（ウ）余裕活用型一時預かり事業　日数および延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	0	3	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	9	0.8

（エ）職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
保育士(パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11

いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園
いなさ愛光園デイサービスセンター(通常規模型・認知症対応型)
いなさ愛光園ヘルパーステーション(訪問介護/居宅介護)
ほのぼのケアガーデン(認知症対応型共同生活介護)
聖隷ケアプランセンターいなさ
いなさ愛光園在宅介護支援センター
ひとり暮らし高齢者等配食サービス

2025 年度は、「地域」を軸としたサービス強化に注力し、現課題のみならず未来を見据えたサービスを実践した。地域の超高齢化はしばらく続くものの、将来は人口が減少する地域である。昨年度から進めてきたオンライン診療は一般高齢者へも範囲を拡大し、中山間地域において必要性の高い取組みができた。今後は持続可能な仕組みへと深化させていく。事業運営については、特に入所稼働率が 100%を維持し堅調な運営ができた。一方で、開設 28 年が経過し老朽化が深刻な為、修繕や設備更新に追われた一年であった。

【施設理念】

利用者の尊厳保持を援助の基本に捉え、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する

【経営方針】

1．充実した個別援助を提供するため、いなさ愛光園全体が濃密な連携を図る
2．地域において信頼されるサービスを提供するため、職員の資質向上に努める
3．未来を見据えた地域課題を検証し、地域ニーズに対応できる施設になる

【年度事業目標・年度重点施策】

1.中山間地域における多機能型施設として、引佐地区全域で切れ目のない支援体制を構築する
(ア)職員の人事交流の機会をつくり、互いのサービスに関する理解を深めた
(イ)2025 年 10 月より地域の高齢者を対象としたオンライン診療を開始した
(ウ)地域のサロンや地域ケア会議等に参加し、地域ニーズの発掘に努めた
(エ)オンライン診療付きサロンを開設し、支援体制を構築した
(オ)リハビリプラザいなさと連携し、合同送迎を実施した

2.利用者の意向やこれまでの生活を尊重した支援をする
(ア)利用者の懇談会を開催し、利用者の意向に沿ったケアプランとケアの実践ができた
(イ)季節ごとに食事イベントを企画し、ご利用者から好評を得ることができた
(ウ)年 2 回、職員が主体となり大規模な掃除を実施し、環境の整備に努めた
(エ)入居時に在宅職員が担当者会議に参加し、情報共有をおこなった

(オ)在宅から入所に至るまで各事業相談員のシームレスな組織体制を構築し情報共有に努めた

3.人材育成と職員が長く活躍できる環境づくりを推進する

(ア)レクリエーションシステムを導入することで、準備などの負担が軽減できた

(イ)男性職員の育児休暇取得が向上できた（2名取得）

(ウ)施設内階層別研修を開催し、次世代職員の育成をおこなった

(エ)若手職員の人材育成の一環として、外部の認知症研修に参加した

(オ)特定技能1号外国人を2名採用し、毎月フォローアップ研修を開催した

4.安定した施設運営をする

(ア)特にグループホーム職員の適切な配置を検討し、黒字化できた

(イ)食事提供に関して、完全調理品を導入しコスト管理をおこなった

(ウ)災害発生時における業務継続や防災計画の定期的な見直しと周知をおこなった

(エ)2026年度の大規模修繕計画と調理室の改修工事を実施した

(オ)従来型短期入所生活介護の増床をおこなった（2床増床）

5.地域における公益的な取組み

(ア)地域のサロンに参画し、運営支援をおこなった

(イ)年2回、自治会の防災訓練に参加し、課題の抽出を図った

(ウ)福祉避難所としての役割や必要物品について、行政や地域と共に検討した

(エ)引佐地区社会福祉協議会の絵画コンクールに参画した

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所		通常規模型通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防
利用者定員	30名	40名	20名	2名	35名	
利用者延べ人数	11,075名	14,920名	6,250名	367名	7,674名	933名
一日平均利用者数	30.3名	40.9名	17.1名	1.0名	24.9名	3.0名
稼動率	101.0%	102.3%	85.5%	50.0%	80.0%	
稼動日数（延べ）	365日	365日	365日	365日	308日	
単価（一人一日当り）	13,193円	15,902円	14,460円	11,882円	10,568円	
常勤換算職員数	46.6名		14.8名	0.4名	14.2名	

	認知症対応型共同生活介護	訪問介護		居宅介護（障害）	認知症対応型通所介護	
		介護	予防		介護	予防
利用者定員	9名	—	—	—	12名	
利用者延べ人数	3,275名	2,394名	728名	581名	3,113名	0名
一日平均利用者数	9.0名	6.6名	2.0名	1.6名	10.1名	0名
稼動率	100%	—	—	—	84.2%	
稼動日数（延べ）	365日	361日		361日	308日	
単価（一人一日当り）	14,939円	4,898円		4,061円	13,585円	
常勤換算職員数	7.3名	4.2名			7.5名	

	居宅介護支援		配食サービス	在宅介護支援ｾﾝﾀｰ	合計
	介護	予防			
利用者延べ人数	1,953名	623名	788名	—	—
一日平均利用者数	—	—	2.7名	—	—
稼動率	—	—		—	—
稼動日数（延べ）	365日		293日		—
単価（一人一日当り）	18,217円	4,281円	777円	—	—
常勤換算職員数	5.0名		—	—	100.0名

聖隷ケアセンターいなさ

旧引佐三町地域においては、高齢者が増加する一方で支援の担い手の減少、病院の閉鎖や診療所の医師の高齢化による地域医療の先細りなどの課題がある中、2025 年度は地域の高齢者が住み慣れた地域で、本人の望む生活を継続できるよう支援を行った。そのためにケアセンター内のみならず、法人内の他事業所と連携・協働し、地域のニーズに合致した事業を展開した。

1．住み慣れた地域での生活継続の支援体制づくり

【聖隷リハビリプラザいなさ】

①リハ・看護・介護が共同し、ご自宅での生活状況の確認をすることで適時に心身機能評価を行い、生活に則したリハビリテーション・ケアを実施できた。

②楽しみ活動として、「外出レクリエーション」を自費サービスとして実施できた。

【地域包括支援センター細江】

③他分野機関との連携による家族課題の早期発見・対応を行うとともに、地域への訪問を積極的に行い、幅広い世代への周知活動を実施した。

④地域の小学校、高等学校の教育機関を中心に「認知症サポーター養成講座」及び「認知症ひとり歩き模擬訓練」を開催した。また地域の事業所と協働し「介護者支援相談会」を開催した。

⑤引佐郡医師会及び地域の関係機関との協働による意思決定支援をテーマとした市民フォーラムを開催した。

2．運営の安定化

【聖隷リハビリプラザいなさ】

①職員一人ひとりが業務効率をあげることを目的に、職員の業務分担を明確化し、働きやすい環境を整えた。

②通常事業規模を維持するため、新規受け入れを調整した期間があり、利用者待機者ができてしまった。

【地域包括支援センター細江】

③増加を続ける介護予防支援及び介護予防マネジメントを滞りなく提供した。

3．拠点機能の強化

【聖隷リハビリプラザいなさ】

①入浴ケア・認知症ケアの必要な利用者をいなさ愛光園に繋げることができた。

②地域障がい者リハビリテーションセンターとの研修会に参加した

【地域包括支援センター細江】

③ケアセンター三ヶ日・いなさ愛光園と連携し地域に向けた健康講座と相談会、介護予防体操などを実施した

④支援困難世帯、虐待高リスク世帯への対応として、法人内外の医療・障がい福祉サービス・生活困窮等、多機関と協働した。

4．地域における公益的な取組

（ア）ノルディックウォークの自主運営サークルの支援

（イ）学習支援教室継続への会場提供を通した支援

（ウ）ロコモサロンを実施した。

（エ）地域住民のボランティアを受け入れた。

【数値実績】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

予防支援/ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄA・B	内再委託件数	予防ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ 単価（円）	職員数 （常勤換算）
予防支援　3,706 件	2,621 件	4,512　円	10.6 名
ﾏﾈA　2,340 件	1,613 件	4,512　円	
ﾏﾈB　917 件	15 件	3,277　円	
ﾏﾈC　2 件	0 件	2,195　円	

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数
平　均 利用者数	月　間 利用者数	年　間 利用者数	月　間 利用者	年　間 利用者	介護 （月）	予防 （月）	（常勤換算）
28.39 人	111.4 人	1,337 人	109.3 人	1,312 人	7,223 円	25,638 円	13.35 名

聖隷ケアセンター三ヶ日

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日
聖隷ケアプランセンター三ヶ日

三ヶ日地区在宅複合事業開設以降、「住み慣れた地域で暮らしたい」という地域ニーズに貢献できる体制を目指し、地域との連携構築を図ってきた。高齢化率の上昇、独居・老々世帯・認知症世帯の増加など、地域の変化も著しい。変化する地域の状況に対応し、また地域のニーズに応えられるよう、2事業所の連携強化をすすめている。

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日では、人員不足の状況下においても、新規依頼は断らず対応してきた。困難ケースも増える中、サービスの質の維持を心掛け、利用者・訪問件数ともに増加している。

聖隷ケアプランセンター三ヶ日では、安心して在宅療養が継続できるよう訪問診療、訪問看護サービスへの紹介率を上げるよう努めている。

【聖隷訪問看護ステーション三ヶ日】

1.職員が疲弊しない職場環境の整備

直帰の推奨、超勤の事前申請の徹底を進め、超勤削減に繋がっている。システムを利用したスケジュール管理も全職員が使用できるほどに浸透してきた。しかし、訪問件数が増加し多忙を極める中、職員補充がかなわず体調不良のため休職者1名（他施設異動にて復帰）でている。

2.質の高いサービスの提供

好事例（看取り、他機関との連携など）の振り返りや、ポジティブな事例検討（相手を否定しない）を行い、日々頑張っている事の共有に努めた。カンファレンスでの利用者検討も活発な意見交換ができるようになっている。新規依頼もコンスタントにあり、利用者数120名超、訪問件数も前年比600件増と、サービスの質の維持はできていると考える。

3.地域連携の強化

浜松市薬剤師会副会長在籍の薬局へ出向き、地域の現状（介護・医療資源が少ない）の共有と、連携強化を依頼。訪問件数増加にて業務切迫し、地域の薬局へ出向くことはできていないため、次年度に持ち越しすすめていく。

聖隷三方原病院、浜松医科大学病院への入院が多く、退院時にはカンファレンス開催を依頼。情報共有を図ることで、スムーズな在宅移行へ繋がっている。

4.地域における公益的な取り組み

地域包括支援センター細江と共にサロンへ出向き、健康講座や体力測定を実施。地域の現状を把握し、介護予防に向けての取り組みを開始している。

【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	職員数 （常勤換算）
107人	545件	6,541件	9,270円	6.8名

【聖隷ケアプランセンター三ヶ日】

1. 地域で暮らし続けていくために必要な支援体制作りの推進

担当する利用者の訪問看護、訪問診療の利用率を高めることで、早い段階から医療サービスに繋ぎ、在宅療養体制の強化を図れるように努めた。

また、聖隷三方原病院、地域包括支援センター、圏域の居宅介護支援事業所と事例検討会、カンファレンスを行うことで、虐待ケース、モラハラケースへの対応や、入退院時の利用者支援をスムーズに行うことが出来た。

2. 運営の安定化

新規の依頼は断らず、病院からターミナル期で退院する利用者の受け入れも訪問看護ステーションと連携をしながら担当している。担当する利用者の比率は年々三ヶ日町が増えており、それに伴い訪問看護ステーション三ヶ日の利用率を高めた。

ケアマネ人材確保のため、法人内介護支援専門員試験対策講座への協力も継続して行った。

3. 質の高いサービスが提供できる職場の環境づくり

研修計画に基づいた研修の実施と職場内の共有により、職員の知識向上を図ることが出来た。また、対応に苦慮するケースは職場会の中で共有し１人で抱え込まず、事業所全体で支援する相談しやすい職場づくりを継続した。

4. 地域における公益的な取り組み

第２エリアプロジェクトとして介護予防啓発活動を行い、地域のサロンへの出前講座、介護予防アプリの広報活動を行った。

【数値実績】

年間請求件数			平均単価(円)			職員数（常勤換算）
介護	予防（直営）	予防（委託）	介護	予防（直営）	予防（委託）	
1,916 件	377 件	88 件	16,463 円	4,925 円	4,251 円	4.4 名

浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園　　浜北愛光園デイサービスセンター
聖隷ケアプランセンター浜北　　地域包括支援センター北浜
訪問看護ステーション貴布祢　　聖隷チャレンジ工房浜北

2025 年度は、利用される方のニーズや想いが実現できる支援を目指し、各事業が対応力の向上や事業間の連携強化に努めた。また、長引く物価高騰等に対する経費節減を図りながらも利用者の楽しみとなるよう食事改善や調理を伴うレクリエーション活動に取り組んだ。設備については、屋上防水を更新するとともに節電対策として空きスペースを活用し、太陽光パネルを設置した。その他、安全衛生や生産性向上を目的とした 5S 活動に取り組んだ。運営については、デイサービスの利用状況や地域の実情を踏まえ、2026 年度に向けてサービス内容や定員の見直しを行った。その他の事業においても依然として厳しい運営となる年度であった。

１．複合施設の強みを生かした、利用される方のニーズや想いが実現できる支援を行う
（ア）在宅サービス事業が定期的にカンファレンスを行い、利用者の情報共有や事例検討を重ね、連携した支援体制に努めた
（イ）ICT 機器を活用したデータ収集から利用者個々に適した排泄ケアに取り組んだ
（ウ）要望を反映した計画書の実施だけでなく、日常においても選択できる支援に努めた
（エ）利用前カンファレンスによる情報共有やフロア間で協働したケア等を行った
（オ）デイサービスの利用状況を鑑み、サービス内容の見直しや定員変更を行った

２．高い専門性を備えた人材育成と多様な人材が活躍できるキャリア形成の支援を行う
（ア）マネジャーを中心に階層に応じた育成スキームについて理解を深めた
（イ）交換研修（職場体験）・人事交流を積極的に行い、他職種の業務理解や他分野の事業への興味を高めることができた
（ウ）職員個々の専門性だけでなく各事業において有益となる研修受講を行い、対応力の向上に努めた
（エ）小・中学生の施設見学や利用者との交流を図り、福祉教育へ寄与することができた

３．運営安定化の推進
（ア）必要となる人材確保に努め、ケアサポーター業務の標準化を図ることができた
（イ）設備等の不具合の早期改善に努め、安全衛生委員会が中心となり 5S 活動に取り組んだ
（ウ）食材料費に応じた献立変更等により、現行の給食提供体制を継続させることができた
（エ）他職種と請求に係る業務分担を検討し、請求業務の標準化に取り組んだ
（オ）居室空調等の更新を計画的に行い、節電対策として太陽光パネルを屋上へ設置した

４．地域における公益的な取り組み

（ア）地域の清掃活動や地域包括支援センターと連携した出前講座を行った

（イ）近隣事業所の災害時訓練の避難場所として協力することができた

【数値実績】

■高齢者入所・短期入所・通所

	浜北愛光園				デイサービス	
	特養入所		短期入所		通所介護	
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般形	予防
利用者定員	50名	100名	20名	20名	40名	
利用延数	18,556名	36,302名	5,123名	5,870名	7,332名	628名
一日平均利用者数	50.8名	99.5名	14.0名	16.1名	23.7名	2.0名
稼動率（％）	101.7%	99.5%	70.2%	91.6%	65.23%	
稼動延日数	365日	365日	365日	365日	309日	
平均介護度	4.0	3.5	3.1	2.5	1.8	
単価（一人一日）	13,176円	15,225円	12,488円	12,192円	10,154円	
職員数(常勤換算)	35.88名	60.95名	8.83名	11.02名	12.78名	

■居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜北）

年間請求件数		平均単価		常勤換算
介護	予防	介護	予防	職員数
2,090件	384件	16,761円	4,893円	5.57名

■地域包括支援事業（地域包括支援センター北浜）

予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	常勤換算職員数
4,686件	2,048件	4,561円	6.87名

■訪問看護事業（訪問看護ステーション貴布祢）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	常勤換算職員数
163名	824件	9,883件	10,092円	13.18名

■聖隷チャレンジ工房浜北

	定員	利用延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	常勤換算職員数
就労移行	6名	975名	62.7%	259日	12,951円	13.67名
就労継続	24名	5,394名	72.5%	310日	10,398円	
就労定着	—	147名	—	—	26,211円	
生活介護	10名	2,185名	90.3%	242日	8,086円	

聖隷厚生園

障害者支援施設聖隷厚生園信生寮	救護施設聖隷厚生園讃栄寮
聖隷厚生園まじわりの家	生活訓練事業所ナルド
訪問看護ステーション細江	地域活動支援センターナルド
聖隷ケアプランセンター細江	障害者相談支援事業所ナルド
聖隷ヘルパーセンター浜松北	福祉共同住宅ファーストステップ
聖隷厚生園ナルド工房	

2025 年度は、聖隷厚生園が展開する各事業の医療・介護・福祉の連携強化を行い、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、一体的な事業展開を目指した。

利用者の「意思決定支援」「地域移行」「主体性・活動性の向上」の取り組みを行い、個別支援計画に落とし込み、職員間で共有し実践に繋げた。

在宅部門においては、利用者が望む地域生活が選択できるように、医療機関、介護保険、障害福祉分野との連携強化を継続し、地域課題の解決や地域の多様なニーズに対応できる事業運営ができた。障害者相談支援事業所浜松東と障害者相談支援事業所ナルドとの合併に伴うケース移行も完了し事業のスリム化を実現した。

１．利用者の意思を尊重し、安心で尊厳ある生活ができる個別支援を実践

(ア)意思決定支援ガイドラインに基づいた、本人の意向を反映した計画作成と実践ができた。

(イ)身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、介護過程に基づいた利用者の“できる”を引き出す個別支援を多職種協同で行い、転倒予防を目的とした個別リハビリテーション等も実施できた。

(ウ)利用者の心身状況に合わせた支援を実施し、グループホームやアパートへの地域移行を実現した。

(エ)処遇困難ケースについてグループスーパービジョンを行い、利用者理解を深めた。

(オ)入所・通所者の咀嚼能力等の口腔機能及び栄養状態を適切に把握し、かたちのある食べ物を口から食べる楽しみを多職種で支援し、食事の付加価値を向上させることができた。

２．地域課題の解決に向けた取り組み

(ア)在宅福祉サービス事業所、通所事業所、相談支援事業所等が合同で事例検討会を定期的に行うことで、支援困難ケースの課題解決の糸口を見出すことができた。

(イ)聖隷厚生園まじわりの家では、意思疎通ができない利用者も含めた感覚刺激を促す支援を推進し園芸活動に取り組み、利用者満足度を向上させることができた。

(ウ)訪問看護ステーション細江では、基幹病院である聖隷三方原病院・浜松医科大学医学部付属病院と引き続き連携を取ることができた。特に高齢者の独居世帯の増加が進む引佐地区への積極的な介入を行うことができた。

(エ)聖隷ケアプランセンター細江では、意思決定支援を意識した関わりを行い、関係事業所と連携し支援を行うことができた。

(オ)聖隷ヘルパーセンター浜松北では、ヘルパーセンター4 事業所の訪問エリアの効率化について検討を継続でき、他法人との情報共有も行った。

(カ)生活訓練事業所ナルドでは、利用者の状況を共有するため可視化した社会生活自立度評価指標（SIM）を運用し情報共有を図った。住環境に応じた就労継続支援 B 型事業所への見学を行うなど利用移行に繋げることができた。

(キ)地域活動支援センターナルドでは、情報提供活動の強化として改めて各行政機関等へパンフレット配布を行い、障がい者相談支援センターから新規利用に繋げることができた。

(ク)障害者相談支援事業所ナルドでは、障害者相談支援事業所浜松東を合併し、今まで以上にケースワークを深め、虐待防止の共通認識、請求業務の改善等の実現ができた。

(ケ)福祉共同住宅ファーストステップでは、意思決定を尊重するとともに訪問看護事業者や就労支援事業者と役割分担し、地域移行、他施設移行、就労に繋げることができた。

(コ)聖隷厚生園ナルド工房では、利用者へのやりがいを引き出すために次のステップをイメージできるような取り組みを実施し、就職者を継続して輩出することができた。

(サ)シオンハウスについて、建物の老朽化に伴い事業の存続を検討してきたが、入居者の転居支援を丁寧に行った上で、2025 年 6 月に事業閉鎖となった。

3．利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

(ア)福祉機器展等へ職員を派遣し情報収集を行い、ICT 機器等の導入を図ることができた。

(イ)ノーリフティングケアが持続可能となるよう、移乗用リフトやスリングシートの見直しを行った。

(ウ)カスタマーハラスメント防止の指針に基づきケースワークを行うことができた。

(エ)職員が利用者のためにやりたい企画を自発的に立案し、共に楽しむ企画を実施できた。

(オ)レクリエーション機会を通じて、職員同士の交流を活性化できた。

(カ)安全な食事の提供及び水光熱費、食材料費の価格高騰に対応できるよう給食委託業者と定例会を開催し、衛生管理体制や食事形態、オペレーション等の見直しを行った。

(キ)施設間相互チェックを実施し、健全・安全な施設運営ができるよう改善を行った。

4．介護人材の確保と育成の取り組み

(ア)各専門職ラダーを活用し、職員の人材育成を図ることができた。

(イ)中学校、高校、福祉系学校等と連携し、労働作業、福祉体験、ボランティア等、将来の介護・福祉人材の育成に貢献できた。

(ウ)聖隷厚生園ナルド工房・聖隷ワース工房浜松学園と連携し、障がい者雇用や就労継続支援の受け入れを積極的に行うことができた。

5．災害時対策・地域における公益的な取り組み

(ア)災害及び感染症 BCP を基に、より現実的な BCP 研修、訓練の実施ができた。

(イ)聖隷厚生園を育てる会、プロギング静岡とコラボレーションし、聖隷厚生園のみならず、他施設をも巻き込み、利用者・職員が一体となり公益的な清掃活動を拡大し実施することができた。

【数値指標】

■入所事業

	聖隷厚生園信生寮		聖隷厚生園讃栄寮		福祉共同住宅 ファーストステップ
	障害者支援施設	短期入所	救護施設	短期入所	共同生活援助
利用者定員	60名	10名	60名	2名	13名
利用者延べ人数	21,365名	3,751名	21,942名	797名	4,382名
一日平均利用者数	58.5名	10.3名	60.1名	2.2名	12.0名
稼動率	97.6%	102.8%	100.2%	109.2%	92.3%
稼動日数（延べ）	365日	365日	365日	365日	365日
単価（一人一日当り）	19,163円	11,510円	13,642円	6,862円	4,423円
職員数（常勤換算）	55.0名		29.4名		3.4名

■通所事業

	聖隷厚生園 まじわりの家	生活訓練事業所ナルド		聖隷厚生園ナルド工房		
	生活介護	生活訓練	生活介護	就労移行	就労継続B	就労定着
利用者定員	20名	10名	10名	10名	30名	－
利用者延べ人数	4,671名	1,756名	2,592名	1,967名	6,172名	108名
一日平均利用者数	18.1名	7.2名	10.6名	7.5名	23.4名	－
稼動率	90.5%	71.7%	105.8%	74.5%	77.9%	－
稼動日数（延べ）	258日	245日	245日	264日	264日	－
単価（一人一日当り）	16,242円	11,014円	8,314円	11,922円	10,091円	41,417円
常勤換算職員数	11.7名	5.9名		10.7名		

■訪問事業

	訪問看護ステーション細江			聖隷ケアプランセンター細江	
	医療	介護	予防	介護	予防
月平均訪問件数	376.8件	494.3件	113.4件	187.8件	43.5件
年間訪問件数	4,522件	5,931件	1,361件	2,253件	522件
単価（一件当り）	12,693円	9,359円		16,484円	3,695円
常勤換算職員数	18.5名			5.5名	

	聖隷ヘルパーセンター浜松北			障害者相談支援事業所ナルド	
	介護	予防	障害	特定相談	障害児
月平均訪問件数	309.7件	21.8件	323.7件	247.0件	43.6件
年間訪問件数	3,716件	261件	3,884件	2,964件	523件
単価（一件当り）	4,465円	23,805円	3,890円	20,664円	22,994円
常勤換算職員数	4.9名			9.2名	

浜松学園

障害者支援施設　聖隷チャレンジ工房浜松学園
聖隷ワース工房浜松学園　　聖隷ステップサポート

2025 年度は「地域ニーズへの対応」、「利用者の自立支援の向上」の 2 つを柱に、地域社会と連携し、多様なニーズを抱えた利用者一人ひとりの未来をともに描く支援を実現するため、利用者の意思決定を個別支援計画の内容に盛り込み、利用者の権利擁護を意識してより質の高いサービスが提供できるよう取り組んだ。

利用者のニーズとして目標に掲げた「平均工賃 25,000 円の支給」及び「6 か月就労定着者 15 名以上の輩出」については、「平均工賃 30,000 円以上の支給」及び「6 か月就労定着者 16 名輩出」することができ、利用者の自立支援の向上を図ることができた。

また、専門性をもった人材育成の取り組みとしてプリセプター制度や研修・IT 支援ツールを導入し、支援力の強化を図ることができた。

1．「働く」平均工賃 25,000 円／月、6 か月就労定着者 15 名以上を目指す

（ア）利用者リーダーを中心とした作業運営を基本とし、主体性を引き出す支援ができた。

（イ）全作業の業務マニュアルを整備し、作業活動の効率化と標準化が図れた。

（ウ）職場見学や体験実習先を開拓し利用者が就労する上での課題を見出せる機会を提供した。

（エ）就労パスポートをケース担当者が中心となり、利用者・作業担当・就労支援員で共同して作成し、相手先企業へ利用者の能力や特性をわかりやすく説明ができた。

（オ）就労定着支援では、就労支援員だけでなくケース担当者も就職先へ出向き、多くの職員が就職後も利用者とつながることで、離職防止につなげる支援ができた。

（カ）AI を活用したアセスメントツール（シームレスバディ）を導入し、標準的に就労能力評価と職業マッチングが可能になった。

2．「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う

（ア）特別支援学校等の教育支援計画の内容を引き継ぎ、ケース担当者が利用者の障害特性に基づくアセスメントを行い、PDCA サイクルによる“チーム”で課題解決できた。

（イ）地域生活で自立した生活を送れるように一人暮らし体験・生活講座を行った。

（ウ）共用部や自室の清掃時間を決めて、身の回りの整理整頓が習慣化できる支援ができた。

（エ）体験利用者の心に残る浜松学園のオリジナル食事メニューを開発し、提供した。

（オ）利用者による自治会運営では、利用者自身が生活の仕方やルールをグループで考え、自ら決めて生活できることを支援し、自立促進につながった。

（カ）利用者と職員が共に楽しめる行事を一緒に企画し、個別支援に必要な関係性を築いた。

（キ）就職後に暮らすグループホームの必要性とあり方について検討し、提案できた。

3．「学ぶ」“わかる”“できる”ことの喜びを利用者の自信につなげる

（ア）就労している先輩の体験談や職場見学、職場実習の経験を基にグループワークを行い、

利用者個々に“仕事をする上で大切なことは何か？”を考える機会を提供した。

（イ）職場でのコミュニケーションの課題解決をするための社会生活技能訓練ができた。

（ウ）自習室を活用したパソコン検定や運転免許など資格取得の支援を行い、利用者の自信につながった。

4．顕在化された各事業の課題解決への取り組み

（聖隷ワース工房浜松学園）

（ア）filo では菓子製造において地元の食材を使ったコラボ商品の開発、filo でのイベント販売を地域の関係者と共同して行い、地域社会とのつながりを実践した。

（イ）生産活動、支援力の向上、地域連携活動を強化し、スコア値が向上した。

（ウ）『filo きずなプロジェクト』として菓子箱やショップカードに障害者アートを採用し、障害者の地域社会とのつながりを支援する活動を行った。

（エ）下半期に 2 名の就職 6 か月定着者を輩出することができた。

（聖隷ステップサポート）

（ア）五感を刺激する ICT 機器を導入し、重度の肢体不自由者が楽しめる活動ができた。

（イ）利用者が安全で居心地のよい環境整備を図ることができた。

（ウ）e スポーツ活動やパラスポーツ活動を通して、大会等へ参加し、社会とのつながりを感じられる経験が持てるよう支援ができた。

（短期入所）

（ア）土日祝日の開所を行い、多くのニーズに応えることのできる体制ができた。

（イ）中・高校生に短期入所の定期利用を勧め、入園後の生活イメージを提供できた。

（ウ）保護者と一緒に宿泊体験ができる取り組みができた。

（全事業）

（ア）就労選択支援の施行に伴い、今後の入園選考会の在り方を検討ができた。

（イ）障害者虐待防止に関する研修会の開催、定期的な自己チェックの上、共有ができた。

（ウ）地域交流と新規利用につなげるための取り組みとして浜松学園祭を開催できた。

（エ）インスタグラムやケアカルテ Live などを活用し、保護者・関係者に情報発信ができた。

（オ）地域連携協議会を創設し、事業所の公平な評価と地域連携の在り方を検討できた。

（カ）食材料費や人件費の高騰を鑑みて、今後の食事提供の在り方について検討した。

5．防災・感染対策・職員教育体制等の強化

（ア）BCP（事業継続計画）の周知徹底を行い、非常災害に備えた。

（イ）外部講師を招き、定期的に職員の理念・倫理観を養う研修ができた。

（ウ）e ラーニングを活用し、障害者就労支援の知識を全職員で共有し、支援に活用できた。

（エ）新人・異動職員へ勉強会を開催し、個別支援計画の作成について理解することができた。

6．地域における公益的な取り組み

（ア）民間企業に対して、体験利用や宿泊体験などを通じて社員研修の機会を提供し、障害者就労支援の啓発を実施することができた。

（イ）地域の環境美化に関するプロキング活動に参加し、年２回、社会貢献活動を行った。

【数値指標】

	聖隷チャレンジ工房浜松学園				
	施設入所	短期入所	就労移行	就労継続Ｂ	就労定着
利用者定員	60名	10名	30名	30名	－名
利用者延べ数	11,519名	399名	8,265名	8,733名	400名
稼働延日数	334日	350日	258日	259日	－日
一日平均利用者数	34.5名	1.1名	32.0名	33.7名	－名
稼働率	57.4%	11.4%	106.8%	112.4%	－%
単価（一人一日当り）	2,536円	4,993円	11,825円	8,107円	15,986円
常勤換算職員数	32.3名				

	聖隷ステップサポート	聖隷ワース工房浜松学園
	生活介護	就労継続Ａ
利用者定員	20名	15名
利用者延べ数	5,164名	2,778名
稼働延日数	256日	248日
一日平均利用者数	20.2名	11.2名
稼働率	100.9%	74.7%
単価（一人一日当り）	13,687円	11,438円
常勤換算職員数	9.5名	6.5名

軽費老人ホーム　もくせいの里

2025 年度、もくせいの里は①利用者満足の最大化、②施設の将来計画の検討促進の２つの課題を軸とした事業計画を策定･遂行した。利用者にとって、経済的負担が少なく自立生活を過ごせる軽費老人ホーム A 型のメリットは多く、「もくせいの里でいつまでも安心して暮らしたい」という思いが顕著である。これに応えるため、聖隷内外のセラピストによる機能訓練・健康増進活動の機会を増やし、状況に応じて必要なサービスに結び付けるなどフレイル予防対策を充実させた。また健康増進に関しては、利用者が主体的に関与する機会を増やすとともに、職員の健康増進にも繋がるよう企図し、積極的に活用する利用者・職員も増えてきた。

施設・建物に関しては、軽費老人ホーム A 型は経過的軽費老人ホームに位置付けられ、建替えや大規模修繕は法的に不可能であるため、聖隷の現有資産を利活用するなど設備投資を最小化し、利用者の経済的負担をできるだけ抑える方向性で将来計画を策定する必要があり、2026 年度も継続して取り組む。あらゆる産業で人員不足や物価高騰が深刻な問題となっているが、どのような情勢であっても「利用者も職員も共に幸せになれる福祉拠点づくり」を推進していきたい。

１．質の高いサービスの追求と提供

（ア） 軽費老人ホームでの自立（自律）生活を充実させるために、入居者自身の発案を企画化し実行できるよう自由参加型企画のフローを整備した。

（イ） より有効なフレイル予防のため、外部のリハビリテーション専門職の活用を継続し、活動機会を増加させるとともに、オーラルケアの実施に向けた検討を開始した。

（ウ） 定期的に簡易認知機能検査等を活用して継続した状態把握を行い、必要に応じて受診勧奨や地域包括支援センター等に繋げていくなど、切れ目のない支援を提供できた。

（エ） 食材価格高騰に伴い仕入れや献立を見直すとともに、入居者の自律意欲や ADL 維持のため、希望者参加型食事レクリエーションを 2026 年度から開始できる運びとなった。

（オ） 配食サービス利用者の配食時（安否確認時）の状況について、家族や地域包括支援センター・担当介護支援専門員と情報共有し、虐待や人権侵害の早期発見・防止に努めた。

２．健全運営の推進

（ア） 光熱費や食材料費等の物価高騰に対し、2024 年度比電気代・食材費ともに 95%、ガス代 97%であった。

（イ） 軽費老人ホーム事業の今後の在り方について、現在の A 型施設の利点を少しでも継承できる方向性で、在宅・福祉静岡ブロック内での協議を継続した。

（ウ） 配食サービスの今後の在り方について、在宅・福祉静岡ブロック内での協議に継続して参画・情報収集に努めた。

（エ） 地域包括支援センター等関係機関に対して待機者状況を定期的に提供し、待機者確保に取り組んだ。その結果、新規入居につなぐことができた。

（オ） 南海トラフ地震への備えを強化し、消防・防火設備点検等での不具合の早期改善、入居者に対する啓発活動、老施協合同防災訓練への参画など活発に活動した。

３．職員の質の向上

（ア） 相談員・介護職員のソーシャルワーク実践力を高めるため、専門職ラダーへの取り組みを継続するとともに、各職員が年１回以上研修に参加した。

（イ） 地域包括支援センター等と協働してアドバンス・ケア・プランニング（人生会議）に関する職員教育機会を設けるとともに、入居者に対する個別支援への活用を促進した。

（ウ） リスク対応・施設勉強会・一部業務において多職種協働の機会を増やし、各部署や職種間における業務内容の相互理解の促進に取り組んだ。

（エ） 研修等の交流機会を活用して他の軽費老人ホーム等との意見交換・情報共有を行い、職員の資質向上や問題解決、課題達成に役立てた。

４．地域における公益的な取り組み

（ア） ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等配食サービスを継続して受託し、食事面からの健康維持と自立支援に貢献した。

（イ） 浜名区細江町湖東地区住民の交流と健康増進のため、湖東公民館サロンに通年参加した。サロン参加（入居者）、ロコトレ普及員の派遣（介護職員）、サロン運営委員会への出席（施設長、相談員）の形で関与・貢献した。

（ウ） 浜名区細江町湖東地区の総合防災訓練に参加し、複数の訓練プログラムを通じて地域住民との交流を深めた。

【数値指標】

	軽費老人ホーム	配食サービス	計
利用者定員	50名	―	―
利用者延べ数	17,206名	13,174名	―
１日平均利用者数	47.1名	42.8名	―
稼働率（％）	94.3%	―	―
稼働日数（延べ）	365日	308日	―
単価（一人一日当り）	6,300円	700円	―
職員数	15.0名	2.5名	17.5名

聖隷こども園わかば

2025 年度は乳児、幼児合わせて 184 名の園児を受け入れたが、0 歳児の定員 24 名は満たすことができず 18 名であった。2026 年度は 0 歳児定員を 6 名、2 歳児定員を 4 名減らし、合計 205 名から 195 名に定員を変更することで安定した運営を図る。

職員間で施設理念や園目標に立ち返りながら、保育を提供することができた。園内外の研修等を通して職員一人ひとりの向上心を高めていくことで保育の質向上に努めた。今後は更にチーム力を高めていきながら、園児・保護者にとって必要な教育・保育を実践していく。そして、2025 年度は園庭の整備、経年劣化による遊具の修繕を実施した。また、園内での防災対策の見直しや危機管理に対するマニュアルの再確認をおこなった。引き続きマニュアルの確認をしながら、今まで以上に安全な保育を提供できるようにしていく。

【入所状況】
年間平均入所率は 86.9%
途中入所は 0 歳児 10 名、2 歳児 1 名、3 歳児 1 名、5 歳児 1 名、転居により 2 名途中退園

【重点目標及び重点施策への取り組み】
１．より質の高い教育・保育を実践する
（ア）幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して全体的な計画を作成し、年齢毎の計画を立て実践した。今後も年齢毎の計画を実践すると共に個別配慮の必要な児に対しても個々の発達をおさえた計画、実践を行なっていく。
（イ）子どもたち一人ひとりをよく理解し、保育者同士が語り合いながら保育の楽しさや面白さが実感できる機会を増やすためにも、日々の振り返りを丁寧にすることを意識した。
２．保育職としての専門性を高める
（ア）園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、実践しているか振り返りをし、教育・保育の実践を行った。
（イ）保育職ラダー・目標参画・自己評価を通して、職員が自己の課題と役割を明確にし、業務に取り組むことで資質向上につなげていった。
（ウ）職員一人ひとりの専門性の向上のため、キャリアアップ・外部研修等に積極的に参加できるような働きかけをした。
（エ）保育支援システム（コドモン）での記録等を通して職員自身が子どもの成長発達を捉え、保育の面白さを実感することが増えた。更なる保育の充実のために PDCA サイクルの実践を促していく。
３．様々な視点から保育環境の充実を図る
（ア）食育の推進
食育では、日々の食事体験を大切にするとともに、管理栄養士を軸に子ども・保護者に向けた食への意欲・関心を育てていく取り組みを継続的に行った。また、厨房職員と保育者

が一緒に「絵本献立」「全国の料理」の紹介を進め、保護者も一緒に食事への興味がさらに深まった。

（イ） 子育て、親育て支援

ドキュメンテーション、懇談会を通して保護者と子どもの成長発達を共有することができた。懇談会では、保護者同士のコミュニケーションを図ることに重点をおいた。個別に支援が必要な場合は、送迎時の声掛けだけでなく、面談の場を設けた。

４．地域における公益的な取り組み

（ア）子育て支援ひろばでは、常設のひろば週 5 日・妊婦支援・孫支援・発達に不安のある子どもへの支援・講座、地域に出向いた出張ひろば等を週 1 日行った。発達に不安のある子どもへの支援は、利用定員 10 名に到達した。

（イ）中高生の職場体験の受け入れや近隣施設の訪問等を通して利用者等との交流を図った。今後も年間行事だけでなく、日々の外出等の中でも積極的な関わりをしていく。

【数値実績】

① 歳児別入所児童数（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	8	8	8	9	10	10	14	16	17	17	18	18	153	12.8
1 歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30
2 歳児	33	33	33	33	33	33	32	33	33	33	33	33	395	32.9
3 歳児	34	34	34	35	35	35	35	35	35	35	35	35	417	34.8
4 歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33
5 歳児	34	34	34	35	35	35	35	35	35	35	35	35	417	34.8
合計	172	172	172	175	176	176	179	182	183	183	184	184	2,138	178.2

② 保育日数及び出席状況（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数	3,253	3,076	3,340	3,745	2,769	3,253	3,735	3,090	3,430	3,201	3,084	3,379	39,355	3279.6
保育日数	25	24	25	26	25	24	26	23	24	23	22	25	292	24.3
１日平均	130	128	134	144	111	136	144	134	143	139	140	135	1,618	134.8
一時預かり	0	11	21	21	6	0	0	0	0	0	0	0	59	4.9
病後児保育	13	25	29	34	14	11	21	14	0	1	5	6	173	14.4
延長保育	82	65	54	58	51	55	58	61	53	39	32	44	652	54.3

③ 職員の状況（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
保育教諭(パ)	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
看護師（正）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護師（パ）	2	2	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3
調理師（パ）	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6
管理栄養士（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士助手（パ）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	53	53	52	54	54	54	54	54	54	55	55	55

聖隷こども園桜ヶ丘

2025 年度は、教育・保育の質の向上を目指し、主任と副主任が中心となり園内研修を継続的に行い人材育成に努めた。そして、園内研修や勉強会を通して職員が保育について語り合う機会を設け、相互に意見交換ができる関係性の構築を図った。
全職員が常に事故防止について高い意識を持つとともに緊急時に適切な対応ができるように、事故対応マニュアルの周知と安全教育を行い、安全・危機管理の取り組みを強化した。
その他、園庭に日よけシェードの設置、遊具の修繕及び整備を行い、園児が安全に過ごせる環境を整えた。

【入所状況】
4 月の新入園児 12 名。年度途中入所は 0 歳児 7 名、1 歳児 2 名、5 歳児 1 名の計 10 名であった。また、転居等家庭の都合で 3 名の途中退園があった。年間平均入所率は 89.0%であった。

【事業目標及び重点施策への取り組み】
1．教育・保育の質の向上
（ア）保育者が施設理念や保育目標を理解し、一人ひとりを大切にする教育･保育を実践した。
（イ）子どもの姿から興味や関心を探り、遊びの連続性、継続性を意識した保育を実践した。
（ウ）発達に課題等を抱え個別の支援が必要な園児について、定期的に専門機関と園でケース会議を開くなどして、職員が対応方法などのスキルを高めることができた。
（エ）個々の発達段階に見合った運動遊びや体操を継続して行うことで体幹が鍛えられ、運動の楽しさを実感し、意欲を引き出すことができた。
（オ）職員がお互いに保育観を発信、共有する機会を持ち、保育環境を見直した。
2．保育職としての専門性の向上
（ア）年間計画に沿ってキャリアアップ研修を受講することで職員の資質向上や教育・保育の専門性を身につけることができた。
（イ）子どもの主体的な遊びを豊かに展開させるため、職員が子どもの姿から人的環境と物的環境等について学び、発達段階に見合った環境構成を実践した。
（ウ）事故防止マニュアル、事故防止対策ガイドラインを職員と確認し、救急対応の実技講習等を行い、職員一人ひとりが事故防止意識を高めることに取り組んだ。
3.職員の働きやすい環境づくり
（ア）主幹保育教諭と副主任が中心となりそれぞれの業務内容を可視化し、時間内に業務が終了するように取り組んだ。しかし、年度途中から保育士不足により記録業務の時間の確保が困難になってしまった。
（イ）保育支援システム（コドモン）の機能を活用し、子どもの姿をドキュメンテーションにて保護者に発信し、子どもの成長を共有できた。
4．子育て支援と地域における公益的な取り組み
（ア）親子ひろばの園庭開放や企画を通して、地域の子育て家庭を支援することができた。

（イ）都田南小学校 1 年生と園児の交流や JA とぴあテクノ支店と幼児クラスの食育活動など、近隣施設との相互理解や共助関係を構築できた。

（ウ）施設見学や実習生・中高生のボランティアを積極的に受け入れ、次世代の育成に貢献できた。

（エ）発達に課題のある園児について、浜松市障がい者自立支援協議会（北エリア連絡会　こども部会）と卒園後に地域での支援が繋がるような方法を協議した。

【数値指標】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
0歳児	4	4	5	7	9	10	10	10	10	11	11	11	102	8.5
1歳児	24	25	25	26	26	26	25	25	25	25	25	25	302	25.1
2歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30
3歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30
4歳児	26	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	301	25.1
5歳児	32	32	32	32	33	33	33	33	33	33	33	33	392	32.7
計	146	146	147	150	153	154	153	153	153	154	154	154	1,817	151.4

②保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
延べ人数(名)	2,733	2,566	2,863	2,985	2,366	2,746	3,199	2,472	2,727	2,704	2,201	2,772	32,334	2,694
保育日数(日)	25	24	25	26	25	24	26	24	24	23	21	25	292	24.3
一日平均(名)	111	115	110	120	92	113	128	119	125	123	119	106	1,381	115
一時預かり(名)	2	4	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0.08
延長保育(名)	32	35	40	37	34	41	41	29	40	25	47	38	439	36.5

③職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長（正）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭（正）	15	16	15	15	16	16	17	16	15	16	17	17
保育教諭（パ）	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
看護師（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員（パ）	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7
管理栄養士（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育助手（パ）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
計	39	40	39	39	40	41	42	41	40	41	42	42

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園　　森町愛光園天宮サテライト
森町愛光園デイサービスセンター　森町愛光園ホームヘルパーステーション
聖隷ケアプランセンター森町　　聖隷放課後クラブはなえみ森町

2025 年度は老朽化した施設・設備の大規模修繕工事や多床室のプライバシー保護のための改修工事を 2026 年 7 月までの 2 ヶ年にわたる計画で着手し、利用者をはじめ行政や地域の理解を得ながら全職員協力のもと事業を停止することなくすすめることができた。事業を継続しながらの各所工事であり、使用制限や動線の確保など工夫と共有が必要な状況であるが、予定通り全工期の 8 割まで完了し、新たな多床室や浴室に対する喜びの声を聴くことができた。

一方で業務体制やマニュアル等ルールの形骸化による諸問題、不適切なケア等施設内のソフト面における課題も露呈した年度となった。

１.「最高の質のサービス」の提供

（ア）利用者アセスメントの充実についてはマニュアルの作成や試用に留まり、具体的な評価に至らなかった。

（イ）夜勤体制の変更や応援体制の整備により従来型とユニット型における施設内協力体制が整備できた。

（ウ）東西ユニットにおいてホスピタリティ力、認知症ケア実践力向上のための勉強会や研修参加が実施できた。

（エ）ケアプランセンターにおいて、カンファレンスや振り返りを充実し、在宅、施設で利用看取りケアの推進とターミナルケアマネジメント加算の取得が継続できた。

（オ）協力医療機関としての連携会議の参加や「つながる会」への継続参加、日常の密な連携により森町病院との連携体制が強化できた。

（カ）7 月より大規模修繕工事を開始し、屋根外壁修繕、浴室改修、居室プライバシー改修まで大きな事故苦情等なく運営できた。

２．働きがいのある職場づくりと人材の確保と育成

（ア）職員全体会や職場会議を通じて理念と事業計画の目的等の共有を図った。

（イ）リーダー層を中心とした業務改善の検討や取り組みを行うことができた。

（ウ）生産性向上委員会において周辺業務の整理や各種システムの有効活用についての検討を継続し、課題の整理を行うことができた。

（エ）地域密着型運営推進会議等を通じて、大規模修繕の進捗状況など情報発信に努めた。

３．健康経営の推進、働きやすい職場作り

（ア）夜勤体制の変更や研修参加の機会提供、大規模修繕中の内装選定などを通して、職員の満足度向上を意識した働きかけを行うことができた。

（イ）移乗機器の活用促進や、新たな入浴機器の導入を行い、スタッフ・利用者双方の身体的な負担軽減の推進ができた。

（ウ）職場間の交換研修等を通して相互応援ができる体制作りや、業務整理、働き方の意識改革を継続し、欠員時の負担軽減と超勤時間の削減につながった。

（エ）BCP 研修、訓練を行うことはできたが、停電が発生した際に対応の柔軟性や日常の確認など課題が残った。

４．地域における公益的な取組

（ア）地域の小中学校、高校の福祉体験、職業体験、実習等に協力や、地域住民のボランティア活動を受け入れが継続できた。

（イ）森町、地域包括支援センター、町内各団体の事業や近隣自治会の福祉活動、地域防災訓練にスタッフが参加継続できた。

（ウ）静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DWAT）からの要請に基づき、牧之原災害への派遣や学校等での説明会協力ができた。

【数値実績】

	特養		天宮サテライト	短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	総合事業
利用者定員	60 名	20 名	29 名	12 名	42 名	
利用者延べ人数	21,256 名	7,059 名	10,241 名	3,651 名	7,745 名	681 名
一日平均利用者数	58.2 名	19.3 名	28.0 名	10.0 名	25.3 名	2.2 名
稼動率	97.1%	96.7%	96.7%	83.3%	65.5%	
稼動日数	365 日	365 日	365 日	365 日	308 日	
単価	13,322 円	16,159 円	15,246 円	12,334 円	10,621 円	
職員数（常勤換算）	35.9 名	14.4 名	18.8 名	6.0 名	13.6 名	

	在宅介護支援センター	居宅介護支援		訪問介護			放課後等デイサービス
		介護	予防	介護	総合事業	障害	
利用者定員	－	－	－	－	－	－	10 名
利用者延べ人数	－	2,156 名	763 名	4,267 名	1,077 名	388 名	1,114 名
一日平均利用者数	－	－	－	－	－	－	4.6 名
稼動率	－	－	－	－	－	－	45.8%
稼動日数	365 日	365 日		359 日			243 日
単価	－	17,969 円	3,936 円	4,555 円		3,667 円	12,271 円
職員数（常勤換算）	0.1 名	5.0 名		5.4 名			5.2 名

聖隷ぴゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ
聖隷放課後クラブはなえみ磐田
相談支援事業所磐田みなみ
聖隷チャレンジ工房磐田
磐田市発達支援センターはあと
磐田市子育て支援総合センターのびのび
磐田市南部地域包括支援センター
磐田市南部障害者相談支援センター
磐田市地域活動支援センター

2025 年度は、「利用者まんなか支援」を基軸に、利用者一人ひとりの想いに寄り添った支援を継続して行った。日々の関わりの中で小さな変化にも目を向け、より丁寧な支援につなげてきた。その中で、各事業所が横断的に情報共有や話し合いを行い、地域の状況や課題を共有することで、必要な支援を迅速に届けられる体制づくりを進めた。さらに、地域の方々を招いた行事や交流を通して地域とのつながりを深め、開かれた施設としての取り組みを進めることができた。あわせて、安全・災害対策の見直しや訓練を重ね、利用者と職員が安心して過ごせる環境づくりにも取り組んだ。2026 年度は、開設 10 周年という節目を契機に、これまでの取り組みを検証し、各事業所の役割や方向性を改めて見つめ直す一年と位置づけ、より質の高い支援と地域に根ざした取り組みの充実を図っていく。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

１．利用者満足度の高いサービスを提供する
２．働きやすい職場環境づくりと経営の安定化
３．地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

１．利用者満足度の高いサービスを提供する

（ア） 聖隷こども発達支援センターかるみあ

① 多面的な支援を取り入れ、こどもの遊びの選択肢を広げた。
② こどもの興味がわくよう、おもちゃの出し方や配置を工夫し自己選択できるよう環境を工夫した。
③ 保護者の家庭背景を掴みながら、程よい距離感を保ち支援内容をわかりやすく伝えた。

④ 磐田市と協議を進め、地域の園からの見学受け入れや研修等を通じて連携を強化した。

（イ） 聖隷放課後クラブはなえみ磐田

① こども会議の定期開催とICT活用で、自己選択と意思決定支援に繋げた。

② 地域・異年齢交流により地域で過ごす見通しと自信を育む支援を実践した。

③ 親子行事や座談会を通じて交流を深め、保護者等と繋がれる機会を提供した。

（ウ）聖隷チャレンジ工房磐田

① 動機づけの支援を強化し、通所回数の回復に繋げた。

② ラスクの製造・販売を開始し、工賃35,000円を維持した。

③ 磐田市と協議を進め、就労選択支援の継続方針を確認し準備を進めた。

④ 地域の方たちの集える場所として、CHOUCHOU（シュシュ）のイートインを再開した。

（エ）磐田市発達支援センターはあと

① 保護者が、前向きに子育てができるよう、こどもの関わり方の助言を行った。

② 保健師等と連携し、未満児のフォローや進路を見据えた支援を実施した。

③ 支援会議への参加機関の拡大を進め、適切なタイミングで支援できるよう連携を強化した。

（オ）磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ

① 「忘れ物連絡票」の活用や認知症家族交流会を行い、認知症支援の強化を図った。

② 定期的な訪問や情報共有から、引きこもり支援の継続的な仕組みづくりを行った。

③ 地域生活支援拠点の会議を実施し、連携体制の整備を行い2名が拠点登録できた。

④ 訪問や研修会を通じ他機関との関係構築を推進し、地域移行・定着支援の利用促進を図った。

（カ）磐田市子育て支援総合センターのびのび

① 妊婦・転入者向け交流会を実施し、仲間づくりの機会を提供した。

② 障がい者相談支援センター等と連携し、支援体制の強化と人材育成を推進した。

③ 父母対象参加型講座を実施し、保護者支援と「共育て」を推進した。

（キ）磐田市地域活動支援センター

① 生産活動等の活動機会の提供により参加意欲向上と11名が就労支援事業所を利用開始するなど就労意識の醸成が図れた。

② 情報が行き届かない方等に対し、SNS等を活用し情報発信を行い支援への接点の拡大を行った。

③ 地域関係団体等と連携し、ネットワークの強化と広報を推進した。

２．働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

（ア）安全計画に基づく訓練と研修を実施し、安全管理体制の強化に繋げた。

（イ）権利擁護の推進とラダー活用による専門性向上に取り組んだ。

（ウ）狭隘化対策に取り組む中で、施設運営の改善と意識向上に取り組んだ。

（エ）新システム導入に向けて継続的な検討を行ったが、精査・選定に課題が残った。

（オ）面談を通して強みや課題を整理し、想いの確認ややりたいことへの意識づけを行った。

３．地域における公益的な取組

（ア）研修講師派遣 22 件・施設見学 18 件・実習 24 件・ボランティア 298 件を実施した。

（イ）発達支援サイトや磐田市の SNS 等の活用を通じて情報発信を行った。

（ウ）地域の方を招待したイベントや園庭開放を通して、交流・相談できる場の提供ができた。

（エ）地域の防災訓練の参加や作品展への出展等を通して、連携の強化を図った。

（オ）磐田市社会福祉協議会が主催する、福祉大会や地域支援員連絡会に参加し普及啓発を行った。

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	ﾁｬﾚﾝｼﾞ 就労移行	ﾁｬﾚﾝｼﾞ 就労継続	ﾁｬﾚﾝｼﾞ 生活訓練
利用者定員	30 名	－	－	－	14 名	15 名	6 名
利用者延べ数	7,767 名	358 名	457 名	864 名	3,470 名	4,284 名	392 名
稼働延日数	243 日	238 日	365 日	365 日	264 日	265 日	231 日
一日平均利用者数	32.0 名	－	－	－	13.1 名	16.2 名	1.7 名
稼働率	106.5%	－	－	－	93.9%	107.7%	28.3%
単価（一人一日当り）	17,730 円	19,510 円	21,895 円	23,960 円	12,634 円	9,211 円	8,835 円
常勤換算職員数	25.0 名	2.9 名	3.6 名		6.2 名	6.4 名	1.3 名

	ﾁｬﾚﾝｼﾞ 定着支援	はなえみ 放課後ﾃﾞｲ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談	磐田市 地活
利用者定員	20 名以下	20 名	－	－	－	－	－
利用者延べ数	121 名	5,394 名	－	－	－	－	2914 名
稼働延日数	265 日	255 日	241 日	307 日	365 日	365 日	265 日
一日平均利用者数	－	21.2 名	－	－	－	－	11.0 名
稼働率	－	106.6%	－	－	－	－	－
単価（一人一日当り）	26,209 円	13,027 円	－	－	－	－	－
常勤換算職員数	0.2 名	9.9 名	9.8 名	5.8 名	4.4 名	2.0 名	2.9 名

こうのとり保育園

少子化の進行や家庭状況の多様化により、保育ニーズは量的確保から質の充実へと移行している。こうした社会的状況を踏まえ，こうのとり保育園では、子ども一人ひとりに丁寧に向き合う保育を通して、保護者から信頼され、選ばれる園づくりを進めてきた。遊びの中で直接的・具体的な体験の一層の充実に向け、0 歳児から就学までの発達や学びの連続性を踏まえて内容の在り方を探った。合わせて幼児教育と小学校教育へ円滑につなげ、保育の質の向上に努めてきた。子どもの命を守り、豊かな育ちを支えるために、保育の専門組織として、自らの人間性と専門性の向上に努めている。

【入所状況】

4 月新入園児 17 名。年度途中新入園児 18 名のうち、育休明け 0 歳児が 14 名で、年間入所率は 116％であった。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

１．保育の質の向上への取り組み

（ア）子どもの生活リズムを大切にし、流れる日課を通して、心地よい生活空間を確保した。子どもの興味関心や一人ひとりの個性に応じた学びを引き出すために、環境を通して行う教育保育を目指してきた。遊びを通して育まれている力を日々のドキュメンテーション、懇談会、保育参加等を活用して保護者に解りやすく伝えてきたことで、園への安心感、満足度の向上につながった。

（イ）事故、災害時の対応と連携を再確認し、一人ひとりが動ける人になれるような訓練を計画し、実行した。引き続き、職員周知し、強化していく。

２.働きやすい職場環境づくり

園の課題解決に向けて副主任を中心に取り組んできた。年間計画を作成したことで、予定通り実践することができた。2024 年度の振り返りを活かして一年間のスケジュール表（見通しシート）を見直し、保育と業務に分けて活用をしてきた。可視化し共有時間を設けたことで、他のチームを参考にし、保育を組み立てることができた。より具体的な内容を記載し、活かしていけるよう継続をしていく。語り合いの時間を工夫しながら作ってきたが、コミュニケーション力、連携には課題が残る。

３．統合保育の実践

障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」では、日々の生活の中で在園児との交流を行い、保護者や子どものニーズを踏まえ計画的に保育を行う事ができた。

４．地域における公益的な取り組み

（ア）「幼保小の架け橋プログラム」に取り組み、参加者が教育実践を確認し合うことができた。

０歳児から積み上げた教育保育を小学校教諭にも伝え、相互の共通理解を図ることができ、子どもと共に創る教育保育を意識することができた。また、他園での取り組みを聞き保育実践に繋げることもできた。

（イ）体験学習を積極的に受け入れ、定期的な中高校生との交流が増えた。子育てに関わる機会をつくることができ、保育の仕事への興味関心につなげることができた。引き続き地域福祉に貢献できるよう取り組んでいく。

５.保育環境の改善、施設整備

（ア）修繕…ウッドデッキ修理、園庭と園庭遊具の整備・修理、給食自動ドア修理

（イ）購入…ノートパソコン３台、スチームコンベクションオーブン、LED 照明更新

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	5	5	7	8	11	13	15	15	15	15	16	18	143	11.9
1 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
2 歳児	26	26	26	26	26	26	26	25	26	26	26	26	311	25.9
3 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
4 歳児	26	26	26	26	26	26	26	25	25	25	25	25	307	25.5
5 歳児	25	25	25	26	26	26	26	26	26	26	26	26	309	25.7
計	132	132	134	136	139	141	143	142	143	143	143	145	1,673	139.4

② 保育日数及び延べ出席(利用）状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数（名）	2,515	2,406	2,599	2,789	2,112	2,580	2,877	2,315	2,623	2,552	2,232	2,624	30,224	2518.6
保育日数（日）	25	24	25	26	25	24	26	23	24	23	22	25	292	24.3
一日平均（名）	101	100	104	107	84	108	111	101	109	111	101	105	1,242	103.5
一時預り（名）	17	29	47	32	23	24	31	20	38	41	66	57	425	35.4
延長保育（名）	12	18	24	29	30	34	34	35	35	36	38	39	364	30.3
学童保育（名）	63	1	1	46	121	0	0	0	53	12	0	12	309	25.7
休日保育（名）	8	13	3	11	9	26	12	21	3	15	24	15	160	13.3
病後児（名）	3	3	2	3	0	2	2	2	0	0	2	0	19	1.5
支援ｾﾝﾀｰ（名）	328	309	385	412	306	402	412	270	287	308	279	362	4,060	338.3

③ 職員の状況（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長（正）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・ﾊﾟ)	16・24	16・24	16・24	16・24	16・24	16・24	16・24	16・24	16・24	16・24	16・24	16・24
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・ﾊﾟ)	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・7
事務員(正・ﾊﾟ)	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1
補助他・ｱﾙﾊﾞｲﾄ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	55

聖隷こども園こうのとり東

放課後児童クラブ“オリーブ”

2025 年度は、2026 年度より開始する異年齢児保育（3～5 歳児）に向けて職員の学びや準備を計画的に行った 1 年間であった。地域性として外国にルーツを持つ園児や特別な配慮を必要とする園児を多く受け入れており、歳児別のクラス編成ではなく年齢に幅を持たせた異年齢児の編成にすることにより、子ども同士の育ち合いや生活の仕方、きまりの大切さ、人間関係、遊びの伝承等が時間をかけて育まれていくように職員と検討し、準備を進める事とした。また、教育・保育を豊かにする為に、園運営の中核を支えるリーダー的存在である職員が中心となり、園内研修の充実や語り合いの風土の構築を行った。さらに保育を共に創るパートナーとして地域や保護者の方と共催し、季節に応じた体験型の学びに重点を置き実践した。

放課後児童クラブについては、登録人数が定員以上となり、高学年は利用日数を調整しながら可能な範囲でニーズに対応するように努めた。園舎内にある特性を活かし、乳児のお世話をしたり、幼児と一緒に活動したりと日常的に交流を図ることができた。

【入所状況】

4 月に新入園児 20 名を迎え、174 名でスタートした。年度途中入所は 23 名、転居など家庭都合による途中退園が 3 名いた。3 月末には 200 名在籍となり、全体の年間入所率は 87.2％であった。

【年度事業目標・年度重点施策への取り組み】

１．保育の質の向上

（ア）主体性を育むために乳児はゆるやかな育児担当制保育、幼児は各活動の時間帯に幅を持たせた日課の中で、一人ひとりが見通しを持って生活できるような環境や保育教諭の援助を行う事が出来た。

（イ）「共に創る保育」を目指し、『お仕事体験』と題して、保護者の仕事内容を紹介してもらい、園児が体験しながら様々な職種について知る機会となり興味の幅が広がった。保護者の方も保育に関わることで園の教育・保育への関心が高まった。

（ウ）外国籍家庭（利用園児数の１割強）への情報を保障する為、ドキュメンテーションやおたよりの翻訳、懇談会や面談の通訳等を行った。保育者とのコミュニケーションでは、写真を用いたり、身振り手振りや翻訳アプリ等を活用し信頼関係の構築に努めた。

（エ）2026 年度から開始する 3～5 歳児の異年齢児保育の準備として、専門の講師を招いて年間を通して学びを深めることが出来た。準備や話し合い、保護者への説明会等を計画的に進めることが出来た。

（オ）園運営の中核を担うリーダー的存在の職員が中心となり、園の課題からテーマを検討し、園内研修を定期的に実施することが出来た。保育観の共有や語り合う風土作りに繋がった。

２．統合保育・他機関との連携

（ア）保育者が統合保育についての学びを得るために、他機関（療育施設等）との定期的な連携を図り、互いの情報を共有しながらこども園としての施設特性を活かした支援へと繋げた。

（イ）家庭（保護者）支援などの配慮が必要な場合には、磐田市の子ども未来課や幼稚園保育園課等と連携を図りながら、個別に丁寧に対応した。

４．地域における公益的な取り組み

（ア）畑や田んぼ活動を通して、地域の高齢者とのつながり世代を超えた交流の機会を持った。

（イ）看護師による地域の乳児への身体測定や健康相談を実施した。

（ウ）月１回の園庭開放に加えて、ベビープログラムを開催して地域の子育て家庭が集う場や相談できる環境を提供することができた。

５．放課後児童クラブ“オリーブ”

定員を超えた利用希望があり、高学年の日数を調整しながらニーズに対応した。外国にルーツを持つ児童は、学習に対して言葉の壁もあり、通訳が補助について指導を行った。学習や遊び、生活スケジュール等を児童が主体的に行える環境を整えた。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数（名）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	計	月平均
０歳児	5	5	6	7	9	9	11	13	15	19	21	21	141	11.8
１歳児	24	25	25	26	26	27	27	28	28	28	28	28	320	26.7
２歳児	30	29	29	30	30	31	31	31	31	31	31	31	365	30.4
３歳児	36	36	36	37	37	37	37	38	38	37	37	37	443	36.9
４歳児	39	39	40	40	40	40	40	41	41	41	41	41	483	40.3
５歳児	39	39	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	478	39.8
計	173	173	176	180	182	184	186	191	193	196	198	198	2230	185.8

②保育日数及び延べ出席(利用）状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	計	月平均
延べ人数(名)	3,151	2,982	3,456	3,735	2,625	3,417	3,806	3,061	3,505	3,230	3,229	3,533	39,730	3310.8
保育日数(日)	25	25	26	26	25	24	26	23	24	23	22	25	294	24.5
一日平均(名)	126.0	119.3	132.9	143.7	105	142.4	146.4	133.1	146	140.4	146.8	141.3	135.1	135.1
延長保育(名)	9	12	13	7	14	14	12	3	11	11	19	17	142	11.8
学童保育(名)	553	501	528	645	561	523	546	375	517	471	401	571	6192	516
病後児(名)	1	4	25	6	2	0	0	2	0	4	0	1	45	3.8
外国人保育(名)	16	16	18	19	20	21	21	24	24	25	25	25	254	21.2

③職員の状況（名）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正・パ)	24・15	24・15	24・16	24・16	24・16	24・16	23・16	23・16	23・16	23・16	23・16	23・16
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(正・パ)	1・5	1・5	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・5
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補助他・ｱﾙﾊﾞｲﾄ	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
計	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	52

聖隷こども園こうのとり豊田

2025年度は、選ばれる園となるために地域に根差し開かれた園としての歩みを進めた。園見学や入園説明会の機会を設ける他、園行事への地域住民の受け入れを通して、子どもたちは世代を超えた交流を経験し、豊かな人間性と社会性を育む機会となった。また、未就園児家庭を対象とした園開放や育児相談を実施し、地域における子育て支援の拠点としての役割を果たした。

教育・保育の質向上を目的として、職員の専門性および実践力の向上に取り組んだ。子どもの発達理解、安全管理、環境構成の工夫などをテーマに実践に即した学びを通して、子ども理解の深化と保育内容の改善を図った。加えて、職員間の情報共有と連携を重視し、チーム保育の充実を図ることで安定した教育・保育の提供につなげ、職員の専門性向上と組織力の強化を進めることができた。

【入所状況】

4月に新入園児25名を迎えて155名でスタートした。年度途中は入園が16名（内1名が広域通所)、退園4名であった。最終的には2、3号認定が定員140名に対して113.6%、1号認定が定員15名に対して73.3%の入所率であった。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 教育・保育の質の向上への取り組み

(ア)教育・保育理念を理解し実践する

乳児保育では、副主任・専門リーダーを中心に担当以外のクラスについても事例検討を行い共に保育を考えた。そして、乳幼児の主体性を大切にした教育・保育を目指し、園児の成長や発達、興味や関心を子どもの姿より捉え、定期的に保育環境や日課等を整えた。

(イ)家庭と連携して子育てを共有する

保育支援システム（コドモン）を通して、子どもの学びの過程や育ちについて写真を用いて視覚的に伝えることで保育の可視化に繋がり、保育や子育てについて家庭と共有することが出来た。年間を通じて保育参加を推奨し、日頃の保育の状態を確認してもらった後に面談で園児について分かち合う機会を持つことが出来た。

2. 保育の専門性の向上と働きやすい職場環境の構築

副主任が主幹保育教諭と共に業務改善の為の仕事内容等について見直しを行い、担当の業務内容を園全体に可視化することで、担当（クラスや行事）の枠を超えて役割を担うことが出来た。その過程において職員間の協同性にも繋がった。

3. 統合保育・専門機関との連携

ハンディのある子ども・ない子どもが一緒に生活し学び合い、子どもたちの発達に合わせた個別の支援と集団保育を両立させる取り組み（インクルーシブ保育）を行った。

また、磐田市こども発達支援センターからの巡回相談員の定期訪問を利用することで専門的な視点からアドバイスを受け、保育方法を検討する機会を持つことが出来た。

4. 地域に根ざした取り組み

地域の老人クラブの方を七夕やクリスマス会などの季節の行事に招待したり、子どもたちが公民館へ行き、歌やダンスを披露する等交流の機会を多く持つことが出来た。また、

地元の畑を借りて野菜作り、サツマイモ掘りなどを体験することが出来た。

5. 地域における公益的な取り組み

地域行事への参加や交流活動を通して、世代を超えたつながりを育んだ。また、未就園児親子を対象とした園庭開放の実施により地域に開かれた子ども園として、子育て支援の構築に努めることが出来た。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	6	6	8	10	10	15	16	16	16	17	17	18	155	12.9
1歳児	24	24	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	297	24.8
2歳児	26	27	27	28	28	28	28	28	28	28	28	28	332	27.7
3歳児	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408	34
4歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33
5歳児	32	32	32	32	33	33	33	33	33	33	33	33	392	32.7
(内広域)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1
計	156	132	159	163	164	169	170	170	170	171	171	172	1992	166

②保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2,853	2,818	3,174	3,266	2,591	3,074	3,486	2,774	3,081	3,032	2,550	3,143	35,842	2986.8
保育日数(日)	25	24	25	26	25	24	26	23	24	23	22	25	292	24.3
一日平均(名)	114.1	117.4	127	125.6	103.6	128.0	134	120.6	128.4	131.8	115.9	120.9	1471	122.6
一時預かり(名) (内こひつじ)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	27 (27)	14 (14)	6 (6)	9 (9)	8 (8)	5 (5)	9 (9)	11 (11)	3 (3)	107 (107)	8.9 (8.9)
一時預かり(名) (幼稚園型)	26	32	2	2	3	2	5	30	20	4	3	1	130	10.8
延長保育名(名)	0	1	4	0	7	5	5	12	8	8	8	15	73	6.08
学童保育(名)	118	87	98	161	186	91	102	73	95	91	58	100	1260	105

③職員の状況 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	18	20	20	20	20	18	18	18	18	18	19	19
保育教諭(パ)	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14	14
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師 (パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
調理師(正・パ)	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員・子育て支援員(パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	45	47	47	47	47	46	46	46	46	46	47	47

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘

聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘　聖隷訪問看護ステーション富丘

2025 年度は安定した組織運営のもと、各事業所が支援の質向上のために時間を費やしてきた。また、地域とのつながり作りに取り組み、地域の声を聴く機会を設けることで、利用者のみならず複合施設として地域のニーズに沿ったサービスの展開を目指した。各事業所の職員が共に取り組むワーキンググループの活動では、豊かな専門性を生かし連携を強化することで、利用者支援の充実へとつながった。引続きそれぞれの専門性を活かし、多様性の中で育ちあう教育・保育、療育を提供できるよう連携を図りながら、多様性を認め合い誰もが人間らしく幸せに暮らせる社会を目指していきたい。

1.施設運営

（ア）複合施設として、3 事業で連携を図りながら支援を展開することで、利用者支援の充実につながった。

（イ）3 事業合同のワーキンググループを通じ、職員の意見を反映させた取り組みを実現することでモチベーションを向上させ、主体的な行動へとつながった。

（ウ）法人内外の研修に参加し、事業所間で伝達研修を行うことで、施設全体の専門性の向上につながった。

（エ）適切な職員配置を徹底しながら、柔軟な職員配置を行った。

2．聖隷こども園こうのとり富丘

（ア）見合う保育の実践やドキュメンテーションの勉強会を行い、保育の質向上に努めた。

（イ）保護者向け救命救急講習等を実施し、子どもの育ちについて共に考える機会となった。

（ウ）会議内での意見交換や座談会を通して職員の声を業務へ反映し、意欲へとつながった。

（エ）他事業所の職員と共に保育に関わる計画を立て実践することで、多角的に子どもの育ちや保護者支援を考えることにつながった。

3．聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

（ア）個々の障がい特性や生活年齢に配慮したグループによる個別性の高い支援の開始。

（イ）コンサートやプラネタリウムなど家族がともに活動する喜びを創出するイベントの実施。

（ウ）地域の各会議へ参加､Instagram 作成等地域とのつながりを広げていく取り組みを継続。

（エ）専門職による勉強会や聖隷浜松病院との合同勉強会を開催し､支援力向上につながった。

4．聖隷訪問看護ステーション富丘

（ア） カンファレンスでの事例検討を行い、個別性のある看護計画への変更を行った。

（イ） ケアマネ、相談員を訪問し、利用者の情報共有、相談を行いケアに反映させた。

（ウ） 有休取得の声掛け、パソコンの配置等職場環境を整え作業しやすい環境作りを実施。

5．地域における公益的な取り組み

（ア） 地域に向けて施設開放を 2 回開催した。(夏の施設開放、コンサートの実施)

（イ） 地域の特別支援学校の分校との交流や、地域の中学生の職場体験の受け入れを行い、子どもたちとの交流につなげることができた。

（ウ） 施設見学や実習・ボランティアを各事業が年間を通して受け入れた。

６．保育環境の改善、施設整備

（ア） 修繕と整備…ネット遊具・園庭遊具の修繕・砂場の整備、厨房内水漏れ修繕等。

（イ） 購入…園庭用タープ、タープ支柱周り用フェンス、パソコン等

【数値実績】

■聖隷こども園こうのとり富丘

① 歳児別入所保育児童数（名） 定員 129 名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	10	10	12	14	15	16	19	19	19	20	20	20	194	16.1
1 歳児	21	21	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	262	21.8
2 歳児	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276	23
3 歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27
4 歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26
5 歳児	26	25	25	25	25	26	26	26	26	26	26	26	308	25.6
計	133	133	135	137	138	139	143	143	143	144	144	144	1,676	139.6

② 保育日数及び延べ出席(利用）状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数（名）	2,524	2,383	2,611	2,226	2,126	2,626	2,953	2,375	2,609	2,539	2,329	2,237	29,538	2461.5
保育日数（日）	25	24	25	26	25	24	26	23	24	23	22	25	292	24.3
一日平均（名）	100.9	99.3	104.4	85.6	88.5	109.4	113.5	103.2	108.7	110.3	105.8	89.4	1,219	101.5
一時預り（名）	0	1	4	5	1	7	5	3	3	5	2	2	38	3.1
延長保育（名）	6	1	6	14	7	19	8	8	14	6	5	9	103	8.5
病後児（名）	0	1	2	0	3	0	1	0	12.5	0	0	0	19.5	1.6

③ 職員の状況（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正･パ)	23･14	24･14	24･14	24･15	24･15	24･15	25･16	24・16	23・16	24・17	24・17	24・17
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	1・8	1・8	1・8	1・8	1・8	1・7	1・7	1・7	1・7	1・8	1・8	1・8
事務員(正・パ)	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1
補助他・ｱﾙﾊﾞｲﾄ	1・0	1・0	1・0	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	2・1	2・2	2・2
計	50	51	51	52	52	51	52	51	50	54	55	55

■聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

利用者定員	10 名
利用者延べ人数	2,936 名
一日平均利用者数	12.0 名
稼動率	120.8%
稼動日数（延べ）	243 日
単価	20,506 円
常勤換算職員数	9.5 名

■聖隷訪問看護ステーション富丘

平均利用者数	97.5 名
月間訪問件数	472.7 件
年訪問件数	5673 件
単価	10,756 円
常勤換算職員数	8.8 名

在宅･福祉関東ブロック

2025 年度は、各事業で ICT 導入後蓄積されたデータの活用を進め、職員負担を軽減して働きやすい環境とサービスの質向上を目指したが、各事業での成果にばらつきがあった。

利用者のニーズを尊重し、質の高いケアを最優先として各事業が取り組んできたが、一部浦安地区にて利用者の安心安全が確保できていないことが複数件発生してしまい、職員とともに考え職員一人ひとりが成長する学びの必要性を痛感した。

人材確保については、2025 年度から特定技能 1 号外国人の受入れを開始した。職員が働きやすい環境づくりと職員がやりがいを持ち成長するために考える時間が確保できるよう、今後も受入れを継続していく。

【在宅・福祉関東ブロック理念】

「地域への感謝と貢献」

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【2025 年度目標】

１．ICT 活用により職員負担を軽減して働きやすい環境とサービスの質向上を実現する
２．質の高いケアを最優先とし、職員の専門性向上のため継続的な教育と研修を実施する
３．円滑なコミュニケーションとチームワークを促進によりモチベーション向上を目指す
４．職員が具体的な倫理的対応を学び、利用者の権利と尊厳を守るケアを提供する
５．魅力的な職場環境のアピールを通じて適切な人材を確保し、職員数不足を解消する

【浦安市高州高齢者福祉施設及び浦安市猫実高齢者デイサービスセンター】

１.第 5 期高洲高齢者福祉施設指定管理の指定更新

（ア）2026 年度から 5 年間（第 5 期）について指定管理者の指定を受けることができた。

２.ケアハウス入居者への適切な対応

（ア）外出支援や交流プログラム等の活動を継続し、閉じこもり・フレイル予防を図るとともに、退去が必要な入居者については家族や関係事業所と連携し、状態に応じた適切な支援を行った。

３.利用者個々のニーズに合ったサービスの提供

（ア）認知症ケア・ACP（アドバンス・ケア・プランニング）・嚥下プロジェクトを通じて個別のニーズを把握、アンケートにより利用者や家族の思いを共有しサービス提供を行った。

４.魅力ある職場づくり

（ア）インカム導入により業務を中断することなく円滑な情報共有が可能となり、利用者への見守りを継続しながら職員間でタイムリーに協力・支援できる環境が整うなど、働きやすい魅力ある職場づくりを推進した。

【浦安せいれいの里】

浦安愛光園

1.高洲地区での相談員同士の連携強化と仕組みづくり

（ア）合同総合相談支援会議を開催し、相談員同士の連携強化や多職種による課題共有・検討を行い、入居者・家族・待機者の利便性向上と複合的・複雑化した課題に取り組んだ。

2.新たな人材の確保

（ア）特定技能1号外国人を介護職員として1名採用した。

3．理念や基本方針を継承する機会を増やす

（ア）毎月のリーダー会議、ユニット会議にて、理念や基本方針の確認を行った。

浦安ベテルホーム

1.職員が、専門職としての自覚を持ち、その取り組みが評価される組織づくり

（ア）職種別ラダーを活用して各職種のアセスメント力向上を図り、入所後評価やサービス担当者会議を通じて多職種協働によるケアマネジメントを実施した。

（イ）施設間交流を通じて各々が自らの職場の課題に気づき、会議等を活用しながら解決に向け主体的に取り組むことができた。

2.浦安市内及びその近隣地域での認知度を高め、利用されることで経営を安定化

（ア）合同総合相談支援会議を通じ、多職種で連携しながら、親の呼び寄せや急な介護者不在など地域課題への対応を行った。

（イ）病院との渉外活動に加え、退院調整看護師と施設看護師の相互研修を通じて相互理解を深め、円滑な連携と紹介数の増加につなげた。

【松戸愛光園】

1.ICT技術を活用した個別ケアの充実

（ア）睡眠データを活用して夜間排泄のタイミングを見直すことで、日中の活動量や食事量の増加につながるなど、個別性の高いケアを実践した。

2.職員が安心して長く働き続けることのできる職場環境

（ア）移乗機器や福祉用具の活用を通じて職員の身体的負担軽減に努めるとともに、インカム導入により職員間連携を円滑化し、利用者と関わる時間の確保につなげた。

3.事業継続を見据えた計画的な修繕計画の立案と実施

（ア）優先順位に基づき、外壁タイルの一部・天井水漏れ・玄関庇の修繕を行うとともに、非常用照明器具や防犯カメラ設備の更新を実施し、安全･安心な施設環境の整備を進めた。

【横須賀愛光園】

1.業務効率化の更なる推進とサービスの質の向上

（ア）役職者全員にマネジメント研修を実施し、職場運営に必要なことを再確認した。

（イ）共同送迎システムの運用を開始し、複数事業が連携した効率的な送迎業務を実施した。

2.職員の資質向上と人材の確保

（ア）介護技術チェックを実施し介護の質向上を図る一方、介護支援専門員等の育成と確保は進展が乏しく、相談業務への理解促進が継続課題となった。

3.障がい者日中活動の試行継続と事業推進

（ア）障がい者日中活動サービスは、改めてニーズの検討を行うこととした。

浦安市高洲高齢者福祉施設及び
浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
浦安市ケアハウス
浦安市高洲高齢者デイサービスセンター
浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

1999 年度から浦安市にて高齢者福祉事業の運営を開始して 25 年が経過し、2025 年度には継続して第 5 期〔2026 年度～2030 年度〕の指定管理者として浦安市高齢者福祉施設の運営を受託することができた。また、指定管理であった浦安市猫実高齢者デイサービスセンターについては 2026 年度から法人が設置運営する事業となり、更に地域住民のニーズに応える事業へと継続していく。

人材確保については、2025 年度より特定技能 1 号外国人を受入れ、外国人も働きやすい職場環境を職員とともに模索していくことが開始された。今後も浦安市民へ安心安全なサービスが提供継続できるよう、職員一人ひとりの学びや成長できる環境も取り組んできたが、成果としては複数年の継続の先にあると考える。今までの既成概念に捉われることなく、職員が利用者のために取り組みたいサービスに挑戦できる組織で在り続けるための理念継承も複数年の継続で進めていく。

【施設理念】

“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

【運営方針】

1．私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します
2．私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します
3．私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します
4．私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します
5．私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします

【事業報告】

1．　入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する

（ア）　特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

① 認知症プロジェクトを継続し、個々の認知症状を分析、介護介入ができた。困難事例に対しプロジェクトで介入方法を検討・実施するなどフロアを越えて共有ができた。

② サービス担当者会議に家族に参加いただき意向確認を実践した。入院などで体調が変化した際も「どのように暮らしたいか」を確認することにより、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を意識し、その人らしい暮らしや最期を共有する機会を得た。

③ 管理栄養士の増員に伴い栄養マネジメント強化加算を取得し入居者の栄養状態、食事摂取量、摂食・嚥下の状況、食欲・食事の満足感、嗜好を踏まえた食事の調整や、姿勢、食器、食事の介助方法等の食事環境の整備等を実施することができた。

④ 家族会は実施できなかったが、入居者・利用者アンケートにより入居者・利用者、家族の思いを共有し、サービスの質の向上につなげていく。

（イ） ケアハウス

① クリーンデイ・たねまき隊・折り紙の会・買い物便などを継続し、閉じこもり・フレイル予防を継続した。

② 体力測定結果が入居者自身の生活改善につながるよう資料を提供し、個々の状態に応じた動機につながる取り組みとした。

③ 入居者とリスクを共有し、ケアマネジャーやサービス事業所、家族の協力をいただきながら予防に努めた。

（ウ） 通所介護

① 高洲デイサービスでは人員配置を強化し中重度者の受け入れを積極的に行い、猫実デイサービスでは栄養士の配置を活かし利用者への栄養アセスメントとアドバイスを実施できた。

② 日頃の利用者への体調管理の呼びかけと利用中の状態観察を行うとともに、状態変化の見られた利用者・家族・ケアマネジャー等との速やかな情報共有の実施、欠席者や欠席者家族・ケアマネジャーへのこまめな連絡での状況確認をし、利用再開時の柔軟な受け入れを行えた。

③ 担当者会議やアンケート、日頃の関わりの中で在宅生活状況やニーズの把握に努め、日々のカンファレンスや職場会議等で検討した内容を共有・提案することができた。

④ 送迎システムを導入し、無理のない送迎ルートの作成ができ安定的な送迎をすることができた。

⑤ 総合事業指定基準緩和通所事業デイサービスA型は毎月の事業所訪問等で積極的に案内を行ったが、ニーズがなく利用される方はいなかった。現在要支援者の方でも長い時間利用したい、入浴支援を受けたいというニーズが高くなっている傾向がある。

２． 職員が専門職としてやりがいを持ち、魅力ある職場づくりを行う

（ア） 各専門職ラダー評価と目標参画面談を通じて職員の能力と実現したいことを可視化、自主性の向上を図りながら、職員それぞれの取り組みを支援した。

（イ） 施設ケアマネジャーを中心に、フロア職員が利用者のケアプラン立案・実践・評価を行い、カンファレンスを通してフィードバックし合う環境が実現できた。サービス担当者会議では利用者・家族の意向を確認しながらケアプランに反映する機会となった。

（ウ） 常に職員同士の声かけを行い、業務の確認だけでなく良好な人間関係作りに注力した。また、若手の思いを聴く会を定期的に実施し、若手同士の思いの共有や職場を越えて浦安地区の職員で支援し合うことができた。特定技能１号外国人を迎えるにあたり、マニュアルに母国語やひらがな表記を添えるなど言葉や知識の壁を職員全体で受けとめ、支えることができた。

（エ）　喀痰吸引等研修および介護福祉士実務者研修の医療的ケア研修施設として２回の研修を開催したほか、資格取得では、ユニットリーダー研修において１名が研修を修了した。

（オ）　インカムを導入したことにより業務中断をすることなくコミュニケーションを取ることができ、利用者から目を離す場面が減った。また、お互いの状況を知ることによりタイムリーに協力･支援することができた。デイサービスにおいては送迎システムを導入し、送迎ルート作成時間が削減され、利用者への直接介助をゆとりをもって行えるようになった。

３．経営の安定化

（ア）　特別養護老人ホーム

①　ICT（HitomeQ コネクト）を活用し、待機者の現在の状況を定期的に確認、可視化することを目標としたが、タイムリーな情報更新には至っていない。死亡を含む退所件数も増えており、退所に対する入所件数が追いつかない状況であった。

②　多職種が連携し、入居者の日々の健康管理を徹底し肺炎や尿路感染など高齢者に起こりやすい病態での入院を減らすことができた。また、協力医療機関とも連携をとり速やかに入退院調整を行った。

（イ）　短期入所生活介護

①　医療機関からの退院まもない状態や持病のある方には、看護師や利用フロア介護職員による利用前の自宅訪問により、個々のニーズに合ったサービスを提供した。また、ICT（ひまわりシステム）等活用により、申し込みしやすい環境を整えた。

②　緊急、措置利用の受け入れの際、迅速な調整、支援により 10 件の受け入れを行った。

（ウ）　ケアハウス

①　退去が必要な入居者と家族との情報共有とサービス事業所等との連携で、入居者の状態に応じた対応となるよう努めた。

②　入居者が安心できる生活の継続や建物設備の有効活用に向けて、浦安市との協議を継続している。

（エ）　通所介護

①　２つのデイサービスで特色を分けることで、さまざまな利用者の状態に合わせサービスを提供し、両デイサービス共に８割を超える利用率を維持できた。

②　支援を継続し、定期的な評価の状態により新たに栄養補助食品の提案にもつなげることができている。

③　口腔・嚥下機能維持のため、食前に口腔体操を実施した。また、口腔衛生に向けてデイサービスでの口腔ケアへの促しや、民間の「無料お口の相談会」を受入れ実施した。

④　OJT を活用し介護技術のスキルアップ、法定研修も含めた研修への積極的参加により知識を高めることができた。医療ニーズが高い方の受け入れについては利用前の細かい情報収集とそれによる支援のポイントを全職員に共有した。

⑤　併設される短期入所事業所との連携を強化し、両事業所を利用されている方の利用中の様子や体調変化などの情報共有を密に行うことで包括的に支援することができた。介護老人保健施設退所後の受け入れも積極的に行い継続して支援することができた。

４．　災害対策・感染症対策の体制確立

（ア）　協力医療機関と毎月連携会議を行い利用者の情報共有を行ったほか、協力医療機関の感染予防対策委員会の研修に参加して、手指衛生の適切な方法について理解を深め、職員に周知した。

（イ）　防災及び感染 BCP の研修と訓練を実施し、役割分担や対応手順の確認を行い、改善点の整理を通じて緊急時の対応体制の整備を推進した。

５．地域における公益的な取り組み

（ア）　各専門職の実習、職場体験の受け入れを行った。
看護師実習受け入れ 27 名、歯科衛生士実習受け入れ 19 名、職場体験 6 名（中高生）
介護等体験受け入れ 6 名（小中学校教諭免許取得希望者）

（イ）　ボランティアを延べ 9 名受け入れた。

（ウ）　うらやす健康・元気コンソーシアムに継続参加を行った。

（エ）　ケアハウスで緊急一時保護の受け入れについて相談対応を 7 件行った。

【数値実績】

	特養入所	短期入所	ケアハウス	通所介護（高州デイ）	通所介護（猫実デイ）	総合計
利用者定員	100 名	50 名	50 名	25 名	25 名	250 名
利用者延べ数	34,025 名	14,916 名	6,904 名	5,948 名	6,336 名	68,129 名
稼働延日数	365 日	365 日	365 日	307 日	307 日	―
一日平均利用者数	93.2 名	40.9 名	18.7 名	19.4 名	20.6 名	192.8 名
稼働率	93.2%	81.7%	37.4%	77.5%	82.6%	―
単価（1 人 1 日当り）	―	―	―	―	―	―
常勤換算職員数	72.1 名	23.9 名	5.2 名	10.0 名	12.7 名	123.9 名

介護老人福祉施設　浦安愛光園

2025 年度は浦安せいれいの里に総合相談支援室が設置され、相談部門の連携強化と仕組みづくり行った。毎月の会議にて、他部署、多職種で複合的・複雑化した課題の共有・検討を行ってきたが、課題解決には至らなかった。2026 年度は、会議の在り方を精査し、速やかに地域・個々のニーズに合ったサービス提供ができるよう取り組んでいく。

また、2024 年度より取組みを開始した認知症チームケアは、加算取得には至っていない。しかし、毎月の委員会にて困難ケースの検討をしたことで、職員全員の認知症対応力は向上した。

新たな人材として、特定技能 1 号の受け入れをした。外国人職員の教育について検討している。2026 年度も継続課題である。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

１．それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します

２．家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します

３．一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

１．職種ごとに専門性を高め安全で質の高いサービスを提供する

（ア）相談部門

① 浦安せいれいの里総合相談支援室長からの OJT を受けながら、ソーシャルワークを実践した。複雑化した課題に対して、多職種で共有検討を行ったが、解決には至らなかった。

② 総合相談支援室が中心となり、高洲地区の相談員同士が連携することで、必要なサービス提供ができた。

③ 夏祭り、高洲中学校吹奏楽部のボランティアを受け入れ、入居者の QOL 向上に努めた。

（イ）看護部門

① 毎月協力医療機関との連携会議を開催し、個別ケースについての情報共有を行った。

② 高洲地区にて年 2 回の感染についての研修を実施した。職員一人一人の感染対応手技の確認を実施した。

（ウ）介護部門

① 施設ケアマネジャー主催の勉強会を実施し、ケアプランについての理解を深めた。個別ケアの統一を図るため、基本ケア一覧表の見直しを行った。

② 転倒・転落事故発生時、見守りシステムの映像を確認し事故発生時の状況把握はできたが、具体的な再発防止対策検討までには至らなかった。

③ 認知症介護実践リーダー研修修了者が認知症ケア委員会のメンバーとして毎月の

委員会にて個別ケアの評価をし、ケアプラン内容の評価をすることができた。

④ 季節ごとの行事に加え、ユニット単位での喫茶レク、体操、家庭菜園など日々のレクリエーションを充実させ、外出企画として近隣の公園へのお花見を実施できた。

⑤ 浦安地区にて重大事故が発生し、入浴介助のマニュアル、技術チェックの見直しを行った。

2．多様な人材の確保・育成の継続

（ア）毎月のリーダー会議、ユニット会議にて、理念や基本方針を確認した。

（イ）リーダー1 名がユニットリーダー研修、スタッフ 2 名がユニットケア研修を受講することができた。

（ウ）特定技能 1 号外国人 1 名を介護職員として採用した。

（エ）特別支援学校の実習生受入れは機会を設けることができなかった。

（オ）毎月高洲地区での看護部会を開催しており、課題検討はしているが、次期役職者の育成には至っていない。

（カ）高洲地区でのダイバーシティについて検討、共有する機会は持てなかった。

3．地域共生社会の実現

（ア）障がい福祉サービスから介護保険サービスに移行するケースが 2 件あり、介護保険サービス事業所と連携を図りながらスムーズな制度移行が実施できた。

（イ）聖隷訪問看護ステーション浦安と連携しながら 9 ケースの相談支援を行った。

（ウ）基幹相談支援センター主催の事例検討に 3 回、研修会に 3 回参加し、相談援助の実践に活かした。

4．経営の改善と業務効率化の継続

（ア）入居と空床ショートステイを合わせて稼働率 97.9%であり、目標達成となった。

（イ）HitomeQ コネクトベーシック 100 の導入を検討したが、費用対効果を考慮し、導入を見送った。

（ウ）見守りシステムやシャワーミスト等の介護テクノロジーを導入し運用を開始しているが、新たな運用方法の確立までには至っていない。

（エ）毎月の生産性向上委員会で業務の見直しを行い、アンケートを実施して精神的・身体的負担が軽減した職員が増えたことを確認した。

（オ）計画していなかった修繕が多くあり、老朽化した空調設備の更新はできなかった。

（カ）他事業所より情報収集し、地域ニーズの把握はできたが、新しい事業展開までには至らなかった。

5． 防災・防犯体制の強化

（ア）高洲地区にて年 2 回の研修と訓練を実施し、マニュアルの見直しを行った。

（イ）高洲地区にて災害発生時の総合訓練を実施した。

（ウ）防犯訓練を通して、防犯必要物品の見直しとマニュアルの更新を行った。

6． 地域における公益的な取組みと地域貢献

（ア）第 4 土曜日に近隣公園での清掃活動を 7 回実施した。

（イ）浦安市内 2 か所の小学校にて、高齢者疑似体験等の介護教育講座を開催した。

【数値指標】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74名	—	—
利用者延べ人数	26,438名	430名	—
一日平均利用者数	72.3名	—	—
稼働率	97.9%	—	—
稼働日数（延べ）	365日	243日	—
単価（一人一日当たり）	16,477円	15,421円	—
職員数（常勤換算）	51.9名	1.0名	52.9名

介護老人保健施設　浦安ベテルホーム

2025 年度は、浦安ベテルホームが浦安市内唯一の介護老人保健施設として、多くの利用者に活用いただくために在宅復帰目的の利用者に限定せず、特別養護老人ホームなどの施設待機を目的とした利用者も積極的に受け入れた。上半期の稼働は苦戦したが、医療機関への渉外活動及び居宅介護支援事業所や地域包括支援センターにも渉外活動を行うことでベテルホームの活用方法について認知され、下半期の稼働率は上昇した。利用者に安心・安全に利用いただける施設となるため身体拘束・高齢者虐待防止の取り組みを行ったが不適切な対応もあり、職員教育は引き続き重点課題として取り組んでいく。

【施設理念】
私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】
１．それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
２．家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
３．一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】
１．職員が専門職としての自覚を持ち、その取り組みが評価される組織づくり
（ア） 全職種が自らの専門性を高められるように職種別ラダーの活用を通してアセスメント力を向上し、入所後評価、サービス担当者会議など多職種で意見を出し合い、協働でケアマネジメントを実施することができた。
（イ） 浦安地区内の施設から職員の応援を受ける形で施設間交流を実施し、各々が自ら職場の課題に気づき、リーダー会などの会議を活用し主体的に解決できる機会を持てた。
（ウ）介護生産性向上委員会を中心に「介護 DX」を推し進め、職員の負担軽減と業務の効率化を進めることを目指したが、稼働率上昇に伴う利用者対応の増加があり、職員超過勤務は引き続きの課題である。

２．浦安市内及びその近隣地域での認知度を高め、利用されることで経営を安定化
（ア）入所までの流れを見直し、相談から判定結果の回答までの期間を短縮した。また、病院への渉外活動だけでなく退院調整看護師と施設看護師の相互研修の機会を持つことによりお互いの機能や役割の理解が深まり、スムーズな連携と紹介数の増加に繋がった。
（イ）在宅療養支援の視点で聖隷福祉事業団の浦安地区のサービスをワンストップで提供し、より密な事業所間の連携ができる体制を検討する場として、合同総合相談支援会議を開催し、親の呼び寄せや急な介護者不在の対応などの事例に対応した。
（ウ）通所リハビリテーションの強みとして「卒業できる」事業所運営を目指したが、セラピストの退職が続いたことで、利用者へ積極的なリハビリテーションの機会を提供できる事業展開には至らなかった。

３．防災・防犯体制の強化

（ア）南海トラフ地震の発災を意識し訓練等を企画・実施した。浦安地区 BCP に沿った防災・防犯・風水害対応を実施することで、災害時にも利用者・職員を守れる施設運営体制を再確認した。今年度、地震で施設が揺れた場面においては職員個々が利用者の安全を優先し被害確認、他部署との連携ができていた。

（イ）協力医療機関との連携を深め、感染症対策の研修参加を通して適宜感染症対応の見直しを行うことにより、地域での感染症まん延時にも施設内に感染を拡大させなかった。

４．地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進

（ア）合同地域貢献委員会及び浦安ベテルホーム地域貢献委員会のメンバーが中心となり、介護予防教室への講師派遣やカメ公園プロジェクトや高洲フェスティバルなど地域活動への積極的な参加を通して地域住民と関わる機会を増やした。

（イ）浦安地区の施設が持っている機能を、地域住民に知ってもらい活用される機会を増やすために、地域包括支援センターと「できることポスター」を共有し、地域ケア会議の場でも地域の関係機関と内容を共有した。

５．社会福祉施設の役割遂行

（ア）無料又は低額老人保健施設事業の広報活動を行い、事業対象者を増やし生活保護受給者の受け入れも継続的に行ったが、事業基準（10%）まで届かなかった。

【数値指標】

	入所	短期入所	通所ﾘﾊﾋﾞﾘ	総計
利　用　定　員		100 名	45 名	145 名
利 用 者 延 べ 数	28,422 名	1,579 名	8,004 名	38,005 名
一日平均利用者数	77.8 名	4.2 名	26 名	108 名
稼　　動　　率		82.2%	57.9%	－
稼動日数(延べ)		365 日	307 日	－
単価(1 人 1 日当り)	16,681 円	21,766 円	11,952 円	16,780 円
職員数(常勤換算)		67.9 名	13.6 名	81.5 名

聖隷訪問看護ステーション浦安

2025 年度は、2024 年度に引き続きサービス活動増減差額を上げるために営業活動に力を入れ、人件費と収益のバランスをとるよう調整をしてきた。また、市内の拠点病院である順天堂大学医学部付属浦安病院と東京ベイ・浦安市川医療センターの地域連携看護師の研修受け入れをしてきた成果もあり、新規依頼の増加につながり安定した経営を維持することができた。2025 年度から新規依頼のあった地域住民への出前講座や医療観察制度の受け入れを決めたことで 2026 年度の診療報酬で新しい加算を取得できることに繋がっている。

開設から丸 10 年を迎え、東京海上日動ベターライフサービスとの連携は一層強化しており、これからもより質の高いサービス提供を継続していきたい。

１．理念に基づき、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護の継続

（ア）利用者主体の自己決定支援は、自事業所が最も大切にしていることであり、引き続き職員の一人一人が心がけて実践できた。

（イ）カンファレンスは、利用者主体の看護やリハビリテーションについての検討やケアの統一につながった。ケアの質向上のために「判断力トレーニング」の勉強会を継続的に実施できた。

（ウ）東京海上日動ベターライフサービスとは、3 ヶ月に 1 回の連携会議で情報交換しながら協働し、勉強会やケースカンファレンスも随時できている。

２． 新入職員の人材育成をしながら聖隷訪問看護ステーション浦安の運営と経営が維持できる

（ア）市内の外部環境を確認しながら、地域ニーズに沿った受け入れができた。各事業所に毎月の空き情報を送り、連携会議にも参加しながら顔の見える関係を継続できた。

（イ）人員換算訪問件数を 72 件/月とし、目標達成することができた。医療保険の機能強化型は取得できなかったが、介護保険は看護体制強化加算Ⅱを請求できた。

（ウ）新採用職員の育成に全職員で力を入れている。

３．職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場をつくる

（ア）古いタブレットは、効率的な記録入力ができないためレンタル料のかかる最新のタブレットに変更している。音声入力システムも導入したが、時間短縮の評価中である。

（イ）各職員の発達段階に合わせた研修は受講できた。全職員の目標参画面接と看護ラダーの推進が課題である。

（ウ）有給取得率は上がっている。超過勤務時間も正職員月間 20 時間以下をまではいかないが 30 時間を超えることはない。働きやすい職場について繰り返し評価をしながら改善策を立てている。

４． 地域における公益的取組

（ア）順天堂大学、SBC 東京医療大学の地域看護実習を受け、次世代の育成に努めた。

（イ）地域の連携会議に積極的に参加し、地域が目指す包括ケアシステムに貢献している。住民対象の講座や病院看護師の研修受け入れもできた。

【数値実績】

	介護（予防含む）	医療（有償含む）	合計
利　用　者	532 名	651 名	1,183 名
訪 問 件 数	3,137 件	4,097 件	7,234 件
単価（1 件当り）	9,617 円	10,506 円	10,120 円
職員数（常勤換算）	―	―	平均 8.06 名

浦安市高洲地域包括支援センター

【事業・運営報告】

１．地域における機能と役割の強化

（ア）圏域内の薬局や施設栄養士の協力のもと、有料老人ホームで自立高齢者向け口腔機能チェックを実施し、自治会の祭りやベイシニア浦安（浦安市老人クラブ連合会）では健康相談・生活相談を、明海大学祭では姿勢チェック・生活相談を行った。子供から高齢者まで幅広く立ち寄ってもらうことができ、浦安市地域包括支援センターの周知にもつながった。

シニアウェルネスサロン（SBC 東京医療大学と社会福祉協議会との共同事業）では、地域包括支援センターのミニ講座も併せて行い、介護保険制度、高齢者の施設、整理整頓など、これからに「備える」をテーマに４回行った。

社会福祉協議会が主催する転入シニアの集いでは、今年度もバスツアーを共に企画し、市内の介護予防に関連する場所を見学して参加者の身体機能に見合ったお気に入りの場所を見つけてもらい、自身で健康に資する取り組みを行えること、また参加者同士の交流を図った。

（イ）総合相談や介護支援専門員からの相談で、認知症のある方の地域での見守りや理解の促進に関する課題が明らかとなり、地域ケア会議を実施した。スーパーやその他圏域内の店舗への事前聞き取りと、コンビニエンスストアやドラッグストアの会議参加で、医療・介護・福祉以外の事業者の業務の現状がわかり、それに合わせた具体策を話し合った。また、「ひとのために何かをしたい」という高齢者が複数おり、世代を超えて支えあうことを長期的な目標とし「できること」と「手伝ってほしい」を共有する圏域地域ケア会議も行った。昨年同様、高校と中学校への認知症に関する講座にも出向き、地域での世代を越えた見守りの目を増やすことにも注力した。

（ウ）新たに日の出支所を開設したことの周知活動を各関係機関や地域住民に行った。相談実件数は 157 件、延べ件数は 249 件であった。今後日の出地区の高齢者も増加することが予想されるため、引き続き周知活動を行い認知度を高めていく

２．職員の資質向上のための取り組み

（ア）相談員スキルラダーでは対応ケースの振り返りから自身の現状理解を行い、意識的にケースに関わることができた。

（イ）浦安市主催研修や権利擁護や認知症等の研修への参加と伝達、処遇困難ケースの振り返りから制度理解や根拠法令の理解を深めた。

３．職員のやりがいと働きやすい職場づくり

（ア）処遇困難ケースでは、センター全体での情報共有・支援方針決定はもとより、対応者を限定せずチームで支援にあたった。チーム全体で相談を重ね、職員の負担感の分散を図りながら、適切な支援のため、それぞれの専門職の視点を今後も活かしていく。

（イ）市主催研修への参加を促進した一方、内部勉強会の開催には至らなかった。

（ウ）年間の活動・地域ケア会議の目標回数の達成に向けて取り組み、総合相談の件数増と虐待対応、マイプランの増加に加え年度途中で職員体制の変更もあり、超過勤務の削減には至らなかった。

【数値実績】

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ単価	常勤換算職員数
50,444 千円	予防支援 1,173 件	120 件	4,884円	7.7名
	マネＡ　　613 件	53 件	4,884円	

介護老人福祉施設　松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園
松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービス
聖隷ケアプランセンター松戸
障害者相談支援事業所　聖隷はぐくみ松戸

2025 年度の松戸愛光園では、松戸地区内における法人間の連携強化や松戸市との防災協力に取り組んだ。これまで各施設・事業所ごとに実施していた在宅サービス会議や防災訓練を合同で行うことで、より実践的で具体的な対応策を明確化することができた。サービスの質については、ICT 機器のデータを活用することで利用者一人ひとりに合わせた個別ケアの充実につながり向上した。さらに、利用者の権利と尊厳を尊重したケアの実践に向けて、関東ブロック全体で聖隷の理念への理解を深めることができた。

【施設理念】
『一人ひとりの生命と尊厳を守り、利用者主体の自立生活支援を追求する。』

【経営方針】
1. あなたらしい生活の継続
2. あなたと共に歩んできた方々と一緒に
3. あなたを思いやる気持ちを忘れない
4. あなたらしい最期の支援
5. 地域の皆さんと共に

【事業・運営計画】
１．ICT 技術を活用した個別ケアの充実を進め、地域で選ばれるサービス提供を行う
（ア） 睡眠データに基づき夜間排泄を適切なタイミングに移行できた。その結果、日中の活動量や食事量が増加するケースが増えた。
（イ） 短期入所の急な相談や依頼に対して、特養の空床を使って応えることができた。
（ウ） 歯科衛生士による定期的かつ専門的な口腔ケアと介護職による日々の口腔ケアの実践が定着した。
（エ） ACP についてはｅラーニングの研修にとどまり、利用者・家族・職員が共通理解を持てる仕組みづくりまでには至らなかった。
（オ） 個別機能訓練の対象者を拡大することでリハビリについては概ね充足した。その他個別メニューの拡充は継続して検討していく。
（カ） 短期入所・通所介護と連携を図りながら、地域ニーズの高い障害者サービスの新規利用に繋げることができた。
（キ） 松戸ニッセイエデンの園と合同で夜間想定の防災訓練を行い、夜間応援体制の課題が確認

できた。

2．職員が安心して長く働ける職場づくり

（ア） 人材育成を目的に松戸ニッセイエデンの園と浦安ベテルホームで 3 名の研修を実施した。

（イ） 移乗機器とマッスルスーツの利用促進に努めたが、対象となる利用者・職員が少なく定着しなかった。介護の基本動作や福祉用具の適切な活用方法の周知により、職員の腰痛予防や身体的負担の軽減に努めた。

（ウ） デイサービスと看護職でインカムの使用を開始した。入浴時を中心に職員同士の連携がスムーズに行われるようになり利用者と関わる時間が増えた。

（エ） 外国人材として EPA 介護福祉士候補生 1 名と特定技能 1 名を受け入れた。

（オ） 介護実習等を積極的に受け入れた。（実績　介護福祉士実習 12 名　社会福祉士実習 3 名）

3．経年劣化した設備等の更新による安全性向上と安定した事業運営

（ア） 優先順位を決めて外壁タイルの一部・天井の水漏れ・玄関庇の修繕を完了した。

（イ） 非常用照明器具や防犯カメラ設備の更新を実施した。

（ウ） デイサービスの車両 1 台を更新した。

4．社会貢献活動の実施

（ア） 松戸ニッセイエデンの園と合同で行う地域清掃活動を継続した（年 1 回）

（イ） 松戸市との合同防災訓練に参加し、福祉避難所設置施設に駆け付けた。

【数値指標】

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護	障害	介護	総合事業	障害
利用者定員	103 名	21 名		34 名		
利用者延べ数	35,859 名	7,056 名	193 名	6,079 名	1,835 名	660 名
一日平均利用者数	98.2 名	19.4 名	0.5 名	19.8 名	5.9 名	2.1 名
稼働率（%）	95.4%	94.6%		82.2%		
稼働延日数	365 日	365 日		307 日		
単価(一人一日当り)	15,917 円	15,378 円	10,898 円	9,939 円	24,817 円/月	11,219 円
常勤換算職員数	70.9 名	10.5 名		14.2 名		

	居宅介護支援		相談支援事業	
	介護	予防	特定相談支援	児童
利用者延べ数	2,062 名	372 名	258 名	49 名
単価(一人一日当り)	17,744 円	4,533 円	13,864 円	15,348 円
常勤換算職員数	5.4 名		1 名	

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園　横須賀愛光園デイサービスセンター
聖隷訪問看護ステーション横須賀　聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷ケアプランセンター横須賀　聖隷看護小規模多機能横須賀
西第二地域包括支援センター

2025 年度、横須賀愛光園では、サービスやケアの質の向上に重点をおいて取り組んだ。各事業において職員の資質向上と業務改善を進めることで、利用者に向き合う時間をつくりケアを充実させ、また職員一人ひとりの働きやすさの向上にもつながった。一方で、厳しさを増す経営環境のなか複数の事業で稼働目標を達成できなかった。それぞれの事業で目標を意識しながら運営の改善を行い、地域に必要とされる事業でありつづけることが課題である。

1. サービスの質の向上と業務効率化の更なる推進
（ア）役職者全員に対してマネジメント研修を実施し、職場運営に必要なことを再学習することができた。持ち上げないケアの推進の研修などの受講は継続課題となった。
（イ）共同送迎システムの運用を開始し、拠点内の複数事業の送迎業務を共同で実施できた。
（ウ）看護小規模多機能型居宅介護と特別養護老人ホームの共通業務を切り出し、合同で実施した。ルーチン業務において協力体制を整備するまでには至らなかった。
（エ）各職場にて接遇教育を実施した結果、応対に関する苦情は 0 件であった。利用者の満足度など客観的な評価を得て改善につなげることが課題である。

2. 職員一人ひとりの資質向上と人材の確保
（ア）入所フロアにおいて介護技術チェックを実施し、介護の質の向上につなげられた。
（イ）園内の介護支援専門員実務研修受講試験合格者は 1 名にとどまり、相談職の新規採用は 0 名であった。相談業務への理解浸透が継続課題である。
（ウ）役職者、相談員が交代するなかで業務の棚卸しは実施できたが、それぞれの業務内容のマニュアル化には至らなかった。
（エ）交通事故件数は前年度比で 3 割以上減少した。接触物損事故の予防対策が課題である。
（オ）腰痛による退職者が発生した。感染症は新型コロナウイルスの施設内拡大が 1 件あったが、前年度より発生件数を抑えられた。

3. 地域における公益的な取り組み
（ア）地域のみかん狩り行事へ園職員をボランティアとして派遣した。
（イ）地域ボランティアセンターの会議に定期的に参加するとともに、地域の慰問ボランティアに来園、活動をしてもらうことができた。

4. 利用者一人ひとりに合わせた質の高いサービスの提供と経営の安定化
（ア）横須賀愛光園、短期入所事業

フロアリーダーを中心に業務改善を進め、レクリエーション活動の充実化につなげられた。リスク対応を強化した結果、レベル３以上の転倒、転落を 50%削減できた。

（イ）横須賀愛光園デイサービスセンター

カフェ企画などサービス、活動の充実化への取り組みを行ったが稼働率の向上につなげられなかった。障がい者日中活動サービスはニーズの再検討を行うこととした。

（ウ）西第二地域包括支援センター

相談業務について WINCARE システムを活用して標準化を進められた。地域資源情報を整理し可視化することもできた。地域内の関係機関への周知が今後の課題である。

（エ）聖隷ヘルパーステーション横須賀

サービス提供責任者の業務のマニュアル化、簡素化を進め業務効率を上げることができた。登録ヘルパーを新たに２名採用することができた。

（オ）聖隷訪問看護ステーション横須賀

看護小規模多機能型居宅介護との連動体制（介護職との情報共有、業務分担）を確立できた。質の向上のため職員の研修派遣を積極的に行った。

（カ）聖隷ケアプランセンター横須賀

加算の確認体制を整備し取りこぼすことなく加算を算定できた。F-SOAIP を活用し記録方法の統一と記録時間の短縮につなげられた。

（キ）聖隷看護小規模多機能横須賀

増員が行えずフル稼働の営業は実現できなかったものの、年度を通じて安定した稼働を得られた。送迎業務は共同送迎を行うことで時間内に完結できるようになった。

【数値実績】

	特養入所		短期入所	通所介護		看護小規模多機能型居宅介護	地域包括支援センター
	従来型	ユニット型		介護給付	総合事業		
利用者定員	65 名	40 名	15 名		30 名	25 名	―
利用者延人数	22,941 名	14,243 名	4,434 名	6,056 名	822 名	6,956 名	―
一日平均利用者数	62.9 名	39.0 名	12.1 名	19.7 名	2.7 名	19.1 名	―
稼動率	96.7%	97.5%	81.0%		75.9%	―	―
稼動日数	365 日	365 日	365 日		307 日	365 日	―
単価	13,359 円	16,105 円	12,073 円	10,968 円	5,790 円	364,399 円	―
常勤換算職員数	40.3 名	28.4 名	5.1 名		9.0 名	11.4 名	6.0 名

	訪問看護		訪問介護			居宅介護支援	
	医療給付	介護給付	介護給付	総合事業	自立支援	介護給付	予防給付
利用者延人数	3,287 名	7,004 名	6,803 名	507 名	2,341 名	1,690 名	282 名
一日平均利用者数	9.0 名	19.2 名	18.6 名	1.4 名	6.4 名	―	―
稼動日数	365 日		365 日			365 日	
単価	10,974 円	9,701 円	4,487 円	3,946 円	5,612 円	17,607 円	4,938 円
常勤換算職員数	13.4 名		4.9 名			5.0 名	

在宅･福祉関西ブロック

ブロック制以降、職員自らが地域に必要なサービスは何かを考え、事業推進に動き、2025 年度は 2 事業の開設、2026 年度に向けた 2 事業の準備を行った。また、改善が必要な既存事業についてもエリア全体の課題として取り組んだ。また、他事業部とも積極的に連携をはかり、加算取得や収益向上に向けた取り組みが進んだ。

退職者数は少ないが、人員体制は事業・施設により偏りが見られる。全体として人件費・事業経費の上昇は避けられないため、業務委託内容の見直し、事務体制の再構築を進めていく。

【2025 年度目標】
地域に必要なサービスを捉え、提供体制を整える

【2025 年度重点目標】
１．業務の ICT 化をさらに進め、サービスの質の向上、職員のモチベーション向上へ繋げる
２．地域福祉の成長に貢献する
３．エリア間が連携・協力できる、組織・会議体制を構築する
４．職員がやりがいを持って働き続けたいと思う職場環境、職場風土を醸成する
５．地域課題に対し、老築化した建物・設備も踏まえた将来計画を構想する

【宝塚第 1 エリア】

聖隷チャレンジ工房すみれ、聖隷巡回ヘルパーつなぐ宝塚の開設、宝塚市基幹相談支援センターへの職員出向を行った。就労支援事業である聖隷チャレンジ工房すみれは、作業内容や就労時間のミスマッチが続き、体験利用から実利用へつなげられなかった。特別支援学校実習生 4 名のうち 2 名が就労支援事業所と直接雇用へつながった。在宅事業では、宝塚市内に訪問看護ステーションの新規開設が相次ぎ、予算達成はしたものの、今後も厳しい経営環境が予測される。入居施設では、結いホーム宝塚と宝塚すみれ栄光園が予算稼働率を下回る結果が続いた。共に短期入所の稼働率向上が課題である。

【宝塚第 2 エリア】

花屋敷せいれいの里内で看護小規模多機能型居宅介護事業の開設準備を行い開設することができた。地域からの期待も高く複合的課題に対して、在宅・施設が連携して関わっていくことが今後も期待できる。また、中山台地区で地域活動を継続して実施することで、地域での関係性も再構築でき、既存の在宅事業の必要性を再確認することができた。導入した ICT 機器を活用し、利用者にとって安心・安全な環境を確保すると共に、新たな価値観を見出すサービスを追求し、職員にとってもやりがいと魅力ある職場につながる 1 年となった。北神戸エリア（訪問看護、居宅介護支援）については競争力をつけ利用者確保が課題である。

【淡路エリア】

各事業、安定した運営ができ、老朽化に伴う設備更新及び安全性向上・快適性向上を目的とした施設整備を実施できた年度であり、車輌更新、屋根の補修工事、エレベーター更新、防災設備の更新ができた。ICT 機器の推進は継続しており、各使用目的に応じた AI 議事録の導入効果は次年度測定する。淡路エリアにおける地域包括ケアシステムの展開に向け、在宅医療および在宅介護サービスの連携強化を図り、退院後の受け皿機能、在宅看取りの充実を図り、在宅生活継続支援を広域的に提供できた。

【保育宝塚淡路エリア】

聖隷こども園夢舞台は、園内に児童発達支援事業所開設に向け、淡路市を始め、近隣の事業状況などを把握しつつ準備を進め、県下初の並行通園が可能な事業所として、2026 年 4 月開設に向けた準備を進めることができた。また、宝塚保育エリアにおいては、障がい者雇用に向け、人事企画部関西採用センターと連携したことで、雇用に向けた具体的な動きをとることができ、2026 年 4 月の採用に繋がった。職員ひとり一人が、保育を楽しみ、自分の考えや意見をより職員同士で伝え合える職場作りを今後も継続して大切にしていきたい。逆瀬川あゆみ保育園の今後の方向性については、継続して協議を進めていく。

宝塚せいれいの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター
聖隷ケアプランセンターすみれ
宝塚市高齢者・障碍（がい）者権利擁護支援センター
聖隷チャレンジ工房すみれ

宝塚すみれ栄光園は、特別養護老人ホーム・ショートステイともに稼働が予算を下回る結果であった。特別養護老人ホームの退居者数はここ数年毎年 40 件を超え、入院による空床日数も年々増加、2025 年度は 2024 年度の 1.3 倍であった。ショートステイも入居への切り替えに対する新規獲得が追い付かない状況であった。デイサービスは、他法人居宅介護支援事業所への営業活動が功を奏し、例年に比べ高い稼働を保つことができた。聖隷ケアプランセンターすみれは、介護支援専門員の補充ができず、収益が予算未達成の結果であった。

2025 年 4 月 1 日に開設した障害者就労支援事業所「聖隷チャレンジ工房すみれ」も、利用者数は予算達成に程遠く、非常に厳しいスタートとなった。特別支援学校からの実習生受け入れだけでなく、介護保険 2 号被保険者や精神障害の利用者受け入れに向けた営業活動を続け、2025 年 3 月の新規利用者獲得に繋がった。

１.「安心・安全と穏やかに過ごせる」質の高いサービスの提供

（ア）施設サービス計画書内容の根拠を明確にできるようサービス担当者会議の中で重点的に取り組んだ。

（イ）体調変化の早期発見はできたが、入院理由に係るケアの見直しが行えておらず、入院者数は 2024 年度と同数であった。

（ウ）施設にて 17 名を看取ることができた一方で、11 名が療養型に転院・退所となった。嘱託医との連携による医療的ケアの対象範囲拡大が課題である。

（エ）緊急ショートステイの受け入れ件数は増加、受け入れのスピード感も上がった。特別養護老人ホームの入院者の空床転用も職員が必要性を理解の上で受け入れることができている。

２．施設や事業機能を活かした繋がりあるサービスの提供

（ア）宝塚すみれ栄光園デイサービスセンターで、宝塚第 1・3・4 地区の利用者を増やすことができた。

（イ）在宅事業間の連携、在宅施設間の連携ともに、情報共有の段階から課題を残した。

（ウ）地域や関係機関に対して権利擁護に関する啓発活動を行った。

（エ）聖隷チャレンジ工房すみれの実習生が、宝塚せいれいの里に介助員として 2026 年 4 月に就職することとなり、1 つのフロアの介護周辺業務を担う予定である。

３．専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

（ア）係長とリーダーがフロアマネジメントについて協議する場が定着してきた。
（イ）プリセプター研修、階層別の座談会を継続開催した。加えて、係長を目指す職員向けの研修を企画・開始した。
（ウ）認知症の専門研修受講が定着、職員個々の成長に繋がる外部研修も意図的に活用した。
（エ）インカムの活用により、職員間・職種間のコミュニケーションが活性化した。

4．運営安定化の推進
（ア）共有部の GHP 空調設備の更新を行った。
（イ）家族室の改修を行い、看取り介護環境を充実させた。
（ウ）2026 年 2 月に給食委託業者を変更し、委託費の削減ができた。
大きな混乱なく切り替わり、入居者にも一定の評価を得ている。
（エ）宝塚せいれいの里運営管理課の職員配置が大きく変動し、体制再構築が必要となった。

5．地域における公益的な取組
（ア）5 年ぶりに宝塚せいれいの里祭りを開催した。地域住民や団体がボランティアとして参加し、交流の機会にもなった。
（イ）まちづくり協議会等の定例会議に継続的に出席した。
①安倉地区の防災計画作成に福祉専門職として参画した。
②第 4 地区地域生活支援会議にて分野を越えた横の繋がりを作ることができた。
③地域のサロンにて介護予防講座を定期開催した。
（ウ）施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組んだ。

【数値実績】

	特養入所	短期入所	通所介護	聖隷ﾁｬﾚﾝｼﾞ工房すみれ	
	ユニット	ユニット	一般	就労支援 B 型	移行支援
利用者定員	100 名	20 名	30 名	14 名	6 名
利用者・請求延べ数	35,183 名	6,748 名	7,351 名	97 名	204 名
一日平均利用者数	95.8 名	18.4 名	23.9 名	0.7 名	0.4 名
稼働率	95.8%	91.9%	79.8%	5.6%	7.1%
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	308 日	247 日	247 日
単価（一人一日）	17,357 円	16,208 円	12,429 円	17,944 円	12,408 円
職員数（常勤換算）	76.8 名	12.3 名	15.4 名	2.9 名	2.4 名

	居宅介護支援		権利擁護
	介護	予防	支援ｾﾝﾀｰ
年間請求件数	2,441 件	166 件	―
平均単価（円）	17,775 円	4,359 円	―
職員数(常勤換算)	6.9 名		3.8 名

宝塚せいれいの里

介護付きケアハウス　ケアハウス宝塚

ケアハウス宝塚は特定施設入所者生活介護の指定を受けた施設として、特別養護老人ホームに比べて幅広い介護度の入居者を受け入れている。その中で、自宅で送っていた生活を意識し、買い物、外出、趣味活動などが続けられるよう、身心機能の維持・向上を図りながらその人らしい生活を営むことができる施設作りに取り組んだ。

また、介護度が高い方も受け入れる施設として、職員が長く働き続けられる施設を目指し、抱え上げない介護を段階的に進めている。2025 年度も浴室での移乗リフト導入、特殊浴槽の追加、移乗サポートロボットを導入し、職員の腰痛発生を抑制できている。

平均稼働率は予算を達成することができたが、退居者数は年々増加している。LIFULL 介護掲載情報の更新や関係機関への営業活動は定期的に行ったが、待機登録者数の増加には至っておらず、どう打開していくかが喫緊の課題として残った。

１．入居者がより「自分らしさ」を実現できる支援の提供

（ア）ACP の考え方を共有し、ケアに反映させた。兵庫県介護福祉士会で事例発表も行った。

（イ）入居者の意向も取り入れながら、毎日の体操や体を動かす取り組みを実施した。

（ウ）特別感のある食事の提供や、季節を感じられる外出・レクリエーションを実施した。

（エ）麻雀を好む入居者同士で定期開催できるようになった。

２．専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

（ア）入居者の意向を職種間で共有し、カンファレンスを通じてケアの共通認識を図った。

（イ）プリセプター研修を継続的に行う中で、チームで職員を育成する意識が高まっている。

（ウ）マネジャーとリーダーの業務分掌を可視化し、フロアマネジメントの改善に着手した。

（エ）インカムの活用により、職員間・職種間のコミュニケーションの活性化が図れている。

（オ）夜勤業務や入浴業務におけるフロアを跨いだフォロー体制作りに対して、共通認識の醸成に時間を要した。

３．運営安定化の推進

（ア）共有部の GHP 空調設備の更新を行った。

（イ）家族室の改修を行い、看取り介護環境を充実させた。

（ウ）2026 年 2 月の給食委託業者変更により委託費を削減した。
大きな混乱なく切り替わり、入居者にも一定の評価を得ている。

（エ）近隣に競合施設の開設もあり、待機登録者の増加には至っていない。

①法人内地域包括支援センター・居宅介護支援事業所向けに見学会を開催した。
パンフレットの見せ方や問い合わせ時の伝え方について意見交換を行った。

②新入居調整における空床期間を短縮することができた。

４．地域における公益的な取組

（ア）５年ぶりに宝塚せいれいの里祭りを開催した。地域住民や団体がボランティアとして参加し、交流の機会にもなった。

（イ）まちづくり協議会等の定例会議に継続的に出席した。

①安倉地区の防災計画作成に福祉専門職として参画した。

②第４地区地域生活支援会議にて分野を越えた横の繋がりを作ることができた。

③地域のサロンにて介護予防講座を定期開催した。

（ウ）施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組んだ。

【数値実績】

	介護付きケアハウス
利用者定員	70 名
利用者延べ数	24,693 名
稼働延日数	365 日
一日平均利用者数	67.7 名
稼働率	96.6%
単価（1 人 1 日当り）	15,076 円
常勤換算職員数	38.5 名

宝塚せいれいの里
介護付有料老人ホーム　結いホーム宝塚

2025 年度は、コロナ禍で中断していた宝塚せいれいの里祭りの再開、外出や季節折々の行事企画に力を入れ、生活の中に楽しみを感じて貰う事に取り組んだ。また、2 月には給食業務委託業者の変更を行うことで、残食が減るなど質向上にも繋がっている。

運営面では、2025 年度も近隣に住宅型有料老人ホームの新規開設が続き、待機登録者確保は厳しい状況が続いた。平均要介護度は 2.2 前後と低いものの、平均年齢は 92 歳を超えており、退去者数が増加傾向にある。2024 年度は、新入居者 16 名・退去者 25 名であったが、2025 年度では新入居者 21 名に対し退去者 30 名と、退去数が上回る状態が続き予算とは大きく乖離した。入居者確保の一策として、2024 年度末より始めた有償短期入所は、病院等退院時の受け入れ先として周知されるとともに利用者数も増え、その内 6 名が入居契約に繋がる実績を残すことができた。住宅型有料老人ホームとは価格で勝負できないが、利用頂ければ結いホーム宝塚の良さが伝わるため、効果的に伝える営業力、SNS の発信力向上に取り組み、幅広い入居者層を確保し、稼働の向上に努めなければならない。人件費・経費は予算より抑えることができたが、開設 12 年を越え設備故障も増えており、収入・支出のバランスを考えた運営が必要であった。

職員体制では、年間を通じて安定した体制を維持でき、2025 年度後半からは、宝塚せいれいの里内や他施設、他事業部との人事交流を行うことができている。これまで取り組んできた ICT・DX 化も含め、働きやすい・働き続けたい施設として構築されている。

１．入居者・家族の期待に応えるサービスの提供

（ア）髪色など身だしなみの基準を見直し、接遇面の向上をはかった

（イ）給食業務委託業者を変更し、クックサーブよりチルド完調品へ切り替えた

（ウ）泡シャワーやシャワーポッド導入により変化した浴室環境に合わせ、脱衣所にカーテンを設置するなど環境面の向上を行った

（エ）宝塚せいれいの里祭りを再開し、多くの家族、地域の方が来園した

（オ）入居者の希望を取り入れた外出企画、園内での行事企画、物販販売を行った

（カ）園で最期を迎えたい想いに応え、19 人の看取りを行った

２．職員一人ひとりを大切にできる職場環境・職員育成の推進

（ア）歩行ロボットを用いた入居者の取り組みを学会発表につなげた

（イ）体調不良で職員が休んだ場合など、フロア間で助け合うなどの連携構築を行った

（ウ）プリセプター研修や新卒･中途採用者座談会などを通して、職員がワークエンゲージメントを実感できる取組みを行った

（エ）営業戦略会議を定期開催し、相談員・各職場長が施設全体の課題として取り組んだ

（オ）ICT 機器の評価・分析は 2026 年度へ持ち越しとなった

３．安定した施設運営

（ア）地域住民会議への参加、聖隷在宅事業所とも連携し、イベント情報を配信した

（イ）営業戦略会議を定期開催し、相談員・各職場長が施設全体の課題として取り組んだ

（ウ）地域の障がい者施設と連携し、活動の場を広げた

（エ）法人本部総合企画室と連携し、長期的施設運営、日常的維持管理について検討した

４．地域に信頼される施設運営と公益的な取り組み

（ア）まちづくり協議会の定例会議への参加、地域住民向けの講座開催を行った

（イ）第 4 地区地域生活支援会議にて分野を越えた横の繋がりを作ることができた

５．環境活動への取り組み

（ア）水光熱の効率的運用を図り、ガス・電気は使用量を削減できた

（イ）地域清掃を地域住民と共に取り組んだ

【数値実績】

	介護付き有料老人ホーム
利用者定員	100 名
利用者延べ数	31,226 名
稼働延日数	365 日
一日平均利用者数	85.56 名
稼働率	85.56%
単価（1 人 1 日当り）	18,869 円
常勤換算職員数	57.98 名

介護老人福祉施設　宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園、短期入所生活介護

2025 年度、宝塚栄光園は開設 47 年目を迎え、宝塚市で最も歴史の長い特別養護老人ホームとして、介護ロボットや ICT 機器を積極的に導入し、利用者の QOL の向上と業務改善による業務効率化に取り組んだ。新型コロナウイルスを含む感染症に対しては、日々の感染症対策を継続したことで、大きな感染は防ぐことができた。運営については、新入居調整がうまくいかず、稼働率が伸び悩んだ。しかし、短期入所事業においては、利用者のニーズに合わせて受け入れを積極的に行った結果、高稼働となった。

１．利用者のために

（ア）導入している ICT 機器の活用及びデータの活用を行い、利用者へ安心・安楽・安全な質の高いケアの提供を行う。また常に新しい ICT 機器等の情報を収集し導入を検討する。

①見守り機器（眠り SCAN）については、データ解析方法の勉強会を継続して行い、より睡眠や心拍数、呼吸数などのデータを活用した根拠あるケアを実践した。また、見守りカメラ（眠り SCAN eye）との連動も増台を図り、利用者の ADL 確認、リスクマネジメントに活用できた。

②短期入所事業の稼働率アップや利用調整に迅速に対応するために、新たな ICT 機器として予約管理クラウド（ペースノート）を導入することができた。

（イ）利用者同士や家族、地域とのコミュニケーション、心身機能の維持向上、QOL の向上のために、レクリエーションの充実を図る。

①夏祭りや敬老会などの行事に家族を招待し、飲食を共にしていただくことで、利用者と家族が貴重な楽しい時間を過ごすことができた。

②地域の中学生との交流や、外出レクリエーションなどを積極的に実施することで、利用者の QOL の向上に取り組むことができた。

（ウ）利用者・家族・職員等相互のコミュニケーションを図り、利用者の自己決定を支援する。

ACP を含んだ内容の利用者の想い、家族の想いを確認し、カンファレンスで情報共有やケアの方向性を検討した。

（エ）職員・医療機関との連携により、体調変化にも安心して過ごせる体制づくりを行う。

嘱託医師、訪問歯科診療所の変更を行い、利用者の想いに寄り添った治療や療養計画を利用者・家族に説明し同意を得ることができた。

２．職員のために

（ア）ICT 機器を活用した客観的データ収集や福祉用具を積極的に取り入れることで、勤務体制の見直し、抱え上げない介護の推進により、職員の心身の負担の軽減を図る。

抱え上げない介護として、必要な利用者のベッドに個別で介助用リフトを設置し、活用することができた。

（イ）アサーションスキルをもって、色々な意見を尊重し、多様性を認め、なおかつ自分の意見をしっかり発信できる職場風土をつくる。

役職者が職員と個別面談を定期的に行い意見を引き出し、職員間の意見を取りまとめることによって、発信できる職場風土が維持できている。

（ウ）他事業所の活動を知り、宝塚市での宝塚栄光園の存在価値、役割を明確にする。また職員自身がキャリアプランを描く事ができ、聖隷でいきいきと働き続けることができる。

キャリアプランのために自己研鑽を行ってきた職員が、希望する部署へ異動できた。

3．施設を守る

（ア）入居・短期入所のベッドコントロールを図り、稼働率を維持することで経営を安定させる。

嘱託医・歯科医・排泄業者の協力もあり、誤嚥性肺炎や尿路感染による入院者数を減らすことができたが、退居後の入居調整をスムーズに実施できず、入居の稼働率が達成できなかった。

（イ）利用者・職員が心地よい環境で過ごせるよう施設内の改修を行う。

玄関周りの劣化した床や壁紙を張り替えることができた。

（ウ）物価高騰による影響に対し、職員一人一人がコスト意識をもち行動する。

入居者毎にオムツの再評価を実施し、適正なオムツを使用することで、コストを下げることができた。

4．地域における公益的な取組み

（ア）地域の方々が安心して住み慣れた地域で過ごせるように、地域包括ケアシステムの中での施設の役割を地域の方々に伝える場を地域包括支援センターと協力して設定する。

宝塚エデンの園と共同で、阪神淡路大震災における被害者の鎮魂と震災の風化防止のために、宝塚市の行事で炊き出しを行った。

（イ）自治会活動に積極的に出向き、地域との関わりを深める

2024 年度に引き続き、地区の自治会連合の「福祉ネットワーク会議」に参加し、グループワーク等で意見交換を行い、地域住民や市役所職員と顔の見える関係づくりを深めた。

【数値実績】※特養・短期とも従来型のみ。（個室：21 室、2 人室：3 室、4 人室：15 室）

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 名	17 名	87 名
利用者延べ人数	22,836 名	7,515 名	30,351 名
一日平均利用者数	62.6 名	20.6 名	83.2 名
稼動率	89.4%	121%	95.6%
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	365 日
単価（一人一日当り）	14,548 円	13,930 円	14,402 円
職員数（常勤換算）	43.3 名	10.3 名	53.6 名

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区中州在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚、聖隷逆瀬川デイサービスセンター

2025 年度、「年を重ねても最期まで自分らしさを大切に住み慣れた街に住み続けたい」という想いを大切に、聖隷福祉事業団が地域に必要とされ続けるための取り組みを実施した。

【事業・運営計画】

1．「年を重ねても住み慣れた街に住み続けたい」その人の想いをかなえるために

（ア）重度利用者、障害がある利用者等、その方の状態に合わせたケアができるように学びの機会を持ち、統一したケアを実践した。特に、自身の思いを言葉にできない利用者については、まばたきや口角の動きなど表情の変化を注意深く確認し、事業所内でアセスメントをし、本人の思いに添ったケアに繋がるように努めた。

（イ）聖隷逆瀬川デイサービスセンターでは、利用者同士が繋がりを持てるようなプログラムを実施することで、新たな社会参加の機会を提供できた。生活が活性化できるように、デイサービスの場だからこそ実施できる本人の個別性を重視したリハビリテーションを提供した。

（ウ）宝塚第二地区のデイサービスセンター間での連携を強化し、それぞれのデイサービスの特色や強みを共有し、その方の心身状況に合わせた法人内のサービスを紹介し、聖隷の総合力で利用者を支えていく体制の構築に努めている。

（エ）AI 議事録の導入により、会議録の作成にかかる業務時間の削減につながった。

（オ）聖隷逆瀬川デイサービスセンターでは、機能評価アプリ（リハケア）を本格的に運用し、デイサービス利用時と同様に自宅でもできる機能訓練を提案し、生活の中でのリハビリを継続することで、心身機能の維持、向上につながる取り組みを実践した。

2．これからも「宝塚市」でサービス継続可能な体制づくり

（ア）職員が自身の得意分野を発揮できるように、業務や環境を整えた。苦手意識を感じる業務については、他職員と共同や連携を取りながら、ともにチャレンジすることができる環境整備に努めた。

（イ）BCP に沿って年 3 回防災訓練を実施。職員の参加率向上を図るため、開催時間を一定にしないことで、昨年度より多数の職員の参加につながった。

（ウ）2025 年 10 月に定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを開設。地域の居宅介護支援事業所等に挨拶まわりを行い、利用者獲得や地域ニーズを確認する動きを実施した。

3．多職種連携をより進め、利用者がこの地域で安心して生活できるよう、職員の育成を行う

（ア）利用者の心身状況や認知状況など状態変化に気付くようアセスメント力の向上を図り、ご家族や関係機関に情報を発信するよう努め、円滑な支援体制の構築を図った。

（イ）職員の状況に合わせた育成プログラムを立案し実践につなげた。各事業所だけにとどまらず、聖隷ケアセンター宝塚全体で取り組む委員会や地域活動の場も活用し、聖隷ケアセンター宝塚全体で人材育成が実施できるように取り組んだ。

４．地域で必要とされる聖隷であるために、地域における公益的な取組み。

（ア）今年度も継続して「あい会いサロン」を年 2 回実施した。地域の企業や障がい作業所にも出店を依頼し、子どもから高齢者まで幅広い年代での住民参加につながった。サロンの開催を心待ちにしているという意見も多数聞かれ、聖隷ケアセンター宝塚が地域に根差す取り組みとなっている。

（イ）今年度は、事業所として中山聖隷つながり広場にて具体的な取り組みとしては実施できなかったが、次年度は法人内事業所と協同して実践につなげていきたい。

（ウ）地域支援会議に参加し、他機関や民生委員、地域住民との顔の見える関係づくりに努めた。

【数値実績】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護（回）	予防（月）	
112 人	1,257 件	15,086 件	36 人	428 人	4,110 円	16,980 円	15.6 名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（回）	総合（月）	
30 人	780 人	9,360 人	78 人	936 人	10,400 円	35,900 円	18.2 名

宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚、聖隷ケアプランセンター宝塚、逆瀬川地域包括支援センター

2025 年度、「年を重ねても最期まで自分らしさを大切に住み慣れた街に住み続けたい」という想いを大切に、聖隷福祉事業団が地域に必要とされ続けるための取り組みを実施した。

【事業・運営計画】

1．その人が望む「在宅で最期まで過ごせる」が実現できる地域包括ケアシステムの構築

（ア）最期まで自宅での生活を望む利用者に対して、聖隷ケアセンター宝塚内事業所間で連携をし、看取り期における支援を実施することができた。聖隷訪問看護ステーション宝塚、聖隷ケアプランセンター宝塚ともにターミナルケア加算の算定につながった。

（イ）聖隷ケアセンター宝塚内、委員会を中心に、地域に対して ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の啓発を継続して実施した。今年度は、自治会や有料老人ホーム（入居者及び職員）、法人内の特別養護老人ホーム職員に対し、研修を開催し啓発活動を実施した。

2．職員同士で支え合い成長していける環境、長く働き続けられる職場作りと次世代の管理者候補の育成

（ア）法人内の多職種と連携したケース対応や、研修会への参加を行い、聖隷福祉事業団として質の高いチームケアが実施できるよう相互に働きかけを実施した。

（イ）各事業所にて職員の育成を実施。各事業所だけにとどまらず、聖隷ケアセンター宝塚全体で取り組む委員会や地域活動の場も活用し、聖隷ケアセンター宝塚全体での人材育成を実施した。

（ウ）超過勤務削減への取り組み（終了カルテの整理や報告書作成のタスクシェア化、記録方法の見直し）を実施し、業務負担の軽減を図った。

3．資源の効率的活用と生産性の向上

（ア）AI 議事録を導入し、会議録作成時間の削減を図った。また、ケアプランデータ連携システムを活用し一部の事業所との実績のやり取りは実施できた。

（イ）聖隷ケアプランセンター宝塚において、業務の手順やタブレットでの記録の効率化などに取り組んだ。電子署名に関してはシステム上の問題もあり、実質の利用には至らなかった。

4．地域で必要とされる聖隷であるために、地域における公益的な取組み

（ア）2025 年度も継続して「あい会いサロン」を年 2 回実施した。地域の企業や障がい者就労継続支援事業所にも出店を依頼し、子どもから高齢者まで幅広い年代での住民参加につながった。サロンの開催を心待ちにしているという意見も多数聞かれ、聖隷ケアセンター宝塚が地域に根差す取り組みとなっている。また、地区内の拠点において新たに地域まるごとカフェを立ち上げ、地域住民の居場所として高齢者、障がい者の方の参加につながっている。

（イ）逆瀬川地域包括支援センターがコアメンバーとなって地域支援会議を年 2 回開催。専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域における支援体制の構築に努めた。

【数値実績】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	職員数（常勤換算）
医療	54 人	585 件	7,020 件	11,200 円	23.3 名
介護予防含	162 人	794 件	9,256 件	10,652 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
3,464 件	148 件	19,530 円	4,200 円	2,416 件	4,753 円	15.6 名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		職員数（常勤換算）
予防	予防（委託）	予防	委託（委託）	
3,078 件	2,216 件	4,839 円	619 円	16.6 名

宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター・聖隷デイサービスセンターあゆむ

2025 年度宝塚第二地区在宅複合事業の上半期は、介護職員の離職、休職等により欠員が続いたが、法人内の事業所からの応援により運営継続ができた。下半期は介護職員の補充ができた。12 月から積極的に営業活動を行え、1 月以降の新規契約数は 24 名となり登録者数の増加に繋がった。

１．利用者が在宅生活を継続できるよう、最高の質のサービスを提供する

（ア）利用者・家族が安心できる、安全な介護サービスを提供する

①中重度・医療依存度の高い利用者であっても介護・看護が連携し継続して受け入れることができた。

②職員への介護技術（抱え上げない介護）の研修会を開催し、スライディングボードの活用導入ができた。

③送迎時想定の車椅子階段昇降の実技研修会を実施した。

（イ）関係機関とのシームレスな情報共有で医療ニーズへ対応する

医療介護専用コミュニケーションツール「メディカル・ケア・ステーション（MCS)」を活用し、在宅医師を含む関係機関とのタイムリーな連携を行うことで、看取り状態の利用者の受け入れができた。

２．認知症利用者が介護者と共に、自宅で穏やかに生活が続けられるように支援する

（ア）利用者それぞれが穏やかな時間を過ごせる個別ケアを提供する

①介護職員 1 名が認知症実践者研修に参加でき、職場内で事例検討・研修会を行うことで、周辺症状への対応や個別の関わりを深めることができた。

②作業療法士と協働し、行動変化や日常生活における認知症の影響を評価し、サービス内容に繋げることができた。

（イ）介護者が自宅介護のモチベーションを保てるように関わる

①介護負担尺度評価により、介護者自身の身体的・精神的健康を数値化させ、ケアマネジャーに伝える事で、利用回数の増加に繋がった。

②運営推進会議を 6 月、3 月に開催し、介護者も参加した。

３．地域における公益な取り組み

（ア）逆瀬台地域の高齢単身者・高齢世帯への見守り活動に協力する（助け愛デリ、ナイトサロン）

①単身者・高齢世帯への見守り活動への協力活動を行うことはできなかった。

②隣接する逆瀬台小学校と 2026 年度に向け、交流会や学童への福祉教育の計画の場を持つことができた。

（イ）施設の地域開放を進め、地域活動の活性化を図る(クラブ活動、いきいき百歳体操等)

施設を開放し、クラブ活動、ボランティア活動等を行うことで地域住民の活性化に繋げることができた。

【数値実績】通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（月）	予防（月）	（常勤換算）
66 人	538 人	6,459 人	31 人	369 人	13,017 円	5,869 円	22 名

【数値実績】地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業(聖隷デイサービスセンターあゆむ)

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（月）	予防（月）	（常勤換算）
18 人	163 人	1,960 人	0 人	0 人	17,060 円	0 円	4.6 名

聖隷デイサービスセンター結い

2025年度､聖隷デイサービスセンター結いでは目標稼働率を下回る成績が続いた｡原因として、登録者の人数の低下、当日休み（平均 7.2 人／日）の多さなどがある。登録者については例年の傾向を鑑みて常に営業をかけておくような対応ができていなかった。当日休み利用者の多さについて、休まずに通うことで身体機能が維持・向上できるという意識をしっかり持っていただくための質の高い機能訓練を開始することはできたが、いまだ浸透できていないと考える。

１．自立支援につながる質の高い機能訓練の提供

（ア）9 月までは理学療法士、作業療法士が共同し、「活動」「参加」面における課題を抽出しリハビリ計画を立てることができていたが、理学療法士の異動により一時期居宅評価が行えない時期があった。状況を確認し、契約時の居宅評価の徹底、看護会議での課題の抽出など体勢を立て直し、利用者の「活動」「参加」を意識したリハビリ計画の立案を実施することができた。

（イ）毎回、運動の最後に集団で介護予防として、嚥下の運動を実施、継続できている。口腔機能向上加算（Ⅱ）については対象者が少ないため、現状では取得していない。

（ウ）歩行解析ソフト「リハケア」を導入。3 か月に 1 回の歩行評価を実施し、結果をカラー印刷し、適宜動画も利用者と確認しながら、歩行状況の説明、歩行状況を改善するために必要な運動の提案を実施することができた。

（エ）聖隷ケアセンター宝塚が発行している「つなぐノート」を掲示し、ACP に対して興味を示した利用者に対して説明、配布を行った。

（オ）2 月より、宝塚エデンの園附属診療所のセラピストと共同してリハビリ計画立案が始まった。情報共有方法、フィードバック方法など、改善点を今後に生かしていく。

２．専門職の質の向上

（ア）相談員の専門性について、宝塚地区通所事業における相談員の横断的な勉強会は未実施に終わった。事業所内では看護師会議に参加し、利用者の計画立案を共同で行っている。

（イ）介護職の専門性について、職員 1 名を他デイサービスに派遣、職員 1 名を認知症研修・事業団内研修に派遣し、持ち帰った情報を共有した。

（ウ）2025 年度、所長の交代があったため、浜松市のリハビリ特化型デイサービスへ見学に行き、情報収集を行うことができた。

（エ）9 月に理学療法士が異動し、12 月より兼務の作業療法士が赴任した。デイサービスにおける機能訓練指導員の動き方を再確認するとともに、個別機能訓練の在り方を他デイサービスの実施方法を参考に再検討することができた。

３．地域における公益的な取組

（ア）7 月、11 月に 2 回、「結いトレ！」と題して施設を無料開放し、地域住民が機能訓練を体験できる場を作ることができた。

【数値実績】

介護給付			予防給付		単価		職員数 （常勤換算）
平均利用者数	月間利用件数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護 （日）	予防 （月）	
15.14 人	396 件	4,754 件	364 人	4,365 人	7,000 円	30,000 円	10.8 名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

福祉用具貸与の契約件数においては同法人内の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所からの紹介により年度当初と比較して現状を維持することができた。一方で住宅改修は補助金の取得要件が厳格化された影響したこともあり、売上実績が予算を下回った。

【施設理念】

地域の方のいのちと尊厳を守る為、福祉用具の専門性をもってサポートを行う

【経営方針】

１．専門職との連携に努め、聖隷福祉事業団の強みを活かす
２．活動地域の選択と集中、運営方法の見直しによるコストパフォーマンスの向上
３．新規開設の障がい者就労支援事業所との連携の提案
４．地域における公益的取り組み

【事業・運営計画】

１．専門職との連携に努め、聖隷福祉事業団の強みを活かす
（ア）主に同法人内の事業所との多職種連携に努めた。その結果、福祉用具貸与の新規契約件数は昨年度比 9%上昇した。
（イ）支援困難ケースでは積極的にサービス担当者会議に参加し、福祉用具専門相談員としての役割を果たすことに努めた。
２．活動地域の選択と集中、運営方法の見直しによるコストパフォーマンスの向上
（ア）花屋敷包括支援センターの新規契約件数が前年度対比 200%を超えることができた。
（イ）グループ制による営業方法は、想定の効果を見出すことができず 2026 年度の課題とした。
３．新規開設の障がい者就労支援事業所との連携の提案
（ア）聖隷チャレンジ工房すみれの新規利用契約数が伸びず、新作業を提案することができなかったため 2026 年度の課題とした。
４．地域における公益的取り組み
（ア）聖隷内在宅事業所と連携し、地域住民向けの福祉用具の相談会を行うことができた。

【数値実績】

レンタル 件数	レンタル 収益	販売 収益	住宅改修 収益	常勤換算 職員数
8,395 件	90,673 千円	73,681 千円	11,635 千円	10.2 人

花屋敷せいれいの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園
花屋敷デイサービスセンター
聖隷訪問看護ステーション山本
花屋敷地域包括支援センター
聖隷ケアプランセンター花屋敷
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2025 年度は、人件費・物価高騰の中でも ICT 機器を活用し、必要なところに人材を集中したことで安定した経営が継続できた。また新たな価値観を見出すサービスを追求し、職員にとってもやりがいと魅力ある職場につなげることができ、利用者それぞれの価値観の多様化が加速する中で、花屋敷せいれいの里の総合力を発揮し地域福祉に大きく貢献し続ける 1 年となった。

【施設理念】
互いに愛し合いなさい

【経営方針】
１．サービス機能を活かした繋がりある支援体制の構築と充実
２．「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
３．専門職としての成長と活躍できる環境づくり
４．運営安定化の推進
５．地域における公益的な取組み

【事業・運営計画】
１．「安心して暮らせる」サービス機能を生かした繋がりある支援と定着
（ア）地域ニーズの把握に努め、必要なサービスを創造することができた。
（イ）短期入所生活介護は緊急や医療ニーズの高い利用者を積極的に受入れた。
（ウ）中山台地区の拠点を活用し、聖隷の総合力で地域福祉に貢献することができた。

２．「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する。
（ア）ACP の考え方を共有し、入居・ショートステイでの看取り対応が実践できた。
（イ）多職種連携により、体調変化の早期発見と迅速な対応により状態悪化を抑制できた。
（ウ）抱え上げない介護に取り組み、安心・安全の定着にむけ、継続して取り組んだ。
（エ）入居と在宅事業が連携し最高の質のサービスを提供できた。

３．専門職としての成長と活躍できる環境づくり
（ア）目標参画や各種ラダーに基づいたキャリア支援を行い、モチベーションの向上が図れた。
（イ）他法人と意見交換会等の場を開催し、職員の知見を広げ育成が図れた。
（ウ）ICT を活用し労働環境の更なる向上を目指し、職員の定着が図れた。

４．運営安定化の推進

（ア）長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施できた。

（イ）BCP(事業継続計画)を見直し職員間で共通理解を深め、より実践的な訓練ができた。

（ウ）職員の健康管理等を引き続き実施し、健全な経営が継続できた。

５．地域における公益的な取組み

（ア）近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努めた。

（イ）継続した地域コミュニティへ参画することができた。

【数値実績】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型	短期入所 ユニット型空床型	通所介護	
			通常	予防
利用者定員	108名	12名	35名	
利用延数	37,776名	353.2名	6,873名	1,337名
一日平均利用者数	103.4名	13.8名	22.2名	4.3名
稼動率（％）	95.7%	115.7%	77%	
稼動延日数	365日	365日	310日	
平均介護度	3.9	3.03	2.0	
単価（一人一日）	16,513円	16,954円	10,055円	
職員数（常勤換算）	名	名	名	

	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	障害児相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)
宝塚市受託収入(千円)	37,976千円		—	—	14,915千円
年間請求件数	予防ﾌﾟﾗﾝ請求件数	378件	49.8件	29.6件	—
	予防ﾌﾟﾗﾝ委託件数	63件			
平均単価	予防ﾌﾟﾗﾝ単価(円)	5,108円	12,086円	7,716円	—
職員数（常勤換算）	名		名		

	聖隷訪問看護ステーション					聖隷ケアプランセンター		
	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	職員数(常勤換算)	年訪問件数	単価(円)	職員数(常勤換算)
医療	61.4人	412.2件	4,946件	11,465円	14.9名	—	— —	—
介護	104人	549.5件	6,594件	9,703円		3,781件	19,215円	9.2名
予防	28人	93.3件	1,120件	8,608円		102件	4,012円	

花屋敷せいれいの里

ケアハウス花屋敷

2024 年度に必要なサービスが増えていく入居者に対して、安心して暮らして頂くために聖隷ヘルパーステーション宝塚との連携システムを構築し、必要なサービスは介護保険や有償サービスで幅広く支えていくことを行った。

2025 年度も継続的に入居待機者を確保することができ、安定した経営を維持できた。

「安心・安全なケアハウス花屋敷」を目指し、身体機能が変化する中で様々なニーズにも対応できるよう、具体的に活動できた 1 年であった。

【事業・運営計画】

1．利用者サービスの質の向上

（ア）状態が変わる入居者への対応力の強化を図る。

①1 年に 1 回、全入居者のモニタリングを行い、利用者ニーズを探っていく予定であったが、計画と進捗確認が不十分だったため、2025 年度中に入居者全員を回ることができなかった。

②受診介助など外出援助について積極的に関わっていく。

2024 年度 1980 分だったが、2025 年度は 2940 分+α の付き添いができ昨年度を上回るサービスが提供できた。

（イ）職員の対応力を向上するため、年間で計画した研修に職員が参加し、職員全員で共有できた。また 2025 年度は職員から勉強したいといわれた項目を実施することができた。

〈アドバンス・ケア・プランニング（ACP）、一次救命処置（BLS）、バイスティックの 7 原則、聖隷ヘルパーステーション宝塚による介護保険制度で訪問介護でできること・できないこと〉。

（ウ）入居者の状態が変化し、回復が望めない場合の継続支援会議を定着させ、ケアハウス花屋敷で対応できる支援の幅を広げる。

①継続支援会議においてはケアマネジャーやヘルパーの出席を定例化することができた。

（エ）家族との連携を強化するため、定期的に家族へ情報を発信するシステムを構築する。

①家族への電話連絡は積極的に行っていたが、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の利用についてはシステムを作ることができなかった。

2．生活の中で楽しむこと、心地よく過ごせる環境を入居者のアイディアや入居者との協働により創っていく。

（ア）各居室の LED 化は 10 月完了、Wi-Fi もロビーに設置することができた。

（イ）レクリエーションの充実をはかり、楽しみを持っていただくとともに入居者間のコミュニケーションを促進できた。

①1 年に 1 回以上の長時間外出レクリエーションを計画し、10 月 17 日淡路島旅行を計画し、28 名が参加した。

②1 週間に 1 回、朝の散歩を定期開催はできなかったが、職員主催の健康体操の開催回数を増やすことができた。

（ウ）入居者が社会に貢献できるようボランティア活動ができる仕組みを作る。

①入居者企画のレクリエーションを開催する。

入居者企画でカラオケやコーラスなど実施できた。また生きがい・やりがいを持ってもらうためのボランティアとして図書ボランティアを開始できた。

②定期に開催している喫茶を地域に向けて開放する。

クールシェアスポットに参加し、1 名の利用があった

3．人材確保と定着を図るための職場環境改善をはかる。

（ア）職員のやりがいにつながるように一人一人が企画したレクリエーションなどを実施できた。

（イ）ケアハウス花屋敷の認知度をあげるために、花屋敷せいれいの里内外で地域に向けたイベントを開催し、施設見学を実施することができた。

4．地域における公益的な取組み

（ア）近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める。

里として実施することができた。

（イ）継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組む。

満願寺祭りの参加や日々のサロンなどの参加は行えた。

【数値実績】

	ケアハウス花屋敷	合計
利用者定員	100 名	100 名
利用者延べ数	36,376 名	36,226 名
稼動延日数	－日	－
一日平均利用者数	－名	－
稼働率	99.7%	99%
単価（1 人 1 日当り）	4,506 円	4,494 円
常勤換算職員数	11.5 名	11.5 名

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸
聖隷ケアプランセンター北神戸

住み慣れた地域で安心して生活を継続することができるよう多様なニーズに応じ、切れ目のない支援体制の維持と在宅看取りの実現につなげた。地域活動への積極的な参画を通じて協働の強化を図り、地域ニーズに応じた事業展開の拡充に向けた人材育成や業務改善の整備を推進した。

１．専門性を強化し利用者のニーズに応じた質の高いサービスを提供する。

（ア）対応できる人材を育成し、利用者が望む在宅生活を支援できた。

① 小児専門病院の研修に計画的に参加し、医療依存度の高い小児看護・小児リハビリテーションの対応力向上を図り、いつでも受け入れ可能な体制を整えた。

② 精神訪問看護研修、心不全療養者のリハビリテーションや再発重症化予防を深める研修に参加し、適切な全身管理、精神的支援の知識を深めることができた。

③ アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の実践を通じて本人の意思決定支援を行い、望む場所で最後までその人らしく生活できるように支援した。

④ 聖隷訪問看護ステーション北神戸、聖隷ケアプランセンター北神戸の合同研修、合同カンファレンスを実施し、支援体制の連携強化につなげた。

２．各機関との連携を強化し、地域ニーズの解決に取り組む。

（ア）ICT を活用し関係機関とタイムリーな情報共有を図り、迅速、適切な対応ができた。

（イ）退院時や発症直後の早期介入、密な多職種連携で要介護状態の改善や悪化予防に取組めた。

３．地域における公益的な取組。

（ア）神戸市北区認知症初期集中支援チーム員として派遣し初期対応に取組めた。

（イ）神戸市委託事業介護予防講座講師として派遣し地域住民の運動、社会参加へ協働できた。

（ウ）神戸市看護大学生実習の受け入れ、及び神戸市看護大学臨床教授、臨床講師を務めた。

【数値実績】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション北神戸）

平均利用者数（人）		月訪問件数（件）		年訪問件数（件）		単価（円）		職員数（常勤換算）（人）
介護	医療	介護	医療	介護	医療	介護	医療	
74.7	46.5	401.7	493.5	4,821	5,923	9,291	9,888	15.7

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数（件）		平均単価（円）		職員数（常勤換算）（人）
介護	予防	介護	予防	
1,403	454	15,936	3,833	4.4

聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター
聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっとこ
聖隷在宅介護支援センター淡路

2025 年度の聖隷カーネーションホームは、厳しい社会情勢と介護人材確保が困難の中で、職員の負担軽減と働きやすい職場環境づくり、施設内の基本的な感染予防対策の徹底に取り組み、限られた職員配置の中で安定した質の高いサービス提供ができた。また、聖隷淡路病院との医療福祉連携により、新規利用者・待機者の確保が図れたことで事業も安定し、ミスト浴の導入、エレベーター更新、廊下の張替え工事、老朽化に伴う設備整備を行い、職員の退職抑制にもつながり健康経営ができたことは大きな成果である。

地域貢献として地域清掃活動への参加、地域行事への参加もでき、利用者満足・職員満足・地域満足も得られたと実感する。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる
～『ともに咲き続ける』ために私たちは、～

1．ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2．現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3．私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1．利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2．職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3．安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4．安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1．より安心・安全で質の高いサービスの追求

（ア）利用者や家族の意向を踏まえ、安心で楽しみのあるサービスを提供するとともに、嗜好品の持ち込みの緩和やドリンクサーバーの導入を行い利用者満足に繋がった。

（イ）職員の介護負担軽減と利用者の安全・安心・安楽な入浴環境を提供するために、デイサービスにミスト浴を導入できた。特別養護老人ホームは、2026 年度、機種選定と導入計画の準備を順次行う。

（ウ）家族、地域に向けた秋祭りや敬老会の開催と文化公演会への参加を企画し、社会性維持、

地域交流が図れた。2026 年度も引き続き、地域交流と地域行事への参加に注力する。

２．多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進

（ア）理念や事業計画と連動した目標管理に取り組み、各職場や職員一人一人の目標達成の支援に努めた。スタッフリーダー1 名の登用と他部署異動によるキャリアアップができた。

（イ）職員の安全確保及び身体的負荷軽減のために、移乗ボードの追加、運用の徹底と機器更新に向けた検討会を継続し、より長く働きやすい介護環境を整備できた。

（ウ）地域での福祉人材発掘と雇用を促進するため、職員紹介制度を活用し、職員 1 名の採用とハローワーク主催のシニア就職説明会に参加し、1 名の雇用に繋がった。

３．サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善

（ア）エリア内の給食業者の統一を実施し、安定した食事提供と物価高騰の影響を最小限に止め、食事サービスの安定的な品質維持と提供ラインの生産性向上の両立を図れた。

（イ）聖隷淡路病院との横断的な人事異動により、生活機能向上連携加算算定の準備、栄養士雇用により、2026 年度栄養マネジメント加算算定の準備を行い、経営の安定化を図った。

（ウ）災害時の福祉避難所として協定に基づく関係者間での集合机上訓練を実施できた。また非常食の提供訓練の実施により、リスク管理体制の見直しと更新が図れた。

４．公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓

（ア）在宅介護支援センター淡路の実績として、年間 450 件の独居訪問と 159 件の電話相談を実施、地域ケア会議や民生委員協議会でケース共有ができ、地域支援体制の構築ができた。

（イ）東浦地区における福祉避難所として、行政、民生委員、町内会長と机上訓練の実施と警察との不審者対応の防犯訓練の実施ができ、防災・防犯意識の向上に努めた。

（ウ）家族介護者教室の中で聖隷淡路病院の見学、聖隷ヘルパーステーション淡路所長の講演を実施し、地域住民や介護者の地域福祉意識の向上に努めた。

【数値実績】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54 名	18 名		25 名	12 名
利用者延べ人数	18,438 名	6,699 名	5,341 名	903 名	2,750 名
一日平均利用者数	50.5 名	18.3 名	17.3 名	2.9 名	8.8 名
稼動率（%）	93.5%	102%		80.8%	73.9%
稼動日数（延べ）	365 日	365 日		309 日	310 日
平均介護度	4.1	3.2	2.1	1.8	2.6
単価（1 人 1 日当り）	12,981 円	12,204 円	9,185 円	5,768 円	12,354 円
職員数（常勤換算）	32.7 名	7.2 名		8.7 名	4.1 名
	聖隷在宅介護支援センター淡路				
職員数（常勤換算）	0.9 名				

淡路栄光園

特別養護老人ホーム淡路栄光園
淡路栄光園デイサービスセンター

2025 年度の淡路栄光園は「生活の質向上」に重点をおき、利用者が安心し快適に暮らせる生活支援の実践に注力した。テクノロジーの活用、地域連携、職員のスキル向上といった要素を強化し、利用者の満足度と職員の働きやすさを高めるための取り組みを進めることができた。聖隷淡路病院との連携を強化し、近年ニーズが高まっている看取り・高い医療ニーズ・重度認知症等の入所受け入れにも積極的に取り組めたことで、地域に必要とされる施設として活動ができたと感じている。また連携を通じて専門職としてのスキルアップも重ねることができ、介護と医療の橋渡しができる職員が育ってきたことも大きな成果であると感じる。今後も専門職として職員それぞれがやりがいと充実感を感じられる仕事ができる施設運営を続けていきたい。

【施設理念】
「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】
１．愛情と思いやりのあるサービスの実践
２．地域の方々に信頼され、喜ばれ、選ばれるサービスの実践
３．利用者の尊厳を守り、その人らしく安心して生活できるサービスの実践

【事業・運営計画】
１．利用者、家族の期待に応えるサービスの提供
（ア）歯科医・歯科衛生士と連携し、口腔ケアを実践している。口腔衛生管理加算の取得が継続できており、誤嚥性肺炎での入院についても 0 件と抑制につながった。
（イ）聖隷淡路病院と連携し、膀胱カテーテル、褥瘡、胃ろう等医療ケアを必要とされている利用者を 7 件受け入れすることができた。
（ウ）知症介護に関する専門研修へ 2 名の職員の受講調整でき、研修での学びを現場に還元し認知症ケアの質向上を図ることができた。看護のフィジカルアセスメントの取組みについては実施できておらず、2026 年度の課題とする。
（エ）日々の活動に加え、利用者が社会参加できるよう複数の外出活動を実施することができた。

２．働きやすい職場環境の構築
（ア）職員研修を計画的に実施するため、関西ブロック福祉施設共通のプログラム策定に向けて、施設代表者を中心に検討した。2026 年度より実施できる準備が整った。
（イ）「ミスト入浴機器」の導入検討のため導入施設への視察研修を実施、2026 年度の導入に向けて準備をすすめた。移乗介助時の腰痛予防に向けて「フレックスボード」を 4 台導入し、抱えない介護の実践に着手することができた。

（ウ）携帯電話を全台スマートフォンに切替えた。夜間の宅直看護師と連絡において、これまでの通話に加え、スマートフォンを活用し動画・画像等の視覚情報も共有できるよう取り組んだ。
（エ）洗濯室の雨漏り工事、送迎車両の 3 台入替等、老朽化した設備の計画的修繕を実施した。

3．生産性向上につながる ICT 機器の活用
（ア）導入済み ICT 機器の効果検証を実施し、インカムアプリを「BONX」から「LINEWORKS」に変更した。これにより施設内外での視覚情報を含めた情報共有が円滑になった。
（イ）利用者・家族への電子交付開始案を検討するが、実行には至らず 2026 年度の課題とする。
（ウ）看取り期利用者の心拍、呼吸、体動を見守りセンサーで感知し、変化を家族にタイムリーに報告することで、逝去までの時間を家族で過ごせる看取りケアが実践できた。
（エ）入所申込みのインターネット受付を広報したが、インターネット申込みは年間 7.8 件程度に留まった。利便性の高さが必ずしも利用者・家族にとって有益ではないことを仮説化し、2026 年度も引き続きデジタルコミュニケーションの在り方を検討する。

4．住み慣れた地域での暮らしを支えられる在宅サービスの提供
（ア）通所介護と短期入所の施設内連携を強化することで、通所介護と短期入所の併用利用者が 40%となった。「何かあっても栄光園が助けてくれる」と在宅利用者からの声も頂く。
（イ）利用者が入所以前に通っていた地元サロンに参加する等、「サービスを利用していても地域に回帰できる」施設と地域との共生に繋がる活動を実践することができた。
（ウ）地域ケア会議、民生委員協議会等への参加を通じ、地域課題解決に向け関係機関と協働することができた。

5．地域における公益的な取組み
（ア）週 1 回移動販売を誘致し、在宅生活を送る独居高齢者や買い物困難者への支援を実施した。
（イ）岩屋地域のイベント「はぴくる祭り」、聖隷淡路病院「健康フェスタ」に利用者・職員が参加し、地域の方々と顔の見える関係性を構築することができた。
（ウ）兵庫県認定地域サポート施設の活動として、岩屋地域の高齢者見守り活動を実施した。

【数値実績】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60 名	19 名	18 名	
利用者延べ数	21,184 人	7,080 人	4,505 人	384 人
一日平均利用者数	58.0 人	19.4 人	14.5 人	1.2 人
稼働率	96.7%	102.2%	87.2%	
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	310 日	
単価（一人一日当り）	12,681 円	12,198 円	9,800 円	5,495 円
職員数（常勤換算）	36.2 人	6.0 人	6.8 人	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路・聖隷ケアプランセンター淡路
聖隷ヘルパーステーション淡路・聖隷ライフサポート津名

2025年度聖隷ケアセンター津名は、センター内事業所間の連携力を強化することで各経営の安定化に努めることができた。また各職種が専門性を伸ばすため各事業所及びセンター内で協働した研修会が開催できた。そして、これまでの淡路エリア内の組織力を活かした医療福祉連携の更なる充実を図り利用者が安心して暮らせるようにサポートができた。

【施設理念】
聖隷ケアセンター津名の全事業所および全職員は利用者様の「その人らしい暮らし」が継続できるよう、お一人おひとりの価値観や意向に寄り添いながら、専門職チームでプロのケアを提供する。

【事業計画】
１．サービスの質の維持向上に資する人材育成と人材確保に努める
（ア）各事業所において理念、経営方針を踏まえた運営計画を作成・周知したことで、職員個々が経営に参画することができた。
（イ）各事業所において各職種の専門性を伸ばせるよう、勉強会、研修会の実施ができた。
（ウ）センター内事業所にてデスケースカンファレンス２回、事例検討会４回を実施した。また淡路エリア内施設間での事例検討会に４回参加した。
（エ）必要とされるサービスを継続するために看護師、ケアマネジャー、運転員、登録ヘルパー各１名ずつの採用ができた。

２．働きやすい職場をつくる
（ア）各事業所において皆が働きやすい職場について考え実施し、良い職場風土が継続できている。
（イ）人材確保及び各職場において業務に対する改善点を出し合い実施（書類作成、委員会活動のための時間確保）したことで超過勤務が削減できた。また有給休暇についても各自の希望に応じた取得ができた。
（ウ）センター内での食事会、ケアセンター祭り等のイベント担当を多職種より選任することで、職員間の情報共有が促進され、職員同士の交流が図れるようになった。
（エ）タブレットが必要な職場は全員が持ち、訪問できるように台数を整えた。また同じフロア内で報告・連絡・相談の連携がスムーズに行えるようにレイアウト変更を実施した。

３．経営の安定化を図る
（ア）各事業所が収入を意識した運営を行うことでケアセンター全体の経営が安定し、リハビリ機器の更新も計画的に実施でき、利用者満足向上にもつながった。

（イ）訪問介護は特定事業所加算Ⅰ算定を行い、加算要件を満たすことを意識しながら安定した経営をすることができた。

（ウ）通所介護は 6 月に定員を 30 名に変更し、リハビリ機器の更新も計画的に実施でき、利用者ニーズに応えることができた。

（エ）利用者家族の状況を捉え聖隷淡路病院在宅診療部、患者支援センターと連携を図ることで訪問診療、レスパイト入院に繋げることができた。

４．地域における公益的な取り組みを図る

（ア）2026 年 3 月にケアセンター祭りを開催し、多くの参加をいただき、地域住民と交流を図ることができた。2026 年度も引き続き企画する。

（イ）淡路市内の「福祉祭り」等にボランティア参加し、健康相談を 26 件行った。

（ウ）淡路市が行う認知症初期集中支援事業で住民に「転倒予防」学習と体操の研修を行った。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

医療事業			介護事業（予防含む）		
利用者数	訪問件数	単価	利用者数	訪問件数	単価
571 名	4,409 件	10,730 円	2,311 名	11,519 件	8,810 円
職員数（常勤換算）			22.7 名		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路）

介護給付		予防給付		訪問調査
請求件数	単価	請求件数	単価	延べ件数
3,117 件	16,631 円	454 件	4,300 円	18 件
職員数（常勤換算）		10.0 名		

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害（自立支援）		障害（移動支援）	
利用者数	訪問件数	利用者数	訪問件数	利用者数	訪問件数	利用者数	訪問件数
1,204 名	13,176 件	162 名	1,114 件	304 名	2,156 件	39 名	158 件
単価	4,537 円	単価	2,890 円	単価	4,582 円	単価	4,466 円
職員数（常勤換算）				7.5 名			

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

利用定員	介護給付		予防給付	
30 名	延べ利用者数	5,835 名	延べ利用者数	3,108 名
稼働日数	1 日平均数	22.7 名	1 日平均数	12.1 名
257 日	単価（1 人 1 日）	6,890 円	単価（1 人 1 日）	4,929 円
職員数（常勤換算）			10.7 名	

野上あゆみ保育園

野上あゆみ保育園　のがみっこくらぶ／にじっこくらぶ（放課後児童クラブ）

本年度は、子どもひとり一人の興味・関心を尊重し、「自ら考え、行動する力（主体性）」を育む保育に注力した。子どもが遊びを選択できる時間や環境を整えたことで、集中して遊び込む姿や、友だちと相談して遊びを発展させる場面が増加している。

また、園庭に大型の日よけを設置したことで、夏季の熱中症リスクを低減でき、夏場でもダイナミックな泥遊びや水遊びを継続できた。保護者からも「安心して外で遊ばせられる」と評価を得ることができた。

総合遊具も移設し、園庭でのがみっこひろばを実施できた。子どもたちが普段通りのびのびと力を発揮できる場となり、当日まで「自分たちの場所」で主体的に取り組む姿が見られた。

１．入所状況

4 月に 0 歳児 9 名、1 歳児 6 名、3 歳児 1 名、系列園 4 歳児 12 名、計 28 名の新入園児を迎え 104 名でスタートし、定員 90 名に対して 115.5%の入所率であった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

①統合保育…4 歳児 3 名、5 歳 1 名が加配対象であった。行政からは精神科医や臨床心理士による年間 3 回の巡回指導と職員知識向上の研修を受け、発達に悩まれていた家庭をフォローする等の配慮を行った。加配児に対して個別指導計画を作成し、保護者と定期的な面談も行い、きめ細かな支援を行った。

②交流…聖隷の通所介護事業所を含め、他施設と交流を図った。のがみっこくらぶとは、なつまつりごっこやおわかれパーティー等で関わりを持った。在園児の祖父母や地域の高齢者を定期的に招き、伝統音楽あそびを通じて交流を楽しんだ。

③保護者に向けて…一方的な報告ではなく、保護者同士の「横のつながり」を重視したグループワーク形式の懇談会を実施。育児の悩みや喜びを共有し合える場を設けたことで、保護者コミュニティの活性化と園への理解を深めることができた。

④動植物…土作りから野菜栽培に取り組み、クッキングに活用するなど各クラスで楽しめていた。2～5 歳児が枝豆のさやもぎを体験し、食物への興味が高まった。

⑤防災…防災委員会を中心に、様々な状況を想定して訓練を行った。引き取り訓練では、27 家庭の参加があり、保護者の防災意識を高めるために防災食の試食を配布した。

（イ）地域のニーズに対応

①一時保育…0 歳児の利用ニーズが増加している。低月齢児からの預かり需要に応えることで、地域の保護者のリフレッシュや早期復職を支える必要性を実感した。

②延長保育…19 時まで平均 2 名、19 時 30 分まで 1 名の申請があった。

③行政との連携…養育力の弱い家庭に対して、家庭児童相談課とケース会議を行い支援の方法を話し合った。今後も定期的に報告をし、連携していく。

（ウ）職員研修

職員ひとり一人が年間を通じてグループでの研究を継続し、園内発表ができるレベルま

で内容を深めることができた。全職員が探究し共有する姿勢を持つことで、園全体の保育の質が底上げされている。「客観的に保育を振り返る力」を日常の連携にも活かし、クラスの垣根を越えて全職員で子どもを見守る「チーム保育」を再構していく。

３．地域における公益的な取組

（ア）園庭開放、保育体験、季節の製作、保護者向けの体験、伝統芸能・観劇を楽しむプログラムを取り入れ、在宅子育て世帯のニーズに対して幅広い内容で対応した。

（イ）地域に学ぶ中学生の「トライやる・ウィーク」、宝塚西高等学校の保育実習、その他中高生のボランティアを随時受け入れ、園児との交流を図った。

４．学童保育

（ア）西山小学校対象の 2 つの放課後児童くらぶは、定員 19 名と 25 名に対して待機児童がいる状態で始まる。にじっこくらぶは 5 年生が複数名在籍し、高学年の利用が増えた。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	9.0
1 歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
2 歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
3 歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
4 歳児	24	23	23	23	23	24	24	24	24	24	24	24	284	23.7
5 歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28.0
合計	104	103	103	103	103	104	104	104	104	104	104	104	1,244	103.7

②保育日数及び出席状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延べ人数	2,038	1,899	2,034	2,042	1,537	1,922	2,100	1,704	1,805	1,794	1,523	1,935
保育日数	25	24	25	26	25	24	26	23	24	23	22	25
一日平均	81.5	79.1	81.4	78.5	61.5	80.1	80.8	74.1	75.2	78.0	69.2	77.4
一時保育	35	45	47	70	46	47	65	61	63	68	74	52

③職員数（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
計	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
調理(委託)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	6

野上児童館

大切にすべき児童館の「役割」を理解し個々の思いも組み取りつつ、同じ方向を目指せる組織作りを意識した。小学生の参加や中高生タイムが充実したものとなるよう、夕方の時間に簡単な遊びを取り入れる、食育としてクッキングを行うなど、通常とは違うプログラムを取り入れた。

１．利用状況

（ア）乳幼児並びに小学生の利用は定着し、安定した来館者数がある。中高生の利用につながる方法として中学生の興味を引くデザインのチラシを用意し、毎月の利用者数増を目指したが定着までには至らなかった。

２．活動報告（地域における公益的な取組みを含む）

（ア）乳幼児子育て支援活動

未就学児親子対象プログラムとして「カンガルー」「きりん」「おたんじょうび会」を行い、安心して参加できる活動になるよう内容や声かけを工夫した。例年行っているプログラムもその都度、検討したうえで実施した。

（イ）小学生集団あそび支援活動

「児童館まつり」の開催に向けこどもスタッフを募集し、まつりの準備、当日のブースを担当してもらった。小学生対象プログラムの「レッツのがみ」では、子どもたちが話し合いルールを決めて行った。自然体験では NPO 法人などの協力を得て、防災食作り、体験型プログラムを行い、防災について学んだ。

（ウ）中高生の居場所づくり推進事業

中高生タイムの利用は定着には至っていないが、子ども達同士が声を掛け合って利用する姿もある。また、学校に行きづらい子どもが、早退し来館するケースもあったが学校と連携し受け入れを行った。新中学 1 年生への周知のため、小学 6 年生も参加できる Teen’ s ＋one を行い、多数の 6 年生が参加した。

（エ）実習生やボランティアの受け入れ

高校生ボランティアや、地域に学ぶ中学生「トライやる・ウィーク」を館として受け入れた。児童厚生員の実習生は例年通り受け入れを行う。児童館まつりでは、小児がん支援グループ「つながる 7 レモネード」のレモネードスタンド活動、障がい者施設の人たちによるパンなどの販売を行い、来館者にも好評であった。

（オ）運営委員会の充実

運営委員会は、年間 3 回開催した。地域活動についての報告や意見交換の場となっている。

３．職員の資質向上

外部の研修に参加する事で、各自のスキルアップにもつながった。また、日ごろ気になっている事を議題にあげて、職員会議で話し合うことで、互いの意見を尊重しながら仕事に取り組む意識が高まっている。

【数値実績】

① 利用状況　本館（単位：名）

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合　計	開館日数	一日平均
4 月	338	392	37	0	767	331	1,098	25	43
5 月	291	184	6	0	481	280	761	24	31
6 月	278	229	13	0	520	310	830	25	33
7 月	386	924	51	1	1,362	425	1,787	26	68
8 月	330	786	63	10	1,189	366	1,555	25	62
9 月	377	322	2	2	703	360	1,063	24	44
10 月	337	298	11	0	646	364	1,010	26	38
11 月	263	220	18	0	501	292	793	23	34
12 月	314	307	20	0	641	303	944	24	39
1 月	430	327	11	0	768	344	1,112	26	42
2 月	291	151	0	0	442	279	721	22	32
3 月	489	505	34	0	1,028	396	1424	25	56
計	4,124	4,645	266	13	9,048	1,712	10,760	295	48

② 利用状況　出前児童館（単位：名）

	常設　型				派遣　型				イベント型
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
4 月	7	41	0	33	0	0	0	0	0
5 月	8	47	0	40	0	0	0	0	0
6 月	7	27	0	23	2	0	175	0	0
7 月	9	37	0	32	1	0	61	0	0
8 月	8	42	2	31	0	0	0	0	0
9 月	8	47	1	42	1	0	112	0	0
10 月	9	82	0	74	2	1	68	1	0
11 月	8	41	2	37	0	0	0	0	0
12 月	7	35	1	29	0	0	0	0	0
1 月	8	62	3	49	3	0	189	0	0
2 月	7	46	0	40	0	0	0	0	0
3 月	8	55	1	49	0	0	0	0	0
計	94	562	10	480	9	1	605	1	0

逆瀬川あゆみ保育園

子どもの遊びを見る目を保育士が今まで以上に意識することで、子どもの姿や遊びの様子が広がっていくことを実感した 1 年だった。職員が丁寧に子どもの思いに向き合うことを、より大切にできるよう投げかけることも心がけた。

また、簡単な食育を活動の中に積極的に取り入れ、子どもが香りや音、感触などを目の前で感じ取れる機会を作った。楽しみながら行うことで食育が身近なものとなり、2 歳児や 3 歳児が園での活動を保護者に自ら伝える姿も見られた。幼い年齢の子ども達ではあるが、保育士も一緒に楽しむ中で体験活動を継続していきたい。

１．入所状況

4 月に新入園児 0 歳児 5 名、1 歳児 4 名を迎え、計 44 名でスタートした。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容など

①キリスト教保育

職員が心穏やかに保育を始めて欲しいという願いを込めて、朝の祈りから一日をスタートすることを大切に実践している。また、乳児クラスは、育児担当保育を行うことで、子どもとの信頼関係をより深め、安心感をもって園生活を送れるようにしている。発達に合わせた玩具の入れ替えなども、定期的に行った。

②防災・危機管理

職員が年間計画にそって、ねらいや訓練内容を組み立て、実施するようにした。内容を組み立てることで災害時のイメージができ、新たな気づきや課題を共有することができた。役職者不在時や早番、遅番の合同保育時の訓練も実施した。

③食育

園庭で夏野菜の栽培を行い、収穫した野菜を使うことで、香りや音を子ども達が直接感じられるように、簡単なクッキングを数多く行った。3 歳児クラスでは、だしの違いを知る、やきそば、黒豆、はくさいロールなどを行う。2 歳児クラスでは、野菜が苦手な子どもが多かったため、キャベツや小松菜などのバター醤油焼きなどにあえて取り組んだ。聖隷の栄養士も協力的に食育に関わった。

（イ）保育ニーズに対応

①延長保育

18 時 16 分～19 時の延長保育を行った。延長登録児は 1 名。

②一時保育

保護者のリフレッシュなどの私的な理由で、0 歳児の利用が多い傾向となった。登録の面接をタイムリーに行うようにし、保護者のニーズに応えられるようにした。

（ウ）地域における公益的な取組

①地域に学ぶ中学生体験活動週間「トライやる・ウィーク」として市内２校の中学２年生６名、子育て支援員見学実習２名、保育実習生３名を受け入れた。

②室内開放・園庭開放を行なった。室内開放時に加え、体育遊び、足育、母親対象のハンドマッサージ等も行った。園見学の方に子育て支援情報を伝えることで、利用者増に繋がる。定員に達する日も多くあり、キャンセル待ちも発生した。また、担当者との信頼関係ができることで、子育てに対する疑問や不安などの相談も多数対応した。また、子育て支援担当者と一時保育が連携することで、一時保育利用にも繋がった。

（エ）保育室環境の改善、施設整備

老朽化により、園庭の木を伐採したり、手洗い場の水道のつまりがあったりはしたが、大きな修繕は行わなかった。

３．【数値実績】

①歳児別入所保育児

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	70	5.8
1歳児	13	13	13	13	12	13	11	13	13	13	13	13	153	12.8
2歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13.0
3歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13.0
合計	44	44	45	45	44	45	43	45	45	45	45	45	535	44.6

②保育日数及び

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	817	777	873	885	675	779	852	744	831	782	702	826
保育日数	26	24	25	26	25	24	26	24	24	23	22	25
1日平均	31.4	32.3	35.0	34.0	27.0	32.5	32.8	31.0	36.4	34.0	32.0	33.0
一時保育	72	88	95	105	85	101	104	93	79	86	102	111

③職員の状３

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
計	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
調理（委託）	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

御殿山あゆみ保育園

保護者や職員の思いをもとに行事について話し合いを重ね進めていったが、保護者には様々な考えもあり、その都度理解につながるよう努めた。利用状況は、昨年同様、1 歳児クラスの待機が市内全域で少ないことが影響し、受け入れ人数が満たされるまで月数を要した。子どもたちは、年齢を問わず意欲的に生き生きと日々を過ごしていた。職員間は、園内研修でコミュニケーションを意識した内容を取り入れる等、風通しの良い環境を目指していることが窺える。

１．入所状況

（ア）4 月に 0 歳児 5 名、1 歳児 12 名、3 歳児 2 名、計 19 名の新入園を迎え 121 名でスタートし、定員 120 名に対して 100.08％の入所率であった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

①統合保育…特別支援児は、5 歳児クラスに 2 名、4 歳児クラスに 2 名、3 歳児クラスに 1 名が在籍した。精神科医や臨床心理士による年 4 回の巡回指導を受け、専門機関と連携を取りながら、園でできる最善の支援を提供した。発達で悩まれている家庭と適宜面談を行い支援の対象になったケースがある一方、こだわり等は強いが性格の問題との判断から対象外となったケースに分かれた。個々の対応方法は、担当者が研修を受け、ケース会議や資料で情報の共有を行った。

②防災…防災委員会を中心に避難時に必要な物品を職員全体で意識が持てるよう、全員で防災倉庫や屋上ロッカー等の整理を行った。また、近隣の避難場所への避難訓練を行い、気づいた課題から環境を整え、非常時を想定したイメージの共有に努めた。

③食育…夏や冬野菜の栽培を通して旬の食材を知り、味わうことを楽しんだ。栄養士の食育では行事に合わせたもの（うどんや春野菜等）にすることで子どもたちの食に対する興味関心を高めることができた。また、パワーポイント形式にすることで、定期的に幼児クラスが参加でき、クイズから食物の不思議を楽しめる機会が持てた。

（イ）地域のニーズに対応

①延長保育…19 時までの延長保育を行う。申請者は季節限定も含めて 4 名程度であり、全体的に早い迎えであった。

②子育て支援…保育士によるプログラムや園庭開放、祖父母を誘ってのイベント、離乳食試食会、絵本の日、看護師によるぷち保健室や子育て相談等を行った。来館者の話を聴く看護師訪問を新たに行うと、徐々に自身のしんどさを開示できる場に繋がっていった。

（ウ）保育環境の改善、施設整備

①蛍光灯から LED ライトへの交換を行い電気代の節約や交換の手間がなくなった。高圧ケーブル交換が無事に終了し、突然の停電等を回避することができた。

（エ）職員研修

①あゆみ合同研修は職員が学びたい研修のアンケートを取り、用意し、自身で選択する方法で開催した。同じ研修内でグループワークを行い職員からは好評であったが、全体研修を行い内容が共有できる方法も必要と委員から検討事項として挙がっている。2025 年度末会

議では、キリスト教保育について行事だけでなく日ごろの大事さを話す時間を設けた。

②宝塚保育学会は、Web 開催で他ブロックと共有したが、グループワークを中心にしていることもあり委員から現地開催の大事さの意見が出ている。宝塚地区学会では、保育からの代表として発表し賞をいただいた。自分たちの取り組みをわかりやすく表現でき、また事業団の一員としての意識を高く持てる場となり、向上心に繋がった。

３．地域における公益的な取り組み

（ア）保育実習や学生ボランティア、「トライやる・ウィーク」や行政との共催で中・高校生を受け入れた。不登校気味の生徒の参加には地域施設としてのサポートの方法に限界を感じた。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	107	8.9
1歳児	17	19	19	21	22	21	22	21	22	24	25	25	258	21.5
2歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
3歳児	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	299	24.9
4歳児	22	23	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	265	22.1
5歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
合計	121	126	125	127	128	127	128	127	128	130	131	131	1,529	127.4

②保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2,266	2,277	2,372	2,469	1,911	2,234	2,610	2,052	2,329	2,221	2,033	2,266
保育日数	25	24	25	26	25	23	26	23	24	22	22	25
一日平均	90.6	94.9	94.88	95.0	76.4	97.1	100.4	89.2	97.0	101.0	92.4	90.6
一時保育	89	79	76	84	67	89	91	79	87	79	93	91

③職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	17	16	16	16	15	16	16	17	18	18	18	18
計	37	37	37	37	36	37	37	38	39	39	39	39
調理(委託)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

御殿山児童館

2025 年度は、児童館の役割を再認識し多角的な事業やプログラムの展開に挑戦した 1 年となった。子育て支援では、来館者一人ひとりへの丁寧な関わりを重視した。育児の悩みや孤立感を分かち合い、子育ての喜びを実感できる「仲間づくり」を推進するとともに、個別支援を要する親子については職員間での情報共有を徹底し、関係機関との緊密な連携を図った。児童健全育成においては、子どもたちの主体性を尊重し彼らの意見を取り入れたプログラムを実現することで、異学年交流や自主性の向上に寄与した。特に高学年児童に対しては、家庭でも学校でもない「第 3 の居場所」としての機能を強化し、安心して過ごせる環境づくりに注力した。また、中高生世代を対象とした「中高生タイム」での調理活動（クッキング）は、「生きる力」の育成と学年を超えた交流の場として定着し、多くの参加を得ることができた。今年度は来館者数も増加しており、今後も「地域の居場所」としてさらなるサービスの向上と地域福祉の増進に尽力していきたい。

【事業・運営状況】

１．地域との連帯の強化

（ア）地域との関わりを深め、協力体制を構築するため地域の会議に参加した。児童館での利用状況や全体的な傾向について共有しながら、関係機関と連携を図った。

２．サービスの質の向上

（ア）来館者が安心して遊ぶことができるよう、感染防止対策を講じ、安全に配慮した環境づくりに努めた。安全管理の徹底と事故等の有事に備え、新規利用者には緊急連絡先等の登録を行い、適切に管理した。

（イ）乳幼児親子を対象とした子育て支援プログラムは、成長に合わせたプログラム内容とし、発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供することで「子育ち」・「親育ち」を支援した。

（ウ）小学生を対象とした集団あそび支援プログラムについては、異学年との交流や体験ができるよう工夫し、仲間作りを促進した。

（エ）中高生を対象とした居場所づくり推進事業では、中高生クッキングや子どもたちが企画・運営するプログラムを実施し、先輩・後輩の垣根を越えた関わりを深めることができた。

（オ）出前児童館事業として、児童館が近隣にない地域に出向き、地域住民にとってより身近な居場所づくりを行うとともに、地域の子育て力の向上に繋がるよう、遊びのノウハウの提供や安全管理の指導を行った。

（カ）利用者の声をより集められるように意見箱の設置やアンケートを実施した。寄せられた意見は職員会議等で共有し、検討が必要な案件については協議のうえ対応した。

３．職員の資質向上

（ア）宝塚市児童館交流研修に参加し、技術や実施プログラムの内容の向上に努めた。

（イ）児童館事業に携わる職員全員が同じ方向性で取り組んでいけるように、月 1 回の職員会議や担当（乳幼児・小学生・中高生）ごとの部会を行い、話し合いの機会を持った。

４．地域における公益的な取組み

（ア）地域に学ぶ中学生・体験活動週間「トライやる・ウィーク」では 1 校 4 名を受け入れた。

（イ）地域住民および放課後等デイサービスと連携し、クッキングや公園での遊びといった活動

を通じて子ども同士の交流機会を創出し、地域のつながりや相互理解の促進に寄与した。

（ウ）下校時に児童館前の道路において子どもたちの見守り活動を実施し、地域における安全確保に努めた。

【延利用者数】

	就学前	小学生	中学	高校生	こども計	大人計	合　計	開館日	一日平均
4 月	859	1,151	280	19	2,309	532	2,841	25	113.64
5 月	1,015	739	112	24	1,890	541	2,431	24	101.29
6 月	803	695	243	21	1,762	499	2,261	25	90.44
7 月	503	1,283	259	33	2,078	513	2,591	26	99.65
8 月	569	1,289	149	18	2,025	529	2,554	25	102.16
9 月	686	862	78	19	1,645	566	2,211	24	92.13
10 月	930	832	55	20	1,837	594	2,431	26	93.50
11 月	817	748	80	27	1,672	511	2,183	23	94.91
12 月	821	897	88	24	1,830	479	2,309	24	96.21
1 月	839	856	46	18	1,759	559	2,318	23	100.78
2 月	724	630	78	16	1,448	462	1,910	22	86.82
3 月	853	1,073	123	22	2,071	590	2,661	25	106.44
計	9,419	11,055	1,59	261	22,326	6,375	28,701	292	98.29

【出前児童館回数・利用者数】

	常　設　型				派　遣　型				イベント
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
4 月	8	70	0	63	2	8	0	8	0
5 月	7	65	0	62	3	10	54	10	0
6 月	8	59	0	57	4	4	89	4	0
7 月	9	112	1	97	3	6	36	6	0
8 月	8	89	0	80	0	0	0	0	0
9 月	9	117	0	111	3	2	55	2	0
10 月	9	139	0	130	4	7	62	7	0
11 月	7	79	0	69	4	1	47	1	0
12 月	8	108	0	96	3	5	46	5	0
1 月	7	74	0	62	3	4	35	4	0
2 月	8	85	0	71	3	4	63	5	0
3 月	7	93	0	81	3	5	44	5	0
計	95	1,090	1	979	35	56	531	57	0

聖隷こども園夢舞台

淡路市内の年間出生数は200名を切り、年々減少の一途をたどっている。その中で2024年度は101名からのスタートであったが、2025年度はそれを上回る109名のスタートであった。県外・県内からの移住者もあり途中入園の園児を15名受け入れることができた。また、淡路市からの委託により誰でも通園制度の試験導入にも取り組んだ。課題をもった家庭や園児への対応も積極的に行い、地域の関係各所との信頼関係も構築できた。その中で、ひとり一人の思いに寄り添い丁寧な保育を心がけることで、地域からの声や利用者アンケートの結果で高評価につながっている。

1.入所状況

（ア）定員90名のところ、0歳児2名、1歳児12名、2歳児18名、3歳児22名、4歳児19名、5歳児36名、計109名でスタートする。途中入園15名、途中退園5名のため、2025年度末には119名となる。

2.質の高いサービスを提供する

（ア）管理栄養士と連携しながら、栄養素の話をイラストや図を使用して楽しく学び、自分たちで育てた食材を使ってクッキングをすることで給食の残食をかなり減らすことができた。園での経験が、家庭の中でも活かされていることを実感する。

（イ）物語や万博などから子どもの興味関心の幅をひろげ、表現遊びに繋げたことから、子どもの自主性や主体性を育むことができた。支援児も楽しんで参加でき、語彙も増えコミュニケーションが取りやすくなるなどの成長発達が著しかった。また、保護者の中でも高い評価を得ることができている。

（ウ）防災訓練は、一年を通して職員に予告することなく、いろいろな状況の中で職員全員が臨機応変に行動できることを目的に行ったことで、子ども自身どんな時も慌てることなく対応することができた。

3.地域における公益的な取り組み

（ア）今年度10名の実習生を受け入れ、次世代の育成に広く貢献した。その中で、新入職員2名の採用につながった。

（イ）一時預かり・誰でも通園制度

年間延べ利用者は70名、登録者数は18名だった。海外からの里帰りなどにも柔軟に対応し、多様なニーズに応えることができた。また、淡路市の委託を受けて試験的に行った誰でも通園制度は、時間が短く給食提供もないので、利用者数は伸びなかった。

（ウ）児童発達支援事業所の開設準備

淡路市に対するプレゼンテーションから始まり、必要性を理解していただくため、近隣の事業所や病院の状況把握、保護者の声などを集め何度も話し合いを重ねる。こども園内開設で並行通園ができる事業所は、兵庫県初の試みということもあり時間は要したが、3月31日付で指定認可がおり、子どもの発達に課題を抱える保護者や関係機関の期待も高まっている。

4.健康経営

（ア）職員の精神衛生を守り、業務の生産性を上げるために 5 日連続休暇取得を実現した。職員は海外旅行に行くなど、十分なリフレッシュができている。また、園の保育を知っていただくため、近隣の園にはない夢舞台独自の取り組みである保育参加や、行事予行での祖父母参加は高い評価を得ることができた。

【数値実績】

① 歳児別入所児童数(名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	2	1	1	1	3	3	4	4	4	4	4	5	36	3
1 歳児	12	14	15	17	16	16	17	17	17	17	17	17	192	16
2 歳児	18	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	211	17.5
3 歳児	22	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	275	22.9
4 歳児	19	19	19	19	19	19	19	20	20	20	20	20	233	19.4
5 歳児	36	37	37	37	37	37	37	37	37	37	36	36	441	36.8
合計	109	111	112	114	115	115	118	119	119	119	118	119	1,388	115.6

② 保育日数及び出席状況(名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
延べ人数	1,982	1,995	2,172	2,130	1,684	2,008	2,312	1,819	2,106	1,827	1,895	2,096	24,026
保育日数	21	20	20	23	21	20	23	18	23	19	20	21	249
日平均	94.4	99.8	108.6	92.6	80.2	100	101	101	91.6	96.2	94.8	99.8	96.5
一時預り	3	4	6	5	3	3	2	6	10	12	8	8	70
一号預り	110	103	82	102	75	104	94	86	90	81	105	93	1,125
延長保育	75	84	91	102	65	68	87	75	66	66	70	92	941
病後児育	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5

③ 職員の状況(名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
主幹保育教諭	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正/ゾ)	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	17
保育教諭（パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
保育士（パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
保育助手	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員（正)	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	30	31	32	32	32	32	32	32	32	32	32	31

在宅・福祉奄美ブロック

2025 年度はブロックとして地域の特性を踏まえた事業活動を行い、明確に成果と課題が表出した一年であった。奄美佳南園では令和７年度介護職員の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣優良賞を受賞した。これは職員の待遇改善、人材育成及び介護現場の生産性向上への取組が優れた事業者として評価されたものであり、地域の中でブランディングを高めることができた。

また、奄美地区障がい者等基幹相談支援センターを急遽ではあったが社会福祉法人三環舎と共同事業体として７月より運営受託することとなった。これは地域の中で聖隷が障害福祉サービスを行う代表的な法人として認知されていることと、将来、奄美市、龍郷町だけでなく大和村、宇検村、瀬戸内町の福祉に関わることを意思表明したという出来事でもあった。

運営面ではのぞみ園や聖隷かがやき、チャレンジ工房カナン等障害福祉サービスは 2024 年の報酬改定が評価され堅調だったが、奄美佳南園、春日保育園は大変厳しい運営となった。

奄美佳南園在宅事業では訪問介護事業は訪問件数の増加で回復したものの通所介護事業（佳南園・春日）の一体運営並びに居宅介護支援事業は思うように効率化できず経営改善は達成できなかった。また、入所事業も利用者重度化に伴う、回転率の上昇や入院ベッドのコントロールが十分にできず、国が推進する医療と介護の連携強化も大きな課題を残すこととなった。

春日保育園は１年を通じ稼働率が 100％に達することはできず、併せて過年度分の公定価格改定、処遇改善加算の職員への追加支給が生じ、大きく支出が増加した。

しかし、今後に向け奄美佳南園給食業務の直営化やブロック事務業務の一体化、春日保育園の大規模修繕に合わせた児童発達支援事業開設準備の決定ができたことで次年度につながる準備ができた。ブロック体制開始に伴い、各施設長がブロック全体視点で考えることができるようになっている。今後は更に職員にも浸透するよう努め、職員が施設を超えて法人への愛着心の向上や、専門性の向上、働き続けられる仕組み作りを進めていきたい。

【奄美佳南園】

① ICT 機器導入、活用と業務見直しで、超過勤務削減ができた。(2024 年度比 21．7％削減)
② 稼働予測のデーター化と新規入所対応の連携体制は実施できたが、先を見通した稼働調整(入院対応､新規調整)に課題が残った｡(2025 年度予算稼働目標 97％に対し実績 94.27％)
③ 訪問入浴事業の廃止(９月)と通所介護の一体運営を実施したが、在宅全体では目標達成には至らなかった。
④ 就労継続支援 B 型においては、工賃向上を目指し新たな作業品目の開発に取組み、地域のイベントや施設での地場産加工品販売を実施することができた。
⑤ 本部人事企画部と連携した採用活動は一定の成果を上げ、2027 年度入職予定者迄は計画化できた。それ以降の人材確保に向けては聖隷国際人材センターとの連携を開始する。
⑥ 2026 年度に向け、佳南園給食業務を委託から直営化へ切換えた。また、事務業務について、全施設の職員を運営管理室への配置を決定した。

【春日保育園】

① 積極的な利用者受け入れを実施したが 3 月末に 100%稼働となるも予算は未達となる。
② 4 月より ICT システム使用開始しご利用者の利便性が向上した。全職員が使いこなせるようマニュアル作りを積極的に取り組んだ。
③ 次期主任登用を進め、副主任、分野別リーダーの役割を表で可視化し、意識づけを行った。
④ 療育の可能性がある家族に向け、月 1 回の親子支援や他事業所（年 5 回以上）との担当者会、保健師との情報共有、健診後のフォロー連携等に努めた。
⑤ 大規模修繕について奄美市と協議を重ね、協議書を 2026 年 4 月に申請することとなった

【のぞみ園】

① オンラインを活用した並行通園先との情報共有を増やすと共に、自立支援協議会こども部会運営委員として課題提案をし、基幹相談センターと他機関との連携を促進した。
② 発達支援、家族支援拡充の為、市主催の親子教室へ保育士派遣を行った。園独自の親子教室も実施した（市親子教室 3 教室：利用者平均各 10 名）（のぞみ園親子教室：平均 8 名）
③ 作業療法士を配置（非常勤）し個別課題の把握が進んだ。引続き専門職の配置を進める。
④ 人材不足により、新たな拠点計画は進展しなかった。2026 年度も継続して検討する。に

【聖隷かがやき】

① 地域の中核機関として、子ども園、保育所と連携し情報共有を実施した。また保育所等訪問による支援の共有に努めた。また、県立病院の救急外来医師等外部より 17 名の研修を受け入れた。今後医療と福祉の連携の構築につなげる。
② 聖隷こども家庭総合支援センターとの連携は未実施となった。医療的ケア児の支援など今後構築に向けて取り組む。
③ 外部委託の臨床心理士との連携で丁寧な保護者への対応ができ、就学へ向けての支援となりが保護者の安心感を高めた。
④ 稼働率向上に努め児童発達支援 93%、放課後等デイサービス 105%を達成した。地域の支援施設として定着してきた。

【共通】

① 新規開拓として、昨年同様福岡県に加え、離島を含めた新たな求人先を開拓した。
② 奄美ブロック全体で未収金管理に努め、新たな長期未収者が発生しないよう取り組んだ。
③ 事務集約拠点（奄美佳南園）の機能見直しについて取組みは進まなかったが 2026 年度より職員を運営管理室への配置とし一体化した。人事給与システムについてはメーカが変更となったため、2026 年度継続して検討する。
④ 管理栄養士を含む食事サービス部門の一体的な運営を検討したが、奄美佳南園で 2026 年度から完調品導入、直営化を決定した。

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所
・在宅介護支援センター・聖隷チャレンジ工房カナン

急激に変化する社会情勢の中、経営の効率化と生産性向上を目的に訪問入職事業の廃止ができた。また、これまで取り組んできた介護現場の生産性向上や人材育成、待遇改善などの取組みに対して、令和 7 年度介護職員の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣優良賞を受賞し地域の中でブランディングを高めることができたのは、2025 年度の大きな成果であった。

しかし、入所施設では重度化が進み入れ替わりの激しい入退所対応や医療と連携した看取り介護、在宅事業では、連携して地域高齢者を支える体制づくり、就労支援事業における新規利用者獲得など、経営と事業継続に直結する課題が大きく出た 1 年でもあった。また、世代交代が進む中、理念継承をはじめとするインナーブランディングをどのように高めていくかなどもこれからの課題である。

2026 年度は、物価高騰や人材不足などへの国の政策動向もしっかりと見通しながら、既存の福祉事業の強化と生産性向上、医療を含めた連携体制づくり、事業コストの見直しなどに着手し、経営の安定化と地域における事業価値を高める取組みを推し進めていく。

【事業実績】

１．利用者満足向上のための取組

(ア)理学療法士を中心に利用者の安全、安楽な姿勢保持や個別、集団のリハビリに取組んだ。

(イ)サービス向上と業務効率化の為、インカムでの全体申送りや緊急連絡等の活用、見守りシステムでの事故検証や看取り時の感圧センサー活用等安全と業務効率化に取組んだ。

(ウ)認定特定行為業務研修修了者3名増員し、24時間重度者を受入れ可能な体制を強化した。

(エ)就労移行支援、就労継続支援Ｂ型において、地域の特産品等を生かした商品開発と作業品目開発に取り組み、利用者の平均工賃向上に努めた。（2024 年度比:24.4%向上）

２．職員満足向上のための取組

(ア)AI 議事録、ICT 機器の更なる活用推進を行い超過勤務削減できた。(前年度比 21.7%削減)

(イ)求人活動として学校訪問、バスツアー、JOB カフェマッチング、ガイダンスを実施し、正規職員の採用（新卒２名、中途２名）ができた。

(ウ)職員の健康増進の取組みとして、健康診断の有所見者に対しての受診勧奨を強化し、対象期間の全ての該当職員の再受診と報告書提出を確認することができた。

３．事業の成長と安定した経営基盤の構築

(ア)多職種による入所待機者の早期入所、医療機関への入院者フォローによる長期入院の削減の取組みを実施したが、稼働目標達成には至らなかった（目標 97%、実績：94.27%）

(イ)在宅事業の再編に向けて、訪問入浴事業の廃止と通所介護事業の事業変更を実施した。

(ウ)就労移行支援事業から利用者 2 名の就職及び 6 カ月以上の定着支援を実施した。

（エ）食事サービスの直営化決定とブロックの一体的管理に向けた準備を進めることができた。
（オ）ブロック事務機能強化と継続可能な体制作りの準備と、定期的な未収金回収を実施した。

４．地域における公益的な取組
（ア）福祉拠点施設の経験や機能を活かし、地域支えあい活動や健康づくり教室等に参画した。
（イ）地域における災害時支援と有事の際の地域との連携体制づくりに向けて、自治会と合同の防災訓練を実施した。

【数値指標】

	特養入所		短期入所		在宅介護支援センター
	従来型	ユニット型	従来・空床	障害	
利用者定員	50名	30名	10名		—
利用者延べ人数	16,506名	9,778名	4,715名	141名	—
一日平均利用者数	45.22名	26.78名	12.92名	0.39名	—
稼動率	90.44%	89.27%	129.2%	—	—
稼動日数（延べ）	365日	365日	365日	365日	257日
単価（一人一日当り）	12,420円	14,875円	11,979円	11,929円	—
職員数（常勤換算）	32.1名	26.7名	2.8名		1.1名

	奄美佳南園デイサービス			就労支援	
	通所介護	総合事業	生活介護	移行支援	継続B
利用者定員	30名			6名	14名
利用者延べ人数	4,202名	1,003名	608名	1,160名	3,686名
一日平均利用者数	16.16名	3.86名	2.34名	3.73名	11.85名
稼動率	74.53%			62.17%	84.66%
稼動日数（延べ）	260日	260日	260日	311日	311日
単価（一人一日当り）	8,845円	5,012円	7,831円	6,585円	10,085円
職員数（常勤換算）	9.3名			8.3名	

	訪問入浴介護		ホームヘルプ		居宅介護支援	
	介護	障害	介護	障害	介護	予防
利用者延べ人数	71名	27名	3,010名	810名	694名	101名
一日平均利用者数	0.54名	0.21名	8.25名	2.22名	—	—
稼動日数（延べ）	131日	131日	365日	365日	日	日
単価（一人一日当り）	16,499円	12,667円	6,281円	5,537円	16,465円	4,359円
職員数（常勤換算）	1.7名		5.2名		3名	

春日保育園

2025 年度は、利用定員 110 名に変更し、乳幼児の積極的な受け入れに努めた。年度途中の転園等、家庭の事情による欠員もあり予算達成には至らず、運営は厳しいものであった。しかしながら、無事に事業を継続できたことは、職員ひとり一人の尽力によるものと深く感謝する。また、保育 ICT システム（コドモン）の導入運用を始め、保護者との連絡ツールやドキュメンテーションの活用を通じた「保育の見える化」に努めた。試行錯誤を重ねながらの運用ではあったが、園での子どもたちの様子を共有できる体制は、保護者の皆様からも高く評価されており、大きな成果が得られたと考える。今後もより良い記録の定着と円滑なコミュニケーションツールとしての活用に向け、引き続き検討を進める。

また、職場環境の改善に向けた「休憩時間の確保」への取り組みについても、職員間の意識向上により、以前よりも取得しやすい環境が整いつつある。今後も職員がより働きやすい環境づくりを継続し、体制の定着を図っていきたい。

【事業実績】

1. 専門性の向上と経営の安定化

（ア）保育の質向上への取り組み

・保育システム（コドモン）を効果的に活用し、園での様子を配信。保護者との間で、子どもたちの成長を双方向で共有できる体制を構築した。

・11 年目を迎えた園独自の「親子教室」について、これまでの取り組みを振り返り、職員によって子どもの捉え方や関わり方に差が見られるなどの課題が明確化した。一方で、本取りくみの成果を「鹿児島県保育事業研究大会」にて発表したことは職員の大きな自信となり、さらなる専門性の向上への意欲に繋がった。

・地域の児童発達支援事業所を利用する子どもたち（23 名）を積極的に受け入れ、個別支援計画に基づいた一人ひとりの特性に寄り添う保育、家族支援を実践し、障害児保育事業補助金を年間を通して取得できた。

（イ）経営の安定化

・園児の積極的な新規受け入れを推進（年度途中 15 名入園）するとともに新たな加算取得（チーム保育推進加算、高齢者等活躍推進加算）ができた。

・奄美市と大規模修繕に関する協議を密に行い、2026 年度の実施に向けて準備を整えた。また、保護者へは文書にて計画を事前通知し、理解と協力を求めた。

2. 働きやすい職場環境の整備

（ア）働きやすい職場環境作り

・保育記録業務の効率化により、運用初年度につきシステム習熟に向けた課題はあるものの前年比 5%、年間平均約 11 時間の超過勤務削減を達成した。

・休憩時間の取得について全職員でアイデアを出し合い改善に取り組んだ。各クラス、各フロア単位で声をかけあう意識が定着し、リフレッシュできる環境が整いつつある。

（イ）リーダー人材育成への取り組み

・人材育成を目的とし、奄美ブロック子ども部門各施設の若手職員が企画運営を行い合同の遊びの研修及び交流会を実施した。施設を越え「顔の見える関係性」を構築でき職員同士のつながりができた。

3. 地域における公益的な取組

・高校生ボランティア年間延べ133名を受け入れたほか、中学生の職場体験も実施した。実体験の場を提供することで、次世代を担う若者へ保育の魅力を発信する役割を担った。

・地域自治会が開催する「こども祭り」、「夏祭り」、「敬老会」へ園児と参加した。多世代との交流を通じて、地域社会の一員としての絆を深めることができた。

【経営実積】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳	4	4	4	2	4	6	6	6	7	7	9	9	68	5.6
1歳	16	17	17	17	18	19	19	19	19	19	18	17	215	17.9
2歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252	21
3歳	21	21	21	20	20	21	21	21	21	21	21	21	250	20.8
4歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	20
5歳	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264	22
計	104	105	105	102	105	109	109	109	110	110	111	110	1,289	107.3

② 保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ数	1,796	2,029	2,048	2,137	1,850	2,022	2,302	1,883	2,070	1841	1,910	2,174
保育日数	23	24	25	26	25	24	26	23	24	23	22	25
一日平均	78.0	84.5	81.9	82.1	74.0	84.3	88.5	81.8	86.2	80.0	86.8	86.9
延長保育	40	49	41	35	19	49	52	31	28	31	37	69

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正.パ)	16.2	16.2	16.2	17.2	17.2	17.2	17.2	17.2	17.2	17.2	16.4	16.0
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員（正）						1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.9	2.9	2.9
准看護師（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助(パ)	2.5	2.5	2.5	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7
事務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計（換算数）	24.9	24.9	24.9	25.1	25.1	26.1	26.1	26.1	26.1	26.8	26.0	25.6

のぞみ園

児童発達支援センター、放課後等デイサービス、特定相談支援、基幹相談支援センター

2025 年度は、相談支援事業所の協働体制構築や、奄美地区障がい者等基幹相談支援センター受託運営を実施したことで、就労支援において離島環境を理由に就職支援に消極的な事業所があったり、保育所等訪問事業数増加により訪問先の混乱が生じている等、地域課題が見えてきた。解決の必要性を感じる一方で、対応できる人材不足が大きな課題となっている。人材育成に向けた取り組みとして、施設を超えて奄美ブロック全体で取り組む意識を醸成するため、業務外で職員が交流を行う「きばろう会」の活動に参加した職員の成長が見られた。今後も広い視点で互いに協力する意識を育てていきたい。放課後等デイサービス事業においては定員を減らし 2 事業所目の開設を計画していたが、職員確保が困難で未実施に終わる。依然ニーズは高く利用者も増え続けているため引き続き検討していく。業務効率化としてデジタルツール（AI 議事録、オンライン会議）を利用することで地域支援が広がりその結果加算取得にもつながった。

2026 年度は引続き人材不足、基幹相談支援センター等地域を担うことのできる人材育成、役職者となる人材育成を奄美ブロック全体で行うこと、人材不足の課題解決に向け AI 議事録等デジタルツールを積極的に取り入れること、また、臨床心理士採用により、今まで課題として残っていたライフステージに応じた継続性のある支援を関係機関と共に連携し強化していく。

１．事業所としての機能強化と経営の安定化

ア）児童発達支援では専門職との連携、臨床心理士との情報交換を通して発達に応じた支援につなげることができた。また、地域支援として研修会への声掛けや保育園との交流、公開療育によって発達支援の大切さを伝えることができた。

（心理士との事例検討会：年２回・情報交換会：3 事業所・発達検査：15 名
保育園との交流：1 回・公開療育：5 回・地域向け研修の開催：2 回）

イ）放課後等デイサービスでは親子登園や保護者懇談会、就学前交流会、家族参加交流会、また、チャレンジ工房カナンと連携して研修会の開催等、家族支援に取り組んだ。

（運動会、放デイ交流会、語ろう会、遠足後の懇談会、就学児保護者交流会
就労についての学習会）

ウ）のぞみ園独自の親子教室の開催や、見学児対応職員を増やしたことで療育へつなぐタイミングを逃すことなく取り組むことができた。また、放課後等デイサービスにおいて日中一時支援を取り入れたことにより安定した利用につながった。

（新規利用児　児発：19 名・放デイ 16 名）

エ）奄美地区障がい者等基幹相談支援センターを 7 月より社会福祉法人三環舎と共同事業で運営受託を開始し、奄美大島の総合相談機能が停止する危機的な状況を回避し、安定的な運営を継続することができた。

２．専門職としての成長と活躍できる環境作り

ア）専門職の雇用（非常勤）や資格取得、積極的な研修会の参加、施設見学等推進するこ

とで意欲的に学ぶことができる環境作りを行った。また、休みを調整しやすい職場風土作りをすることで有給取得率も向上し、パートから正職員への雇用につなげることができた（1名）

イ）専門職として作業療法士と契約を行い、職員も学びを深めることができた。また、心理士採用をすることができた。

３．地域交流と地域貢献

ア）奄美療育ネットワーク主催のダウン症親子の会（1回：職員1名、親子3組）や事業所交流研修会（1回：8名）自立支援協議会子ども部会主催の事業所間事例検討会交流会（6回：20名）に参加した。

イ）地域支援の取組みを年間を通して実施することができた

（自立支援協議会こども部会運営委員、教育支援委員、奄美市こども子育て会議、奄美市親子教室派遣：年30回、乳幼児発育発達クリニック派遣：年4回、療育等支援事業施設支援派遣：3回、鹿児島県発達支援事業連絡協議会奄美支部として療育施設への研修開催、法定研修等ファシリテーターやコーディネーター3名）

ウ）保育所との交流（1回）公開療育（5回）を実施した。また、保健師視察（1回）受け入れを行った。

エ）保護者合同で災害時を想定した訓練実施の中で試食を行ったことで常備している非常食の見直しを行い今後有事の際にはより地域にいる支援の必要な方々を受け入れる準備を整えることができた。

【数値実績】

	児童発達支援	保育所等訪問支援	放課後等デイサービス	相談支援	障害児相談支援	基幹相談
利用者定員	25名	—	20名	—	—	—
利用者延べ人数	5,747名	23名	4,637名	8名	321名	—
一日平均利用者	22.9名	—	19.4名	—	—	—
稼働率	91.6%	—	97%	—	—	—
稼働日数（延べ）	251日	—	239日	241	241	241日
単価（一人1日当り）	16,159円	17,836円	8,521円	21,333円	23,818円	—
職員数	16名	1名	8名	2名		2名

聖隷かがやき

児童発達支援センター　　放課後等デイサービス　　特定相談支援

2025 年度は職員体制の変化に伴い地域との連携を再構築することで、地域から施設に求められていることを再認識できた年だった。複合的な課題を抱える利用者に対して個々に応じた支援の提供、地域との情報共有の取り組みなど、丁寧な関わりとして定着し評価されてきている。

一方、この活動を通じ必要とされる新たなニーズの発掘は自施設に求められる役割として気付かされた。また、職員間で協議した記録時間、行事等の準備作業の見直し、ICT 化における事務軽減は業務削減に結び付き、超勤時間が前年度比に対して 24%削減となった。引き続きライフワークバランスを重視した職場環境づくりを進めていく。

これからも利用者や地域から必要とされる新たな支援の仕組み作りと職員にとってやりがいを持ち働きやすい職場として取り組めるように施設運営を行っていく。

１．療育施設としての機能の強化と経営の安定化

（ア）子ども支援

①子どもの育ちを基本に安定した一日の生活リズムにつながれるように個別支援計画を作成し親子通園も支援の一つとして提供できた。

②一人ひとりの子どもの課題をチームとして横の連携でも取り組み、職員間でも情報共有することで支援の統一化につながった。

③就学前児の発達検査を実施し、子どもの得意、不得意に気づき、適切な学びの環境について保護者と共に検討し年長児クラスの 50%は地域の通常クラスへつながり、学童期の移行時にインクルージョンの推進ができた。

（イ）家族支援

①ペアレントプログラム支援者に５名の職員が認定を受けた。行政主催、自施設と２回実施することで、家族への支援の充実を図れた。

②保護者勉強会では保健師による研修を企画し小学校中学年から身体の変化による家族や人との距離感について、見通しを持った子どもの成長を共に学ぶことができた。

（ウ）地域支援

①公開療育、施設見学を３回ずつ実施して施設の活動内容を理解してもらうと共に、子どもへの支援方法など地域の関係者と共有できた。

②３歳以上を対象とした親子遊びの提供を行政と連携し地域の保育所へ９回実施、提供できたことで地域との関係性の構築につながっている。

（エ）経営の安定化

①３施設事業所の相談支援共同体による相談支援機能強化型体制Ⅰの加算取得を得られた。

②待機児童の解消に取り組めた。（児発登録児 40 名解消、4 月より 38%増）

２．働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

（ア）ICT 化による「ケアカルテ」オプションケアコネを導入し、請求書、領収書の電子化等利用者の利便性向上と事務業務軽減となった。

（イ）相談支援共同体により定期的な会議、研修を行い相談支援専門員の質向上につながっている。

（ウ）効率よく業務が進められるよう職員間で役割分担表を作成し、職員同士がお互い声を掛け合ってチームとして取り組んだ。

３．地域における公益的な取り組み

（ア）施設開放で子育てに悩む地域の相談窓口として年 10 回親子遊びの広場を提供した。

（イ）災害時、非常時における自治体との相互支援体制構築は今後も継続する。

（ウ）施設見学、実習生を受け入れて、施設への理解に努め将来の福祉人材に寄与した。

【数値実績】

	児童発達支援	保育所等訪問支援	放課後等デイサービス	障害児相談支援	特定相談支援
利用者定員	20 名	―	10 名	―	―
利用者延べ数	4,548 名	15 名	2,548 名	186 名	132 名
稼働延日数	245 日	242 日	242 日	242 日	242 日
一日平均利用者数	18.6 名	―	10.5 名	―	―
稼働率	93%	―	105%	―	―
単価（１人１日当り）※	15,759 円	16,679 円	10,726 円	32,546 円	26,010 円
職員数（常勤換算）	10.3 名	0.1 名	6.9 名	0.8 名	0.2 名

※障害児相談支援、特定相談の単価は１人１月当り

法人本部

2025 年度は Vision2025 の最終年度であったが、継続する物価高騰や大幅な人件費上昇だけでなく、医療事業が「医療崩壊」と報道されるほど苦境に立つ中、後方支援・業務改革・経営基盤強化を行った。法人として将来を見据え、中期的視点に立ち、次期中期計画 Vision2030 を策定した。

総務部では業務の標準化と効率化・間接コストの削減の為、役員報酬体系の変更や夜勤手当の統一を実施し、さらに電子契約システムの拡大・転貸住宅制度を導入した。

人事企画部では様々な職員の定着支援のため、育児短時間勤務制度の拡大・エルダーA 職員の処遇改善・副業許可基準の策定等に取り組んだ。採用面では SNS 活用の強化等を行い、さらに「聖隷国際人材センター」では特定技能外国人（介護）の採用を開始し、「特定技能外国人登録支援機関」の認定も受けた。今後のさらなる人材確保強化に努める。

財務部では金利上昇が続くなか大型投資案件も始動するため、今後の資金需要や経済性を考慮し資金調達を実施した。資金運用では、安全面も考慮しつつ、資産価値下落を防ぐべく取組んだ。

総合情報システム部では法人全体として AI 議事録システム、RPA 実用化等、DX の推進を行った。また、EDR による運用監視を強化し情報セキュリティ強化を行った。その他、人材の確保・育成や配置、IT-BCP、IT 投資評価も運用が始まった。

総合企画室では中期事業計画の策定と各施設の経営支援を行う中、役員が議論できる場を作り、意思決定機能の強化に取組んだ。また、広報・ブランディング領域の活性化を図った。

健康推進室では健康経営戦略マップの更新や健康管理システムの導入を検討し、健康管理を推進した。2026 年度のホワイト 500 の再取得が決まった。

法務室は内部通報対応に加え、顧問弁護士と連携した法務相談対応、契約書確認が増加した。

シェアードサービスセンターは 8 月より高齢者公益事業部労務管理業務の移管、業務用車両・ベッドの共同購入事業部の拡大を実施した。

今後も、各部門が緊密に連携し、スピード感をもち社会的責任の遂行と地域への価値提供を推進していく。

※EDR(Endpoint Detection and Response)：パソコンやサーバーでの不正な動きを検知し、対応を支援するサービス。

※RPA(Robotic Process Automation)：従来人間が行っていたデスクワークをソフトウェアロボットが代行・自動化すること。

《総務部》

2025 年度は厳しい外部環境が続く中、総務部は組織運営の基盤を支える部門として各事業部が質の高い事業を行える環境の整備を主眼とし、特に業務の標準化と効率化、職員の働きやすさを支える福利厚生の充実を重点課題として取組を行った。

人事労務においては、役員報酬体系の変更、夜勤手当の統一を実施し、間接コストの削減と業務の標準化と効率化に寄与した。組織管理の基幹システムである人事給与システムの新システムの導入については継続検討とした。2024 年度に導入した電子契約システムでは、法人本部を中心

として各事業部での利用が拡大し 494 件の契約書締結となった。

福利厚生においては、DC（選択制確定拠出年金）の加入率は 20%強から伸び悩んでいるため引き続き加入促進を行う。2025 年度新たに GLTD（団体長期障害所得補償保険）制度及び転貸住宅制度を導入し、職員が安心して働ける環境整備を進めることができた。

総務及び聖隷 DX 人材の育成を継続して強化し、2026 年度はより経営及び職員の働きがいに寄与できる施策を実行していきたい。

《人事企画部》

2025 年度は「2025 年問題」の該当年であり、医療・介護ニーズの増大と労働力不足が顕在化する中、法改正への迅速な対応と職員の定着支援を最優先課題として取り組んだ。

制度面では、育児・介護休業法改正に合わせ、育児短時間勤務制度の対象拡大（小学校就学始期まで）や育児時差出勤制度を新設した。ワークシェア制度は全事業部へ適用を拡大し、利用期間を小学校 3 年生修了まで延長した。制度変更後の新規制度利用者（2026 年 3 月末時点）は、育児短時間勤務 98 件、育児時差出勤 41 件、ワークシェア 11 件と前年度より大幅に増加した。さらにエルダーA 職員の処遇改善を目的とした規則整備や副業許可基準の明確化、診療看護師資格取得支援の拡充など、多様な働き方を支援し、人材の定着を推進した。

採用活動では、新卒・中途ともに母集団形成を強化した。新卒採用では SNS 活用を強化し、入職後の業務を具体的にイメージできる動画配信の増加により訴求力を向上させた。また、説明会から施設見学への期間を短縮することにより、新卒採用充足率は 99%を達成した。中途採用では、市場動向に応じた求人媒体の活用により、応募者数は前年水準を維持し、着実な採用へつなげた。障がい者雇用は継続して法定雇用率を達成した。次年度の雇用率の引き上げを見据えて採用課と施設がより一層連携し、各施設での担当者と共に事業団全体における障がい者雇用への意識向上と採用に向けた体制を強化した。

職員育成では、各階層別研修において実務と理念の連関性を再確認するプログラムを展開した。役職者層では、自らが理念の体現者・継承者であることを自覚し、理念に基づいた対話が職員のエンゲージメント向上に直結するマネジメントの重要性を再認識した。次世代経営候補者の育成を目的としたリーダー1 研修を実施した。研修運営では、研修管理システムを活用し、教育の質的向上と業務の効率化を推進した。今後は活用範囲を拡大する。看護師の特定行為研修では、地域包括ケアシステム推進のため、2026 年 3 月末時点で浜松地区（訪問看護ステーション 6 カ所 12 名、特別養護老人ホーム 1 名）、宝塚地区（訪問看護ステーション 1 名）、花屋敷地区（訪問看護ステーション 1 名）の各地区の在宅領域に修了者 計 15 名を配置した。

2025 年 4 月に外国籍職員への採用から支援までを一元化する「聖隷国際人材センター」を設立した。特定技能外国人（介護）の採用を開始し、インドネシア・フィリピンの 13 名を介護施設や病院で採用した。「特定技能外国人登録支援機関」の認定を受けたことで、2026 年度から他法人の事業所や特定技能外国人（介護）に対する支援業務の体制が整った。EPA 介護福祉士候補者はインドネシアから 2026 年度採用の 4 名、留学生はミャンマー・ベトナムから 2030 年度採用の奨学生 14 名が決定した。さらに関西圏での外国人介護職採用ルートの開拓のため、奈良県内の学校と連携した奨学金スキームを構築し、2026 年 10 月より運用を開始する。2025 年度の EPA 介護福祉士候補者の介護福祉士国家試験合格率は 72.7%であり、全国平均（31.8%）を大幅に上回

る成果であった。在留資格の管理においては各施設と連携して法令を遵守する体制を構築した。

次年度以降も 2025 年度に築いた基盤を最大限に活用し、社会情勢の変化に柔軟に対応しながら持続可能な組織運営を支える人材基盤の構築に邁進する。

《財務部》

引き続き物価高騰、金利上昇が続く経済環境の中、大型の設備投資案件も動き出し、将来に向けた財務戦略が重要となる中、中期事業計画 2026-2030 における財務目標を設定し、それに基づき、資金計画を策定し、実行した。三方原病院電子カルテ更新や宝塚エデンの園建替計画については、今後の資金需要や経済性を考慮し検討を行った上で、金融機関からの資金調達を実施した。資金運用では、安全面も考慮しつつ、物価上昇による資産価値の下落を防ぐべく取り組み、一定の成果を上げる事が出来た。

経理業務の効率化については、財務システムの有効活用やキャッシュレス化を推進、経費精算システムの利用拡大や法人プリペイドカードの導入などを行った。また、受取請求書の電子化について、検討を進め、次年度導入に向けて動き出した。財務システムは、AI 機能を搭載したバージョンアップを行ったが、今後、機能拡大も予定されているため、積極的に業務に取り入れていきたい。

経理職員の育成については、ラダーを意識した経理職研修を実施し、次世代育成をより一層推し進める事に努めた。今後、人材確保から育成までを体系化していくとともに、より効率的に業務、育成が行えるよう、事務拠点の集約化と経理業務の DX 化をさらに推進していく。

《総合情報システム部》

2025 年度事業計画では、DX の推進を始め、情報セキュリティ対策の強化、人材の確保・育成や配置、IT-BCP、IT 投資評価を掲げた。

DX の推進では、AI や RPA などの最新技術の実用化に向けた取組みを本格化した。特に AI 議事録システムは、利用促進活動を重点的に行い、2026 年 3 月末時点では、累計登録者数 501 名、実利用者数 187 名、年間利用時間 3,700 時間を超え、現時点においても更に利用者数・利用時間は増加している。利用促進活動としては、初心者向け・中級者向けに研修コンテンツを分割し、職員へ短い時間で効率的な学習環境を提供し、37 回の研修を開催し延べ 628 名が参加した。

情報セキュリティ対策の強化としては、EDR による運用監視を強化し、適時通知されるアラートを適切かつ迅速に対処する運用を仕組み化した。1 年間を通して重大な事案は発生せず、情報セキュリティの向上に貢献していると考える。また、昨年度に引き続き、毎月のセキュリティニュースの発信や標的型メール攻撃訓練を実施し、職員の情報セキュリティ意識向上に努めた。

人材の育成面では、情報部門職員アンケート（UISS）の結果を活用し、適正な人員配置に努めるとともに、高度な情報技術を持つ職員の採用強化と離職防止のため、情報技術手当を含めた処遇改善について検討した。また、各種セミナーや研修会への参加、医療情報学会などの学術集会へ積極的に参加し、第 26 回日本医療情報学会学術大会では、当部職員の取組みが採択され一般演題として発表することができた。

IT-BCP では、CSIRT（セキュリティインシデント対応チーム）の体制整備の継続や、事業団全

体の事業継続計画の整備が完了した。次年度に向けて、CSIRT の具体的な運用手順の策定や、手順に基づいた運用訓練の実施を事業部横断で実施する。

IT 投資評価については、2025 年度より新たに取組みを始めた。情報システム責任者会を通じ、IT 投資管理部会を事業部横断で発足し、IT 投資の基準、導入目的確認、および目標の適正化を行うガバナンス体制を構築した。2025 年度は、13 件の IT 投資への評価を行った。

※CSIRT(Computer Security Incident Response Team)：サイバー攻撃などのセキュリティインシデント（事故）発生時に、迅速に対応して被害を最小限に抑える専門チーム。

※UISS(Users' Information Systems Skill Standards)：情報処理推進機構で策定している情報システムユーザースキル標準。

《総合企画室》

2025 年度の総合企画室は、「未来に繋がる経営基盤の構築」と「現場に寄り添う経営支援の実践」を両輪として、法人全体の持続的成長に資する取り組みを推進した。

将来戦略の中核である次期中期事業計画（2026-2030）については、現計画の総括を踏まえ、役員の意向を反映し、全職員へ配布した。本計画は、Vision2030 の実現に向けた具体的なロードマップとして機能し、法人全体における方向性の共有・浸透を目指す。また、常務執行役員連絡会等の場を活用し、各施設の個別課題に即した戦略提案を継続的に実施した結果、意思決定支援機能の高度化が進んだ。

経営支援においては、横浜・淡路・富士をはじめとする各施設に対し、稟議段階からの関与や中期計画策定支援を行い、収益改善や運営の質向上に貢献した。特に富士病院においては、集患対策や稼働向上支援により前年実績を上回る結果となった。また、エネルギー契約の見直しによるコスト削減や浜北愛光園の PPA 事業導入、森町愛光園等老朽化施設に対する大規模修繕実施など、経営の安定化、環境改善に資する具体的施策を実行した。

さらに、オンライン診療等医療・介護連携や看護小規模多機能花屋敷等新規事業の創出にも取り組み、投資委員会建築分科会の発足により、老朽化情報の「見える化」を達成した。地域ニーズに応じた新たなモデル構築を進めた。「聖隷みらい創造プロジェクト」では立案から実行へ移す際の課題もあり各ワーキングの委員、実施内容等の再編成を行った。

広報・ブランディング領域では、SEIREI アプリの活用や社内報の充実に努め、職員参加型の情報発信基盤を強化した。アンケート回答数も大幅増加し、組織内コミュニケーションの活性化が進んだ。「聖隷歴史探求ヒストリア」の始動により、法人のアイデンティティ継承にも注力した。

《健康推進室》

2025 年度は①健康経営戦略マップの更新、②ホワイト 500 の再取得、③職員の健康診断結果をシステムで管理する健康管理システムの導入の 3 点を中心に活動を行った。①健康経営戦略マップの更新は、2026～2030 年度の今後 5 年間の事業団の健康経営の指針となるものである。従業員の健康課題を「メンタルによる休職者の低減」「健康不調によるプレゼンティーズムの改善」とし、課題解決のための具体的な健康投資項目とその投資効果の測定方法を明示した。ヘルスケア委員会、健康経営推進委員会を通じて広く周知した。②ホワイト 500 の再取得は総務部、人事企画部、総合企画室など各部署と協働させていただいた。総合評価点 63.1 ポイントと対前年比

3.4 ポイント増の 351～400 位で、ホワイト 500 を再取得することができた。特に組織体制、経営理念・方針で高い評価点数をいただけたことは経営陣含め、事業団全体の努力によるものと考える。③健康管理システムの導入は長年の課題であった。2025 年 12 月には導入の承認をいただけた。2026 年度の運用開始に向けて、運用方法の構築と徹底を進めていきたい。継続課題として、感染症抗体価管理の仕組みを医療事業部の協力を得ながら進めていきたい。また、メンタル不調者の低減には至らなかったことから、ストレスチェックを活用し、各施設の課題の優先順位を見極め、管理職研修を今後も継続していきたい。

《監査室》

2025 年度は当初の予定通り 71 施設に対して往査を実施した。一施設当たりの指摘数は 2024 年度を下回り、良好な内部統制が維持されている。改善報告受領時に改善未完だった項目は年度末に一斉に進捗を確認する取組みを 2024 年度と同様に行った。フォロー監査の対象は無かったが、指摘に対する対応を先延ばしすることなく年度内に解決することを促進した。

《法務室》

法務室を新設した 2024 年度は、内部通報（コンプライアンス・ホットライン）の対応業務が中心であったが、2025 年度は法務室の人員増とともに、内部通報以外の法務関連業務も増加した。

内部通報の件数は 2024 年度より減少したが、ハラスメント相談の割合は継続して高い傾向があるため、各地区のハラスメント相談窓口担当者のマニュアル見直しを行った。

教育活動は、階層別研修のほか、施設からの依頼によりコンプライアンスやハラスメント、個人情報保護等の研修を実施した。2025 年度はカスタマーハラスメントに関する依頼が増えた。

法務関連業務として様々な法務相談を受けることが増え、顧問弁護士と連携して解決に繋げた。また、契約書レビュー依頼も増えており、AI を活用して対応した。

《シェアードサービスセンター》

シェアードサービスセンターは 2025 年度に 3 年目を迎えた。8 月には高齢者公益事業部の労務管理業務の移管を受け、事業団職員全体の 50%弱の給与計算を行う部署となった。高齢者公益事業部については、既存事例に従い事業部と協議しながら標準化を進めている。

労務管理業務は、発足当初から担当している在宅・福祉各ブロック・保健事業部・法人本部については、施設との業務分担について見直しを行い、一部を運用変更した。今後はさらなる効率化と職員の利便性向上に向けて定期的に各ブロック・事業部と状況確認・調整を行っていく。

施設管理業務は、業務用車両・ベッドの共同購入について全事業部に情報共有をすることにより高齢者公益事業部・三方原病院事業部・保健事業部などと共同購入を行い、単体購入よりも費用削減することができた。

2025年度施設整備事業報告

施設種別	有料老人ホーム		
施設名	浜名湖エデンの園		
所在地	静岡県浜松市浜名区細江町中川7220-99		
工事名	4号館1階改修工事		
事業完了年月日	2026年3月31日		
施設の構造	鉄骨鉄筋コンクリート造・地上7階建		
延床面積	350.46m2		
総事業費	土地購入費	－	
	建築工事費	112,860,000	（税込）
	設計監理費	4,840,000	（税込）
	備品費	764,170	（税込）
	その他費用	12,327,040	（税込）
	事業費　計	130,791,210	（税込）
財源	金融機関より借入	0	
	法定補助金	0	
	福祉基金繰入	126,059,340	
	自己資金	4,731,870	
	財源　計	130,791,210	
備考			

2025年度施設整備事業報告

施設種別	有料老人ホーム		
施設名	宝塚エデンの園		
所在地	兵庫県宝塚市ゆずり葉台3-1-1		
工事名	宝塚エデンの園建替えに伴う準備工事		
事業完了年月日	2026年2月28日		
施設の構造	―		
延床面積	延床面積32,582.04㎡（既存建物全体のうち有料老人ホーム部分）		
総事業費	土地購入費	―	
	建築工事費	1,031,140,000	（税込）
	設計監理費	―	（税込）本体工事に含む
	備品費	―	
	その他費用	―	
	事業費　計	1,031,140,000	（税込）
財源	金融機関より借入	700,000,000	
	法定補助金	―	
	福祉基金繰入	―	
	自己資金	331,140,000	
	財源　計	1,031,140,000	
備考			

2025年度施設整備事業報告

施設種別	特別養護老人ホーム、老人短期入所事業		
施設名	森町愛光園		
所在地	静岡県周智郡森町一宮3150		
工事名	森町愛光園大規模修繕工事		
事業完了年月日	2026年3月31日（全体工事完了：2026年7月）		
施設の構造	鉄骨造・平屋建て		
延床面積	3,865.38㎡		
総事業費	土地購入費	－	
	大規模修繕工事費	194,480,000	（税込）
	設計監理費	9,650,520	（税込）
	備品費	8,538,900	（税込）
	その他費用	170,500	（税込）
	事業費　計	212,839,920	（税込）
財源	金融機関より借入	0	
	大規模修繕補助金	70,848,000	
	介護テクノロジー導入支援事業費補助金	2,000,000	
	聖隷福祉公益事業推進基金繰入	100,000,000	※聖隷福祉公益事業推進基金
	自己資金	39,991,920	
	財源　計	212,839,920	
備考	令和7年度・令和8年度　2か年事業		

法人の概要

・ 法人名　　社会福祉法人（せいれいふくしじぎょうだん）聖隷福祉事業団

・ 創立　　1930年（昭和5年）5月

・ 基本理念　　キリスト教精神に基づく「隣人愛」

・ 代表者　　理事長　青木（あおき）　善治（よしはる）

・ 所在地　　静岡県浜松市中央区元城町218番地26（法人登記）

・ 事業内容　　１．医療事業（病院・診療所・ホスピスなど）
２．保健事業（健康増進・健康診断・人間ドック・疾病予防・労働環境測定など）
３．福祉事業（特別養護老人ホーム・障害者支援施設・救護施設・無料又は低額診療・保育事業・有料老人ホーム事業など）
４．介護サービス事業（介護老人保健施設・通所事業・訪問看護ステーション・在宅訪問事業など）

・ 事業規模　　施設・事業数　：208施設　521事業　（2026年3月時点）
職　員　数　：16,340名（非常勤含む）　（2026年3月時点）
サービス活動収益：1,374億円　（2025年度）

実施する事業の概要

【第1種社会福祉事業】

2026年3月31日現在

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
救護施設	聖隷厚生園讃栄寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市	久保　範	38
特別養護老人ホーム	和合愛光園	102	1999年4月1日	静岡県浜松市	青柳　雄大	87
特別養護老人ホーム	和合愛光園和合サテライト	29	2014年4月1日	静岡県浜松市	青柳　雄大	14
特別養護老人ホーム	和合愛光園初生サテライト	29	2012年4月1日	静岡県浜松市	浅地　嘉紀	13
特別養護老人ホーム	いなさ愛光園	70	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野　拓朗	73
特別養護老人ホーム	浜北愛光園	150	1999年4月1日	静岡県浜松市	平川　昌弘	97
特別養護老人ホーム	森町愛光園	80	1993年4月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	52
特別養護老人ホーム	森町愛光園天宮サテライト	29	2012年4月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	12
特別養護老人ホーム	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	100	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島　克行	77
特別養護老人ホーム	浦安愛光園	74	2006年4月1日	千葉県浦安市	竹中　由香里	40
特別養護老人ホーム	松戸愛光園	103	2003年5月1日	千葉県松戸市	石川　智行	75
特別養護老人ホーム	横須賀愛光園	104	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	高橋　等	60
特別養護老人ホーム	宝塚すみれ栄光園	100	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	中原　純平	49
特別養護老人ホーム	宝塚栄光園	70	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	森　大吾	42
特別養護老人ホーム	花屋敷栄光園	108	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井　泰裕	72
特別養護老人ホーム	聖隷カーネーションホーム	54	2014年4月1日	兵庫県淡路市	森本　真史	31
特別養護老人ホーム	淡路栄光園	60	1999年4月1日	兵庫県淡路市	山浦　真佳	33
特別養護老人ホーム	奄美佳南園	80	1974年5月1日	鹿児島県奄美市	福﨑　充	49
特別養護老人ホーム	藤沢愛光園	100	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	林　永美	64
軽費老人ホーム	もくせいの里	50	1978年12月1日	静岡県浜松市	田村　健	9
軽費老人ホーム	浦安市ケアハウス(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市	伊藤　智之	3
軽費老人ホーム	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	中原　純平	31
軽費老人ホーム	ケアハウス花屋敷	100	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	中西　幸子	5
障害者支援施設	障害者支援施設みるとす	20	2003年4月1日	静岡県浜松市	宮﨑　弘光	11
障害者支援施設	聖隷厚生園信生寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市	石川　明彦	34
障害児入所施設	聖隷おおぞら療育センター	150	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部　哲也	172
障害児入所施設	聖隷チャレンジ工房浜松学園	60	2022年4月1日	静岡県浜松市	松井　亮	20

【第2種社会福祉事業】

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
医療保護施設	聖隷三方原病院	928	1942年11月9日	静岡県浜松市	山本　貴道	1,522
保育所	春日保育園	110	1972年4月1日	鹿児島県奄美市	吉山　春香	13
保育所	こうのとり保育園	120	1971年11月1日	静岡県磐田市	梶山　美里	19
保育所	野上あゆみ保育園	90	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本　正子	17
保育所	逆瀬川あゆみ保育園	45	2002年4月1日	兵庫県宝塚市	辻田　紀子	11
保育所	御殿山あゆみ保育園	120	2003年4月1日	兵庫県宝塚市	小南　律子	21
地域子育て支援拠点事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市	吉山　春香	13
地域子育て支援拠点事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	加藤　可織	24
地域子育て支援拠点事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	梶山　美里	19
地域子育て支援拠点事業	野上あゆみ保育園	—	2008年11月1日	兵庫県宝塚市	岸本　正子	17

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
地域子育て支援拠点事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2002年4月1日	兵庫県宝塚市	辻田　紀子	11
一時預かり事業	聖隷こども園夢舞台	—	2017年4月1日	兵庫県淡路市	中野　理恵	22
一時預かり事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市	吉山　春香	13
一時預かり事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	加藤　可織	24
一時預かり事業	聖隷こども園桜ヶ丘	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	太田　康子	21
一時預かり事業	聖隷こども園ひかりの子	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	岡田　絵里子	29
一時預かり事業	聖隷こども園めぐみ	—	2017年4月1日	静岡県浜松市	冨永　裕美	31
一時預かり事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	梶山　美里	19
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり東	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	平野　春江	25
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり豊田	—	2011年4月1日	静岡県磐田市	髙木　智美	23
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	二村　郁枝	26
一時預かり事業	野上あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本　正子	17
一時預かり事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	辻田　紀子	11
一時預かり事業	御殿山あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	小南　律子	21
児童厚生施設	野上児童館	—	2008年11月4日	兵庫県宝塚市	岸本　正子	—
児童厚生施設	御殿山児童館	—	2003年4月1日	兵庫県宝塚市	小南　律子	—
助産施設	聖隷三方原病院併設助産所	6	1994年9月19日	静岡県浜松市	山本　貴道	—
助産施設	聖隷浜松病院併設助産所	10	1969年6月1日	静岡県浜松市	岡　俊明	—
老人デイサービスセンター	和合愛光園デイサービスセンター	75	1999年4月1日	静岡県浜松市	青柳　雄大	10
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター初生	50	2004年4月1日	静岡県浜松市	浅地　嘉紀	4
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市	室谷　健吾	4
老人デイサービスセンター	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野　拓朗	8
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザいなさ	35	2015年10月1日	静岡県浜松市	柴本　千晶	5
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市	村上　和文	4
老人デイサービスセンター	浜北愛光園デイサービスセンター	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	平川　昌弘	5
老人デイサービスセンター	森町愛光園デイサービスセンター	42	1993年4月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	5
老人デイサービスセンター	浦安市高洲高齢者デイサービスセンター(受託経営)	25	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島　克行	2
老人デイサービスセンター	浦安市猫実高齢者デイサービスセンター(受託経営)	25	1999年10月1日	千葉県浦安市	副島　克行	2
老人デイサービスセンター	松戸愛光園デイサービスセンター	34	2003年5月1日	千葉県松戸市	石川　智行	3
老人デイサービスセンター	横須賀愛光園デイサービスセンター	30	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	髙橋　等	3
老人デイサービスセンター	宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	中原　純平	7
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	山口　裕司	6
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	1995年10月1日	兵庫県宝塚市	中田　博仁	8
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンターあゆむ	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市	中田　博仁	2
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市	岩田　裕美	2
老人デイサービスセンター	花屋敷デイサービスセンター	59	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井　泰裕	6
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホームデイサービスセンター	37	2014年4月1日	兵庫県淡路市	森本　真史	3
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっとこ	12	2015年8月1日	兵庫県淡路市	森本　真史	2
老人デイサービスセンター	淡路栄光園デイサービスセンター	35	1999年4月1日	兵庫県淡路市	山浦　真佳	3
老人デイサービスセンター	聖隷ライフサポート津名	25	2020年4月1日	兵庫県淡路市	澤田　卓也	3
老人デイサービスセンター	奄美佳南園　デイサービスセンター	20	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	福﨑　充	3

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター藤沢	40	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	長谷川　由貴子	4
老人短期入所事業	老人短期入所事業(和合愛光園)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市	青柳　雄大	87
老人短期入所事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	青柳　雄大	14
老人短期入所事業	和合愛光園初生サテライト	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	浅地　嘉紀	13
老人短期入所事業	老人短期入所事業(いなさ愛光園)	20	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野　拓朗	73
老人短期入所事業	老人短期入所事業(浜北愛光園)	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	平川　昌弘	97
老人短期入所事業	老人短期入所事業(森町愛光園)	12	1993年4月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	52
老人短期入所事業	森町愛光園天宮サテライト	—	2012年4月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	12
老人短期入所事業	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島　克行	77
老人短期入所事業	浦安愛光園	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	竹中　由香里	40
老人短期入所事業	老人短期入所事業(松戸愛光園)	21	2003年6月1日	千葉県松戸市	石川　智行	75
老人短期入所事業	老人短期入所事業(横須賀愛光園)	16	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	高橋　等	60
老人短期入所事業	老人短期入所事業 (宝塚すみれ栄光園)	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	中原　純平	49
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚栄光園)	15	1993年4月1日	兵庫県宝塚市	森　大吾	42
老人短期入所事業	老人短期入所事業(花屋敷栄光園)	12	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井　泰裕	72
老人短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市	森本　真史	31
老人短期入所事業	老人短期入所事業(淡路栄光園)	19	1999年4月1日	兵庫県淡路市	山浦　真佳	33
老人短期入所事業	老人短期入所事業(奄美佳南園)	10	1999年4月1日	鹿児島県奄美市	村田　勇樹	49
老人短期入所事業	老人短期入所事業(藤沢愛光園)	20	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	林　永美	64
老人介護支援センター	いなさ愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野　拓朗	4
老人介護支援センター	森町愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1998年10月1日	静岡県周智郡	大村　里美	5
老人介護支援センター	聖隷在宅介護支援センター淡路 (受託経営)	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市	森本　真史	1
老人介護支援センター	奄美佳南園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	福﨑　充	2
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	白野　静香	8
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野　淳	4
老人居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	上野　拓朗	1
老人居宅介護等事業	森町愛光園 ホームヘルパーステーション	—	1998年10月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	2
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市	村上　理恵	4
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1997年10月1日	兵庫県宝塚市	西本　祐介	12
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市	橋本　健	6
老人居宅介護等事業	奄美佳南園　ホームヘルプ事業所	—	1993年10月1日	鹿児島県奄美市	福﨑　充	3
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	與五澤　幸子	2
老人居宅介護等事業	ニッセイせいれい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	5
老人居宅介護等事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	中澤　麻利	5
老人居宅介護等事業	聖隷巡回ヘルパーつなぐ宝塚	—	2025年10月1日	兵庫県宝塚市	佐藤　瑞紀	12
認知症対応型老人共同生活援助事業	ほのぼのケアガーデン	9	2001年4月1日	静岡県浜松市	上野　拓朗	8
障害福祉サービス事業	聖隷おおぞら療育センター	20	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部　哲也	172
障害福祉サービス事業	あさひ	35	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部　哲也	12
障害福祉サービス事業	和合愛光園	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	青柳　雄大	87
障害福祉サービス事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	青柳　雄大	14
障害福祉サービス事業	障害者支援施設みるとす	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	宮﨑　弘光	11

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房和合	10	2012年3月15日	静岡県浜松市	小野　英之	13
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	白野　静香	8
障害福祉サービス事業	和合愛光園初生サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	浅地　嘉紀	13
障害福祉サービス事業	聖隷リハビリプラザIN高丘	40	2021年4月1日	静岡県浜松市	室谷　健吾	4
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園信生寮	60	1993年4月1日	静岡県浜松市	石川　明彦	34
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園まじわりの家	6	2011年10月1日	静岡県浜松市	岡本　晃輔	6
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野　淳	4
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園讃栄寮	4	1978年4月1日	静岡県浜松市	久保　範	38
障害福祉サービス事業	生活訓練事業所ナルド	10	2011年10月1日	静岡県浜松市	松田　好弘	2
障害福祉サービス事業	福祉共同住宅　ファーストステップ	13	2019年6月1日	静岡県浜松市	松田　好弘	2
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園ナルド工房	10	2007年4月1日	静岡県浜松市	中道　景	6
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房浜松学園	10	2019年10月1日	静岡県浜松市	松井　亮	20
障害福祉サービス事業	聖隷ワース工房浜松学園	15	2022年4月1日	静岡県浜松市	山本　誠	5
障害福祉サービス事業	聖隷ステップサポート	20	2022年4月1日	静岡県浜松市	松田　好弘	7
障害福祉サービス事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2017年11月1日	静岡県浜松市	上野　拓朗	1
障害福祉サービス事業	聖隷デイサービスセンター三方原	共生型	2018年10月1日	静岡県浜松市	村上　和文	4
障害福祉サービス事業	浜北愛光園	—	2013年1月1日	静岡県浜松市	平川　昌弘	97
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房浜北	15	2014年4月1日	静岡県浜松市	後藤　里奈	9
障害福祉サービス事業	森町愛光園デイサービスセンター	基準該当	2017年4月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	5
障害福祉サービス事業	森町愛光園 ホームヘルパーステーション	—	2016年7月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	2
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市	長谷川　展之	8
障害福祉サービス事業	浦安愛光園	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	竹中　由香里	40
障害福祉サービス事業	浦安ベテルホーム	—	2018年9月1日	千葉県浦安市	大作　昌義	60
障害福祉サービス事業	松戸愛光園	—	2018年2月1日	千葉県松戸市	石川　智行	75
障害福祉サービス事業	松戸愛光園デイサービスセンター	共生型	2019年2月1日	千葉県松戸市	石川　智行	3
障害福祉サービス事業	横須賀愛光園	—	2019年1月1日	神奈川県横須賀市	高橋　等	60
障害福祉サービス事業	横須賀愛光園デイサービスセンター	共生型	2019年10月1日	神奈川県横須賀市	髙橋　等	3
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市	村上　理恵	4
障害福祉サービス事業	宝塚すみれ栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	中原　純平	49
障害福祉サービス事業	宝塚すみれ栄光園 デイサービスセンター	共生型	2018年10月1日	兵庫県宝塚市	中原　純平	7
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房すみれ	4	2025年4月1日	兵庫県宝塚市	中山真由美	4
障害福祉サービス事業	宝塚栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	森　大吾	42
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	西本　祐介	12
障害福祉サービス事業	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	基準該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市	中田　博仁	8
障害福祉サービス事業	花屋敷栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	山野井　泰裕	72
障害福祉サービス事業	花屋敷デイサービスセンター	基準該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市	山野井　泰裕	6
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市	橋本　健	6
障害福祉サービス事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	福崎　充	49
障害福祉サービス事業	奄美佳南園　デイサービスセンター	基準該当	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	福崎　充	3
障害福祉サービス事業	奄美佳南園　ホームヘルプ事業所	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	福崎　充	3
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房カナン	6	2017年4月1日	鹿児島県奄美市	村田　勇樹	3

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
障害福祉サービス事業	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市	座安　香織	16
障害福祉サービス事業	聖隷かがやき	20	2016年6月1日	鹿児島県大島郡	赤塚　美穂子	11
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年5月1日	神奈川県藤沢市	與五澤　幸子	2
障害福祉サービス事業	ニッセイせいれい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	2006年10月1日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	5
障害福祉サービス事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	2017年7月1日	千葉県松戸市	中澤　麻利	5
障害福祉サービス事業	三方原ベテルホーム	—	2025年4月1日	静岡県浜松市	松島　秀樹	83
地域活動支援センター	地域活動支援センターナルド （受託経営）	—	2003年4月1日	静岡県浜松市	白石　知代	3
地域活動支援センター	磐田市地域活動支援センター	—	2022年10月1日	静岡県磐田市	長谷川　展之	2
無料又は低額診療事業	聖隷淡路病院	152	1999年12月1日	兵庫県淡路市	原田　英樹	194
無料又は低額診療事業	聖隷横浜病院	300	2003年3月1日	神奈川県横浜市	大内　基史	—
無料又は低額診療事業	聖隷佐倉市民病院	400	2004年3月1日	千葉県佐倉市	鈴木　理志	—
無料又は低額介護老人保健施設	三方原ベテルホーム	150	1991年5月1日	静岡県浜松市	松島　秀樹	83
無料又は低額介護老人保健施設	浦安ベテルホーム	100	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作　昌義	60
障害児通所支援事業	児童発達支援センターひかりの子	15	2012年4月1日	静岡県浜松市	木部　哲也	6
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援センター和合	50	2023年9月1日	静岡県浜松市	井上　佳子	31
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援センターかるみあ	30	2013年10月1日	静岡県磐田市	井上　佳子	21
障害児通所支援事業	聖隷放課後クラブはなえみ磐田	10	2017年4月10日	静岡県磐田市	小野田　樹	10
障害児通所支援事業	磐田市発達支援センターはあと （受託経営）	—	2007年11月1日	静岡県磐田市	吉岡　雅美	7
障害児通所支援事業	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市	座安　香織	16
障害児通所支援事業	聖隷かがやき	20	2016年6月1日	鹿児島県大島郡	赤塚　美穂子	11
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援事業所 かるみあ富丘	10	2016年4月1日	静岡県磐田市	村井　三奈子	6
一般相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2013年4月1日	静岡県浜松市	白石　知代	8
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市	田中　歩美	4
特定相談支援事業	相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市	木部　哲也	—
特定相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	井上　佳子	5
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	白石　知代	8
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市	田中　歩美	4
特定相談支援事業	磐田市南部障害者相談支援センター	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	松下　由紀	2
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	竹中　由香里	1
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市	石川　智行	1
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市	林本　真志	4
特定相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市	座安　香織	16
特定相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡	赤塚　美穂子	11
障害児相談支援事業	相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市	木部　哲也	—
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2015年4月1日	静岡県浜松市	井上　佳子	5
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2012年6月1日	静岡県浜松市	白石　知代	8
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市	田中　歩美	4
障害児相談支援事業	磐田市南部障害者相談支援センター	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	松下　由紀	2
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	竹中　由香里	1
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市	石川　智行	1
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市	林本　真志	4

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
障害児相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市	座安　香織	16
障害児相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡	赤塚　美穂子	11
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園夢舞台	120	2017年4月1日	兵庫県淡路市	中野　理恵	22
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園わかば	206	1966年11月1日	静岡県浜松市	加藤　可織	24
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園桜ヶ丘	190	1975年4月1日	静岡県浜松市	太田　康子	21
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園ひかりの子	235	1976年4月1日	静岡県浜松市	岡田　絵里子	29
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園めぐみ	166	2017年4月1日	静岡県浜松市	冨永　裕美	31
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり東	215	1978年4月1日	静岡県磐田市	平野　春江	25
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり豊田	155	2011年4月1日	静岡県磐田市	髙木　智美	23
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり富丘	129	2020年4月1日	静岡県磐田市	二村　郁枝	26
病児保育事業	聖隷こども園夢舞台	3	2019年1月1日	兵庫県淡路市	中野　理恵	22
病児保育事業	聖隷こども園わかば	4	2015年4月1日	静岡県浜松市	加藤　可織	24
病児保育事業	聖隷こども園めぐみ	4	2017年4月1日	静岡県浜松市	冨永　裕美	31
病児保育事業	こうのとり保育園	6	2015年4月1日	静岡県磐田市	梶山　美里	19
病児保育事業	聖隷こども園こうのとり東	4	2015年4月1日	静岡県磐田市	平野　春江	25
病児保育事業	聖隷こども園こうのとり富丘	4	2020年4月1日	静岡県磐田市	二村　郁枝	26
放課後児童健全育成事業	オリーブ(聖隷こども園こうのとり東)	—	2015年4月1日	静岡県磐田市	平野　春江	25
放課後児童健全育成事業	野上あゆみ保育園	19	2014年6月1日	兵庫県宝塚市	岸本　正子	17
子育て援助活動支援事業	磐田市子育て支援総合センター「のびのび」	—	2003年7月1日	静岡県磐田市	藤井　麻由美	2
小規模保育所	聖隷のあ保育園	19	2019年4月1日	静岡県浜松市	石川　綾乃	6
複合型サービス福祉事業	聖隷看護小規模多機能横須賀	25	2023年4月1日	神奈川県横須賀市	樋口　範子	7
乳児等通園支援事業	聖隷こども園夢舞台	—	2025年7月1日	兵庫県淡路市	中野　理恵	22

【公益事業】

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
医療施設	聖隷浜松病院	750	1962年3月5日	静岡県浜松市	岡　俊明	2,222
医療施設	浜松市リハビリテーション病院(受託経営)	225	2008年4月1日	静岡県浜松市	昆　博之	457
医療施設	袋井市立聖隷袋井市民病院(受託経営)	150	2013年5月1日	静岡県袋井市	林　泰広	194
医療施設	聖隷浜松病院附属診療所 聖隷健康診断センター	—	1975年5月16日	静岡県浜松市	武藤　繁貴	179
医療施設	診療所聖隷予防検診センター	11	1987年4月1日	静岡県浜松市	野畑　俊介	117
医療施設	聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*	—	2010年4月1日	静岡県静岡市	鈴木　美香	146
医療施設	聖隷静岡健診クリニック	—	2013年4月1日	静岡県静岡市	鈴木　美香	—
医療施設	地域・企業健診センター	—	2008年1月1日	静岡県静岡市	鳥羽山　滋生	157
医療施設	聖隷健康診断センター 東伊場クリニック	—	2023年5月1日	静岡県浜松市	丹羽　宏	—
医療施設	聖隷富士健康診断センター	—	2025年4月1日	静岡県富士市	大島　章	—
医療施設	浜名湖エデンの園診療所	—	2000年3月15日	静岡県浜松市	日置　弥之	3
医療施設	宝塚エデンの園附属診療所	19	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	飯田　俊博	12
医療施設	油壺エデンの園附属診療所	15	1986年11月1日	神奈川県三浦市	渡邊　弘美	11
医療施設	ニッセイ聖隷クリニック	19	1992年3月18日	奈良県北葛城郡	石田　泰史	21
医療施設	松戸ニッセイ聖隷クリニック	19	1997年3月1日	千葉県松戸市	山田　好則	21
医療施設	聖隷クリニック南大沢	—	1996年6月1日	東京都八王子市	宮城島　正行	6
有料老人ホーム	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	添田　学	36

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	1973年5月1日	静岡県浜松市	細川　成則	98
有料老人ホーム	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	請川　哲也	85
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	1980年6月20日	愛媛県松山市	橋本　美穂	37
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	1986年11月1日	神奈川県三浦市	草間　千佳子	89
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達　美由紀	51
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	髙橋　美穂子	36
有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム 藤沢エデンの園一番館	418	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	髙塚　由紀子	26
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	菅野　智晴	33
有料老人ホーム	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枡田　悦弘	92
有料老人ホーム	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	森井　正孝	80
有料老人ホーム	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	1996年6月1日	東京都八王子市	安達　美由紀	81
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1996年7月22日	兵庫県宝塚市	請川　哲也	85
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	袴田　直樹	1
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枡田　悦弘	92
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枡田　悦弘	1
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ニッセイせいれい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	5
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	森井　正孝	80
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	1997年4月1日	千葉県松戸市	森井　正孝	2
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	中澤　麻利	5
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枡田　悦弘	92
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	高齢者総合福祉センター	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枡田　悦弘	1
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイ聖隷クリニック	19	1992年3月18日	奈良県北葛城郡	石田　泰史	21
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月17日	奈良県北葛城郡	井上　國晴	66
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイせいれい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	5
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	訪問看護ステーション西大和	—	1994年6月15日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	6
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイせいれいケアプランセンター 西大和	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	6
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	森井　正孝	80
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	高齢者総合福祉センター	—	1997年4月1日	千葉県松戸市	森井　正孝	2
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	松戸ニッセイ聖隷クリニック	19	1997年3月1日	千葉県松戸市	山田　好則	21
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	中澤　麻利	5
ケア付き高齢者住宅	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	1996年6月1日	東京都八王子市	安達　美由紀	81
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション横浜	—	2003年4月1日	神奈川県横浜市	酒井　志乃	9
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市	竹澤　英恵	8
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉	—	1993年1月18日	静岡県浜松市	山口　美津子	19
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション高丘	—	1997年11月1日	静岡県浜松市	水野　彰子	10
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション細江	—	1995年3月1日	静岡県浜松市	藤野　有美子	10
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	池田　久美子	9

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	—	2020年10月1日	静岡県浜松市	伊藤　純子	5
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション貴布祢	—	1997年2月1日	静岡県浜松市	松下　麻里子	7
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション浅田	—	1995年10月1日	静岡県浜松市	河合　希代美	10
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市	垣野内　恵子	7
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	1998年11月1日	神奈川県横須賀市	久保田　南美	10
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	1995年10月1日	兵庫県宝塚市	黒田　千晶	13
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市	樋口　智恵子	15
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	1997年5月1日	兵庫県神戸市	伊藤　由美子	10
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2000年3月1日	兵庫県淡路市	鷲尾　雅永	13
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	工藤　成美	6
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	米倉　直美	8
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション西大和	—	1994年6月15日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	6
居宅介護支援事業	せいれいケアプランセンター佐倉	—	2019年6月1日	千葉県佐倉市	髙木　友美	3
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター和	—	2007年2月1日	静岡県浜松市	紋谷　めぐみ	6
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜松	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	市原　夏織	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター細江	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	澤田石　理恵	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	長坂　有里	1
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三ケ日	—	2023年4月1日	静岡県浜松市	百合嶋　征宏	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	深澤　和弘	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜北	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	加藤　勇	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター森町	—	2000年4月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	1
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浅田	—	2016年10月1日	静岡県浜松市	牧野　光子	3
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浦安	—	2011年6月1日	千葉県浦安市	—	—
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター松戸	—	2004年4月1日	千葉県松戸市	石川　智行	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター横須賀	—	2000年4月1日	神奈川県横須賀市	梶原　由佳	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターすみれ	—	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	平尾　康充	6
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター宝塚	—	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	三木　薫	7
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター花屋敷	—	2003年10月1日	兵庫県宝塚市	筒井　裕美	7
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター北神戸	—	2000年4月1日	兵庫県神戸市	伊藤　由美子	1
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター淡路	—	2010年5月1日	兵庫県淡路市	新箭　幸平	8
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター藤沢	—	2011年3月1日	神奈川県藤沢市	金子　英里	4
居宅介護支援事業	ニッセイせいれいケアプランセンター西大和	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	6
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	日下部　大輔	14
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	村田　孝弘	5
福祉用具貸与事業	ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	5
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市	日下部　大輔	14
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	村田　孝弘	5
特定福祉用具販売事業	ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	5
特定介護予防福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	日下部　大輔	14
特定介護予防福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	村田　孝弘	5
特定介護予防福祉用具販売事業	ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	5

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
居宅療養管理指導事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	山本　貴道	—
訪問看護事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	山本　貴道	—
特定施設入居者生活介護事業	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	中原　純平	31
特定施設入居者生活介護事業	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	添田　学	36
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	2000年4月1日	静岡県浜松市	細川　成則	98
特定施設入居者生活介護事業	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	請川　哲也	85
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	2000年4月1日	愛媛県松山市	橋本　美穂	37
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	2000年4月1日	神奈川県三浦市	草間　千佳子	89
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達　美由紀	51
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	髙橋　美穂子	36
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	菅野　智晴	33
特定施設入居者生活介護事業	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	枡田　悦弘	92
特定施設入居者生活介護事業	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	2000年4月1日	千葉県松戸市	森井　正孝	80
特定施設入居者生活介護事業	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	2000年4月1日	東京都八王子市	安達　美由紀	81
地域包括支援センター	地域包括支援センター和合 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	松山　美津代	7
地域包括支援センター	地域包括支援センター高丘 (受託経営)	—	2012年10月1日	静岡県浜松市	石田　真規子	6
地域包括支援センター	地域包括支援センター細江 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	齋藤　広江	7
地域包括支援センター	地域包括支援センター北浜 (受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	鈴木　響子	6
地域包括支援センター	磐田市南部地域包括支援センター (受託経営)	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	松下　由紀	4
地域包括支援センター	浦安市高洲地域包括支援センター (受託経営)	—	2016年4月1日	千葉県浦安市	浅地　香織	6
地域包括支援センター	西第二地域包括支援センター (受託経営)	—	2008年4月1日	神奈川県横須賀市	髙橋　等	5
地域包括支援センター	逆瀬川地域包括支援センター (受託経営)	—	2007年4月1日	兵庫県宝塚市	森川　亜矢子	10
地域包括支援センター	花屋敷地域包括支援センター (受託経営)	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	原田　高紀	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	三方原ベテルホーム	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	松島　秀樹	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷淡路病院	—	2014年4月1日	兵庫県淡路市	原田　英樹	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	せいれい訪問看護ステーション横浜	—	2003年4月1日	神奈川県横浜市	酒井　志乃	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	せいれい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市	竹澤　英恵	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜松市リハビリテーション病院	—	2017年10月1日	静岡県浜松市	昆　博之	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷袋井市民病院	—	2019年4月1日	静岡県袋井市	林　泰広	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園特別養護老人ホーム	20	2006年4月1日	静岡県浜松市	青柳　雄大	87
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	青柳　雄大	14
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園デイサービスセンター	75	2006年4月1日	静岡県浜松市	青柳　雄大	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーセンター	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	白野　静香	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション住吉	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	山口　美津子	19
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園初生サテライト	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	浅地　嘉紀	13
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター初生	50	2006年4月1日	静岡県浜松市	浅地　嘉紀	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション高丘	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	水野　彰子	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市	室谷　健吾	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション細江	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	藤野　有美子	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野　淳	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園　特別養護老人ホーム	20	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野　拓朗	73

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野　拓朗	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野　拓朗	1
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ほのぼのケアガーデン	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野　拓朗	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷リハビリプラザいなさ	35	2015年10月1日	静岡県浜松市	柴本　千晶	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	池田　久美子	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市	村上　和文	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	—	2020年10月1日	静岡県浜松市	伊藤　純子	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜北愛光園　特別養護老人ホーム	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	平川　昌弘	97
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜北愛光園　デイサービスセンター	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	平川　昌弘	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション貴布祢	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	松下　麻里子	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園　特別養護老人ホーム	12	2006年4月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	52
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園　デイサービスセンター	42	2006年4月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園 ホームヘルパーステーション	—	2006年4月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園天宮サテライト	—	2012年4月1日	静岡県周智郡	深澤　庸一	12
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション浅田	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	河合　希代美	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市特別養護老人ホーム	50	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島　克行	77
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市高洲高齢者 デイサービスセンター	25	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島　克行	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市猫実高齢者 デイサービスセンター	25	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島　克行	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安愛光園	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	竹中　由香里	40
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安ベテルホーム	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作　昌義	60
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市	垣野内　恵子	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	松戸愛光園　特別養護老人ホーム	21	2006年4月1日	千葉県松戸市	石川　智行	75
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	松戸愛光園　デイサービスセンター	34	2006年4月1日	千葉県松戸市	石川　智行	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	横須賀愛光園　特別養護老人ホーム	16	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	高橋　等	60
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	横須賀愛光園デイサービスセンター	30	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	髙橋　等	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	村上　理恵	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	久保田　南美	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚すみれ栄光園 特別養護老人ホーム	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	中原　純平	49
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚すみれ栄光園 デイサービスセンター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	中原　純平	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	中原　純平	31
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	添田　学	36
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚栄光園	15	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	森　大吾	42
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	西本　祐介	12
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	山口　裕司	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	黒田　千晶	13
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	中田　博仁	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンターあゆむ	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市	中田　博仁	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市	岩田　裕美	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	花屋敷栄光園　特別養護老人ホーム	12	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井　泰裕	72
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	花屋敷デイサービスセンター	59	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井　泰裕	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市	樋口　智恵子	15

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	2006年4月1日	兵庫県神戸市	伊藤　由美子	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市	森本　真史	31
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター	37	2014年4月1日	兵庫県淡路市	森本　真史	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	淡路栄光園	19	2006年4月1日	兵庫県淡路市	山浦　真佳	33
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	淡路栄光園デイサービスセンター	35	2006年4月1日	兵庫県淡路市	山浦　真佳	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2006年4月1日	兵庫県淡路市	鷲尾　雅永	13
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市	橋本　健	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ライフサポート津名	25	2020年4月1日	兵庫県淡路市	澤田　卓也	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園　特別養護老人ホーム	10	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	福﨑　充	49
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園　デイサービスセンター	20	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	福﨑　充	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園　ホームヘルプ事業所	—	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	福﨑　充	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	工藤　成美	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	2006年4月1日	静岡県浜松市	細川　成則	98
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	請川　哲也	85
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	2006年4月1日	愛媛県松山市	橋本　美穂	37
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	2006年4月1日	神奈川県三浦市	草間　千佳子	89
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達　美由紀	51
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	髙橋　美穂子	36
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	菅野　智晴	33
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	米倉　直美	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	與五澤　幸子	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	枡田　悦弘	92
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奈良ベテルホーム	116	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	井上　國晴	66
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ニッセイせいれい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション西大和	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	松田　俊恵	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	2006年4月1日	千葉県松戸市	森井　正孝	80
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	2006年4月1日	千葉県松戸市	中澤　麻利	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	2006年4月1日	東京都八王子市	安達　美由紀	81
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市中障がい者相談支援センター (受託経営)	—	2020年4月1日	静岡県浜松市	藤川　晴海	8
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	宝塚市高齢者・障碍者権利擁護支援センター	—	2021年4月1日	兵庫県宝塚市	吉川　和幸	2
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	奄美地区障がい者等基幹相談支援センター	—	2025年7月1日	鹿児島県奄美市	座安　香織	—
社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業	法人本部	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	青木　善治	112
事業所内保育所	聖隷浜松病院ひばり保育園	200	2015年4月1日	静岡県浜松市	森下　美由紀	27
浜松市生活困窮者自立促進支援モデル事業	浜松市生活自立相談支援センター つながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	鈴木　勇太	12
無料職業紹介事業	浜松市生活自立相談支援センター つながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	鈴木　勇太	12
訪問リハビリテーションの事業	三方原ベテルホーム	—	2020年4月1日	静岡県浜松市	松島　秀樹	83
訪問リハビリテーションの事業	聖隷淡路病院	—	2019年4月1日	兵庫県淡路市	原田　英樹	—
訪問リハビリテーションの事業	浜松市リハビリテーション病院	—	2017年10月1日	静岡県浜松市	昆　博之	—
訪問リハビリテーションの事業	聖隷袋井市民病院	—	2019年4月1日	静岡県袋井市	林　泰広	—

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
訪問リハビリテーションの事業	浦安ベテルホーム	—	2022年6月1日	千葉県浦安市	大作　昌義	60
訪問リハビリテーションの事業	奈良ベテルホーム	—	2018年10月1日	奈良県北葛城郡	井上　國晴	66
通所リハビリテーションの事業	三方原ベテルホーム	50	2000年4月1日	静岡県浜松市	松島　秀樹	83
通所リハビリテーションの事業	浜松市リハビリテーション病院	54	2019年4月1日	静岡県浜松市	昆　博之	—
通所リハビリテーションの事業	浦安ベテルホーム	45	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作　昌義	60
通所リハビリテーションの事業	奈良ベテルホーム	47	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	井上　國晴	66
短期入所療養介護事業	三方原ベテルホーム	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	松島　秀樹	83
短期入所療養介護事業	浦安ベテルホーム	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作　昌義	60
短期入所療養介護事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月17日	奈良県北葛城郡	井上　國晴	66
子育て支援に関する事業	聖隷三方原病院	—	2025年7月1日	静岡県浜松市	山本　貴道	—
子育て支援に関する事業	聖隷浜松病院ひばり保育園	—	2025年7月1日	静岡県浜松市	岡　俊明	—

【収益事業】

施設(事業)の種類	施　設　名	定員	開設年月日	所　在　地	施設長	職員数
貸事務所	法人本部	—	2005年1月1日	静岡県浜松市	青木　善治	112

社会福祉法人　聖隷福祉事業団　役員名簿

	氏　　名	役 職 名
理事長	青木　善治	代表執行役員 （公財）ニッセイ聖隷健康福祉財団会長　（一財）芙蓉協会理事長 （一財）恵愛会理事長　（学）聖隷学園理事
理事	井上　英樹	常務執行役員 （公財）ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員　（一財）芙蓉協会理事
理事	岡　俊明	専務執行役員・聖隷浜松病院院長 （学）聖隷学園理事
理事	鎌田　裕子	常務執行役員・人事企画部長 （福）さくま理事（公財）ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員 （一財）日本老人福祉財団評議員（一財）恵愛会評議員（福）松渓会理事
理事	服部　東洋男	常務執行役員・総合情報システム部長 （一財）芙蓉協会理事（一財）恵愛会理事　（福）十字の園評議員
理事	彦坂　浩史	常務執行役員・総務部長 （医）聖愛会常務理事　（一財）恵愛会理事　（一財）芙蓉協会評議員 （一財）日本老人福祉財団理事 （公財）ニッセイ聖隷健康福祉財団理事　（福）小羊学園評議員
理事	平川　健二	常務執行役員・高齢者公益事業部長 （公財）ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事 （一財）日本老人福祉財団理事　（医）聖愛会評議員
理事	武藤　繁貴	常務執行役員・保健事業部事業部長 （一財）芙蓉協会評議員　（一財）恵愛会評議員
理事	山本　貴道	専務執行役員・聖隷三方原病院院長 （学）聖隷学園理事

理事会開催日

4月 11日
4月 25日
5月 23日
6月 6日
6月 27日
7月 11日
7月 25日
8月 8日
8月 22日
9月 12日
9月 26日
10月 10日
10月 24日
11月 14日
11月 28日
12月 19日
1月 9日
1月 23日
2月 13日
2月 27日
3月 13日
3月 27日

	氏　　名	役 職 名
監事	清水　昌和	
監事	津幡　佳伸	（福）松渓会理事長（福）神戸聖隷福祉事業団評議員 （福）十字の園理事
監事	松下　秀也	

社会福祉法人　聖隷福祉事業団　評議員名簿

	氏　　名	役 職 名
評議員	雨宮　寛	社会福祉法人小羊学園理事長
評議員	内山　勝徳	浜松商工会議所理事・総務企画部長
評議員	梅田　和寛	社会福祉法人デンマーク牧場福祉会常務理事
評議員	小林　信昭	東京海上日動ベターライフサービス株式会社代表取締役社長
評議員	小栁　守弘	学校法人聖隷学園理事長・法人事務局長
評議員	鈴木　淳司	社会福祉法人十字の園理事長
評議員	鈴木　貴之	公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事
評議員	豊田　泰輔	スズキ株式会社　常勤監査役
評議員	夏目　芳宏	一般財団法人日本老人福祉財団理事長
評議員	山岸　暁美	一般社団法人 コミュニティヘルス研究機構 機構長・理事長

評議員会開催日

6月 27日
10月 24日
3月 27日

（2026年3月31日時点・五十音順）

附属明細書

該当ありません。